

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

和仏法律学校講義録

勝本，勘三郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

3-6

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

182

(発行年 / Year)

1901-11-11

○ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

明治三十四年十一月十一日發行

(第參部)

三十四年度乙種講習科用

和佛法律學校講義錄

第六號

刑法各論(自三三六一)

法學士

勝本勘三郎

090
1901
3-6

法各論

刑 法 各 論

法學士 勝本 勸三 邪 講述

和佛法律學校發行

味山房文庫叢書

刑法各論

鶴屋士郎著 鶴三郎編

刑法各論目次

緒論	朱漢質著 鶴三郎編	一四
第一章 犯各論ノ必要	森上要著 鶴三郎編	一一〇
第二章 重罪・輕罪・違警罪ノ區別	鶴三郎編	一〇三
第三章 公罪・私罪ノ區別	鶴三郎編	一〇一
第一編 公益ニ關スル重罪・輕罪	鶴三郎編	一三
第一章 皇室ニ對スル罪	鶴三郎編	一四
第一節 危害罪	鶴三郎編	二五
第二節 不敬罪	鶴三郎編	三八
第二章 國事ニ關スル罪	鶴三郎編	四八
第一節 國内亂ニ關スル罪	鶴三郎編	四八
第二節 國外亂ニ關スル罪	鶴三郎編	六〇
第三章 内亂罪	鶴三郎編	六一

第二項 成立要素	六一
第一段 第百二十一條ノ罪	六一
第二段 第百二十二條ノ罪	六八
第三段 第百二十三條ノ罪	八二
第二項 未遂豫備陰謀及ヒ自首	九五
第一段 未遂	九五
第二段 豫備	九八
第三段 陰謀	九九
第四段 自首	一〇〇
第三項 内亂罪ノ處分	一〇三
第一段 第百二十一條ノ罪ノ處分	一〇三
第二段 第百二十二條ノ罪ノ處分	一〇八
第三段 第百二十三條ノ罪ノ處分	一一〇
第四段 未遂豫備陰謀及ヒ自首ノ處分	一一四

第二款 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタ

ル罪

一一八

内亂ニ乘シ内亂ノ目的以外ニ於テ人ノ身體財産ニ對シテ犯シタル重罪輕罪及ヒ其處分

一二二

第二節 外患ニ關スル罪

一二七

内亂ニ乘シ内亂ノ目的以外ニ於テ人ノ身

一二八

第一款 背叛罪

一四〇

第一項 本國ニ抗敵スル罪

一四一

第一段 成立要素

一四一

第二段 處分

一四二

第二項 敵國ヲ帮助スル罪若クハ敵國ニ内應ス

一四四

第一段 第百三十條ノ罪

一四四

第二段 第百三十一條ノ罪

一四四

第三段 第百三十二條ノ罪	一四七
第二款 外患ノ誘引ヲ成形スル罪	一五〇
第一項 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クノ罪	一五一
第二項 局外中立ノ布告ニ違背シタル罪	一五四
附 款 本節ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコト ヲ得ヘキヤ	
第三章 静謐ヲ害スル罪	一五八
第一節 兎徒衆ノ罪	一六三
第一款 暴動ヲ爲シタル罪	一六五
第二款 暴動ヲ謀リタル罪	一六八
第三款 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クヘ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル罪	一七五
第二節 官吏ノ職務ヲ行フ妨害スル罪	一八二
第一款 官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪	一八三

第一項 成立要素

一八四

第四章 第一段 第百三十九條第一項ノ場合	一九四
第五章 第二段 第百三十九條第二項ノ場合	一九八
第六章 第二項出處 分	二〇三
第七章 第二款 官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪	二〇四
第八章 第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	二一一
第九章 第一款 囚徒ノ逃走スル罪	二一三
第十章 第六章 第一項 成立要素	二一四
第十一章 第一段 單純逃走ノ場合	二一二
第十二章 第二段 複雜逃走ノ場合	二一二
第十三章 第二項出處 分	二一四
第十四章 第二款 囚徒ヲ逃走セシメタル罪	二一八
第十五章 第一項 監督ノ職責ナキ者ノ犯シタル場合	二二九
第十六章 第二項 凝監督ノ職責アリ者ノ犯シタル場合	二三五

刑法各論目次

六

第三款 犯罪ヲ庇陰スル罪	一一三七
第一項 罪人ヲ藏匿シ若者ハ隠避スル罪	一一三七
第二項 罪證ヲ隠蔽スル罪	一一四六
第四節 附加刑ノ執行ヲ通ルル罪	一一四三
第五節 私ニ軍用ノ銃砲弾薬ヲ製造シ及ヒ所有スル 罪	一一四四
第六節 往來、通信ヲ妨害スル罪	一一四七
第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪	一一四七
第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪	一五五
第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪	一五九
第一款 出兵ノ要求ニ應セナル罪	一六〇
第二款 徵兵ヲ忌避スル罪	一六二
第三款 解剖分析鑑定又ハ證言ヲ肯セナル罪	二七二
第四款 傳染病ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スル 罪	二八四

第四章 信用ヲ害スル罪

總論

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第一款 成立要素

第二款 逃 分

第三節 貨幣ヲ偽造スル罪

第一款 官印ノ偽造ニ關スル罪

第二款 官印ヲ偽造スル罪

第三款 文官印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用スル罪

第四款 文官印ヲ影跡ヲ盜用スル罪

第五款 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽造ニ關
スル罪

第六款 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽造、變

造又ハ使用スル罪

第一項 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽造、變 造又ハ使用スル罪	二五七
第二項 各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽造、變 造又ハ使用スル罪	二五一

刑法各論目次

七

第二項 各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪	三五四
附 款 本節ノ各罪ニ共通ノ規定	三五六
第三節 文書ヲ偽造スル罪	三五七
第一款 文書偽造罪ノ一般ノ成立要素	三五九
第二款 文書偽造罪ノ體様若クハ各種ノ文書偽造罪	三四二
第一項 官ノ文書ヲ偽造スル罪	三九八
第二項 官文書毀棄罪	四〇九
第三項 私印私書ヲ偽造スル罪	四一三
第四項 私文書偽造罪	四一三
第五項 私印偽造罪	四二四
第六項 特種ノ官私文書ヲ偽造スル罪	四三五

第一段 免狀鑑札ヲ偽造スル罪	四三七
第二段 疾病證書ヲ偽造スル罪	四四二
第四節 偽證罪	四四七
第一款 成立要要素	四四八
第二款 處分	四六三
第三項 刑事ニ關スルモノノ處分	四六四
第一段 被告人ヲ曲庇セント欲スル意思ニ出	四六四
第二段 被告人ヲ陷害セント欲スル意思ニ出	四六四
第五節 度量衡ヲ偽造スル罪	四八二
第六節 公文書ヲタタル場合	四六八
第七項 民事商事行政裁判ニ關スルモノノ處分	四七三
第三項 刑事ト民事商事行政裁判トニ共通スル 規定	四七四

第六節 身分ヲ詐稱スル罪	四八八
第一款 官署ニ對シテ偽籍、身分ヲ詐稱スル罪	四八八
第二款 官職、位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾、徽章若ク ハ内外國ノ勳章ヲ借用スル罪	四九二
第七節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪	四九三
第五章 健康ヲ害スル罪	四九七
第一節 阿片烟ニ關スル罪	四九七
第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	五〇〇
第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪	五〇二
第四節 危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ薬剤ヲ販賣スル ニ關スル罪	五〇三
第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ薬剤ヲ販賣スル ニ關スル罪	五〇五
第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪	五〇六
第六章 風俗ヲ害スル罪	五一〇
第一節 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物件ヲ陳 列販賣スル罪	五一〇
第二節 賭博及び富儀ニ關スル罪	五一四
第一款 賭博ニ關スル罪	五一五
大 第一項 財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル罪	五六六
第二項 賭博ノ情ヲ知リテ房室ヲ繪與シタル罪	五三〇
第三項 賭場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ招結シタル罪	五三一
第二款 富儀ニ關スル罪	五三三
第三款 信教ニ對スル罪	五三八
第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪	五四一
第一節 死屍ヲ毀棄スル罪	五四二
第二節 墳墓ヲ發掘スル罪	五四五
第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪	五四八

第一節 商業ニ關スル妨害ノ罪	五四九
第一款 物品ノ賣買ヲ妨害シタル罪	五四九
第二款 貿賣又ハ入札ヲ妨害シタル罪	五六〇
第二節 農工業ノ妨害ニ關スル罪	五六五
第一款 農工ノ業ヲ妨害スル罪	五六五
第二款 屢賞ヲ増減シシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變 シメントスル罪	五六七
第三款 衆人需用ノ物品ノ價值ヲ昂低セシムル罪	五七八
第九章 官吏瀆職ノ罪	五八二
第一節 官吏公益ヲ害スル罪	五八六
第一款 法律規則ヲ公布施行セス又ハ其公布施行ヲ妨害スル罪	五八六
第二款 兵權ヲテ儀撫スヘキ場合ニ於テ其處分ヲ爲サナル罪	五八七
第三款 規則ニ違背ヲ商業ヲ爲ス罪	五八九
第二節 官吏人民ニ對スル罪	五九〇
第一款 官吏威權ヲ濫用スル罪	五九〇
第二款 人ノ身體財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ 保護ノ處分ヲ爲サナル罪	五九一
第三款 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁スル罪	五九七
第四款 囚人ヲ虐待スル罪	六〇五
第五款 拷問ヲ爲ス罪	六〇八
第六款 裁判ヲ爲サナル罪	六〇九
第七款 賄賂ニ關スル罪	六一一
第一項 官吏收賄罪ノ處分	六一六
第二項 官吏收賄罪ノ處分	六二二
第八款 在法ノ罪	六二四
第三節 官吏財產ニ對スル罪	六二五

第一款 監守タル所ノ金穀・物件ヲ竊取スル罪	六二五
第二款 正職外ヲ金穀ヲ徵收スル罪	六三二
第二編 ①身體・財產ニ對スル重罪・輕罪	六三五
第一章 身體ニ對スル重罪・輕罪	六三六
第一節 殺人罪	
第一款 殺人罪ノ成立要素	六三七
第二款 殺人罪ノ體棲若クハ各種ノ殺人罪	六四一
第一項 故殺及・謀殺	六四一
第二項 毒殺	六四三
第三項 虐殺	六四五
第四項 常聯故殺	六四七
第五項 謂導殺人	六五四
第六項 誘殺	六五五
第二節 傷人ノ罪殴打創傷ノ罪	六七〇

第一款 成立要素	六七六
第二款 殺人罪	
第一項 普通處分	六七七
第二項 特別處分	六八三
第三節 殺傷ニ關スル特別ノ規定	六九一
第一款 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪	六九一
第一項 殺傷ニ關スル宥恕若クハ挑發ヲ原因ト (大過一罪足シタル殺傷罪)	六九二
第二項 殺傷ニ關スル不論罪	七一〇
第四節 第一段 正當防衛	七一〇
第六節 第二段 正當防衛ニ似テ非ナル行爲ニ關スル (正當防衛規定)	七二九
第五節 第二項 殺傷ニ關スル	七二八
第六節 第一段 正當防衛	七二八
第七節 第二款 遭失殺傷罪	七三八
第八節 第三款 自殺・幫助罪	

第四節 決闘罪	七四七
第四節 擊擅三人ヲ逮捕監禁スル罪	七五二
第五節 脊迫ノ罪	七五五
第六節 婴壘胎ノ罪	七六〇
第七節 幼者老疾者ヲ遺棄スル罪	七七五
第八節 二幼者ヲ略取誘拐スル罪	七八二
第九節 猥褻姦淫重婚ノ罪	七八九
第十節 猥褻少罪	七九一
第十一節 淫亂漏告匿罪	八三四
第十二節 祖父母ニ對スル罪	八四五
第二章 三財産二對スル重罪輕罪	八四七
第一節 貨物ヲ横奪スル罪即チ清廉ノ念ヲ破クニ基 ク罪	八四五
第一款 普通強盜	八五三
第一項 罵盜罪	八五三
第二項 強盜加重強盜	八七七
第一段 普通強盜	八八六
第二段 加重強盜	八九〇
第三項 畏喝取財ノ罪	八九八

第四項　詐欺取財ノ罪	九〇八
第一段　所謂詐欺取財ノ罪即ナ第三百九十九條(八五〇) (一) (二) (三)	九〇八
第二段　詐欺取財罪	九八四
第三段　準詐欺取財罪	九九一
第一項　横領罪	九十九
第二項　冒認罪	九十九
第三項　委託物費消罪	九三〇
第一段　所謂委託物費消罪(即ナ第三百九十五 (一) (二) (三))	九三三
第二段　準委託物費消罪	九四五
第三段　遺失物、遺棄物ニ關スル罪	九四六
第四項　家賃分散ニ關スル罪	九五五
第一段　盜罪ト横領罪トニ共通スル附隨ノ罪即ナ八五〇 (一) (二) (三)	八五〇
第二段　贓物ニ關スル罪	九六〇

第二節　財物ヲ毀損スル罪(即ナ單ニ他人ノ利害ヲ害)

セントノ意思ニ基ク罪

九六六

第一款　放火、失火罪	九六七
第一項　放火罪	九六七
第二項　失火罪	九七五
第三項　準放火及ヒ失火罪	九七六
第一款　決水ノ罪	九七八
第二款　船舶ヲ浸没スル罪	九九〇
第三款　家屋物品ヲ毀壊シ及ヒ動植物ヲ害スル罪	九九三

第三編　違警罪

一〇〇一

刑法各論目次 終

原田谷

著者　原田谷

新編 刑法各論

第三編

新編 刑法各論

刑法各論

新編 刑法各論

新編 刑法各論

緒論

新編 刑法各論

新編 刑法各論

新編 刑法各論

新編 刑法各論

新編 刑法各論

第一ヲ一分シテ一ノ公益ニ關スルモノ一ノ身體財產ニ關スルモノ即チ私益ニ
關スルモノトセリ今國ヲ以テ之ヲ示セハ左ノ如シニヤ名前も恐れ也實氣也
刑法(二)各種ノ犯罪ニ通スル總則(一)重罪・輕罪(公益ニ關スルモノ)私益ニ
關スルモノ(二)各種ノ犯罪行爲及ヒ其制裁(一)重罪・輕罪(公益ニ關スルモノ)私益ニ
關スルモノ(二)違警罪

諸君ノ知ラルルカ如ク總則ハ各種ノ犯罪ニ通スヘキ法理ノ神髓ヲ網羅シタル
モノニシテ營トヘハ刑法法理ノ大本營トモ謂フヘキモノナリ故ニ立法上ヨリ
スルモ又法理上ヨリスルモ其切要ナルハ多辯ヲ要セサルナリ然レトモ之ヲ以
テ直チニ刑法ハ總則ヲ研究スレハ足レタ各論ノ如キハ條文ヲ一讀セハ可ナリ
ト謂フヘカラス高遠ナル學理ノミノ研究ニ從事スル輩ハ往往此弊ニ陥ルモノ
アリ戒ムヘキナリ蓋シ刑法ノ總則ニ各論トハ亘ニ經タリ緯タリ二者相待テ茲
ニ始メテ完全ナル研究ヲ遂クルヲ得ルモノニシテ孰レヲ重シトシ執レラ
トスルヲ得ス例之總則ノ研究ニ由リ如何ニ未遂犯ト豫備トノ區別ヲ明カニス
ルヲ得タリトテ我刑法第二編第一章ニ所謂危害トハ如何ナル事ヲ意味スルナ

ヲ知了セナレハ其規定ハ果シテ豫備ノ所爲ヲ罰スアルモノナルヤ將タ未遂犯ヲ
ノミ罰スルモノナルヤツ知ル能ムス既テ總則ノ研究ハ全ク徒勞ニ屬セシ尙ホ
例之貨幣ヲ爲造若クハ變造シタル者アリトセニ其爲造若クハ變造トハ如何
ナル意義ナルヤツ知得セナレハ綜合總則ノ研究ニ由リ罪ニハ犯意及ヒ之ニ伴
ヒタル行爲アルヲ要スルモノタルコトヲ明カニスト難到底之ヲミニ依リテ
完全ナル擬律ヲ爲スコトヲ得サルナリ由是觀之各論ト總則トハ亘ニ相待テ始
メテ完全ナル應用ヲ見ルヘキ事ニシテ各論ノ必要ハ決シテ總則ニ讓ラナル
ナリ

第二章 重罪・輕罪・違警罪ノ區別

本章ニ付テハ先ツ始メテ法典ニ於テ重罪・輕罪・違警罪ノ區別ヲ採用シタル佛國
法典ノ規定ヨリ論究シ漸次我刑法法典ノ規定ニ論及スヘシ佛國刑法第一條ニ
曰ク重罪ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ「クリー」重罪ナリ輕罪ノ刑ヲ以テ罰スルモノ
ハ「デリ」輕罪ナリ違警罪ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ「コントラグランシヨン」違

警罪ナリト此法文一タヒ出テヨリ彼有名ナル刑法學者ロシト氏ヲ始メ有力ナル學者ハ皆之ヲ非難セリ今其論點ノ重ナルモノヲ舉クレバ概モ左ノ二點ニ歸ス
 第一 凡ソ罪ハ主ニシテハ刑ハ從ナリ罪ノ性質先ツ定マリテ而シテ後刑之ニ伴フヘキモノナリ換言スレハ罪ノ性質ハ罪自體ニ於テ存在スルモノニシテ刑ニ因リテ存スルモノニアラス然ルニ佛國刑法第一條斯ノ刑ヲ以テ罰スモノハ重罪ナリ輕罪ナリ云ト定義シタルハ是レ罪ノ重罪タリ輕罪タリ若クハ達警罪タルノ性質ハ自體ニ存スルモノニアラシテ刑ノ輕重若クハ種類ニ因リテ存スルモノナリタルモノニシテ恰モ長衣ヲ著スル者ハ大人ナリ短衣ヲ用フル者ハ小人ナリト定義シタルト一般畢竟原因結果ノ大則ヲ顛倒シタルモノナリ

第二 佛國刑法ニ所謂「クリーム」重罪及ヒ「デリー」輕罪ナルモノハ均シク是レ同性質ノ犯罪ニシテ其間僅ニ輕重ノ差アノノミ彼ノコントラヴァンシヨン（達警罪）ノ「クリーム」重罪若クハ「デリー」（輕罪）ニ對スルカ如ク全ク別種ノモノ

ニ非ス故ニ若シ強テ之ヲ區別セント欲セハ宜シク之ヲ「デリーラーブ」（重キ罪）「デリーレジエール」（輕キ罪又ハ「クリームカビタール」（大罪）「クリームノンカビタール」（小罪））トシテ單ニ輕重若クハ大小ニノミ依ル罪ノ種別ト爲スヘキナリ然ルニ事茲ニ出テシンク彼ノ「コントラヴァンシヨン」（達警罪）ト他ノ犯罪トヲ區別シタルト同様ノ方法ニ依リ同性質ノモノヲ分チテ故ラニ「ラディートシーフ」（クリーム）トシ各自ニ各別ノ名稱ヲ付シ以テ別種ノ犯罪トシタルハ是レ大ナル誤ナリ

此批評ハ漸次歐洲刑法學者ノ一般ニ是認スル所ナリ其結果遂ニ近世ニ於テハ犯罪ハ之ヲ二分シテ罪ト科ストスヘキモノニシテ佛國ノ如ク之ヲ三分スヘキモノニ非ストスルニ至レリ是ニ於テカ我國ニ於テモ或一派ノ學者ハ直チニ右ノ學說ヲ採テ以テ我刑法ノ規定ヲ排斥セントスル者アルカ如シ然レトモ是レ大ナル誤謬ナリ今左ニ其理由ヲ陳セシム

(4) 我刑法草案第一條ニ於テハ佛國刑法第一條ト同シク何ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ重罪ナリ輕罪ナリ若クハ達警罪ナリト云フノ文字アリシカ故ニ若シ

此條文カ我刑法ノ明文ニ採用セラレナヘ到底佛國刑法ノ規定ニ對スル第一ノ非難ヲ免ル能ハサルノ恐アリト雖モ我刑法ハ佛國刑法若クヘ我草案ト全ク其體裁ヲ異ニシ何レニ於テモ刑ニ於テ重罪、輕罪若クハ違警罪ノ性質ヲ定メタル明文否寧ロ方法ノ如何ニ拘ラス重罪、輕罪又ヘ違輕罪ノ定義ヲ下シタルノ法文アルコトナシ尤モ佛國刑法第一條及ヒ我草案第一條ノ規定ト稍ヤ相對比スヘキ刑法第七條第八條第九條ニハ左ニ記載シタル者ノ重罪、輕罪若クハ違警罪ノ主刑ト爲ス云云トアリ又第二條以下ニ於テハ單ニ某ノ所爲ハ某ノ刑ニ處ストアリテ彼は参照スルトキハ茲ニ始メテ某ノ所爲カ重罪タリ輕罪タリ若クハ違警罪タルヲ知ルコトヲ得ルカ故ニ或ヘ我刑法モ亦佛國刑法第一條及ヒ草案第一條ノ如ク刑ニ因リテ罪ノ性質ヲ定メタルモノニ非ナルヤノ疑ヲ抱ク者アルヘシト雖モ此ノ如キハ全ク皮相ノ見タルヲ免レス今仔細ニ佛國刑法第一條及ヒ草案第一條ノ規定ト刑法第七條乃至第九條ノ規定ヲ照合セシニ彼ハ刑ニ因リテ罪自體ノ性質ヲ定メタルモノ換言スレハ何、何ノ刑ヲ以テ罰スルモノハ重罪、輕罪若クヘ違警罪トシ

(一)
ア立法上ノ定義ヲ掲クタルモノナリ之ニ反シテ此ハ立法者カ重罪、輕罪若クハ違警罪タルモノニ科スヘキ刑ノ如何ナルモノナルヤフ記載シ以テ法ヲ知ラント欲スル者ヲシテ立法者カ第二編以下ニ於テ定メタル所ノ罪ノ重罪タルヤ將タ違警罪タルヤフ刑ノ種類、輕重ニ依リテ知得セシムンカ爲メニ説クタル規定ニシテ二者全ク相異ナレリ之ヲ要スルニ畢竟我刑法ノ規定ハ彼ノオングリー刑法ニ於テ例之天皇ニ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ重罪ト爲シ死刑ニ處ス、皇族ニ對シテ不敬ノ所爲アル者ハ輕罪ト爲シ何年何月以下ノ重禁制ニ處ストアルト同一ニシテ毫モ相異ナル所ナシ唯其少シク之ト異ナルハ彼ニ於テハ各所爲每ニ其重罪タリ若クハ輕罪タルコトヲ告クルノ方法ヲ設ケ先づ重罪、輕罪又ヘ違警罪トスヘキ所爲ニ科スヘキ刑ヲ定メ法ヲ知ラント欲スル者ヲシテ第二編以下ト相參照シテ以テ其所爲カ重罪タルヤ違警タルヤ將タ違警罪タルヤフ知得セシムルノ便法ヲ取リシニ在ルノミ由是觀之佛國刑法ニ對スル第一ノ非難即チ刑ノ輕重若クハ種類ヲ以テ罪ノ性質如何ヲ定ムルモノナリトノ非難ハ直チニ採フ之ヲ我刑法ニ施スフ得ナル

(四) 我刑法ハ罪ヲ分テ重罪輕罪、違警罪ト爲スカ故ニ其外形ニ於テハ恰モ佛國ノ如ク犯罪ヲ三種ニ分タルノ觀アリト雖モ其實決シテ然ラス先ニモ述「タグカ如ク佛國ニ於テハ犯罪ヲ三分シテ一ヲ「クリーム」二ヲ「コントラグランシヨン」トシクリーム」ト「デリーム」ト「アリー」ヲ、コントラグランシヨント同一ノ位置ニ置キ以テ「クリーム」ト「デリーム」ト「コントラグランシヨン」ノクリーム若クハ「デリーム」ニ於ケルカ如ク全ク各別種ノ犯罪トシタト雖モ我國ニ於テハ所謂重罪、輕罪ナルモノハ讀フ字ノ如ク一種ノ罪ヲ輕重ニ依リテ分類シタルモノニシテ一見性質上ノ分類ニ非シシテ程度ノ區別タルコト明瞭ナリ同性質ノモノヲ其輕重大小ニ依リテ分類スルハ學理上敢テ非難スヘキモノニ非ナルノミナラス佛國ノ規定ニ對シテ非難ヲ試ミタル該學者ト雖モ未タ曾テ此點ニ異議ヲ唱ヘタル者アルヲ聞カス由是觀之此點ニ對シテモ亦我刑法ノ規定ハ佛國ノ規定ニ對スルト同様ノ非難ヲ以テ之ヲ攻

極スルヲ得ナルモシト悟ス
然ラハ重罪、輕罪及ヒ違警罪ノ區別ニ付テハ我國ノ規定ハ毫モ非難スヘキ點ナキカ曰ク以上述ヘ來リタルニ箇ヲ點ニ付テハ我輩ハ別段之ヲ非難スヘキノ倫地アルヲ發見セスト雖モ我輩ハ此區別ニ付テ一點立法者ノ注意ヲ煩ハサント欲スルモノアリ即チ他ニ非ス諸君ノ知ラル如ク違警罪ナルモノハ重罪者クハ輕罪トハ全ク別異ノ性質ヲ有スルモノナリ然ルニ我刑法第一條ニ於テハ罪ヲ重罪、輕罪、違警罪トストアリ恰モ昔同一ノ性質ヲ有スルカ如ク規定セリ是レ少クトモ外形上ノ環礁アルヲ免レス故ニ我輩ハ此ノ如ク何レニ付テモ何罪乎罪トシテ常ニ罪ノ字ヲ用ヒ恰モ同性質ノモノタルカ如クセシテ違警罪ト重罪若クハ輕罪トニハ各別異ノ名稱ヲ用ヒ以テ其間判然タル區別アルヲ示スフ當然ナリト思惟ス而シテ今試ニ会カ卑見ヲ示セハ我法律ニ於テ違警罪トアルハ之ヲ訂正シテ單ニ科ト爲シ以テ之ヲ罪ニ對向セシメ罪ヲ分テ重罪、輕罪トスヘシド尙本圖ヲ以テ示サハ左ノ如シ

犯行又ハ犯罪
（罪）（輕罪）

君即チ遠警罪

罪ヲ分チテ公私ノ二ト爲スコトハ遠ク其淵源ヲ羅馬法ニ汲ムモノナリ羅馬法ニ於テハ犯罪ノ責罰一般人民ノ利害ニ關係ヲ有スルモノニシテ且ツ之ヲ訴追スルノ權一般人民ニ屬スルモノノ公罪トシ之ニ反シテ其利害ハ唯リ害ヲ被リタル者ノミニ止マリ被害者ノミ之ヲ訴追スルコトヲ得ルモノヲ私罪トセリ而シテ更ニ公罪ヲ小分シテ常罪大罪小罪ト爲シ其科スヘキ刑罰ノ法律勅令又ハ慣習ニ依リ豫ノ規定セラレタルモノニシテ裁判官ニ於テ伸縮ノ自由ナキモノヲ常罪トシ其刑ノ輕重豫メ確定セシシテ裁判官ニ於テ被告人ノ身分及ヒ其他犯罪ノ性質及ヒ輕重ヲ考査シ自由ニ輕減加重ヲ得ルモノヲ非常罪トス又死刑流刑若クハ錢山勞役等ノ刑天該ルモノヲ大罪トシ其他ノ身體刑若クハ財產刑

ヲ科スヘキ加辱ノ刑ニ該ルモノヲ小罪トセリ其後中古ノ法制ニ於テハ學理上右ノ如キ犯罪ノ區別ヲ爲サリシト雖モ實際ニ於テハ公罪私罪大罪小罪ノ區別ヲ爲セリ而シテ中古ノ時代ニ於テハ善良ナル秩序及ヒ公ノ安寧ヲ害スル罪例之神又ハ君主若クハ國民ニ對スル大逆ノ罪異端ヲ信スル罪貨幣ヲ僞造スル罪殺人ノ罪等ヲ公罪トシ公ノ安寧ヲ害スルヨリハ寧ロ被害者其人ノ利害ニ關係スル罪例之誹謗及ヒ暴行ノ罪等ヲ私罪トシ死刑ヲ以テ罰スルモノヲ大罪トシ其他ノモノハ刑ノ輕重ヲ問ハス總テ之ヲ小罪トセリ降テ近世法典ノ父母トモ謂フヘキ佛國法典ニ於テハ中古ノ法制ニ所謂大罪小罪ノ區別ハ之ヲ認メスト雖モ公罪私罪ノ區別ハ依然之ヲ採用セリ而シテ佛國ノ法典ニ於テハ犯罪ノ所爲直接ニ國家ノ公益ヲ害スルモノヲ公罪トシ其直接ニ一私人ヲ害スルモノヲ私罪トセリ此區別ハ佛國法ヲ繼受シタル歐米諸國及ヒ我國ノ法律ニ於テ採用セラレタリ然レトモ學者間ニ於テハ佛國ノ區別ト相對シテ別ニ種種ノ區別ヲ試ミタル者アリ今先フ其重ナルモノヲ列舉シ終ニ我法制ノ可否ヲ詳論スヘシ

第一 「ベンザム」說 氏ハ犯罪ヲ分チテ四種トシ第一ヲ私罪トシ私罪トハ或

特定シタル一箇人ニ對スルモノニシテ當ニ被害者ノ何人タルコトア 指定シ得
ルモノヲ謂フ 第二ヲ自害罪トシ 自害罪トハ他人ヲ害スルコトナク自ラ害スル
モノ即チ例之 不健康浪費自殺等ノ罪ヲ謂フ 而シテ此第一、第二ハ各更ニ之ヲ區
別シテ人身ニ對スル罪 財產ニ對スル罪 荣譽ニ對スル罪 身分ニ關スル罪ノ四ト
ス 第三ヲ半公罪トシ 半公罪トハ市町村組合若クハ會社等ニ對スルモノニシテ
其害惡カ現在又ハ過去ニアラスシテ 唯リ將來ニ存シテ未タ何人カ害ツ受クル
ヤ明カナラサル罪(過去又ハ現在ナルトキハ被害者特定スルカ故ニ私罪ニ入ル
ヘシ云々)例之市町村ノ堤防ヲ破壊シ又ハ其市町村ニ設定セラレタル傳染病
豫防規則ヲ犯シ或ハ商工業其他ノ會社又ハ組合ノ名譽ヲ毀損シ又ハ財產ヲ掠
奪セントスルカ如キ罪ヲ謂フ 第四ヲ公罪トシ 公罪トハ國家ノ全員ヲ害スル罪
ヲ謂フ 而シテ氏ハ此公罪ヲ更ニ小別シテ(一)國家ノ外部ノ安寧ニ關スル罪(二)警
察ニ關スル罪(三)司法權ニ關スル罪(四)公ノ權力ニ對スル罪(五)人口ニ關スル罪
(六)國庫ニ關スル罪(七)主權ニ對スル罪(八)道德ニ關スル罪(九)宗教ニ關スル罪等ト
セリ

此區別ハ凡メ左ノ三點ニ於て缺點アリ
(一)氏カ罪ノ公ナルト私ナルトヲ區別シタルハ抑モ如何ナ所標準ニ據ルモノ
ナルヤ害惡ノ社會全般ニ關スルト否トニ據ルカ若タ被害者ノ特定スルモ否
トニ據ルカ若シ第一ノ標準ニ據ルモノトセハ普通ノ學說ニ於テハ一箇ノ市
町村會社若クハ組合ニ對スル犯罪ハ其害惡常ニ社會全般ニ關セナルカ故ニ
當然之ヲ私罪ニ列セナルヘカラス若シ又第二ノ標準ニ據ルモノトセハ市町
村會社又ハ組合ニ對スル犯罪ハ市町村會社又ハ組合ノ全員ニ關スルモノナ
ルカ故ニ被害者ハ決シテ其中ノ甲某又ハ乙某ナリト特定スルコトナシ隨テ
常ニ公罪ニ列セナルヘカラス依テ惟フニ氏カ公私ノ區別ヲ爲シタルノ標準
ハ獨リ第一ノ標準ニモアラス又獨リ第二ノ標準ニモアラス此二箇ノ標準ヲ
以テ各一箇ノ條件ト爲シ此二箇ノ條件ヲ具備スルモ否ヤニ據リテ公私ヲ區
別スル標準ト爲シタルカ如シ若シ余カ見解ニシテ誤ナクシハ國家ノ外
患・警察・司法權等ニ關スル犯罪ハ社會ノ全員ニ關スル犯罪ナルト同時ニ被害
者ノ何人ナルヤア指定スルコト能ハサルモノナルカ故ニ之ヲ公罪ニ列シ一

箇人ノ身體財産榮譽又ハ身分ニ關スル犯罪ハ社會ノ全員ニ關セアルト同時ニ被害者特定セルモノナルカ故ニ之ヲ私罪ニ列シ市町村會社組合等ニ關スル犯罪ハ社會ノ全員ニ關セアルモ被害者特定セサルモ換言スレハ一部公罪タルノ要件ヲ具フルカ故ニ半公罪トシタルナリ斯ク解釋シ來ルトキハ此區別ハ一見愛スヘキカ如キモ仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ毫モ明瞭ナル區別ノ存スルモノナキフ發見スヘシ今先ツ氏カ市町村會社又ハ組合ニ對スル犯罪ヲ以テ半公罪トシタルノ理由ヲ研究センニ先ニ述ヘタルカ如ク此等ノモニ對スル犯罪ハ公罪タルニ要スル條件ノ一即チ詳シク言ヘハ被害者ノ不特定タリトノ條件ヲ具有ストノ唯一ノ理由ニ因ルモノナリ若シ假ニ氏ノ設ヲ以テ正當ナリトシ氏ノ理由ニ依リテ半公罪ト私罪若クハ公罪トヲ分別スルノ標識トセンカ(二例)之茲ニ兌人アリテ會社又ハ組合ヲ爲サヌル一箇人ニ對シ余ハ某十數名ノ中一人ヲ殺害スヘシト責追シタル場合ニ於テハ其害ハ氏カ所謂未來ノモノニシテ被害者何人ナル特定セス責追罪ハ其實現在アス害惡ナレトモ氏バ之ヲ以テ未來ノ害ト云ヘルト市町村會社又ハ組合ニ對

スルモノニシテ當ニ未來ノ害惡スルヨトヲ要ス現在又ハ過去ナレハ被害者特定スルカ故ニ私罪ナリト云ヘル(參照セヨ)隨テ半公罪ニ列セナムヘカラサルナリ氏ハ抑ニ何カ故ニ半公罪ハ市町村會社又ハ組合等ノ團體ニ對スル場合ニ限クトセシヤ余ハ其理由ヲ解スル能ハス(二例)又一例ヲ舉ケンニ茲ニ若シ君子ヲ害シタル者アリトセニ若シ氏カ標準ニ依ルトキハ一方ニ於テハ君子ノ一身ハ國家全般ノ利害ニ關係ヲ有スレトモ又他ノ一方ヨリ觀察スルトキハ所謂直接ニ害惡ヲ受ケタルモノハ君主其人ニシテ被害者ハ明カニ特定セルカ故ニ市町村會社若クハ組合ニ對スル場合ト同シク公罪タルニ要スル條件ノ半具備スルモノトシテ之ヲ半公罪ニ列セアルヘカラサルナリ然ダニ氏カ之ヲ主權ニ對スル罪トシテ公罪ノ中ニ列シタルハ是レ何ノ故ソヤ余ハ其理由ヲ發見スル能ハス(二例)又一例ヲ舉ケンニ茲ニ若シ君子ヲ害シタル者アリトセニ若シ氏カ所謂半公罪ナルモノト他ノ犯罪トノ區別ノ標章ハ甚タ漠然トシテ毫モ確然タルモノアルヲ見ス抑モ此ノ如ク氏カ普通ノ學說ニ反シテ半公罪ナルモノヲ認タルノ結果遂ニ之ト他ノ

犯罪トノ標界ニ不明瞭ヲ來シタル所以ノモノハ惟フニ氏ハ普通ノ學說ニ所謂公罪即チ社會ノ全般ニ害ヲ與フル所ノ犯罪ハ犯罪ノ客體即チ犯罪行爲カ其者ノ上ニ行ハレタル目的判然確定セサル場合多キニミ著眼シ公罪ハ例之君主ノ身體ニ對スル場合ノ如ク社會ノ全員ニ害ヲ受ケシムルトノ條件アラハ直チニ成立シ必スシモ犯罪ノ客體ノ不特定タルヲ要セス換言スレハ公罪ノ場合ニ於テ犯罪ノ客體ノ不特定ト云フコトハ多クノ場合ニ於テ社會ノ全員ヲ害スルト云フコトニ隨伴スル事實ナレトモ決シテ公罪成立ノ一要件ニ非ナルコトヲ忘却シ直チニ取テ以ラ總テノ公罪ハ社會ノ全員ヲ害スルト云フコトト同時ニ必ス犯罪客體ノ不特定ト云フコトトヲ併フモニシテ此犯罪ノ客體ノ不特定ト云フコトハ公罪成立ノ一要件ナルカ故ニ苟モ一箇ヲ犯罪ニシテ此要件ヲ具有スルモノアレハ當ニ多少公ノ性質ヲ有スルモノナリト誤認シタルニ由ルナリ（半公罪ノ事例詳見前項）時合意ノ關係ニ成ヌル夫レ然リ氏ハ學說トシテハ犯罪客體ノ不特定ヲ以テ公罪成立ノ要件ト爲スニ拘ラス其之ヲ適用スルニ當リテハ苟モ社會ノ全員ヲ害スルコトアシバ當

キ必ス之ヲ公罪ニ屬シ渠ノ犯罪客體ヲ特定不既を否せラ同ハサルガリ由是觀之此點ニ付テハ氏モ亦自ラ其誤レルヲ認ムルモノノ如シ仍ク今氏カ犯罪種別ニ關スル考案ヲ訂正セハ氏ハ犯罪ヲ三分シテ自害罪公罪私罪爲スト云フニ歸著スヘシ
（二）抑モ氏カ自害罪ナルモノヲ種別シタルハ是レ其犯罪者自身ヲノミ傷害シテ他人ヲ害スルコトナキニ由ルナルヘシ然ルニ自害罪ト相對立セシメタル自餘ノ犯罪ハ私罪タルト半公罪タルト公罪タルトニ論ナク均シク皆他人ヲ害スヘキ罪ナリ然ラハ先ツ罪ヲ大別シテ自害罪ト他害罪トノ二ト爲シ他害罪ヲ細別シテ之ヲ私罪半公罪及ヒ公罪トスベキナリ然ルニ此區別ヲ爲ヌズシテ直チニ自害罪私罪半公罪公罪ヲ一樣ニ列記シテ以テ犯罪ノ四大別トシ互ニ相對向セシメタルハ決シテ論理的之區別ト謂フヘカラス加之我輩ノ見解テ依レハ氏カ所謂自害罪オルモノハ犯罪種別フートマタ存在シ得ムキモニ非スト信ス如何トナベハ抑モ一箇人カ自ラ自己シ身體ヲ傷ケ又ハ財産ヲ浪費スルト云々ナシテ之ヲ其者一人世ノ見アト時ハ決シテ害ト謂フヘキ

モノニ非ス否雜合之ヲ害トスルモ若シ社會カ之ニ因リテ毫モ害ヲ被ルコトナクシハ社會ハ之ヲ制スルノ必要ナシ其之ヲ制スル所以ノモノハ社會ノ團體中ノ一人カ自ラ傷ケ自ラ害フト云フニトアレハ直チニ社會ハ之ニ因リテ害ヲ被ルカ故ナリ然ラハ其罪ト爲ルシ點ハ自害自體ニ非スシテ自害ニ因リテ他ヲ害スト云フニ在ルナリ若シ我輩ノ見解ニシテ誤ナクシハ氏ノ所謂自害罪ハ自害罪ニ非スシテ他害罪ナリ而シテ其性質ハ一箇人ヲ害スト云フモノニ非スシテ社會ノ公安秩序ヲ害スルモノナルカ故ニ公罪ノ中ニ列スヘキ也ノナリ論シテ此ニ至レハ氏ノ所謂犯罪ノ種別ハ普通學說ニ所謂公罪、私罪ノニナリト云フニ歸著スヘシハセシム然モニ自害罪モ殊特ニ有リ也

(三)今假ニ數歩ヲ護リテ氏カ分類ヲ以テ正當ナルモノトスルモ若シ之ヲ法典ニ採用スルニ至リテハ同性質ノ犯罪ヲ各部ニ分載セラルヘカラナルノ結果徒ニ法條ヲ増加スルノミニシテ實用上大ナル不便ヲ生スヘシ職も教科書第二出「シヤカルダニカ本調」ノ説裏氏ハ犯罪行為ヲ行ハシタル目的體ヲ如何區依リテ罪ヲ三種ニ分ナ第第一是眞善對義アル罪、第二ヲ物ニ對スル罪第三ヲ中間

モノ罪トセリ
此區別ハ一見スルトキハ甚其簡單ニシテ喜フヘキカ如シ外國無余ヲ以テ之ヲ觀レハ是レ決シテ完全ナル區別ナリト謂フヲ得ス如何計ナシハ氏ノ所謂中間ノ罪ナルモノハ其範圍極メア況博ニシテ例之政事の犯罪ノ如キ持兌器強盜罪ノ如キ放火決水ノ罪ノ如キ風俗又ハ宗教ニ關スル犯罪ノ如詩苟延第一種ニシテ又第二種ニモ入ラナルカ若クハ第一種ト第二種トニ其屬スルモノハ凡テ罪質ノ如何ニ拘ラス皆此中ニ包含セシムルヲ得ヘク其結果却テ言フヘカラナル紛雜ヲ來スヘケレハナリ

第三「ロシ」ヲ説ク氏ハ罪ヲ大別シテ二ト爲シ一ヲ人ニ對スル罪、二ヲ財產ニ對スル罪トシ更ニ之ヲ公私ニ分類セリ其一ノ折半ヘテ解説ヘ提ニ質文必火禮論ニ(一)人ニ對スル罪(イ)私ノ人ニ對スル罪(ロ)私ノ財產ニ對スル罪(イ)私ノ財產ニ對スル罪(ロ)私ノ財產ニ對スル罪

此分類ハ佛國並ニ我刑法ノ分類ト略々相類似スルカ故ニ大體ノ評論ハ之ヲ次ニ

讓リ茲ニ單ニ此分類ニ特殊ナル點ニ付テノミ評論ヲ試ムヘン此分類ニ依ルトキハ、ロシリ氏ハ總テノ罪ヲ公私ニ區別セントシタルノ結果遂ニ財產ニ對スル罪ヲモ尙ホ之ヲ公私ニ分類セリ抑モ此ノ如ク財產ニ對スル罪ヲモ尙ホ之ヲ公私ニ分類シタルハ果シテ何等ノ必要アルニ因ルヤ余ハ之ジ解スル能ハス蓋々公ノ財產ヲ竊ムト私ノ財產ヲ竊ムト其之ニ科スヘキ刑罰ノ點ニ於テ多少輕重ヲ異ニスルコトアルヘシト雖モ其罪質ニ至リテハ共ニ均シテ竊盜ノ罪ニシテ區別スルノ必要モ亦之アラナルナリ然ルニ氏ノ如ク強テ分類スルハ當ニ無用ノ條文ヲ增加スルノミナラス其結果甚シキ不便ヲ生スヘシ是レ此分類ヲ學ヒタル、パリヤ法典ヲ讀ム者ノ當ニ遺憾トスル所ナリ

以上ヲ以テ余ハ本問ニ關スル諸家ノ學說ヲ略叙セリ是ヨリ尙ホ進ミテ些カ我法典ノ分類ヲ評論セン

前ニモ述ヘタル如ク我法典ハ佛國ノ法典ニ倣ヒ其第二編以下ニ於テ各種ノ犯罪ヲ大別シテ二十ト爲シ一ヲ公益ニ關スル重罪輕罪、一ヲ身體財產即チ私益ニ關スル重罪輕罪トセリ抑モ此區別ハ果シテ種當ナルモノトスヘキ我輩ヲ以フ

之ヲ觀レバ此區別モ亦非難易免シザルモノナリ請フ左ニ之ヲ論述セん

(一) 我刑法並ニ佛國ノ刑法ハ或犯罪ハ直接ニ國家ヲ害シ他ノ犯罪ハ直接ニ一箇人ヲ害シテ間接ニ國家ヲ害スルモノナリトノ理由ニ基キ一ヲ公罪即チ國家ニ對スル罪トシ他ヲ私罪即チ一箇人ニ對スル罪トセリ成程犯罪ノ行爲ハ或ハ國家ノ全部ニ對シテ行ハルルモノアリ或ハ國家ノ一局部ニ對シテ行ハルモノアリ故ニ此點ヨリ觀察スルトキハ或ハ一ノ犯罪ハ國家ノ全部ニ對シテ行ハレサルカ故ニ公罪ナリ他ノ犯罪ハ國家ノ一局部ニ對シテ行ハシタルカ故ニ私罪ナリト云フヲ得ヘシト雖モ若シ之ヲ其行爲自體ヨリ生スル害ト云フノ點ヨリ觀察スルトキハ元來國家ハ一箇人ヨリ集成シタル團體ニシテ國家ト一箇人トハ互ニ利害ヲ共ニセルモノナリ若シ夫レ果シテ然リトセハ國家ノ全部ニ對シテ行ハレタル犯罪ノ害惡ハ國家ノ害惡タル同時ニ亦一人ノ害惡ナリ又之ト同シ國家ノ一局部ニ對シテ行ハレタル犯罪ノ害惡ハ一箇人ノ害惡タビト同時ニ亦國家ノ害惡ナリ其間或ハ罪ノ大小若クハ輕重等ノ差異アルヘシト雖モ直接若クハ間接ノ區別ヲ爲スヘキ餘地アルヲ見

ス然ルニ我刑法カ此ヲ始キ理由ニ據リテ罪ヲ公私ニ區別シタル所ニ甚タ不當ナリト謂ハサルヘカラズ即ち實業者諸君大々其間敷へ地へ大小皆々

(二) 今假ニ一步ヲ轉シ我刑法ヲシテ犯罪行爲ノ行ハシタル部分ノ一箇人タルト國家タルトニ據リ之カ公私ヲ區別セシメントカ尙ほ未タ十分ナル結果ヲ得ルコト能ハサルナリ成程多クノ犯罪ハ或ハ偏ニ國家ニ對シテノミ行ハレタルモノナリトノ區別ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ總ノノ犯罪皆然ルヲ得ス即チ例之官吏人民ニ對スル罪ノ如キ、僞證罪ノ如キ、私書爲造罪ノ如キ、猥褻姦淫罪ノ如キハ恰モ破碎シ易キニシメタルト一般ノ箇ノ物件ヲ衝突セシメタルト一般ノ箇ノ所爲ニシテ同時ニ國家ト一箇人トニ對シテ行ハルモノナリ必シモ國家ニノミ若クノ一箇人ノミニ對シテ行ハレタリト謂フヲ得ス。山是觀之我刑法カ採用シタル公私ノ分類ハ之ヲ何ノ點ヨリ觀察スルモ決シテ正確ナル區別ト認ムルヲ得サルナリ。

斯ク論シ來ダトキハ諸君咸ハ曰ハシ然ラハ如何ニセハ可ナルヤト余ハ之ニ對シテ下ノ如ク言ハント欲ス曰ク法典中ニ於テ犯罪又分類スルニ「優メテ至難ノ業ニシテ到底完璧ヲ望ムヘガラス」(二)然ルニ若シ強テ區別ヲ設タルトキハ(一)之ヲ解釋ヲ爲スニ當リ或ハ其區別ノ原由ニ拘束セラルノ結果舊テ立法者カ夢ニタモ豫想セナリシ程ノ解釋ヲ採ラサルヘカラナルノ結果ヲ生スルヨトアルヘク(ロ)又凡ソ法律ノ解釋ハ常ニ法典ノ全體ニ精通スルニ非ナレハ完全ナル説明ヲ求ムルヲ得ナルニミ拘ラス時ニ或ハ單ニ一局部ニノミ拘泥シテ之ヲ解釋フ試ムルノ結果遂ニ大ナル錯誤ニ陥ラサルヲ得サル等許多ノ弊害アリテ却テ便益ヲ主トシタル分類ノ趣旨ニ反スルノ結果ヲ見ルコト多カルヘシ(三)加之實際法律ヲ適用スルニ當リ此ノ如キ分類ナキモ格別ノ不便ヲ感スルコトナシ要之法典中ニ於テ犯罪ヲ數科書的ニ分類スルハ徒ニ害アルノミニシテ毫モ益アルヲ認メス體ヲ余輩ハ以爲ラク此ノ如キ區別ハ全ク之ヲ廢棄シ法典ハ單ニ殺人罪、強盜罪又ハ竊盜罪ト云フカ如ク各犯罪カ國家ニ被ラシムル所ノ害惡ノ輕大小ヨリ漸次之ヲ叙別スルニ止ムルニ若カストヘ則又文武新キノ指

第一編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

本章ノ標題ハ皇室ニ對スル罪トアリ皇室ニ對スル罪トハ極メテ汎博ナル語ニシフ天皇以下皇族ノ御身體ハ勿論皇室ニ屬スル財產ニ對スル罪マツラモ尙ホ之ヲ包含スルカ如キ觀アリ然レトモ〔〕後ニモ述フルカ如ク本章ハ單ニ天皇以下皇族ノ御身體ニ對スル罪ノミヲ規定セルノミラス〔〕佛文ノ草案ニ於テモ「陛下及ヒ殿下ニ對スル重罪輕罪」トアリテ明カニ御身體ニノミ對スル罪ナルコトヲ示セリ左レハ本章ノ表題ハ恰モ多數諸外國ノ刑法ノ如ク「天皇及ヒ皇族ノ身體ニ對スル罪」ト記載スヘキカ如シ然ルニ故ラニ皇室ニ對スルト云フカ如キ廣漠ナル文字ヲ以テニ代シタルヤ是シ蓋シ立案者苦心ノ存スル所漫ニ非難スヘキニ非ナルヘダ職務ニ當ニ既典ヘ委附ニ餘威ニシムニ求モヘ完全ナニ而シテ其規定スル所ハ之ヲ大別スルモノ三種トス曰ク危害ヲ加ヘ又ハ加ヘシシタバ罪及シ其處分曰ク不敬ノ罪及ヒ其處分曰ク危害罪ト不敬罪ニ共通

ナル處分是ナリ即チ余ハ之ヲ三節ニ分テヲ論究スヘキ告ナレトモ右三種ノ中最後ノモノハ格別ノ説明ヲ要セス條文ノ通讀ヲ以テ明カナルカ故ニ之ヲ省キ茲ニハ前二種ノ規定詳言スレハ危害罪及ヒ不敬罪ノミニ付キ講説スヘシ

第一節 危害罪

第百十六條ニ曰ク「天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處スト又第百十八條ニ曰ク「皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處スト」此二條ハ何レモ危害ト云フコトヲ以テ通素トセリ故ニ余ハ此二條ヲ通シテ假ニ名ケラ危害罪トス危害罪成立ノ要素ハ(一)犯罪ノ客體ハ天皇三后、皇太子若クハ皇族タルコト(二)犯
罪ノ所爲(即ちト意思ヲ包含ス)ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトノ二トス(三)犯罪ノ客體ハ天皇三后、皇太子若クハ皇族タルコトヲ要ス

(4) 天皇 天皇トハ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ現ニ我大日本帝國ヲ統治シ給フ所ノ君主ヲ奉稱ス體テ外國ノ君主ハ勿論縱合當ヲ萬世一系ノ帝位ヲ踐マセ

ラレタル御方ト顯る一旦位ヲ去リ給ヒシトキハ茲ニ所謂天皇ニ非ス論者ア
リ說ヲ爲シテ曰ク古來我國ノ慣例ニ依レハ天皇ナル語ノ中ニハ常ニ太上天
二皇ヲモ包含スルミナラス第百十六條及ヒ第百十七條ニハ皇太后ヲ掲ケア
リ皇太后ヲ掲ケアル以上ハ太上天皇ヲ掲ケアルノ理ナシ依ク茲ニ所謂天皇
ナル語ノ中ニハ太上天皇ヲモ包含スト解釋セサルヘカラスト余ハ此說ヲ爲
イスル能ハス其理由ハ(一)單ニ天皇ト謂フトキハ我國ヲ統治セサセ給フ所ノ君
其主即チ一天萬乘ノ主權者ヲ奉稱ス天ニ二日ナク國ニ二君ナシ若シ論者ノ說
ニ隨ハハ吾人臣民ハ同時ニ二人ノ君主ヲ奉戴スルコトアルヲ想像セサルヘ
カラス(二)成程我國從來ノ慣例ニ依レハ現在ノ天皇モ太上天皇モ均シク之ヲ
天皇ト稱シ奉ラタルコトアリキ然レトモソハ普通俗用ノ言語ニ於テ然ルノ
ミ此慣例アレハトヲ嚴格ナル刑法ノ用語ニ於テモ尙ホ且ツ然リト謂フヲ得
サラン我輩ノ見ル所ニ依レハ法律上ニ於テハ太上天皇トハ單純ナル尊號ニ
景シテ主權者タル君主トニ全然區別アルモノナリ隨テ君主即チ主權者ヲ奉稱
大スヘキ天皇ナル語ノ中ニ太上天皇ヲ含マシムルノ理アルヘカラス(三)皇太后

ヲ掲ケテ太上天皇ヲ掲ケナルノ理ナキカ故ニ天皇タル語ノ中ニハ太上天皇
ヲモ含ムモノト解釋セサルヘカラストハ是レ論者カ最モ強キ理由トシテ主
張セラル所ノモノタリ然レトモ我輩ノ見ル所ニ依レハ右ニ述ヘタルカ如
ク天皇ト太上天皇トハ法律上確然タル區別アルヘキモノナルノミナラス論
者カ所謂勿論解釋ハ一種ノ類推解釋ニ屬スルモノニシテ嚴正ナル解釋ヲ要
スル刑法ノ明文ニ於テハ決シテ許スヘキモノニ非ス

之ヲ要スルニ若シ立法者ニシテ今尙ホ昔時ノ如ク我國ニ太上天皇ノ稱アル
コトヲ知リナカラ之ヲ掲ケサリシトセハ是レ疑モナク法文ノ缺點ナリ然レ
トモ(一)皇室典範第十條ニ天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承
クトアリテ天皇ハ御在世中決シテ位ヲ去リ給フコトナキト(二)當時若シ立法
者ニシテ尙ホ舊來ノ如ク太上天皇ノ制アルヘキコトヲ想像シナハ上ハ天皇
ヨリ下皇太子マララモ極メタ錦密ニ規定シテカラ唯リ太上天皇ヲノミ脱漏
スルノ理由ナキトニ據リ之ヲ按スルニ蓋シ立法者ハ刑法編纂ノ當時業ニ已
ニ我國ハ王政復古ト共ニ上古ノ制度ニ拘リ自今以後太上天皇ノ制ヲ設ケサ

ルノ趣旨ナリシニハ非サルカ若シ夫レ果シテ然リトセハ茲ニ太上天皇ヲ掲ケナリシハ却テ當然ノコトニシテ從來學者カ此點ニ付キ論議ヲ試ミタルハ蓋シ立法者ノ意思ヲ知ラナムニ基ク机上ノ費辯タリシト許スルノ外ナカラ

(ロ) 三后 三后トハ皇后、皇太后太皇太后ヲ奉稱ス(一)皇后トハ皇室典範第十六條ノ規定ニ依リ皇后ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱ス(二)皇太后トハ先帝ノ皇后、太皇太后トハ先帝ノ皇后ヲ奉稱ス隨テ今上天皇ノ御母又ハ御祖母ハ常ニ必スシモ皇太后又ハ太皇太后ニ非ス(皇族支系ヨリ入リテ大統ヲ繼カセ給フトキニ此例ヲ見ルコトアリ)

(ハ) 皇太子 皇太子トハ皇室典範第十五條及ヒ第十六條ノ定ムル所ニ依リ皇太子ニ立タセラレタル御方ヲ奉稱ス隨テ皇室典範ニハ皇太孫ノ制アレトモ茲ニ所謂皇太子ナル文字ノ中ニハ包含セス蓋シ刑法改正ノトキハ必ス之ヲモ書キ加ヘラルヘキハ當然ノコト信ス

(三) 皇族 皇室典範第三十條ニ皇族ト稱フルハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子

皇太子妃、皇太孫皇太孫妃親王親王妃、内親王王、王妃、女王ヲ謂フ』トアリ本章中ニ所謂皇族トハ右ニ舉ケタル皇室典範ノ所謂皇族ト同一ナルヤ曰キ右ノ中太皇太后皇太后及ヒ皇太子ニ付テハ本章別ニ規定アリ故ニ本章所謂皇族トハ皇室典範所謂皇族ノ中ヨリ皇太子、皇后、皇太后太皇太后ヲ除キタル以外ノ皇族ヲ指シ奉ルモノトス

(イ) 犯罪ノ所爲ハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトヲ要ス

茲ニ所謂危害トハ如何ナル害ヲ意味スルヤ 刑法中他ノ場所ニ於テ用ヒラレタル危害ナル文字ト本罪ノ規定ニ相當スル草案ノ條文ト本章中ノ他ノ規定トヲ參照セハ略シ其義ヲ知ルヲ得ヘシ(一)刑法中本章以外ニ於テ危害ナル文字ヲ用ヒタルノ例ヲ按スルニ第二編第五章第四節ニハ危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品云云第三百十六條ニ……危害已ニ去リ云云トアリテ危害ナル文字ハ常ニ生命又ハ身體ニ對スル害ト云フノ義ニ用ヒラレ決シテ財產等ニ對スル害ト云フノ義ニ用ヒラレタルコトナシ(二)本罪ノ規定ニ相當スル佛文草案第一百三十一條ニ(Tentative de delit commis contre la personne de l'Empereur du Japon)

トアリ即チ日本天皇…………ノ身體ニ對スル害ノミヲ規定セリ左レハ茲ニ所謂危害ナル文字ハ身體ニ對スル害ノミヲ意味スルモノニシテ第百十六條及ヒ第百十八條ハ天皇、三后、皇太子若クハ皇族ノ御身體ニ對スル加害ノ所爲ヲ規定シタルモノタルコト疑ラ容レス然ラハ茲ニ危害ヲ加ヘ又ヘ加ヘントシタル罪トハ尙ホ刑法第三編中ニ規定シタル身體ニ對スル罪ト云フト同一ノ意義ナルカ故ニ苟モ身體ニ對スル加害ノ所爲ハ生命ニ對スルト身體肉體ニ對スルト自由ニ對スルト榮譽ニ對スルトニ論ナク總テ之ヲ包含スルモノナアルヤ曰ク本章ニ於テハ別ニ不敬罪ナルモノノ設アリテ第三編身體ニ對スル罪ノ中ニテ榮譽ニ對スル罪ニ相當スル罪ヲ規定セリ故ニ茲ニ所謂危害ヲ加ヘ又ヘ加ヘントシタル罪トハ第三編ニ規定シアル身體ニ對スル罪ノ中ニテ榮譽ニ對スル罪ヲ除外シタル總テノ罪ラ意味スルモノト信セラル

以上説明シ來レル所ニ依レハ危害ヲ加ヘタルトハ生命ヲ害シ又ハ身體ヲ傷ケタルコトヲ意味スルモノニシテ此點ハ極メテ明瞭ナルカ如シト雖モ尙ホ些カ説明ヲ要スルモノアリシハ他ニ非ス凡ソ罪ヲ犯サントスル者ニシテ唯單ニ他

人ノ身體若クハ財產ニ害ヲ加ヘント云フカ如キ漠タル意思ヲ有スモノ甚タ稀ナリ必スヤ某ヲ殺サントカ傷ケントカ又ハ某ノ財產ヲ竊取セントカ毀棄セントカ常ニ特定ノ意思アルフ例トス是レ刑法第二編以下ノ明文ニ於テ各皆特定ノ意思アル特定ノ所爲ヲ想像シテ制裁ヲ附スル所以ナリ是ニ於テカ諸君或ハ曰ハシ茲ニ危害トアルハ尙ホ第三編以下ニ於テ謀殺又ハ殴打ト言フト同一ニシテ唯茲ニ之ヲ危害ト言ヒタルハ謀殺故殺又ハ殴打ト云フノ煩ラ避ケンカシ奉ラントノ特定ノ意思ヲ以テ其事ヲ行ヒタルモ未タ其目的タル所爲ヲ遂ケテルモノナルカ故ニ危害ヲ加ヘントシタルモノナリト謂フヲ得ヘキモ危害ヲ加ヘタルモノト謂フヲ得スト然レトモ是レ大ナル誤ナリ(一)成程殺人ノ意思ト傷人ノ意思トハ其間大差アリト雖モ廣ク一括シテ之ヲ觀察スレハ孰モ人身ヲ害スルノ意思ヲ通有セリ亦之ト同シテ殺人ノ所爲ト傷人ノ所爲トハ其間徑

庭アリト雖モ之ヲ害ノ一點ヨリ觀察スレハ孰レモ通シテ人身傷害ノ所爲タリ而シテ本罪ノ場合ニ於テハ法律ハ此意思ト此所爲トヲ以テ成立要素トセリ(二)加之論者ノ如クセンカ第百十六條ノ場合ニ於テハ格別ノ不都合ヲ見サルモ第百十八條ノ場合ニ於テハ甚シキ奇觀ヲ呈スヘシ何トナレハ論者ノ如クスルトキハ皇族ヲ殴打シテ創傷セシメント欲シテ其事ヲ遂ケタル者ハ危害ヲ加ヘタル者トシテ死刑ニ處セラルニモ拘ラス皇族ニ對シ謀殺ヲ行ヒ其未タ遂ケサル者ハ縱令因テ之ニ重傷ヲ負ハシメタルモ危害ヲ加ヘントシタル者トシテ却フ無期徒刑ニ處セラルヘケレハナリ故ニ第百十六條、第百十八條即チ危害罪ノ場合ニ於テハ犯人ニ於テ謀殺又ハ故殺ト云フカ如キ特定ノ意思アル特定ノ所爲ヲ遂タルコトヲ要セス苟モ廣キ意味ニ於テ身體ニ害ヲ加フルノ意思ト害ヲ加ヘタルノ所爲トアルトキハ常ニ危害ヲ加ヘタルノ罪ヲ以テ擬スヘキナリ」次ニ危害ヲ加ヘントシタルトハ如何ナル意義ナルカ用語概博殆ト捕捉スルヲ得ナルノ觀アリ然レトモ今此意義ヲ定ムルニ先チ些カ一言ヲ要スルモノアリシハ他ニ非ス抑モ茲ニ所謂危害ヲ加ヘントシタルト云フハ危害ヲ加ヘタルト

云フ犯罪ニ對スル味試犯罪以下ヲ規定シタルモノナルヤ將タ危害ヲ加ヘントシタルト云フ一橋獨立ノ犯罪ヲ規定シタルモノナルヤ第百十二條ニ曰「**ク罪ヲ犯シシナントシテ已ニ其事ヲ有フ事難ニ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ越ケタル時ニ云云**」此原則ニ依レハ障礙舛錯ハ兎ニ角未遂犯罪ト言ヒ得ル爲メニハ必ス常ニ法律ヲ禁止又ハ命令ニ違背シタル所爲即チ罪ヲ犯ナントシテ未タ遂ケタルコトヲ要ス換言スルハ或所爲カ未遂犯罪タルヤ否ヤヲ區別スルノ標準ハ犯人カ其目的ヲ遂ケタルト否トニ在ラスシテ罪即チ法律違犯ノ所爲ヲ遂ケタルを否キニ在リ例ヲ以テ之ヲ示サハ内亂罪ノ場合ニ於テ朝憲暴亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ擧ケタルノミソ所爲ム之ヲ犯人ノ目的ヨリ觀ルトキハ政府顛覆若クハ變亂未遂ノ所爲ナルニ法律違犯ノ所爲即チ罪ト云フコトヲ目安シテ之ヲ觀察スルモキハ決シテ内亂未遂犯罪ニ非スシテ既遂犯ナリ如何トナレハ此場合ニ於テハ法律上犯人カ其目的ヲ遂ケタル時ヲ以テ始ヌカ」ノ罪トセシテ其目的ニ著手シタル時即チ罪ヲ行爲アル時ヲ以テ法律違犯ノ所爲即チ内亂ノ罪トスルモノナリ是ニ由リ「准論シ亦ルトキ」ハ本問ノ場合ニ於テ充

害ヲ加ヘントシタルノ所爲ハ之ヲ危害ヲ加ヘタルノ所爲ニ對スルトキハ未遂
ノ所爲ナレトモ第百十六條及ヒ第百十八條ニハ……危害ヲ加ヘントシタル者ハ
死刑若クハ無期徒刑ニ處スト在リテ其所爲自身法律ノ明文ニ依リテ一ノ犯罪
トセラレタルカ如キ狀態アリ隨テ危害ヲ加ヘタル罪ノ未遂罪ニ非シテ加ヘ
ントシタルト云フ一箇獨立ノ犯罪ナリト謂フヲ得ルカ如シ然レトモ(一)凡ソ法
律ニ於テ一ノ所爲ヲ一ノ獨立犯罪トシテ罰スルニハ常ニ必ス或所爲カ法律違
犯ノ所爲ヲ爲ナントノ意思ニ會合スルコト換言スレハ意思ト所爲トカ相伴ヒテ
明文ノ要求スル條件ヲ充實シタルコトヲ要ス意思ノミ彼岸ニ達シテ所爲ノ未
タ之ニ及ハナルモノハ常ニ其犯罪ノ豫備若クハ未遂罪ナリ今退テ本間ノ場合
ヲ除セシニ明文ハ危害ヲ加ヘタル所爲舉動ト意思アリトキヲ以テ始メテ明文
要求ノ條件ヲ充實シタルモトセリ然ラニ其之ニ對シテ危害ヲ加ヘントシタ
ル云云トハ是レ明カニ意思ハ危害ヲ加フルニ在ル所爲ノ未タ之子及ハナル
ヲ意味スルモノニシテ明文上意思ト所爲トノ會合ヲ認メテ隨テ危害罪ノ未遂
罪以下ヲ規定シタル事ノナリト認ムテ得ルモ一箇獨立ノ犯罪ヲ規定シタルモ

ノナリト認ムルヲ得ス(二)加之佛文ハ草案ノ接スルニ本間所開危害ヲ加ヘント
シタル云云トアル場合ハ之ヲ種種ニ區別シ以テ危害罪ニ對スル未遂犯罪以下
ノ規定トセリ由是觀之茲ニ危害ヲ加ヘントシタル云云トアルニ一箇獨立ノ犯
罪ヲ規定シタルニ非スシテ危害罪ノ未遂犯罪以下ヲ規定シタルモハタルコト
炳トシテ火ア堵ルガ如沐然リ而シテ其此ノ如ク包括的ノ文字ヲ用ヒテ恰モ得
立ノ一罪ヲ規定シタルカ如クニ爲シタルハ是レ蓋シ草案ノ如ク種種ノ場合ヲ
列舉スルトキハ精ハ則モ精ナリト雖モ爲メニ皇室ノ御威儀ヲ濫シ奉ルノ過ア
リ故ニ已ムヲ得ス此ニ出タルモノナラン然ニ而シテ其此ノ如ク包括的ノ文字ヲ用ヒテ恰モ得
ナルヤア論究セント欲スル事例ハ實地ニ實驗ノ事例也又實驗ノ事例也又
凡ノ犯罪ノ所爲ハ其既遂ニ至ルマテ漸次數段ノ階級ヲ踏ムセノナリ今之ヲ略
述セバ先づ内心ニ思想初ニ念ヲ發シ進ミテ決心ト爲リ一轉シテ外部ノ舉動即

爲リテ第一ニ豫備次ニ實行ノ著手終ニ既遂ニ至ルモノナリ然ア而シテ茲ニ危害ヲ加ヘンシタル所ニ危害罪ハ未遂犯罪ヨリ以下何以マテス包含スルモノナルカナルヤ換言スレハ罪ニ著手若クハ既效ノ未遂犯罪ノミヲ意味スルモノナルカ若クハ豫備ヲモ包含スルガ將外尙ホ達ミテ決心ヲモ含ム者ノナ此が是レ大ニ研究スベキノ問題タリ(一)本問ニ所謂危害ヲ加ヘントシタルトハ尙ホ罪ヲ犯ナシトシタルト云フカ如ク用語極メテ廣潤ニシテ單ニ此文字トミニ考ベ何レテハ之ヲ含ミ何レヨリハ之ヲ含マストノ劃然タル標界ヲ定ムルヲ得ス隨テ予ニ信ス此用語自體ハ無制限ニシテ上ハ著手若クハ既效未遂ヨリ下ハ決心ニ至ルマテ恐ク之ヲ包含セシムルヲ得ルモノナリト(二)然ラヘ此危害ヲ加ヘントシタル云云ノ文字ハ絶對無制限ニシテ刑法上復タ他ニ之ヲ制限スルノ規定アオサルカ曰ク凡ソ犯行アルモ犯意ナキトキハ勿論組合犯意アルモ犯行ナキハ決シテ犯罪ト爲ラス是レ刑法ノ全體ヲ貫通スル一大原則ナリ總テ本問ノ場合はアモ決心ノ如キ犯意ハミアリテ犯行ナキセモハ緒合言語文書ニ係重外部ニ表示セラレタルトキト雖モ之ヲ罪トシテ罰スルヲ得不換言本來也危害並加ヘン

トシタルトノ廣キ用語ハ之ヲ制限シテ決心ヲ包含セカシムル事セハが看ス(三)然レトモ右ノ大原則ハ又必スシモ如何ナル場合ト雖モ例外ヲ容サズム絶對的ノモノニ非ス或重大ナル場合ニノミ限リ法律ハ例外トシテ或種類ノ決心ヲ制スルノ規定ヲ設ケ以テ此大原則ヲ制限セリ所謂例外トハ何ソヤ曰ク第百十一條首文ニ「罪ヲ犯サンコトヲ謀リ云云ト在ルモノ即チ陰謀是ナリ陰謀トハ著手ノ所爲ニモ非ス又豫備ノ所爲ニモ非ス二人以上ノ謀議ニ依リテ成リタル犯罪ハ決心ナリ然ルニ危害罪ハ大罪中ノ大罪ニシテ本罪ノ規定ニ該當スヘキ佛文人草案ニテハ明カニ陰謀ヲ罰スル規定アルノミナラス雖ニモ達ヘタル如ク危害ヲ加ヘントシタルトハ用語ノ極メテ廣潤ニシテ苟モ法律ニ據セサル限りハ如何カル場合ト雖モ皆之ヲ包含セシムルコトヲ得ヘキ性質ヲ有スル文字ナルカ故キ茲ニ所謂危害ヲ加ヘントシタルトハ陰謀ヲモ包含スルハ語ニジテ即チ第百十一條末文本條別ニ刑名ヲ記載シタル場合タルコト疑ア容レバ以上叙述タル所ニ依リ茲ニ危害ヲ加ヘントシタルトアベバ上ハ著手若クハ廣義未遂ヨリ下ハ豫備及ニ決心ノ或場合即チ陰謀マタフ包含スルモノト解釋スヘ

キナリ、不^レは重罪也。或ふく處事有犯而刑罰不^レ當者、或ふく職務大々
子ハ以上ニ於テ本罪ノ成立要素ヲ説明シテリタリ而シテ處分法ニ付テハ解釋
上格別説明スヘキ點ナシ唯犯罪ノ客體種異ニスルニ因リテ二箇ハ處分法アル
ノミ即チ若シ犯罪ノ客體カ、一、天皇、三后又ハ皇太子ナルトキハ危害ヲ加ヘリタリ
タル危害ヲ加ヘントシテ未タ達ケナルトヲ問ハス皆死刑ニ處シ第一一六條
二三后、皇太子以外ノ皇族ナルトキハ危害ヲ加ヘリタル場合ニ危害ヲ加ヘン
トシタル場合トフ區別シ危害ヲ加ヘリタル場合ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘン
トシタル場合ハ無期徒刑ニ處スルコトトセリ(第一一八條)

第二節 不敬罪

皇室ニ對スル不敬ノ罪ハ第百十七條及ヒ第百十九條ニ在リ第百十七條ニ曰ク
「天皇、三后、皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁領ニ處シ
二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シト又
第一百十九條ニ曰ク「皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁領

二ハシ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト即チ本罪成立ノ要素ハ次ノ二トス
曰ク(一)犯罪ノ客體ハ天皇、三后、皇太子、皇陵若クハ皇族ナルコト曰ク(二)犯罪ノ
所爲ハ不敬ノ所爲アルコト是ナリ復其言權威及威儀、威儀威儀、威儀威儀
(一)犯罪ノ客體ハ天皇、三后、皇太子又ハ皇陵若クハ皇族ナルコトヲ要ス
(二)天皇、三后、皇太子又ハ皇族ニ付テハ已ニ危害罪ノ場合ニ於テ説明シタル
ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贊セス皇太子等の尊嚴及威儀威儀、威儀威儀
(ロ)皇陵 皇陵トハ何ソヤ之ニ付テハ凡ソ三説アリ即チ或ハ曰ク天皇、三后、
皇太子ハ勿論皇族ノ御墳墓ヲモ指スト或ハ曰ク天皇、三后、皇太子ノ御墳墓ヲ
却テ重ク處断セラルノソ結果ヲ生シ彼は權衡ヲ失スルノ不都合アリ(二)第二
指スト或ハ曰ク御歷代ノ天皇ノ御墳墓ノミヲ指スト予ハ第三説ヲ以テ可ト
ス如何トナレハ(一)第一説ニ從ハシカ現在ノ皇族ニ對スル不敬罪ハ二月以上
四年以下ノ重禁領ナリニ已ニ處去セラタル皇族ノ御墳墓ニ對スルモノハ
却テ重ク處断セラルノソ結果ヲ生シ彼は權衡ヲ失スルノ不都合アリ(二)第二
説ニ從ハシカ刑罰ノ權衡上ヨリスルトキハ大ニ宜キ得ルカ如キモ從來我
國ニ於テミササギ即チ陵ト云フハ専ラ天皇ノ御墳墓ヲ指スノミナラス字義

ニ依リテ之ヲ按スルモ皇ト謂フハ皇室皇族皇位又ハ皇居等ノ如ク常ニ「オホキミ」
キミノ若ク「スラギ」ト謂フ形容詞ナリ左レハ皇號ト「オホキミ」ノ後御
チ天皇ノ御陵墓ト讀マサルヘカラナルニ似タルハナリ
〔二犯罪ノ所爲〕不敬ノ所爲タムヲ要ス
不敬ノ所爲トハ皇室尊嚴ヲ汚損ヘル性質ノ所爲ヲ謂フ然レトモ法律ハ單ニ
不敬ノ所爲トノアリテ第六如何ナル所爲カ不敬罪タルヤフ明官セシ體ヲ其
結果トシテ或一ノ所爲カ不敬罪タルヤ否ナハ尙ニ裁判官ノ認定如何ニ在ルモ
ノトス〔第二不敬罪ト爲ルニハ如何サル種類ノ所爲タラナルヘカラサルヤフ規
定セサル隨フ其結果トシテ〕天皇三后皇太子若クハ皇族ニ對シ罵詈嘲笑誹謔又
ハ侮辱シ若クハ皇親ヲ汚損戴シ保ハ發揚シタル如キ所爲アクトキハ勿論其
他ノ所爲外難モ苟モ天皇三后皇太子、皇族又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アリト認
ムカセバ皆以之不敬罪タルヘシ亦其言語ヲ以テスルト文書ヲ以テスルト罪
體ヲ以テスルト區別セサルナリ〔佛文華第百三十二條ニハOffense future
offense common punishment公懲罰責備等又ハ罵詈等ヲ爲シタル者トアリテ〇〕

essential, outrage ハ何レモ其自身積極的ノ行爲タルコトヲ要スルノ意味ヲ示ス
ト同時ニ又其所爲ノ公然行ヘタルユトヲ要セリト雖モ明文ニハ此等ノ條件
ヲ要セサルヲ以テ所爲ノ公然タルト否ト又其積極的タルト消極的タルトヲ問
ハス苟モ不敬ト認メ得ルノ所爲ハ總テ不敬罪トスヘキナリ隨テ例ヘハ皇族ヲ
罵詈スルノ文書ヲ作リテ之ヲ戴スルカ如キ又車駕ニ對シテ故ラニ不敬ノ意思
ヲ以テ敬禮ヲ爲ササルカ如キハ總テ不敬罪ヲ以テ論スルヲ得ヘキモノタリ
右論シ來リタルカ如ク不敬ノ所爲トハ其範圍甚タ廣大ナリト雖モ之ヲ罪トシ
テ論スルハ不敬ヲ加フルノ意思アル所爲ニ限ルモノトス體ヲ經令結果ニ於テ
不敬ト爲ルヘキ所爲アルモ決シテ不敬ヲ加フルノ意思ナキモノ例ヘハ田舎翁
カ車駕ヲ拜シテ感涙ノ餘り賽錢ヲ投シタルカ如キ偶ニ過チテ不敬ノ結果ヲ生シ
タルモノニシテ毫モ不敬ヲ加ヘントノ意思ナキモノナルカ故ニ當然總則第七
七條ノ適用ニ因リ罪ト爲ラサルモノトス體ヲ經令結果ニ於テ不敬ヲ加フルノ意思ナキモノ例ヘハ田舎翁
些カ本罪ニ關スル一二ノ問題ヲ論究スヘシモ不尊重ニシテ眞面目ニ未だ無事畢ス

(二) 不敬罪ニ豫備又ハ未遂犯罪アリヤ 因ク不敬罪ニハ豫備又ハ未遂犯罪ナシ其理由ハ若ク不敬ナル文字ヲシテ殴打トカ竊取トカト謂フカ如ク所爲ノ狀態ヲ意味スルモノナリセハ所爲ノ狀態ハ時ノ經過ニ由リテ變遷消長スルコトアルセノナルカ故ニ豫備ヨリ未遂未遂ヨリ既遂ト謂フカ如ク種種ノ狀態アルヲ想像シ得ヘシト雖モ不敬トハ恰モ道德上ニ於ク或所爲ヲ判定シテ善行ナリ若クハ惡行ナリト謂フト同一般行爲ノ狀態ヲ意味スルモノニ非シテ或所爲ノ性質ニ對シ吾人カ理想ニ基キテ下ス所ノ一箇ノ判定ナリ隨ラ判定ノ目的物タル所爲自體ノ狀態ハ千差萬別其間或ハ既遂或ハ未遂若クハ豫備ナルコトアルヘシト雖セ之ニ對スル判定ノ結果ハ不敬カ然ラサルカノ一一歸スルモノニシテ其間豫備トカ未遂トカ既遂トカ謂フカ如キコトヲ想像スルコトヲ得サレハナリ

(二) 御歴代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲ハ第百十七條ヲ以テ論スルヲ得ルヤ否ヤ論者アリ說アリテ曰タ第三百五十九條ニ「死者ヲ誹謗シタル者ハ涙罔ニ出タルニ非サレハ云云處斷スルコトヲ得スト」在リテ死者ヲ誹謗スルハ現ニ生

存セル子孫若クハ親屬ニ對スル誹謗ノ罪ナリ左レハ御歴代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲モ亦之ト同シテ御在世ノ天皇ニ對シ奉ル不敬ノ所爲ナルヲ以テ第百十七條ヲ以テ處斷スルハ勿論ナリト予ヲ以テ之ヲ觀レハ是レ認説ナリ(一)凡ソ私罪即チ第三編以下身體財產ニ對スル罪ニ於クハ其直接ノ被害者ハ國家ニ非シテ一箇人ナリ故ニ私罪ハ其成立要件トシテ必ス常ニ特定セル一私人ノ權利ヲ害シタルコトヲ想像ス然ルニ死者ハ權利ヲ有セス權利ナキ者ハ又之ヲ害セラルルノ理ナシ是ニ於クヤ解釋上死者ニ對スル誹謗ノ罪ハ生存セル子孫又ハ親屬ニ對スルモノトスルヲ要スルナリ然レトモ之ニ反シテ公罪即チ公益ニ關スル罪ニ於クハ其直接ノ被害者ハ國家ニシテ一箇人ニ非ス故ニ公罪ハ成立要件トシテ單ニ其國家ニ害アルノミヲ以テ足レリトシ又必シモ特定セル一箇人ノ權利ヲ害シタルヤ否ヲ問ハス然リ而シテ天皇以下皇族ニ對スル不敬罪ハ私罪ナルカ將タ公罪ナルヤ我刑法ハ明カニ之ヲ公罪トセリ已ニ公罪ナル以上ハ論者ノ如ク第百十七條ヲ以テ歴代ノ天皇ニ對スル不敬罪ヲ罰セントシフ必ス常ニ一箇人ノ權利侵害ヲ想像スルヨリ要スル所ム私罪ノ場合ヲ準

用シテ以テ御在世ノ天皇ニ對スル不敬罪ナリト謂フハ蓋シ鳥鷺達飛シ竹木相接スル觀ナキカ「假ニ數歩ヲ讓リ論者ノ說ヲ以テ正當トセシカ御歷代ノ天皇ノ子孫若クハ親屬ハ必シモ御在世ノ天皇ノミニ限ラス皇族モ亦然リ然ラハ論者ハ何故ニ御歷代ノ天皇ニ對スル不敬ノ罪ハ獨リ之ヲ御在世ノ天皇ニ對スルセノトメオ皇族ニ對スルモノトセサルヤ三若シ論者ニシテ右人間ニ對シ或ハ數罪俱發トシテ一ノ重キニ吸收セシメタリトカ或ハ普通ノ場合ニ於テ先人又ハ親屬タル死者ヲ誹謗シタル罪ハ其家系ヲ繼承シタル家長若クハ親屬中ノ首領ニ對スル罪タリ然ルニ天皇ハ皇室ト稱スル一家ノ首長タルカ故ニ家族タル皇族ニ對スルモノトセシテ首長タル天皇ニ對スルモノトセリト答ヘンカ尙ホ論者ノ說ハ適用ニ於テ奇怪ナル結果ヲ生スヘシソハ他ナシ論者ハ已ニ御歷代ノ天皇ニ對スル場合ニ於テ三百五十九條ノ法理ヲ採用シ來リタルヲ以テ又之ヲ已ニ薨去セラレタル皇族ニ對スル場合ニモ適用シ得ナルノ理ナカルヘシ因テ茲ニ論者ノ說ヲ採用シテ第百十七條

ニ依リテ處斷セラルニ拘ラス同ク皇族タルノミナラス現ニ御健在ノ御方ニ對スル不敬罪ハ却テ百第十九條ニ依リテ一層輕ク處斷セラルノノ結果ヲ見ルコト是ナリ知ラス論者ハ何ニ由リテ此奇怪ナル結果ヲ説明セント欲スルヤ（西面）ホ一步ヲ進メテ之ヲ論セシニ論者ノ說ニ依ルトキハ歴史上隱レナキ殘忍暴虐ナリシ天皇ノ御首ヲ作リ之ヲ街頭ニ梶シ其傍ニ此天皇ハ殘忍酷薄百姓ヲ害スル甚シカリシカ故ニ予ハ神明ニ代リテ之ヲ島首スルモノナリト榜スル者アルモ他ノ犯罪ト爲ルハ兎ニ角不敬罪トシテハ趣向ニ出テタル誹謗ニ非ス體チ不敬ニ非サルカ故ニ無罪ナリト論決セサルヘカラサラン一私人ニ對スル場合はナレハ格別我國家ノ首長タリシ君主ニ對スル此ノ如キ所爲而モ國家ハ之ニ依リテ直接ニ何等ノ害惡ヲモ被ラストテ之ヲ不問ニ措クヘキモノナルカ恐ラク論者ト雖モ其然ラサルヲ認メン其然ルヘカラサルヲ知リナカラ此論決ヲ見ルハ是レ明カニ論者カ直接ニ國家ニ對スル公罪ト直接ニ一私人ニ對スル私罪トヲ混同シテ竹木相接スルノ論ヲ執リタルヲ證スルモノニ非スヤ一以上ノ理由ニ依リ單ニ第三百五十九條ニ依ラントスルハ勿論第三百五十九條ノ法理

テ採用シテ第百十七條ニ依リテ有罪ナリトスルノ論決モ亦不可ナルハ炳然火
ヲ諸ルカ如シ然ラハ何ヲ以テ其罪ヲ問ハシカ曰ク刑法中本問ノ所爲ヲ問スル
ノ正條ナシ即チ立法者ノ疏漏ニ由ル缺文ニ係ルヲ以テ予ハ現行法ノ上ニ於テ
遺憾ナカラ刑法第二條ニ依リ無罪ト決定セサルヲ得ナルモノナリト確信ス
以上ヲ以テ予ハ第二編第一章皇室ニ對スル罪ノ全體ヲ講了シタリ依リテ尙ホ
是ヨリ追加トシテ本章ノ缺點ヲ指摘シ併セテ之カ修正ヲ試ミン

(一) 本章中最モ非難スヘキ點ハ第百十六條及ヒ第百十八條ノ規定ト第八十五
條ノ規定トノ關係ナリ即チ一方ニ於テ第百十六條及ヒ第百十八條ニ於テハ犯
罪行為ノ性質種類ヲ細別セス廣々危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者トシ單ニ
一種若クハ二種ノ刑罰ヲ科シ他ノ一方ニ於テハ謀故殺ヲ除
クノ外ハ凡テ其條件ニテ自首スル者ハ一等ヲ減ストシタルノ結果例ヘ皇太
子又ハ皇族ノ一人ニ對シ第二百九十九條又ハ第三百二十四條ニ規定スルカ如
キ大罪ヲ犯シタル者ト雖モ事發覺前自首スルトキハ第八十五條ノ適用ニ依リ
當然一等ヲ減セラルノ結果死刑ヲ免レテ無期徒刑ト爲リ得ルニモ拘ラス皇

太子又ハ皇族ノ一人ニ對シ第三百一條末項ノ罪ヲ犯シ又ハ第三百二十二條ノ
罪ヲ犯スノ豫防ヲ爲シ自首セナリシ者ハ却テ死刑又ハ無期徒刑ニ處セラレナ
ルヲ得サルカ如キ不權衡ヲ生スヘシ
仍テ我輩ハ以爲ラク右ノ不結果ヲ避ケンカ爲メ本章ノ末段ニ此章ニ記載シタ
ル罪ヲ犯シタル者ニハ第八十五條ノ規定ヲ適用セス又ハ適用セサルコトヲ
譽ト云フカ如キ一條ヲ置タル至當トスト

(二) 本章ニ於テハ疊ニ述ヘタル如ク前代ノ天皇ニ對スル不敬罪ノ外神皇及ヒ
前代ノ皇后、中宮、女御、太子、皇族ニ對スル不敬罪ヲ缺如セリ故ニ第百十七條ニ
第二項トシテ神皇及ヒ前代ノ天皇、皇后、中宮、女御、太子ニ對スル者亦同シトシ
テ皇陵ノ一項ヲ削リ又第百十九條ニ第二項トシテ前代ノ皇族ニ對スル者亦同
シトスヘシ

(三) 本章ニ規定スル不敬罪ハ勿論危害罪ノ一部ハ第二編第十一節及ヒ第十二
節中ノ或モノニ對當スル場合ト同シク妄ニ之ヲ訴追スルト
キハ却テ公益ヲ害スルノ恐アリ故ニ本章ノ末段ニ本章ニ規定スル罪ハ司法大

臣ノ命令アリニ非サレハ訴追スルコトヲ得ズ」ト云フカ如キ一條ヲ設ケ以テ此
弊ヲ避クヘシ

第二章 國事ニ關スル罪

本章ヲ講スルニ當リテハ予ハ先づ總論トシテ本章全般ニ通スル二三ノ問題ヲ
説明シ漸次正文ノ説明ニ移ルヘシ是即ち小説及開拓力全ニ被スル事例問題也
誠アリ。且日本之國事犯は實地ニ於ケル事例也。不尋思ニ加く此等事例問題也。
二、本章ニ關スル罪即チ國事犯ノ定義「オルトラン氏曰ク政事的犯罪(Offense
of State)トハ國家ノ政事的組織ヲ害スル犯罪ナリトガロ」民曰ク政事的犯罪ト是
ハ國家ノ政事的秩序ヲ破壊變更又ハ擾亂スルコトヲ目的ト爲ス犯罪ナリト是
ニ於テカ或一派ノ學者ハ直ナリニ此定義ヲ借用シ來リテ之ヲ我所謂國事犯罪ノ
抽象的定義トシ更ニ刑法第二編第二章全般ノ規定ヲ學ケ名ケテ形象的定義ナ
リト稱シ以テ國事犯其モノニ二箇ノ定義アリト曰ヘソ此學者ハ犯罪ノ定義ニ

付テモ亦此口調ニ依リ二様ノ定義ヲ掲ケリ然レキモ凡ツ定義ナルモノハ或特
定シタル一箇ノ複雜ナルモノニ付テ其中ヨリ其物ヲ組成セル精素ヲ探掘レテ
一團トシ以テ之ヲ真相ヲ表スルモノナレハ抽象形象ト云フカ如キ二様ノ定義
アルヘキ管ナシ現ニ此學者カ所謂抽象又ハ形象ノ定義ナルモノヲ按スルニ名
ハ就レモ國事犯ト云フモノニ付シタルモノナントモ其實學者ハ國事犯ヲ定義
シテ云云ト曰ヒ國法ハ何何ト云フニ非シテ學者ノ所謂國事犯ハ云云國法ハ
所謂國事犯ハ云云ト云フモノ例セハ新造ト云フ語ハ大阪地方ニテハ人ノ妻タ
ル者ヲ謂ヒ東京地方ニテハ十八九ノ處女ヲ意味スト謂フモノニシテ其定義ノ
目的物ハ全ク同名異物ナリ已ニ異物タル以上ハ縱合其名ヲ同シウスルモ之カ
定義ハ又自ラ異ナラナルヲ得ナルハ自然ノ道理ナリ然ル國事犯罪其モノニ
付テ學者ノ定義ト國法ノ定義トアルカ如ク「ヲ抽象ノモノタリト云フハ惑ヘ
ル人甚シキモノナリ」又或學者ハ「オルトラン」「ガロ」「ベルナルド等カ政事的犯罪ニ下シタル定義ヲ
其僞假借シテ國事犯トハ國家ノ政事的秩序ヲ紊亂スル犯罪ナリ若クハ「國家ノ

自断權ヲ侵害スルコトヲ目的トスル犯罪ナリト曰ヘリ然レトモ前ニモ述ヘタ
ノ如ク凡ソ定義ナルモノハ其物ノ精素ヲ抽出シテ他物トノ區別ヲ明カニスル
モノナレバ一ノ定義ハ常ニ必ス其定義セラルヘキ物ト要素ヘ勿論其範圍ノ大
小ニ於テモ亦全ク相一致セザルヘガラス彼等ノ定義ハ國事犯罪其モノニ對シ
テ此條件ヲ具備スルヤ彼等ノ定義ハ其師範タル泰西法家ノ如ク政事的犯罪其
モノニ下シタルモノトスレハ用語各相異ナムト雖モ其意全ク相同シク何レモ
能ク政事的犯罪ノ真相ヲ穿チタルモノト謂フヲ得ヘキモ我所謂國事犯罪ナル
モノハ政事的犯罪ノ或一部分ニ冠シタルノ名稱ニシテ泰西諸家カ所謂政事的
犯罪ト其範圍ヲ同シウスルモノニ非ス政事的犯罪ハ我所謂國事犯罪ノ外或ハ
新聞條例ニ於テ或ハ出版法ニ於テ其數少カラス然ラバ
彼等カ國事犯罪ニ下シタルノ定義ハ決シテ當ナリト謂フヘカラス仍テ我輩
ハ以爲ク「國事犯罪」本學者カ所謂政事的犯罪ノ一種ニシテ刑法第二編第二章
中ニ規定スルモノヲ換言セハ國家ハ主權其モノヲ侵害スルコトヲ目的トスル犯
罪ノ一種ニシテ刑法第二編第二章中ニ規定スルモノヲ謂フト定義スルヲ以テ

至當ナリト
第二章 國事犯罪ニ死刑ヲ科スルノ可否並本問題ハ刑事哲學ヲ大觀題ニ屬スル
モノニシテ詳ニ論究セント欲セハ一般刑事法ノ大問題タル死刑存廢論ヨリシ
テ進ミテ犯罪ハ何ソナ刑罰ハ何ソヤトノ問題ニマテ過ラナルヲ得サルヲ結果
此ニ付テ一大冊子ヲ爲スモ尙不足ラサルノ感アラン然レトモ本講ノ目的ハ此
ノ如キ特別研究ヲ爲サントスルニ非シテ刑法各論ノ概念ヲ説明スルニ在ル
ヲ以テ根本的ノ研究ハ暫ク之ヲ他日ニ譲リ茲ニハ單ニ從來本問ニ關シテ唱道
セラレタル所ニノ學說ヲ紹介シ以テ些カ自家ノ断案ヲ試ムルニ止ムヘシ
論者アリ説ヲ爲シテ曰ク國事犯ハ多數ノ人命ヲ害ヒ巨萬ノ富ヲ虜盡セシムル
モノニシテ凡ソ社會ニ害惡ヲ流スモノ之ヨリ甚シキハナカルニシテ隨テ光點ヨ
テ觀察スレハ國事犯ハ何レノ犯罪ヨリモ最モ重ク且ツ最モ強ク罰セザルヘカ
ラサルカ如シト雖モ之ヲ犯人其人ノ心情ヨリ觀察スルトキハ彼レ國事犯罪人
ハ其意自家ノ口腹ヲ滿足セシメントスルニハ非ス國ノ福利安寧ノ爲メニハ身
命ヲモ犠牲ニ供セントノ最モ高尚ニシテ且ツ敬愛スヘキ道義觀念ヨリシテ起

此ニ至リタルモノナリ然ラハ之ヲ彼ノ全ク道義觀念ヲ缺如セバ卑ムヘク惡ムヘキ普通犯罪ト同一視レタ之ニ死刑ヲ科スルハ背理ノ甚シキモナリト此說ニ對シテハ國事犯ニ「死刑ヲ科ス」主張スル論者ノ張本トモ稱スヘキギゾ一氏スラ「正當ニ成立セル政府ヲ變換セントノ企圖ハ繼合未だ人命ヲ害ヒ財産ヲ蕩盡スルカ如キ實害ヲ生スルニ至ラサルモ確ニ犯罪タルヘキ」二 億ノ要件即チ行為ノ不道徳ト意思ノ不善トヲ具備セリトテ國事犯罪ノ未遂ハ勿論其未タ豫備ニ止マルモノスラ之ヲ不道徳ノ行為ナリト認ムルノミナラス國事犯罪人ハ常ニ必スシモ論者カ云フ如ク正義觀念ヲ有スルモノニ非ス時ニ或ハ國利民福ヲ名トシテ自家ノ利益ヲ營マント欲スル者アリテ却テ普通犯罪ヨリハ心情ノ卑ムヘキモノアルハ歴史ヲ讀ム者ノ普ク知ル所ナリ然ラハ論者カ其理由ヲ以テ死刑ヲ科スヘカラストノ説ハ事實ノ假想ニ基ク一箇ノ斷定ニ過キス

論者又曰ク殺人姫盜ノ如キ普通自然ノ生存ヲ害スルモノナルカ故ニ古今ニ亘リ萬國ニ通シテ常ニ犯罪タルヲ失ハス所謂宇宙的犯罪タリト雖モ國事犯罪ハ

人類ノ人爲的生存ニ對スル犯罪ナルカ故ニ此國ニ於テ犯罪トスルモ彼國亦於テハ犯罪トセス今且ノ犯罪全他日ノ善行タリ即チ時ト處ニ依リス犯罪ト爲リ又ハ爲ラサルモノ所謂地方的若クハ時代的犯罪タリ故ニ之ヲ普通犯罪ト同一視シ死刑ニ處スルハ酷ニ失スルモノナリト

然リ論者カ言フ如ク國事犯罪ハ時代的若クハ地方的犯罪タリ然レドモ時代的又ハ地方的犯罪必スシモ國事犯罪ノミニ非ス彼ノ賭博ノ如キ復讐ノ如キ亦或時又ハ或國ハ之ヲ罰シ或時又ハ或國ハ之ヲ罰セス若シ時代的又ハ地方的犯罪ハ輕減セサルヘカラストセヘ此等ノ犯罪モ亦之ヲ輕減セサルヘカラス況ニ論者ノ論旨ヲ反對ニ應用セハ宇宙的犯罪ハ皆死刑ニ處スルモ可ナリト云フノ結果ヲ生スルニ於テヲヤ

又說ヲ爲ス者アリ曰ク凡ソ國事犯罪ヲ企ツル者ハ刑罰制裁ノ如何ニ拘ラス其行爲自體ノ性質上ヨリシテ常に豫メ死ヲ決スル者ナリ已ニ死ヲ決スルニ非サレハ爲シ得ヘカラサル犯罪タル以上ハ死刑ヲ以テ之ヲ待ツモ以テ彼等ヲ威嚇シテ其素志ヲ在ケシムルノ效ナシ又從來ノ歴史ニ徵スルニ國事犯罪ニ加擔ス

ノ者ハ彼ノ殺人等ノ普通犯罪ノ如ク一時ノ情念ニ達ヘシヲ事ヲ起ス者ト異ナリ積年熟慮ノ末其遂ニ之ニ依ルニ非ナレハ目的ヲ達スルノ途ナシキ思惟セシヨリ止ムヲ得シテ事ヲ舉クルニ至レル者ナルカ故ニ其決心ノ根柢極メテ深ク総合一二ノ首領ヲ確スモ彼等ハ遞次序ヲ逐テ之ニ代リ殆ド底止スル所ナルヘシ若シ夫レ此ノ如クンヘ死刑ハ啻ニ其効力ヲ見サルノミナラス却テ殘黨ノ怨恨ヲ醸生シ其結果遂ニ政府モ亦之ヲ抜クヘカラナルニ至ルノ恐アリ如カス無用ノ殺戮ヲ止メ永ク彼等ヲ邊境ニ幽屏シ以テ國家ノ安寧ヲ保タンニ蓋シ國事犯罪ヲ制スルノ目的偏ニ國家ノ安全ヲ保タントスルニ在リテ終身ノ幽屏ハ以テ此目的ヲ達スルニ十分ナレハナリト

成程國事犯罪ヲ企フル者ハ刑罰制裁如何ニ拘ラス其行爲自體ノ性質上ヨリシテ常に謀メ死ヲ決スル者ナリ然レトモ此ノ如キモノ豈ニ必スシモ國事犯罪ノミナランヤ普通犯罪タル謀殺ト雖モ或場合例ヘハ被害者三ニテ十分ノ備アルヲ知リナカラ之ヲ殺サント企フルカ如キ場合ニ於テハ刑罰制裁ノ如何ニ拘ラス其行爲自體ノ性質上犯人ハ常に死ヲ決スル者ナリ博徒間ニ行ハルル謀殺ニ

於テハ此例ヲ見シコト甚多シ若シ論者ノ論法ニ従ヘハ此等ノ者モ亦死刑ヲ科スルヲ得ナルヘシ然リ而シテ此等ノ者ハ之ヲ如何ニ處分スヘキヤト云フニ論者ハ終身幽屏ニ處スシテト曰ヘリ終身幽屏ニ處スルハ果シテ何ノ爲メソヤ論者ノ論法ニ依レバ之ヲ苦痛トスルニ非ナレハ抑壓手段トスルニ在ラン然レトモ若シ苦痛トスルハ論者ノ論法ニ依リ彼等ハ死モ尙ホ逃クサル者ナルカ故ニ死ヨリモ輕キ終身幽屏ハ彼等ニ對シテ何ノ效ヲモ奏セス體ヲ自家擗著メルノミナラス終身幽屏ト云フ苦痛ハ之ヲ科スルヲ得ヘキモ死刑ト云フ苦痛ハ之ヲ科スベカラストノ理由ノアル所ヲ發見スルヲ得ナルナリ然ラハ論者ノ意ハ蓋シ第二ノ手段即チ抑壓ノ手段トスルニ在ラン然レトモ抑壓果シテ何ノ爲メソヤ是レ偏ニ後患ヲ恐ルカ故タラスシメアルヘカラス然ラハ若シ夫レ彼等ニシテ異心悔悟シテ再ヒ攝能ヲ起スコトナキコト明白ナル場合ニ於テハ抑壓亦無用ナラン抑壓無用ナラハ之ヲ解放スルノ外ナカムヘシ隨フ論者カノ終身幽屏ニ處スヘシトノ裏面ニシテ若シ異心悔悟シテ後患ノ恐ナキトキハ解放スヘシトノ意ヲ含蓄セルモナリ而シテ之ヲ事實ニ微スルニ從來國事犯ノ外死

刑ヲ附シタル犯罪ヲ重ニ殺人中ノ觀觀、主殺若クハ普通謀殺ノ場合トス然ルニ此等ノ犯罪者ハ或ヘ其兇行ヲ遂ケタルト同時ニ爾來其兇行ノ目的體ナキカ(後譽ノ場合ニ此例多シ若クハ素ト一朝ノ怒ニ乘ダテ兇行ヲ爲シタル者ナルカ故ニ犯罪ヲ遂タルト同時ニ其非ヲ悟ル等ヨリシテ再ヒ兇行ヲ爲スカ如キ恐ナキコトノ明白ナル者甚タ多シ然所ニ論者ノ說ニ依ルトキハ威嚇ノ效アル罪ハ死刑ヲ科スヘシトスルモノナルカ故ニ此等殺人犯罪者ハ已ニ全ク真心悔悟シテ其人一身ノ上ヨリ之ヲ言ヘハ刑ヲ科スルノ必要ナキモ社會ニ對シテ威嚇ノ實ヲ舉タルカ爲メニ犠牲エシテ死刑若クハ縱令數等ヲ減スルモ兎ニ角刑罰ヲ科セサルヘカラツルニモ拘ラモ國事犯罪者ハ真心悔悟シテ後患ナキコト明白ナルトキハ其邊ニ生セシヌタル害惡如何ヲ開ハス全ク解放セラルルノ結果ヲ生ス論者若シ之ヲ以テ國家ノ秩序ヲ維持スルコトヲ得ヘシト曰ハバマン然レトモ我輩ノ見ル所ニ據ヒハ此ノ如きハ決シテ國家ノ秩序ヲ維持スルコトヲ得ナルヘシト思惟ス未段ニ於テ論者カ國事犯罪者ハ其決心極メテ堅固ナルカ故ニ一二ノ首領ヲ捕スモ到底之ヲ勦絶スルノ效大キ程ノモノナリト曰ヒナカラ

死刑ヲ科セスンハ以テ彼等ノ兇行ヲ和タルニ足ルヘント曰フニ至リテハ自家擅著ノ苦シキモノニシテ殆ト取ルニ足ラナルナリ
結論 以上叙述シタル所ニ據リ之ヲ按スルニ國事犯罪ニ死刑ヲ科スヘカラズトノ理由ハ一モ取ルニ足ルモノナシ我輩ノ見ル所ニ據レハ凡ソ刑罰ナルモノハ褒賞ノ善行ニ對スルカ如ク惡所爲ニ原因スル結果ニシテ其主タル目的ハ與論ヲ満足セシメ以テ國家ノ秩序ヲ維持スルニ在リテ其懲戒、威嚇又ハ抑壓ハ附隨ノ目的ニ外ナラス隨テ総合懲戒、威嚇又ハ抑壓ノ效ヲ奏セサルモ苟モ輿論ヲ満足セシメ以テ國家ノ秩序ヲ維持スルニ必要ナルニ於テハ如何ナル刑罰ヲモ科スルコトヲ得ヘシ故ニ凡ソ立法者タル者ハ總テノ犯罪ニ付テ先づ其當時ノ國情如何ヲ察シ以テ之ニ適當ナル刑罰ヲ定ムヘキモノニシテ單ニ犯罪ノ性質ヲミテ抽象的ニ觀察シテ刑罰ヲ定ムヘキモノニ非ス
是ニ由リテ之ヲ觀レハ本問ノ場合ニ於テ苟モ立法者ニ於テ輿論ヲ満足セシメ以テ國家ノ秩序ヲ維持スルニ必要ナリト思料スルニ於テハ縱令死刑ヲ科スルノ規定ヲ設タルモ決シテ非難ズヘキモノニ非ス但シ其我國現今ノ事情ニ於テ

國事犯罪ニ死刑ヲ科スル必要アルキ否キハ自ラ別問題トス
第三 國事犯罪ノ變遷 國事犯罪ノ歴史ハ吾人人類ノ思想ノ變遷史中最モ尠
懲タル部分ヲ形成スルモノニシテ今之ヲ分別スレハ凡ソ左ノ三期ニ大別スル
ヲ得ルモノトス

第一期 野蠻時代 此時代ニ於テハ種族若クハ部落全體ノ利益神聖ナル者
及ヒ宗教ニ對スル總テノ犯罪ハ特別ノ犯罪トシテ公會ニ於テ追放又ハ死刑
ヲ以テ處罰セラレタリ
第二期 專制時代 此時代ニ於テハ君主ハ即チ國家國家ハ即チ君主ニシテ
直接又ハ間接ニ君主其人ニ對スル犯罪ハ特種ノ犯罪トシテ最モ怖ルヘキ刑
罰ヲ科セラレタリ近世ノ刑法思想ヲ吾人ニ注入シタル羅馬法ハ其最モ著シ
キモノナリ同法ハ先づ第一ニ羅馬國民ニ對スル叛逆罪ヲ規定シ第二ニ帝王
(此中ニハ政府ヲ包含ス)ノ身體及ヒ權力ニ對スル大逆罪ヲ規定セリ而シテ此
時代ニ於テ君主又ハ國民ニ對スル叛逆又ハ大逆ノ罪ハ他ノ犯罪ニ比セハ大
き
凡ソ下ニ記載スルカ如キ特種ノ點アリキ(一)苟モ帝王ノ威徳ヲ傷害スル犯罪

ハ外部ノ動作文書言語ノミナラス思想ヲ尙ホ之ヲ謂セリ(二)而シテ其刑罰
ハ最初ハ水火ヲ禁止スルノ刑ナリシカ後エハ火ヲ以テ焚殺シ又ハ山野ニ委
シテ猛獸ニ喰ハシメタリ(三)犯罪者若シ處刑以前ニ死亡スルトキハ死者ノ傳
記ニ對シテ裁判ヲ爲セリ(四)犯罪者ノ財産ハ悉ク官沒セラレ其子ハ父ノ罪ニ
連座セラレテ如何ナル相續ヲモ贈與ヲモ受タルノ能力ヲ剝奪セラレタリ
キ

第三期 政治時代 此時代ニ至リテハ從來ノ大逆又ハ叛逆罪ハ一ニ之ヲ國家
ノ安全ニ對スル犯罪トシ更ニ之ヲ二分シテ國家ノ内部ノ安全ニ對スル罪
國家ノ外部ノ安全ニ對スル罪若クハ政府侵害ノ罪(Lesse-nation)及ヒ國民侵
害ノ罪(Lesse nation)トセリ
以上ハ太古ヨリ今日ニ至ルマテノ國事犯罪ニ關スル刑法思想ノ變遷ニシテ現
今文明諸國ノ刑法思想ハ大概第三期即チ政治時代ニ在ルモノトス然リ而シテ近
來各國一般ノ大勢ヲ見ルニ客國何レモ幾多ノ革命ヲ經タル結果施政ノ方針日
ア追テ寛和ニ赴キ昔時專制政治ノ思想ハ全ク地ヲ掃フニ至リ隨テ從來之ト共

存シタル所謂政治的犯罪モ亦將ニ其跡ヲ絶テ更ニ體様ヲ變ヘテ例へハニヒリ
スト又ハ「アルシスト等ノ如キ社會的犯罪トシテ顯レ出テントスモノノ如
シ故ニ今日以後ノ時期ハ恐ラク社會的時代タムヘシ(ガローヴ佛國刑法論第二
卷第三一〇號)」ナヨル事アマセ、醫學思想ニ端木氏詳述思想、聲望ニシテ異
此他論究スヘキ一二ノ問題ナキニ非スト雖モノハ又他日特別ノ問題トシテ講
說スルコトトシ總論ハ此ニテ局ヲ結ヒ直チニ本文ニ入リテ講說スヘシ(同前)

第一節 内亂ニ關スル罪

本節ノ罪ハ刑法第二編第二章第一節ノ規定スル所ニシテ法律ハ此表題ノ下ニ
於テ三種ノ犯罪ニ關スル事項ヲ規定セリ仍テ予ハ本節ヲ三款ニ分チ第一款ニ
内亂罪之ヲ小分シテ三項トシ第一項ニ成立要素第二項ニ未遂豫備陰謀自首第
三項ニ處分第二款ニ内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル罪第三款ニ内
亂ニ乘シ内亂ノ目的以外ニ於テノ人身財產ニ對ケテ犯シタル重罪輕罪及
其處分ヲ説明スヘシ

第一項 成立ノ要素

嚴格ニ言フトキハ第百二十二條ハ内亂豫備ノ或場合、第百二十三條ハ内亂ニ準
スヘキ謀殺ヲ規定シタルモノナルカ故ニ其ニ所謂内亂罪ハ單ニ第百二十一條
ノ罪ノミナリト云フヘケレトモ法律ノ規定ニ於テハ三者何レモ同一ノ地位ニ
在ルカ故ニ予ハ之ヲ總括シテ内亂罪トセリ

ニ付テ其成立要素ヲ詳説スヘン

第一段 第百二十一條ノ罪

第一百二十一條ニ曰ク「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵蝕シ其他朝憲ヲ紊亂スルコト

目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ云々本條ノ罪ノ成立要素ニ付テ從來多數ノ學者ハ本條ニハ……邦土ヲ侵襲シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者トアルヨリシテ直ナニ之ヲ分析シ本條ノ罪ハ第一、朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシタルコト第二、内亂ヲ起シタルコトノ二要素ヲ以テ成立スルモノニシテ其所謂内亂ハ佛文草案中ニ掲ケアル所ノ内國戰爭蜂起又ハ暴動ヲ意味スルモノトセリ然レトモ(一)草案ニ所謂内國戰爭蜂起又ハ暴動ナル文字ハ單ニ朝憲紊亂ヲ目的トスル所爲ノミニ止マラス宗教ノ布及ヲ目的トスル戰爭ノ所爲ニモ亦使用シアリテ要スルニ種種ノ目的ヲ有シ得ヘキ所爲タリ之ニ反シテ本條ニ所謂内亂ナル文字ハ本節中特ニ朝憲紊亂ヲ目的トスル所爲ニノミ使用シアリテ刑法中何レノ場合ニ於テモ決シテ此目的以外ノ所爲ニ使用セラレタルコトナキト(二)草案中内國戰爭蜂起又ハ暴動等ノ文字ノ使用セラレタル場合ニハ必ス何何ノ目的ヲ以テ内國戰爭……ヲ爲シタル者トアリテ内國戰爭等ノ所爲ノ性質ハ目的ノ如何ニ因フヲ定マルモノタルヲ示セリ之ニ反シテ本條ニハ……朝憲ヲ紊亂ニコトヲ目的ト爲シ云云トアセニ拘ラズ本節中他ノ條項ニハ必ス何何ノ目的ト云フカ如キ文字ヲ冠セス直チニ「内亂ヲ起ス目的」内亂ヲ起シタル者内亂ト同ク論ス「内亂ノ豫備陰謀及モ内亂ノ情ヲ知テ云々」トアリテ内亂ハ其レ自身朝憲紊亂ヲ目的トスル所爲タルヲ表白セルト(三)第百二十三條ニ「政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉タルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ云云即チ政府變亂ノ目的ヲ以テスルモ單ニ人ヲ謀殺シタルニ止マリテ舉兵ノ所爲ナキモノハ之ヲ内亂ト謂フヲ得ナレトモ此場合ニ限リテハ特ニ内亂ニ準ストテ明カニ内亂ハ朝憲紊亂ノ目的ト舉兵トノ行爲ヲ以テ成立スルモノニシテ朝憲紊亂ヲ目的トセナル内亂ナキコトヲ示セルトニ由リテ之ヲ觀レハ本條ハ朝憲紊亂ヲ目的トスル内亂ノ所爲ヲ規定シタルモノニ非スシテ内亂即チ朝憲紊亂ヲ目的トスル舉兵ノ所爲ヲ規定シタルモノナリ體テ本條ハ「政府ヲ顛覆シ邦土ヲ侵襲シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ兵ヲ舉ケタル者ハ内亂ノ罪ト爲シノ文字ヲ入ルルモヨシ」左ノ區別ニ從ヒ云々ト書スヘキナラ然ルニ其之ヲ本條ノ如ク政府ヲ云云其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ

亂スルコトヲ目的ト爲シ云云トアセニ拘ラズ本節中他ノ條項ニハ必ス何何ノ目的ト云フカ如キ文字ヲ冠セス直チニ「内亂ヲ起ス目的」内亂ヲ起シタル者内亂ト同ク論ス「内亂ノ豫備陰謀及モ内亂ノ情ヲ知テ云々」トアリテ内亂ハ其レ自身朝憲紊亂ヲ目的トスル所爲タルヲ表白セルト(三)第百二十三條ニ「政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉タルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ云云即チ政府變亂ノ目的ヲ以テスルモ單ニ人ヲ謀殺シタルニ止マリテ舉兵ノ所爲ナキモノハ之ヲ内亂ト謂フヲ得ナレトモ此場合ニ限リテハ特ニ内亂ニ準ストテ明カニ内亂ハ朝憲紊亂ノ目的ト舉兵トノ行爲ヲ以テ成立スルモノニシテ朝憲紊亂ヲ目的トセナル内亂ナキコトヲ示セルトニ由リテ之ヲ觀レハ本條ハ朝憲紊亂ヲ目的トスル内亂ノ所爲ヲ規定シタルモノニ非スシテ内亂即チ朝憲紊亂ヲ目的トスル舉兵ノ所爲ヲ規定シタルモノナリ體テ本條ハ「政府ヲ顛覆シ邦土ヲ侵襲シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ兵ヲ舉ケタル者ハ内亂ノ罪ト爲シノ文字ヲ入ルルモヨシ」左ノ區別ニ從ヒ云々ト書スヘキナラ然ルニ其之ヲ本條ノ如ク政府ヲ云云其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ

内亂ヲ起シタル者云云トシテ恰モ朝憲紊亂ヲ目的トセタル内亂アルカ如クニ書シタルハ是レ彼ノ夙ニ學者ノ非難ヲ免レサル第一條ノ法文即テ「凡法律ニ於テ罰ス可キ罪」トテ恰モ法律ノ罰セタル罪アルカ如クニ書キ顯ハナレタル明文ト同一ノ筆法ニ依リタルモノニ外ナラス若シ此見解ニシテ誤リナシトセハ後ノ從來學者カ本條ノ罪ハ朝憲紊亂ノ目的ト内亂ヲ起シタルコトヲ以テ成立スルモノニシテ其所謂内亂ハ草案ニ所謂内國戰爭蜂起暴動等ノ如キ種種ノ目的ヲ有スルコトヲ得ヘキモノニ相當スト説キタルハ畢竟本條ヲ拘子定木ニ分析シテ牽強ノ解説ヲ爲シタルノ讒ヲ免レサランシイオ此後合モ廢棄大へ難ニ成リテ所爲ヲ規定スルモノナルカ故ニ予ハ本條ノ罪ハ左ノ二要素ヲ以テ成立スルモノト爲ス前項を用意もさへ通義あるを證古事記三十三章三行後ノ要請第一モ朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシタルニトテ之を以テモ内亂ハ其ノ第二モ兵ヲ舉ケタルコトニ又宣モ内亂ハ兵と目附引導を據メテ之を證古事記第一ノ要素一朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トスルコトヲ要ス是ニハ必モ兩義也

(一) 朝憲紊亂ノ如何ナルコトヲ謂フ或謂朝憲紊亂トハ如何ナルコトヲ意味スベヤ法律ハ何レナシ處ニ於テモ之ヲ定義セシムト雖セ本條ニ於テ「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵奪シ其他朝憲ヲ紊亂スルコト云云トアリテ法律カ朝憲紊亂ノ謂著ナルモノヲ例示シタルト我刑法ノ國事犯罪ハ學者カ所謂政治的犯罪ノ一種タルトニ據リ之ヲ案スルニ茲ニ朝憲紊亂トハ國家ノ政治的秩序若クハ組織ヲ紊亂スルコトヲ意味スルモノニシテ國家ノ政治秩序若クハ組織ハ憲法ノ定ムル所ナルカ故ニ究竟朝憲紊亂トハ憲法ヲ牴觸スルノ所爲ヲ謂フナラン事跡也

朝憲紊亂トハ憲法牴觸ヲ意味スルモノナリトセハ本條ニ例示スルモノノ外皇位繼承ノ順序ヲ變換シ代議制ヲ變シ奴隸制度ヲ設ケ又ハ信教ノ自由ヲ廢セント云フカ如キハ皆朝憲ヲ紊亂スルモノナル大シ詩中改憲ノ事例也

以上ヲ以テ諸君ハ朝憲紊亂ノ何モノタルヲ知得セラレタルナラン隨テ又格別説明スベキカドナシト雖モ茲ニ聊カ本條ニ例示スル所ノ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ侵奪スルトハ如何ナルコトヲ謂フヤニ付テ簡單ナル説明ヲ付セん敢問オ義也

(二) 政府ヲ顛覆シトハ「佛文草案第百三十四條ヲ按スルニ同條ニハシテ

反覆する。即ち日本ノ皇朝ヲ覆シトアリテ恐ラク之ヲ意譯シタルモノナラン若シ果シテ然リトセハ帝國ヲ變シテ共和國トシ若クハ現在ノ皇統ヲ廢シテ更ニ他ノ帝國ヲ組織セントスルカ如キコトヲ謂フ

ノ義ト解スベシ

(ロ) 邦土ヲ侵奪シテハ佛文草案第百三十四條中 Soit de soustraire à l'autorité impériale une portion quelconque du Japon ou de ses dépendances (即チ皇帝ノ權力ヨリ)

日本國土若クハ其屬地ノ一部ヲ奪ヒトアルニ相當スルモノニシテ日本國土ノ一部ヲ押領スルコトヲ謂フ日本國土ノ一部ヲ押領スルトハ其部分ニ行ハヌル日本ノ主權ヲ奪ヒ若クハ退ケテ獨立スルコトヲ意味スルモノニシテ究竟スル所政府ノ一部類覆スルコトニ外ナラス未だ此種の行為を認めたる事無く(1)目的トルトハ如何ナルコトヲ謂フヤ其目的トルトハ或結果ヲ得ン刹ノ希望ヲ以テトノ義ニシテ所謂朝憲紊亂ノ結果ヲ得ントノ希望ハ即チ舉兵ノ行為ヲ爲サントノ決意ヲ發生セシタル原因ナルカ故ニ茲ニ謂フ所ノ目的ナル語ハ舉兵ノ遠因ヲ意味ス而シテ此朝憲紊亂ヲフ舉兵ノ遠因ハ是レ舉兵ノ行

爲アンテ内亂罪タラシムア唯一ノ要點換言スレハ内亂罪構成ノ特別要素ノ重ナルモノナリ故ニ総合舉兵ノ行爲ト意思トヲ俱有スルモ其決意ヲ惹起シタル原因即チ舉兵ノ遠因ニシテ朝憲紊亂ニ在ラサルトキハ或ハ他罪ヲ構成スルコトアルモ決シテ本條所謂内亂罪ヲ成立スルコトナシ

第二ノ要素 兵ヲ舉ケタルコトヲ要ス

茲ニ一言諸君ニ注意スヘキコトアリソハ兵ヲ舉タルトハ本條所謂内亂罪ノ外形ノ行爲タリ隨テ本罪ニ於テモ更ニ普通犯罪成立ノ要件タル内部ノ要素即チ舉兵ノ意思アルコトヲ要スルコトハ勿論ナリ然レトモ前述ヘタル如ク本條ノ罪ハ舉兵ノ遠因アルコトヲ要セリ已ニ舉兵テフ行爲ニ對スル遠因アルコトヲ要スル以上ハ舉兵ノ意思ノ必要ナルコトハ當然其條件中ニ包含セラルコト是ナリ

仍テ舉兵ノ意思ニ付テハ更ニ之ヲ贊セス直チニ本要素ノ説明ニ移ラン並謂之兵ヲ舉タルトハ如何ナルコトヲ謂フヤ。本條以外ノ法條ニモ散見スルカ如ク内亂トハ戰争ノ手段ニ因ル朝憲紊亂ヲ意味ス而シテ戰争ハ一人若クハ二人ノ

爲シ得ヘキコトニ非ス必ス隊伍ヲ爲シタル持兵ノ多人數アルヲ要ス左レハ茲ニ兵ト云フハ戰爭ノ目的ニ於テ組成セラレタル軍隊ト謂フノ義ニシテ其之ヲ舉タルトハ運動セシムルヲ謂フ仍テ兵ヲ舉タルトハ戰爭ノ目的ニ向テ軍隊ヲ敵カスコトヲ意味スルモノニシテ未タ戰ヲ交ヘサルモ已ニ進軍ノ途ニ在リテ戰爭行為ノ一部ヲ形成セルモノハ皆之ヲ舉兵ノ行爲アルモノト謂フヘシテ其戰爭ノ目的ニ於テ組成セラヘキ軍隊ハ幾人以上ノ員數ヨリ結體セラルルコトヲ要スルヤ此點ニ付テハ羅馬ノ或時代ノ法律及ヒ近代ニ於テ或國ノ法律ハ之ヲ或ハ十五人若キハ二十人以上ニ限ルトセリ然レトモ是レ杜撰ノ書シキモノナルニミナラス現ニ我法律ニ於テハ何等ノ規定ナキカ故ニ裁判官ハ實際ノ事情ヲ斟酌シテ適當ノ判定ヲ下スヘキモノトス

第二段 第百二十二條ノ罪

第一百二十二條ニ曰ク内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器、彈薬、船、金銀、其他軍備ノ物

品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シト

本條ノ罪ハ左ノ二要素ヲ以テ成立ス
第一 内亂ヲ起スノ目的アルコト
第二 軍備ノ物品ヲ劫掠シタルコト
第一ノ要素 内亂ヲ起スノ目的アルコトヲ要ス
内亂ノ何モノタルコト並ニ目的ヲ文字ノ意義ハ前ニ已ニ之ヲ説明シタルカ故ニ茲ニ之ヲ費セス唯茲ニ注意スヘキハ本條ノ罪ハ内亂即チ朝憲紊亂ヲ目的トスル舉兵ノ行爲ヲ行フコトヲ違因トスル如ク特別要素ノ一トセルモノナルカ故ニ此要素アルヲ證明スルコトヲ得サルキハ他罪ヲ構成スルコトアルモ決シテ本條ノ罪ヲ成立セサルコト是ナリ
第二ノ要素 軍備ノ物品ヲ劫掠シタルコト
(一) 軍備ノ物品 トハ法律ノ例示スルカ如ク兵器、彈薬、船、金銀、其他總テ直接又ハ間接ニ戰闘ノ用ニ供スヘキ物品ヲ謂フ
此等ノ物品ハ或ハ官有ノ物アリ或ハ私有ノ物アリ本條所謂軍備ノ物品トハ必ス政府ニ屬スルモノタルヲ要スルヤ將ク官有ト私有トヲ問ハサルヤ

此問題ハ久シキ以前ヨリ學者ノ爭ト爲レルモノナレトモ(イ)本條ニ相當スル佛文草案第百三十八條第二項第一第二號ノ明文「*To l'Intravention d'armes de munition de guerre, d'équipement ou d'approvisionnements militaires on maritimes, l'Ilo Occupation on pilage, soit d'arsenaux de postes militaires on maritimes, soit de navires appartenant à l'Etat on emploies par lui (即チ一兵器戰備器若クハ陸海軍用品ヲ奪取シタル者)」軍庫、陸海軍屯營若クハ政府ニ屬シ又ハ使用セラルル船舶ヲ占領若クハ掠奪シタル者)トアリ其中重ニ本條ノ規定ニ移リタル第一號第二號中本條ノ規定ニ移リタルハ船舶ノミナリ蓋シ軍庫又ハ陸海軍ノ屯營等ハ兵器、金穀等ノ如キ單純ナル軍備ノ物品ト謂フヘカラサルノミナラス其之ヲ占領若クハ掠奪スルハ兵器、金穀等ヲ掠奪スルカ如キ豫備ノ所爲ニ止マラス其自身已ニ兵ヲ擧クタメモノト謂ハズルカラサルニ由ランノ説明シ Sur le feu cas, nous renoncerais que, bien que la loi ne supposse pas formellement que les armes et approvisionnements aient été pris dans les dépôts de l'Etat, il faut néanmoins le sous-entendre et ne pas y assombrir le pillage des nusseigne pirus dauberious et de fournisseurs d'équipement militaires(即チ第一號ニ付テハ縱令*

法律ハ兵器又ハ軍備品ハ政府ノ保管所ニ於テ奪取セラルルコトヲ要スト明言セスト雖モノハ當然明文中ニ含蓄セラルルモノニシテ軍器、商品若クハ陸海軍備品カ用達人等ノ倉庫又ハ店舗ニ於ケル掠奪ハ本條ノ場合ト同視スヘカラサルコトヲ注意セザルヘカラス云^(ロ)トアリテ草案ニ於テモ船舶ヲ除クノ外ハ本條ト全ク同一ノ明文アルモ之ニ對スル説明右ノ如クナルト(ロ)本條ヲ規定シタル草案ノ理由ニ本條ノ所爲ハ之ヲ嚴格ニ言ヘハ内亂ノ豫備ニ過キスト雖モ此等ノ所爲タル叛逆人ヲシテ最モ有利ナル地位ニ立チテ以テ戰闘ノ地歩ヲ堅固ナラシムルモノニシテ其危險ナルコト已ニ戰闘ヲ始メタルト相揮フ所ナシ云云即ナ本條ノ規定アル所以ハ本條ノ所爲ハ一方ニ於テ政府ノ戰闘力ヲ減殺スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ叛逆人ヲシテ十分ナル地歩ヲ得セシムルカ故ニシテ此結果ヲ生スヘキ所爲ハ當然直接政府ニ對スルモノタラサルヘカラサルトニ據リ之ヲ案スルニ本條所謂軍備ノ物品トハ必ス政府所屬ノモノタラサルヘカラスト確信ス然ラヘ右ノ決定ヨリシテ茲ニ當然ノ結果トシテ下ノ問題ヲ生ス曰ク若シ内亂ノ目的ヲ以テ一私人ニ屬スル金穀其他軍備ノ物品即チ直接又ハ

間接ニ戰闘ノ用ニ供スベキ物品ヲ劫掠シタルトキハ如何ニ之ヲ處分スヘキオ
此問題ニ對シ我輩ト本條ノ解釋ヲ同シウスル或學者ハ曰ク本問題ノ所爲ハ非
國事犯タル強盜ノ所爲ナリ而シテ凡ソ或所爲ノ國事犯タルヤ將タ非國事犯タ
バヤト犯人カ已ニ内亂ヲ起シタル後ニ於チノミ之ヲ知リ得ヘキモノニシテ其
未タ内亂ヲ起サナル間ハ其犯シタル所爲ノ遠因ノミヲ以テハ決シテ之ヲ國事
犯トモ非國事犯トモ斷定スルヨトヲ得ス隨テ本問ノ所爲ハ單純ナル強盜ノ一
罪ヲ構成スルノミナリト是レ大ナル誤謬ナリイ先ワ第一論者ニ問ハシ論者ハ
何ヲ以テ内亂ヲ起シタル以後ハ所爲ノ目的如何ヲ以テ國事犯ト非國事犯トヲ
區別スルヨトヲ得ルモ以前ニ在リテハ區別スルコトヲ得ストスルモ我輩ハ其
理由ノ存スル所ヲ知ルニ苦ツナルヲ得ス惟フニ論者カ此言ヲ爲ス所以ハ蓋シ
犯人カ内亂ヲ起シタル以後ニ於チハ已ニ其目的ノ内亂ニ在ルコト判然タルカ
故ニ之ヲ標準レシテ犯人ノ總ノ行爲ヲ種別スルヲ得ヘケレトモ以前ニ在リテ
ハ縱令犯人ニ於チ其目的内亂ニ在リト主張スルモ實際明カニ信憑スヘキモ
ハナキカ哉ニ其區別極メ内亂難ミ計ア多クハ之ヲ確認スルコトヲ得サルニ在

ラン若シ論者ラシテ之ヲ理由トシタリトセハ是レ全ク本問ヲ誤解セルモノニ
シテ本問シ論者シ想像スルカ如ク犯人ノ目的明確ナラサル場合ヲ謂フニ非ス先
づ前提トマテ犯人ノ目的カ明確ニ證明セラレタル場合ヲ想像シシ此ノ如キ場合ニ此
ノ如キ所爲アリタルトキハ如何ト云フニ在ルヲ知ラサルモノナリ蓋シ本問ラシ
テ論者ノ信スルカ如ク犯人ノ目的ノ明確ナラサル場合ヲ想像シタルモノトセ
ハ何人モ殆ト疑フ懷クコトナカラシ(ロ)第二ニ若シ論者ラシテ本問ハ犯人ノ目
的ノ明確ナル場合ヲ想像シタルモノタルコトヲ了解スルニモ拘ラス此決定即
チ犯人カ内亂ヲ起サナル間ハ非國事犯ノ所爲ハ其目的ノ如何ニ因リテ國事犯
タルヲ得ストシタリトセハ是レ明白ナル誤ナリ何トナレハ論者ノ說ニ依ルト
キハ彼ノ内亂ノ目的ヲ以テ軍用ノ銃砲彈薬ヲ所持スルカ如キ所爲モ尙ホ單ニ
第一百六十條ノ罪タルニ止マラサルヲ得ナルモノニシテ究竟論者ノ說ハ他ノ法
條ニ觸ルヘキ犯罪行爲ヲ以テシテハ内亂ノ豫備ヲ爲スコトヲ得スト云フ事ニ
歸著スルノ結果例ヘハ茲ニ内亂ノ目的ヲ以テ兵隊ヲ召集セシカ爲メ文書ヲ發
シタル者アリトキニシテ其所爲ハ内亂豫備ノ一部タルニモ拘ラス君シ其文書ニ

ヲ官ノ文書ヲ偽造行使シタルモノノタルトキハ單ニ官文書偽造行使タル非國事犯ノ罪タルニ止マリ自己ノ署名ニ係ルモノタルトキハ國事犯タルノ奇觀ヲ呈スヘクレハナリハ加之凡ソ強盜ノ目的物ハ單ニ犯人以外ノ者ニ屬スル物件タルヲ要スルモノニシテ其或ハ一箇人ニ屬スルト將タ政府ニ屬スルトハ強盜罪ノ成立ニ何ノ影響ヲモ有スルコトナシ然ラハ若シ論者ノ言フカ如ク本問ノ場合ヲ以テ純然タル強盜罪ナリトセハ何故ニ立法者ハ本條即チ第百二十二條ノ所爲ヲ國事犯タル内亂殊ニ其既遂ニ準シタルヤ惟フニ立法者ニシテ若シ論者ノ如キ見解ヲ有シタリトセハ彼レ如何ニ不智ナリト雖モ單ニ其目的物カ政府ノ所有ニ屬スルトノ故ノミヲ以テ非國事犯タル強盜ノ所爲フシテ一躍直チニ國事犯タル内亂罪中ニ入ラシムルカ如キ愚フ爲ササリシナラン然ラハ彼カ之ヲ内亂罪殊ニ其既遂ニ列シタルノ理由ハ之ヲ他ニ求メサルヘカラナルナリ之ヲ他ニ求ムルトセハ一ハ犯人ニ於テ内亂ノ目的ヲ有セリトノ點ト他ハ内亂ノ豫備ノ最モ危險ナルモノナリト云フニ在ラン果セル哉草案編纂者慕氏モ之ヲ明言セルノミナラス現ニ本問ノ強盜論者タル學者ト雖モ亦本條ニ付テ我輩

ト同一ノ解釋ヲ採ルニ當リ草案著ト同様ノ説明ヲ爲シ以テ本條ノ内亂豫備ノ或モノタルヲ公言セリ若シ夫レ本條ノ罪ヲ内亂罪トシテ規定シタル立法ノ精神ニシテ果シテ此ノ如キモノナリトセハ其當然ノ結果タル反對論法トシテ已ニ立法者ニシテ本問ノ場合ト同一ノ目的ヲ有セル劫掠ノ所爲タル本條ノ所爲ヲ本問ト共通ナル内亂ノ目的ヲ有ストノ一一點ニ據リテ内亂罪トシタル以上ハ彼レ維持如何ニ迂闊ナリト雖モ本問ノ場合ヲ其單ニ劫掠ノ目的物カ一私人ニ屬スルトノ一點ノミニ據リテ一蹴之ヲ貶シテ非國事犯タル強盜ノ罪トスルカ如キヨトアルヘカラス左レハ論者ノ説ヲ今後立法ノ事業ニ從事シ若クハ從來ト法律ヲ破壊スル者ノ説トシテハ兎ニ角解釋論トシテハ到底不通ノ論タルヲ免レス

之ヲ要スルニ我輩ノ見ル所ニ據レハ論者ノ説ハ決シテ適當ノ説ト見ルコトヲ得ヌ然ラハ本問ニ對スル我輩ノ意見如何ト云フニ我輩ハ左ノ斷案ヲ有ス曰ク本問ハ内亂豫備ト強盜罪ニ數罪俱發ヲ以テ論スヘシト其理由ハ本問劫掠ノ所爲ハ單ニ之ヲ劫掠ト云フノ點ヨリ觀察スレハ強盜ノ所爲タルモ他ゾ一面即チ

其劫掠ノ所爲カ其自身同時ニ内亂ノ豫備タリトキ點ヨリ觀察スレハ内亂豫備ノ所爲ニシテ要スルニ二箇ノ方面ヲ有スル所爲換言スレハ二箇ノ法條ニ觸ルヘキ所爲タルカ故ナリ。テ、
右ノ如ク簡単ニ論決シ去ルトキハ恐クハ茲ニ下ノ如キ二三ノ反間ヲ試ムル者アルヘシト雖モ此等ハ決シテ我輩ノ論決ヲ破ルニ足ラナルナリ。即チ次ニ其重ナガモノヲ提示シテ之ヲ辯明セ。ノ一予カ論法ニ從ヘハ第百二十二條ノ場合ニ於テモ亦一方ニ於テハ内亂豫備ノ所爲タルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ強盜ノ所爲タリ若シ立法者ニシテ予ト同一ノ見解ヲ有シシナラハ何カ故ニ之ヲ内亂ノ豫備ト強盜ノ所爲トキ俱發トセサリシヤ其之ヲ二罪ノ併發トセスシテ純然タル内亂罪トシタルヲ見レハ立法者ハ物品強奪ノ所爲モ亦其レ自身純然タル内亂豫備ノ手段若クハ一部份ト看做シタルモノニシテ蓋シ立法者ノ眼中ニハ強盜罪ナルモノナカリシニ非スキ若シ夫レ此見解ニシテ誤ナシトセハ予カ幾ニ強盜論者ヲ攻擊シタルト同一ノ論法即チ立法者ハ第百二十二條ノ場合ニ於テ明カニ強盜ナル非國事犯アルヲ認メタリシモノナルカ故ニ其之ト同一

ノ狀態ヲ有スル本問ノ場合ニ於テモ解釋上立法者ハ其中ニ強盜ナル要素アルヲ認メサルヘシトノ論法ニ據リ本問ハ單純ナル内亂ノ豫備ヲ構成スルニ止マルコトナキカト——此反對ニ付テハ(イ)嘉氏ノ草案理由書ニモ若シ掠奪カ軍器商又ハ陸海軍備品用達人等ノ店舗若クハ倉庫等ニ於テ行ハレタルトキハ單純ナル内亂ノ豫備ヲ以テ論セサルヘカラス。トアリテ或ハ少クトモ嘉氏ハ本反問者ト同一ノ意見ヲ有シタルニハ非サルカトノ疑ナキニ非スト雖モ此點ニ關メル嘉氏ノ説明ハ甚タ簡単ナルカ故ニ果シテ本反問者ト同意見ナルヤ否ヤフ知ルニ由ナシ(ロ)本反問者ハ本條ノ所爲カ内亂罪タルノ點ヨリ之ヲ觀レハ立法者ハ劫掠ノ所爲モ亦其レ自身純然タル内亂豫備ノ一部分ト看做シタルモノナリト
曰フモ是レ誤ナリ如何トナレハ論者ノ説ヲ換言セハ立法者ハ劫掠ノ所爲自身ヲ以テ法律ノ豫想セル内亂豫備ノ當然ノ所爲トシタルモノナリト云ノニ歸著スルモノニシテ明カニ法律ノ規定ニ反スルノミナラス立法者カ第百二十二條ノ罪ヲ内亂罪トシタルハ是其之ヲ以テ單純ナル強盜ト看做サリシ徵憑ナリト謂フヲ得ヘキモ之ニ由リテ直チニ立法者ハ劫掠其自身ノ所爲ヲモ尙ホ内

亂豫備ノ一部分ト看做シタルモノナリト論決スルヲ得サレハナリハ本反問者
ハ又曰ク「然ラヘ何故ニ法律ハ本條ノ所爲ヲ以テ内亂ト強盜トノ二罪俱發トシ
テ處罰スルコトセサリシヤト此點ニ付テハ罪ニ法律ハ彼ノ強盜婦女ヲ強姦
シタル場合ヲ一罪トシタルカ如シト答フルヲ以テ十分ナリトスニ又終ニ本反
問者ハ我輩カ疊ニ強盜論者ニ加ヘタル攻撃論法ヲ利用シテ之ヲ我輩ノ論決ニ
擬セリト雖モ是レ金ト銀トノ二面ヲ有スル物ヲ指シテ純銀ナリト主張スル者
ニ對シ金ノ方面ヲ示シテ純銀ニ非スト云フノ論ハ必スシモ純金ナリト云フノ
論ニ非サルコトヲ知ラサルモノナリト評スルノ外ナシ(ニ)又或反問者ハ曰ハシ
「成程本問ノ場合ニ於テハ一方ニ於テ内亂ノ豫備タルト同時ニ他ノ一方ニ於テ
強盜ノ所爲タリト雖モ是レ子カ主張スルカ如ク二箇ノ犯罪ヲ形成シタルニ非
ス内亂豫備ト云フ犯罪カ強盜ト云フ犯罪ヲ手段トシテ行ハレタルカ若クハ内
亂豫備ト云フ一箇ノ所爲カ同時ニ強盜ノ法條ニ觸レタルカ二者其一ヲ出テサ
ルモノニシテ學者ノ所謂想像上ノ數罪俱發ナルカ故ニ究竟内亂豫備ノ一罪ヲ
形成シタルニ止マムモノニ非サルカ」ト(イ)從來學者ハ想像上ト實質上トノ二種

ノ數罪俱發アルコトア認メ一箇ノ所爲カ二箇ノ法條若クハ罪名ニ觸ルルカ又
ハ他ノ犯罪ノ手段タルニ過キサルトキハ之ヲ想像上ノ數罪俱發トシテ常ニ一
罪ヲ形成スルモノトセリ然レトモ凡ソ或所爲カ數罪ナルカ將タ一罪ナルカハ
法律適用上ノ必要ヨリ生スル區別ナルカ故ニ實際法律ノ適用ニ於テ一罪トス
ヘキモノナレハ其所爲ハ初ヨリ一罪ニシテ決シテ數罪タルニ非ス左レハ法
律上ニ於テハ本來數罪ナレトモ適用上ニ於テハ一罪タリト云フカ如キ想像上
ノ數罪俱發ナルモノアルコトナシ隨テ學者カ數罪俱發ニ二種アリトシテ之ヲ
實質上ノモノト想像上ノモノトニ區別シタルハ到底背理ノ區別タルヲ免レス
(ロ)加之縱合數步ヲ讓リテ此區別ハ單純ナル便宜ニ出フルモノトスルモ學者ハ
ハ常ニ一箇ナラサルヘカラストハ抑モ何ニ因リテ之ヲ言フヤ我輩ハ其理由ヲ
解スル能ハサルナリ若シ論者ノ說ヲシテ異ナラシメンカ一舉動ニテ常人ト第

二編第一章ニ規定セル人トヲ傷害シタル場合モ亦一罪ナリト謂ハサルヘカラ
サラン豈ニ此ノ如キコトアランヤ我輩ノ信スル所ニ據レハ凡ソ或所爲カ犯罪
ナルヤ否ヤハ偏ニ法律ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ其之カ一罪ナルヤ將タ
數罪ナルヤモ亦偏ニ法律ノ規定ニ依リテ決セラルモノナリ換言スレハ或所
爲カ一罪ナルヤ將タ數罪ナルヤハ其所爲自體カ一舉動ナリト公然ラサルトカ
ニ依リテ定マルモノニ非ス其所爲ニ適用セラルヘキ法條ノ規定カ其所爲ノ全
部ヲ包括セルヤ否ヤニ依リテ決セラルヘキモノニシテ若シ其法條カ其所爲ノ
全部ヲ豫想セルトキヘ一罪ヲ成シ之ニ反シテ其所爲ノ一面ハ甲ノ法條ニ於テ
豫想セラレ他ノ一面ハ乙ノ法條ニ依リテ規定セラルトキハ毎ニ數罪ヲ成ス
モノナリ而シオ一般ニ一ノ法條カ豫想セル所爲トヘ里法文ノ明示シタル所爲
ト(乙)法文ノ明示シタル所爲ト共ニ必然發生スベキ所爲ト丙法文ノ明示シタル
所爲ノ當然ノ手段當然ナルヤ否ヤ定ムルハ甚々困難アレトモ要ハ普通行ハ
バ(キ手段ト謂エニ過キス蓋シ普通行ハルモノニシテ(第一ノ場合ハ説明ナ要セス
ト看做不得ベセナリ)トノ三箇ニ限ルモノニシテ第二ノ場合ハ説明ナ要セス
ト

詐用印紙ヲ因能過走印ノ偽名詐稱チ、匿兵急避印ノ身體檢査不應フ等此
想和第三ノ捕合ボ、強制監禁及ヒ職打創傷ノ家宅侵入ヲ豫想スルカ如シ此
以外ノ所爲例ヘバ一言ニテ數人ヲ説教シ一擊ニテ二人ノ常人、若クハ一人ノ常
人ト第二編第一章ニ規定セル人又ハ尊屬親トヲ殺傷スルカ如キ第二編第一章
ニ規定セル人ヲ害センカ爲メニ醫師ノ證明書ヲ爲造行使シテ毒薬ヲ買ヒ求メ
内亂豫備ノ目的ヲ以テ兵隊ヲ召集ヒンカ爲メ官ノ文書ヲ爲造シテ行使シ人ヲ
謀殺センカ爲メニ人々住居セル家屋ニ放火シ若クハ物件ヲ竊取センカ爲メニ
官ノ封印ヲ破棄スルカ如キハ何レモ毎ニ二箇ノ法條ニ跨ル所爲ニシテ數罪俱
發ヲ以テ論スヘキモノナリ今翻テ本問ノ場合ヲ按スルニ物品劫掠ノ所爲ハ犯
人自身ヨリシテ之ヲ觀レハ成ハ内亂豫備トシテノ必要ナル行爲タリシャモ知
ルヘカラサルモ此ノ如キ所爲ハ法律カ第百二十五條ニ於テ内亂ノ豫備トシテ
想像シタル所爲ノ中ニハ包含セラレサルモノタルコト明白ナリ左レハ本問ノ
所爲ハ一舉動ナルニモセヨ其實一舉動ヲ以テ常人ト第二編第一章ニ規定セル
人トヲ傷害シタルト同一般一方ニ於テ内亂豫備タルト同時ニ他ノ一方ニ於テ
強盜ノ罪ヲ形成シタルモノニシテニ罪俱發ヲ以テ論スベキモノタルコト疑フ

(二) 劫掠ト「ガビヤカシカスム」ノ義ニシテ有形又ハ無形ノ暴行ヲ加ヘテ物品ヲ奪取スルコトヲ謂フ所爲ノ實質ハ第三百七十八條所謂強取ト異ナルコトナシ然ルニ其之ヲ強取ト言ハサリシハ恐ラク本條ノ場合ニテハ通常結隊シタル多數ノ犯人アルヲ想像スルカ故ナラン
草案ニ於テハ軍備品ヲ驅取シタル場合モ亦之ヲ豫見セリト雖モ本條ハ之ヲ刪除セシカ故ニ此點ニ付テハ曩ニ我輩カ論述シタル所ニ據リ第百二十五條ノ内亂豫備ト第三百九十條以下ノ詐欺取財罪トノ二罪俱發フ以テ論スヘキナリ

第三段 第百二十三條ノ罪

第一百二十三條ニ曰ク「政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉タルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ云々ト」
本條ノ罪ハ左ノ二要素ヲ以テ成立ス
第一 政府ヲ變亂スルノ目的アルコト

第二 人ヲ謀殺シタルコト
茲ニ一言諸君ニ注意シタルコトアリ或學者ハ右ニ舉ケタル二要素ノ外更ニ第三ノ要素トシテ兵ヲ舉タル陰謀又ハ豫備アルコトヲ要ストシ其理由ニ「若シ之ヲ本條成立ノ一要素トセズハ明文ニ所謂『兵ヲ舉タルニ至ラス』子ル文字ハ全ク無用ノ冗文タルノミナラス内亂豫備ノ所爲アリ且ツ政府ニ抗敵ノ所爲アリテ始メテ内亂ノ既發ニ準シタル前條トノ權衡ヲ失ス」ト曰ヘリ
然レトモ是レ本條ノ何事ヲ規定シタルヤア了解セヌ隨テ亦法文ヲ拘子擬木ニ分析シタルモノタルノ證ヲ免レサルモノナリ(一)何ヲ以テ學者ハ本條ノ何事ヲ規定シタルヤア知ラスト云フヤ曰ク學者ハ本條ハ兵ヲ舉タルノ陰謀又ハ豫備アルコトヲ要素トセズソハ第百二十二條トノ權衡ヲ失スト曰ヘリ此言ニ據リテ之ヲ按スレハ學者ハ本條ヲ以テ前條ト全ク同性質同形式ヲ有スル罪ヲ規定シタルモノニシテ唯其前條ト異ナル所ハ彼ニ在リテハ軍備品劫掠ノ所爲タルモ此ニ在リテハ殺人ノ所爲タルニ在ルモノトスルカ如シ若シ夫レ此ノ如ク解センカ(イ)本條所謂殺人ノ所爲ハ恰モ内亂豫備又ハ陰謀ノ加重ノ情ヲ形成ス

ル附隨ノモノノ如クナルノ結果茲ニ謂フ所ノ人ハ如何ナル人ニテモ差支ナキ
コトヲ爲ルヘシ否少クトモ如何ナル種類ノ人タルヲ要スルヤフ知ル能ハナル
ヘシ隨テ學者カ茲ニ所謂人ハ要路ノ人タルコトヲ要スト曰ヒタルモ孩兒カ意
味モ事柄モ知ラスシテ大人ノ眞似ヲ爲スト同一般單ニ先覺カ人ト云フハ要路
ノ人タルヲ要スト說キタルヲ其儘何ノ意味モナク鷄鵠的ニ繰リ返シタルカ若
クハ少クトモ本條ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ既發ニ準シタル程ノモノナルカ故
ニ多分要路ノ人タルヲ要スルナルヘントノ臆斷ニ止マルモノト爲リロ第百二
十一條ニテハ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ借替シ云ト莊重ニ書キ立テタルニモ拘ラ
ス本條ニ於テ「政府ヲ變亂スルノ目的云云ト輕タ書キタルハ徒ラニ文字ヲ替ヘ
タルモノト爲リテ何ノ趣味モナキモノト爲リハ學者ノ說ニ依ルトキハ本條ハ
前條トノ權衡上少クトモ内亂ノ豫備又ハ陰謀アルヲ要スルモノニシテ内亂ノ
豫備陰謀ハ其レ自身已ニ内亂ノ實質ヲ有スルモノナルカ故ニ更ニ之ニ對シテ又
内亂ト同シタ論スト云フノ要ナキノ結果第百二十一條ノ已ニ内亂ヲ起シタル
者ノ刑ニ同シト云フト本條ノ内亂ト同ク論シト云フノ語ハ何人カ見ルモ前者
者ノ刑ニ同シト云フト本條ノ内亂ト同ク論シト云フノ語ハ何人カ見ルモ前者

八[已ニ内亂ヲ起シタル者云云]トアルカ故ニ當然其所爲ハ自體已ニ内亂ノ實質
ヲ有スル者タルヨトヲ意味シ之ニ反シテ後者ハ内亂ト同ク論シ云云トアル
カ故ニ當然其所爲ハ自體内亂ノ實質ヲ有セサル者タルヲ意味スルモノニシテ
其間大ニ異同アルニモ拘ラス「内亂ト同ク論シ」トノ文字ハ「已ニ内亂ヲ起シタル
者云云」ト云フト同一ノモノト爲リテ要スルニ本條ニ使用セラレタル文字ノ大
部分ハ或ハ何ノ趣味ヲモ有セサルモノト爲ルカ或ハ他ノ意味ト爲ルノ結果學
者ノ如ク本條ヲ解セント欲セハ豫メ先ツ本條ヲ改作セザルヘカラサレハナリ
〔二〕何ヲ以テ學者ハ本條ヲ杓子撻木ニ分析シタリト云フヤ曰ク學者ハ本條ハ兵
ヲ舉タルノ陰謀又ハ豫備アルコトヲ要素トセスンハ明文所謂「兵ヲ舉ルニ至
ラス云云」トノ文字ハ全ク無用ノ冗文タラント曰ヘリ然リ成程内亂ノ陰謀又ハ
豫備アルコトヲ要素トセスンハ「兵ヲ舉ルニ至ラス云云」トノ文字ハ或ハ全ク
無用ノ冗文タルヲ觀アラン然レトモ諸君ヨ試ニ學者ノ說ニ從テ本條ヲ書キ替
ヘラレヨ果シテ如何ナル條文ヲ成形スルヤ學者ノ說ニ從ヘハ本條ハ政府ヲ變
亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ニシテ兵ヲ舉タルノ豫備又ハ陰謀アル

者若クハ内亂ヲ起スノ豫備又ハ陰謀アル者ハ内亂ト同シク論シ云トアリ之ヲ算式ニ依リテ書キ替フルトキハ(要するに謀殺ノ事)田宮十郎著十朝御ノ傳書(又ノ序號)――内亂リ構メ(語タシ)リ回バト爲ルヘシ然ルニ此中ニ包含セラレタル政府ヲ變亂スルノ目的ト舉兵ノ豫備又ハ陰謀ハ第百二十一條所謂内亂ノ豫備又ハ陰謀タルカ故ニ本條ノ所爲ハ(國事十類邊ニシテ少クトモ其レ自身已ニ内亂ノ所爲ナリ然ラハ末文ニ於テ内亂ト同シク論ストハ殆ト意味ヲ爲サス否寧ロ此ノ如キ解釋ヲ正當トスルトキハ第百二十一條ノ罪ヘ内亂ニ非スト謂ハサルヘカラナルノ結果明カニ第一百二十一條ノ法文ト抵觸スルニ至ルヘシ是レ畢竟兵ヲ舉ルニ至ラス云云トハ如何ナル意義ヲ有スル文字タルヤア解セス彼モ要素ナリ此モ要素ナリトテ恰モ彼ノ客觀家カ明ニ勿體ナシトテ廢敗シタル食物ノ性質ヲモ檢セスシテ之ヲ拾ヒ込ミ遂ニ一身ヲ過レルト同一般法文ヲ杓子搾木ニ讀ミ下シタル結果タレハナリ

然ラハ本條ハ如何ナル事ヲ規定シ又其兵ヲ舉ルニ至ラス云云トハ如何ナル意義ヲ有スルモノナムヤト云フニ我輩ノ見ル所ニ依レハ一若シ本條ヲ以テ彼

等學者ノ主張スバカ如ク内亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ舉タルノ豫備又ハ陰謀アル謀殺ノ所爲ヲ規定シタルモノトスレハ内亂ノ所爲ハ主ニシテ謀殺ノ所爲ハ從タルカ故ニ本條ハ寧ロ内亂豫備ノ或加重ノ場合ヲ規定シタル第百二十二條ノ筆法ニ依リ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シ依リテ人ヲ謀殺シタル者ハ云云ト書スキナリ然ルニ法文ハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ云云内亂ト同シク論シ云トアリテ其所爲自體ノ内亂ニ非スシテ謀殺ナルコトヲ明言セリ左レハ本條ノ主眼ハ内亂ノ或場合ヲ規定スルニ在ラスシテ謀殺ノ或場合換言スレハ當路ノ大臣若クハ権要ノ位地ニ在ル者ヲ除キ依リテ以テ内閣員ノ交迭ヲ望ミ又ハ施政ノ方針ヲ一變ゼンコトヲ願フカ如キ純然タル政治觀念ニ原由スル謀殺ヲ規定スルニ在ルコト炳然火ヲ睹ルカ如シ(一)然ラハ其何ニカ故ニ之ヲ内亂ニ準シタルヤト云フニ右ノ如キ場合ニ於テハ其所爲自體ハ謀殺タルニ相違ナシト雖モ若シ其犯人ニ於テ其目的即チ謀殺ノ所爲ヲ遂行スルトキハ當然ノ結果トシテ茲ニ内閣員若クハ要路ノ職職ニ缺位ヲ生シ以テ執政官ニ運動フ來シ其結果ハ遂ニ延テ施政ノ方針ヲ變革スルニ至ルヘキモノニシテ

其所爲自體ハ謀殺ナリト雖モ之ヲ其結果並ニ犯人ノ意思ヨリ觀察スレハ彼ノ朝憲素亂ノ目的ヲ以テ兵ヲ舉タル者ト毫モ相擇フ所ナケレハナリ——以上ノ如ク觀察シ來レハ本條ノ末文ニ於テ「内亂ト同ク論シ云云」ト云フト同時ニ彼ノ第百二十一條ニ在リテハ政府ヲ顛覆シ云云朝憲ヲ素亂スルノ目的ヲ以テトシテ廣ク朝憲素亂ノ總テノ事項ヲ舉タルニモ拘ラス本條ノ首文ニ於テハ故ラニ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テトシテ朝憲素亂ノ或場合ヲ掲ケ以テ彼ト此ノ目的ノ廣狹アルヲ示スノ徒事ナラサルヲ知ラス蓋シ内閣員其他権要ノ位地ニ在ル者ヲ除クトキハ之ニ依リテ以テ政府ノ變亂即チ中央政府ノ職員ニ變動ヲ生シ若クハ施政ノ方針ヲ變スルコトアルヘキモ決シテ之ニ依リテ直チニ彼ノ第百二十一條ノ首文ニ掲クルカ如キ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵奪スルカ如キ結果ヲ生スヘントハ想像スルヲ得サレハナリ(三若シ夫レ本條ニシテ我輩ノ信スルカ如ク當路ノ大臣又ハ権要ノ位地ニ在ル者ヲ除キ依リテ以テ内閣員ノ交迭若クハ施政ノ變革ヲ顧フカ如キ政治觀念ニ原因スル謀殺ハ其結果内亂ト異ナルコトナキカ故ニ之ヲ嚴重ニ處斷シ以テ政權ノ安全ヲ維持セントノ精神ヲ

シテ之ヲ内亂ニ草ストシタルモシタランシメハ凡ソ謀殺ノ行爲タルヤ通常一人若クハ數人ニ依リテ實行セラルモノニシテ舉兵ノ手段ニ依ルカ如キハ萬之アルヘカラナルコトナムノミナラス法律カ本條ニ依リテ防退セント欲スル所ノ害惡ハ政治的觀念ニ因ル顯官殺害ノ結果ナルカ故ニ一人若クハ數人ニシテ謀殺行爲ヲ行フモ其之ニ依リテ法律カ防歟カントスル政府變亂ノ結果ヲ生シタル以上ハ當然本條ニ依リテ處斷セサルヘカラス何ソ法律ハ之ニ加フルニ更ニ舉兵ノ豫備又ハ陰謀アルヲ要スルノ理由アランキ然ラハ本條ニ所謂兵ヲ舉タルニ至ラスト雖モ云云トハ決シテ彼等學者カ信スル加々舉兵ノ豫備又ハ陰謀アルコトヲ要ストノ意味ニ非サルコト明カナリ然ラハ立法者ハ何ノ必要アリテ此等ノ文字ヲ羅列シタガヤト云フニ是レ亦本條規定スル所ノ所爲自體カ純然タル内亂トハ大ニ異ナレタ體ヲ若シ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ兵ヲ謀殺シタル者ハ内亂オ同シタ論ストテ何ソ註釋ヲ加ヘスダテ直モニ謀殺メ行爲ヲ内

亂ニ準ストスルトキニ或ハ解釈者ニ於テ内亂ハ舉兵ノ行爲ヲ要スルモノニシテ
ヲ舉兵ノ行爲ナクシハ内亂ト謂フヲ得ス隨ラ茲ニ内亂ニ準ストアルハ恐ラク
内亂ノ際人ヲ謀殺シタル所爲ヲ指スモノニ非スマト誤解スルカ少タトモ謀殺
ノ所爲カ直チニ内亂ト同視セラルトハ奇怪ナリトノ觀念ヲ懷ク者アルヘシ
ト思惟シタルニ由ツ此等ノ文字ヲ附加シ以テ凡ソ内亂ハ舉兵ノ行爲アルモノ
ナルカ故ニ謀殺行爲ハ其レ自體内亂トハ謂フヘカラナルモノ本條ハ特ニ之ヲ内
亂ニ準スルモノナリトノ意ヲ明カニセント欲シタルニ外ナラナルモノニシテ
蓋シ立法者カ注意ノ爲ニ附加シタルノ文字ナルカ故ニ嚴格ニ言ヘハ無用ノ
文字ナリト謂フモ可ナラン此點ニ付テハ彼等學者ハ或ハ如何ニ迂闊ナル立法
者ト雖モ内亂ニ準ストスレハ其レニテ十分ナリ何ソ註釋ヲ要セんヤト曰フヘ
ケレトモ凡ソ諸般ノ法律ハ其制定セラレタル當時ノ思想ニ伴ヒテ解釋スヘキ
モノナリ隨フ本法ノ編纂セラレタル當時ハ如何ニ一般ノ法律思想カ勤雜ナリ
シカフ知ラハ思ヒ宇ニ遇キシテ
尙ホ終ニ歸ニシテ反對論トシテ成學者ハ「若ノ子ノ如ク解釋セハ本條ハ素ト

斯ル謀殺ノ行爲ア内亂ニ準シ以テ其豫備及ヒ陰謀マテモ十分ニ處罰スルノ趣
旨ニ出テタルモノタルニ拘ラス内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スルコトヲ規定シ
タル第百二十五條ノ明文ニハ第百二十一條ノ例ニ照シ云云トアリテ畢竟立法
者カ本條ニ依リテ希望シタル目的ノ一部ハ之ヲ實行スルヲ得サルノ結果ヲ生
スヘシト然リ良ニ論者ノ言ノ如シ然レトモ是レ立法者ノ疏漏ニ出ツルモノ吾
人解釋者ハ亦如何トモスヘキナシ
之ヲ要スルニ以上論述シタル所ニ據リ本條所謂「兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ云云」
ノ文字其單ニ立法者カ注意ノ爲メニ附加シタルノ文字タルニ過キサルモノナ
リ隨テ其之ヲ取リテ本罪成立ノ一要素ナリト信シタル學者ノ見解ハ到底誤認
タルヲ免レヌ是レ即チ我輩カ之ヲ以テ本罪成立ノ一要素トセサル所以ナリ
以上説明シタル所ニ據リ諸君ハ略ホ本條ノ何事ヲ規定シタルモノナルヤリ
解セラレシナラシ隨テ其成立要素ニ付テハ亦一一格別ノ説明ヲ要セサルニ似
タレトモ例ニ依リ簡單ニ各要素ヲ説明セシム
第一ノ要素 政府ヲ變亂スルノ目的アルヨリヲ要求スル事を謂ひ此ノ事項を審議ス

第一百二十一條ニモ亦政府ヲ顛覆シ若クハ邦土ヲ侵奪シ等ノ語アリ茲ニ所謂政府ヲ變亂スルト云フ語トハ如何ナシ差異アリヤ曰ク彼モ此モ皆朝憲紊亂ノ一體ナルカ故ニ此點ニ於テハ彼此異同有ベコトナシ唯彼ハ事態極メテ大キシテ舉兵等ノ手段ニ依ラスンハ其目的ヲ達スルヲ得サルモノナルモ此ニ在リテア前ニモ述ヘタルカ如ク單純ナル謀殺ノ行爲ノミニ依リ直ナニ其目的ヲ遂シルヲ得ルモノタルノ差アルノミ然リ而シテ後ニモ述フルカ如ク單純謀殺ノ行爲ノミニ依リテ茲ニ朝憲紊亂ノ果ヲ生スヘキ場合ハ例ヘハ要路ノ大臣其他顯要ノ位地ニ在ル執政官等ヲ殺害シ茲ニ閣員ノ變動ヲ起シ又ハ施政ノ方針ヲ一變セシムルカ如キ場合ノミナリ隨テ茲ニ所謂政府ヲ變亂ストハ彼ノ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵奪スト云フカ如キ重大ナル場合ヲ包含スルモノニ非ヌシタ統治機關ノ重ナルモノヲ害シ以テ政治上ニ變動ヲ起サシムルコトヲ意味スルモノト解スヘシ蓋シ如何ニ重要ナル位地ニ在ル者ヲ殺害スルモ其殺害ノミカ直チニ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵奪スルカ如キ結果ヲ生スルコト決シテアヘカラサレハナリ内亂ニ關スル謀殺ノ事例マニテ十載ノ間に開示スル也

第二ノ要素 人ヲ謀殺シタルコトヲ要ス
（一）人 法文ニハ單二人ヲ謀殺シタル者ハ云云トアリ故ニ之ヲ一見スレハ苟モ人タルニ於テハ本條ノ罪ノ客體タルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ是レ決シテ然ラス抑モ本條ハ前既ニ述ヘタルカ如ク單二人其人ヲ殺シントノ意ニ出テタルモノニ非スンテ政府ヲ變亂セント欲スル場合ノ謀殺言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ政府變亂ノ間接ノ手段タルニ外ナラサル謀殺タルカ故ニ本條ニ所謂人トハ政事上何等ノ關係ヲモ有セサル通常人ヲ指スモノニ非スシテ彼ノ要路ノ大臣等其人ノ生死存亡ハ以テ國家ノ施政上ニ變動ヲ生スヘキノ人タルサルヘカラサルナリ其果シテ國家ノ施政上権要ノ人タルヤ否ヤハ之ヲ事實ノ問題トシテ裁判官ノ判定ニ委スルノ外ナシ

（二）謀殺 トハ第三編第一章第一節中ニ規定スル謀殺行爲即チ第二百九十二条及ヒ第二百九十三條等ニ記載セル所爲ヲ謂フ本條ニ「謀殺」トアルカ故ニ其故殺ヲ包含セサルヤ蓋シ疑ヲ容レサルナリ其之ヲ包含セサル所以ハ本條ノ殺人行爲ハ元來犯人ニ於テ被害者其人ヲ殺シントノ一意ニ非スシテ

其人ノ政事上ノ位地即チ之カ原因ヲ爲シ以テ遂ニ此殺人ノ結果ヲ惹起シタルモノニシテ政事上ニ關スル殺人ハ故殺ト云フナ如キ咄嗟ノ間ニ生スヘキモノニ非サレハナリ

終ニ臨ミ一言注意ヲ要スヘキモノアリ請フ之ヲ左ニ掲ケン

(一) 本條ノ罪ハ外國法ハ勿論草案ニ於テモ亦之ヲ見サル所ナリ畢竟本條ノ來レル所以ハ蓋シ刑法編纂ノ以前ニ該リ政事上ノ理由ニ因リテ類ニ要路ノ大臣等ヲ謀殺シ又ハ謀殺セントスルノ輩續出セシテ以テ此種ノ者ヲ嚴重ニ處斷スルノ要ヲ感シ遂ニ元老院ニ於テ本條ヲ設クルコトセシニ由ラン彼ノ大久保公ノ兇手ノ毒刃ニ係リ紀尾井阪ニ斃レタルカ如キハ當時ノ最大事變ニシテ本條ニ規定スルニ至リタル遠因ノ一事實トシテ見ルヘキモノタリ

(二) 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ第百十六條又ハ第百十八條ニ規定スル所ノ天皇三后、皇太子、皇族ニ對シ申スモ畏キ事ナレトモ若シ殺害ヲ加ヘ奉リタル者アルトキハ果シテ如何ニ處分スヘキヤ法律ハ第百十六條以下ニ於テ天皇以下ノ御身體ニ關スル罪ハ通常人ニ對スルモノト全ク別途ノ規定ヲ爲セリ是ヲ以

テ總合以上ノ御方ヲ失ヒ舉ワルカ如キコトアリテ爲メニ政府變亂ノ結果ヲ生スルコトアルモノハ常ニ第一百二十三條ニ問ハスシテ第百十六條又ハ百十八條ニ依リテ處斷セナルヘカラズ爰モモハ謀殺ノ謀叛ノ謀謀ノ謀謀モハ
科スル事也ニ基テ第二項 未遂、豫備、陰謀及ヒ自首
第一段 未 遂
第一百二十四條ニ曰ク「前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス」ト諸君ハ既ニ以上講述シタル所ニ依リテ茲ニ所謂前三條ノ罪之ヲ總稱シテ内亂罪ト講スルモノノ如何ナルモハタルコト及ヒ總則ノ講義ニ於テ未遂犯ノ何物タルヤラ知丁セラレタルカ故ニ應用上明カニ本節ニ所謂内亂罪ノ三箇ノ體様ニ應スヘキ未遂犯トハ即チ第一百二十一條ノ場合ニ於テハ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ隊ヲ組ミテ今ニ將ニ出陣ノ途ニ在ルノ際、第百二十二條ノ場合ニ於テハ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ政府所屬ノ軍用品ヲ劫掠セントスルノ際、第百二十三條ノ場合ニ於テハ政府變亂ノ目的ヲ以テ其生死ハ以テ政府變亂ノ結果ヲ生スヘキ人フ

謀殺セントスルノ際意外ノ障礙舛錯ニ因リ遂ケサル事ノタルヲ知了セラルベシ故ニ之ニ付テハ我輩ハ今茲ニ貧乏ヲ費ヤツナルヘシ
唯茲ニ一言スヘキハ第百二十四條ノ法文ノ意義之ナリ法文ニ曰ク「云云未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス」ト由是觀之未遂犯ノ時ニ於テ始メテ本刑ヲ科スルノ義ニシテ既遂犯ニ至ルモノハ罰セナルカ如キ語氣アリ是レ恐クハ起草者ボアンナード氏カ國事犯罪ハ事ヲ遂タル時ハ即チ政府顛覆ノ結果ヲ生スル時ナルフ以テ之ヲ罰スルヲ得ス未遂ノ時ニ非シハ之ヲ罰スルヲ得ストノ理由ヨリ
草案第百三十八條ニ於テ前數條ニ記載シタル刑罰ハ其犯罪實行ノ端緒アリシ時ニ於テ之ヲ科ス「下シ以テ犯人ノ目的ノ遂行ト法律カ罪トシテ罰シタル所爲ノ遂行トヲ混同シタルニ留意セス草案第百三十八條ヲ直チニ移シテ以テ本條ト爲シタルニ基タモノトス而モ若シ幕氏ノ草案ノ如ク本條ヲ單ニ第百二十一條ノ罪ニミ附加シテ規定シタリトセハ犯人ノ目的ノ遂行ト犯罪ノ遂行トノ混同ハ始ク措キ行文ノ意義ハ即チ之ヲ知ルヲ得キニ現行法ニ於テハ幕氏ノ草案中明文ノ百二十一條ト百二十四條トニ該當スル法條ノ間ニ草案第百三十八條ヲ規定シアルモノト看做シテ解釋ヲ試ミタリ

八條即ち現行法第百二十四條ハ次項ニ存セシ軍備品劫掠罪ノ條及ビ草案ニ見ナル所ノ内亂ニ準スヘキ謀殺ノ罪ヲ候入シ以テ所謂犯罪カ目的ヲ達スルトキハ既ニ罰スルヲト得ナルカ故ニ之ヲ遂ケサル時ニ於テ罰セナルヘカラストスル所ノモノト犯罪カ目的ヲ遂行シタル後ニ於テモ尙ホ之ヲ十分ニ所罰スルヲ得ヘキモノトヲ混入シテ同列ニ置キタルカ故ニ本條ニ所謂乃チ本刑ヲ科ストトハ遂ニ何等ノ意義ヲモ有セサルコトト爲ルニ至レリ彼ノ或學者フシテ本條ハ第百二十一條ニノミ適用セラルヘキモノナリト主張スルニ至ラシシタルカ如キハ其罪偏ニ法文ノ粗惡ナルニ在ルモノニシテ學者ノ罪ニ非サルナリ以上ノ如ク第百二十四條ノ法文ハ文義不通ノモノナレドモ前ニモ述ヘタルカ如ク凡ソ未遂犯罪トハ犯人カ其金望シタル目的ヲ遂ケナリシコトヲ意味スルモノニ非ヌシテ犯罪ニ於テ法律ノ罰シタル所爲ヲ遂ケサルコトヲ意味スルモノナレト茲ニ明カニ前三條トアルカ故ニ子ハ假ニ本條ヲ未遂犯ノ時ト雖モ仍ホ本刑ヲ科ス」ト規定シアルモノト看做シテ解釋ヲ試ミタリ

謀 備 や 陰謀 第二段 謂 備

第一百二十五條第一項ニ曰ク「民隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者云云」豫備外所爲ハ之ヲ罰セサルヲ原則トス然レトモ内亂罪ノ如キニ至リテハ事情重大ニシテ之ヲ不問ニ付スヘカラナルモノアリ是レ立法者リ本條ヲ設ゲテ之ヲ罰スル所以ニシテ即チ第百十一條ニ所謂本條別ニ刑名ヲ記載スル一例ナリトス惡意無申候事無ニ及モ豫備ハ既ニ爲せば我良民且本條ニ關ジテハ別ニ説明失ヘキヨトナシ唯左ノ三點ニ付テ諸君ニ注意スル所アラントス參之當義也亦許ナシ次第不才微物ニ及ム者也此大體之要也夫本條ニ所謂兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シトハ豫備ハ所爲矣例示シタルモノナルカ故ニ其他或ハ海陸上測量ヲ爲シ軍備ア調査スル等皆豫備人所爲タルモノトスノミ可也然ニ亦或有其事也蓋モ其相ニ被觸大體之要也夫本條ニ前ニ述ヘタル如ク若猶本條豫備ハ所爲ムナテ同時ニ他罪ヲ構成スルトキハ常ニ數罪俱發矣此之論理對ル矣蓋テ本例之兵隊ヲ招募スル爲大官充書ヲ備

造シタルカ如シ

(三) 第百二十三條ト本條ノ關係ニ付テ—— 第百二十三條ニ曰ク「云云内亂ト同ク論シ云云トアリテ内亂ノ豫備ハ本條ニ於テ之ヲ罰セリ故ニ若シ第百二十三條ノ罪ヲ犯サンカ爲メ爆裂藥ヲ貯藏スルカ如キ謀殺ノ豫備ヲ爲シタル者アリタルトキハ當然本條ニ依リテ所罰シ得ヘキカ如シト雖モ是レ皮憲ノ見ニシテ到底誤認タルヲ免レス何トナレハ本條ノ處分ハ第百二十一條ノ例ニ依ルキコトヲ規定セリト雖モ前既ニ述ヘタル如ク素ト第百二十三條ノ罪ハ一人又ハ數人ニシテ遂行スルコトヲ得ヘキモノニシテ其中ニ第百二十一條ニ列舉スルカ如ク首魁以下隨行者等ノ之アルヘキコトナキノ結果到底第百二十一條ノ例ニ依リテ處分スルコトヲ得サレハナリ」此合セリイヨリ此處當黑頁

第三段 陰謀

第百二十五條第二項ニ曰ク「内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラズル者云云トノ陰謀モ亦豫備ト同シタ普通之ヲ罰セサルヲ原則トス而由テ立法者カ茲ニ其之

ヲ罰スルコトシタルハ尙ホ豫備ヲ罰スルト同一ノ理由ニ出ヲタルモノナリ
陰謀トハ二人以上相共リテ犯罪行爲ヲ謀議計畫スル外形ノ舉動ニシテ之ヲ犯
罪進行ノ程度ヨリ云フトキハ未タ決心ノ状況ニ在ルモノトス故ニ之ヲ二人以
上ノ間ニ成レル犯罪ノ決心ナリト謂フモ敢テ不可アルコトナケン然ルニ或學
者ハ之ヲ以テ二人以上ノ間ニ成ル一種ノ組合ナリトセリ此說タル畢竟陰謀自
體ノ外形ノ舉動ノミヲ見テ未タ深ク其舉動ノ犯罪進行ノ程度ニ於テ如何ナル
情態ニ在ルヤア究メサルノ誤ニ座スルノミ蓋シ言語文書等ヲ以テ決心ヲ表示
スルノ行爲タル其行爲自體ニ於テハ外形舉動タルニ少シモ疑ヲ容レサル所
ナリ故ニ法律ノ之ヲ認メテ以テ之ヲ特別ノ一罪ト爲スニ於テハ即チ學者ノ言ノ遺
切ナルコトヲ見ルヘシト雖モ之ヲ特別ノ一罪トセサルニ於テハ常ニ犯罪
進行ノ程度ヨリ觀察シテ以テ之ヲ決心ノ状況ニ在ルモノナリト謂ハサルヘカラ
サルニ非スナ

(二) 未タ事ヲ行ハサル前ナルコトヲ要ス 八十八款に依れば國事内亂事件
茲ニ所謂事ヲ行フトハ第百十二條ニ既ニ事ヲ行フト云ヘルト同一意義ニシテ
未タ事ヲ行ハサル前トハ即チ犯罪行爲ニ著手セサル以前ト謂フノ義ナリトス
蓋シ本條ノ自首ニ於テ特ニ事ヲ行ハサル前タルヲ要スル所以ハ是レ内亂行爲
ノ如キ重大ナル事件ニ於テハ一旦犯罪ノ著手アルトキハ通常決シテ事ノ未タ
發覺セサルカ如キコトナキノ結果自首ノ條件ニ該當スルノ場合之ナキニ因ラ
ン而シテ本條中第百二十三條ノ場合ヲ包含セサルハ前ニ説明シタル所ニ依リ
明カナリトス

第一百二十六條ニ曰「内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前

ニ於テ官ニ自首シタル者ニ云云ト第八十八條ニ於テ第八十九條以下ノ自首減
輕ニ關スル通則ニ依ラサル特例アルコトヲ記載セリ曰「此節ニ記載スルノ外
本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フト即チ本條ハ其特例ニ該當
スルモノトス而シテ本條ノ恩典ニ浴スル爲ミニハ實ニ左ノ二條件ヲ具備スル
コトヲ要ス請フ左ニ之ヲ説カソ」

(二) 未タ事ヲ行ハサル前ナルコトヲ要ス 八十八款に依れば國事内亂事件
茲ニ所謂事ヲ行フトハ第百十二條ニ既ニ事ヲ行フト云ヘルト同一意義ニシテ
未タ事ヲ行ハサル前トハ即チ犯罪行爲ニ著手セサル以前ト謂フノ義ナリトス
蓋シ本條ノ自首ニ於テ特ニ事ヲ行ハサル前タルヲ要スル所以ハ是レ内亂行爲
ノ如キ重大ナル事件ニ於テハ一旦犯罪ノ著手アルトキハ通常決シテ事ノ未タ
發覺セサルカ如キコトナキノ結果自首ノ條件ニ該當スルノ場合之ナキニ因ラ
ン而シテ本條中第百二十三條ノ場合ヲ包含セサルハ前ニ説明シタル所ニ依リ
明カナリトス」

(二) 官ニ自首シタルコトヲ要ス

茲ニ所謂官トハ犯罪ノ告訴告發ヲ受クヘキ官署ニシテ警察署及ヒ検事局ノ類ヲ謂フ

自首トハ諸君ノ已ニ總則ニ於テ知悉セラルカ如ク事發覺前自○。○。○自己ノ罪ヲ陳述シテ官署ノ處分ヲ待ツノ謂ニシテ其成立條件トシテ(一)事發覺前ニ造ミテ之ヲ爲スコト(二)自己又ヘ代人ヲ以テ自己ノ罪ヲ陳述スルコト(三)自己ヲ逮捕シ得ルノ位地ニ置クコトヲ要ス
或學者ハ說ヲ爲シテ曰ク(一)本條ハ總則第八十八條ニ所謂例外ノ場合ナルト(二)本條ハ可及的大事ニ至ラサシメントカ爲メ政略上ヨリ設ケラレタル規定ナルトニ由リテ之ヲ觀レハ縱令事已ニ發覺シタル後ト雖モ法律ハ恩典ヲ與フル可トス隨テ本條ニ於テハ必スシモ事發覺前ナル要件ヲ必要トセスト然レトモ我輩ヲ以テ之ヲ觀ルニ(イ)第八十八條ニハ本條別ニ自首ノ例ト記載セリ所謂例トハ之ヲ刑法ノ用例ニ鑑ルニ例之第百二十五條ニ於テ第百二十一條ノ例ト云ヘル方如ク常ニ刑罰例ヲ謂フモノタルト(ロ)事發覺後ニ於テ犯人ノ搜索ハ

瞬時ニ進行ヲ始ムルカ故ニ自ラ進ミテ罪狀ヲ陳述スルテス自首ノ性質ヲ失フト(一)本條ノ自首ハ普通ハ自首ト異ナリ免刑ノ結果ヲ生スルモノニシテ自首ヲ勸誘シ以テ大事ニ至ラサシムルニ十分ナル擔保ヲ具フルトニ由リテ之ヲ觀レハ法律ハ論者ノ言フカ如ク自首ノ本性ヲ失ハシメラマラモ尙ホ本條ノ特典ヲ與フルノ精神ナリト看ルコトヲ得サルナリ

第三項 内亂罪ノ處分

第一段 第百二十一條ノ罪ノ處分

第一百二十一條ニ曰ク「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ侵襲シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス」——一、首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス——二、群衆ノ指揮ヲ爲シ其他権要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス——三、兵器金錢ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス——四、教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ

輕禁制ニ處ス」本條ノ罪が兵ヲ擧ケテ朝憲ヲ棄亂スルノ行爲ナルカ故ニ其所爲自體ノ性質トシテ犯罪ノ主體ハ多人數相結合シタル團隊タラサルヘカラス團隊ナルカ故ニ其組織上首領及ヒ兵卒等ノ階級アリ階級アルカ故ニ其孰ル所ノ職務ニ由リテ内亂行爲ニ加效スルノ程度相同シカラス是ニ於テカ法律ハ數段ノ階級ヲ想像シ犯人ノ内亂ニ加效シタル位地ノ如何ニ由リテ刑罰ヲ異ニスルコトト爲セリ以下序ヲ追ナ説ク所アラントス

(一) 首魁及ヒ教唆者 (イ)首魁トハ内亂軍ノ首領ニシテ全軍ヲ指揮統率スル者ヲ謂フ然レトモ是レ必シモ一人ニ限ルニ非ス若シ數人相共同シテ全軍ヲ統率セル場合ニ於テハ數人皆首魁タルヘシ内亂隊全軍ノ運動ハ實ニ偏ニ此者ノ方寸ヨリ出ツルモノニシテ尊ロ内亂罪ハ全軍ヲ機械トシテ首魁ノ之ヲ起シタルモノナリト云フモ敢テ不可アルコトナク其狀最モ重キモノナルカ故ニ刑罰ノ至極タル死刑ヲ以テ之ヲ處断スルコトトセリ其可否ニ付テハ我輩ノ憂ニ之ヲ論述シタル所ナルヲ以テ更ニ之ヲ贊セス(ロ)教唆者トハ内亂自體ヲ教唆シタル者即チ内亂ノ所爲其モノヲ發生セシメタル者ヲ指スモノニシテ若シ此者微セ

或ハ内亂ノ所爲モ亦發生セザリシモノニシテ其罪状ノ重キ教唆首魁ノ全軍ヲ機械トシテ内亂ヲ起スカ如キ位地ニ在ル者ト徑底アルコトナシ是ヲ以テ法律ハ首魁ト同シテ之ヲ死刑ニ處スコトト爲セリ故ニ茲ニ所謂教唆者ノ中ニハ右ニ述ヘタル内亂自體ヲ發生セシメタル者ト情狀ニ於テ啻ニ譽壞ノ差ノミナラナル彼ノ已ニ内亂發生ノ後ニ於テ或者ニ對シ箇人的一ニ内亂軍ニ加效シテ某ノ職ニ從事セシト云フカ如キ教唆者ヲ包含セナルヤ火ヲ賭ルヨリモ明カラナリ此種ノ教唆者ハ單ニ總則ノ適用ニ依リ正犯ト同一ノ刑ヲ科セラルニ遇キナルモノトス茲ニ一言フ要スヘキモノアリ曰ク何ソヤ法律カ教唆者ヲ本條ニ規定シタルハ位地ヲ失スルコトはナリ何トナレハ教唆者ハ内亂行爲ヲ刺戟シテ以テ之ヲ發生シタル者ナリト雖モ本條ニ所謂内亂ヲ起シタル者ナリト謂フコトヲ得ス宜シク之ヲ別條ニ規定スヘキナリ

(二) 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他権要ノ職務ヲ爲シタル者 (イ)群衆ノ指揮ヲ爲シタル者トハ内亂軍ノ一方ノ隊長ト爲リタル者ニシテ(ロ)其他権要ノ職務ヲ爲シタル者トハ群衆ノ指揮ヲ爲スカ如キ其他ノ権要ノ職務ヲ爲シタル者ナリト謂フ

ニシテ例之、醫務長、會計長、兵站部長、運輸部長、參謀ノ如ク一方ノ隊長ト同視ス
ヘキ程度ノ位地ニ在ル者ヲ謂フ然リト雖モ各其執ル所ノ職務ニ由リ内亂軍ニ
對スル位地ノ上ニ多少ノ輕重ナキニ非ス例之、參謀、兵站部長ノ如キハ最も重要
ノモノニシテ現ニ兵器ヲ執リテ相戰フ者ト敢テ擇フ所ナシト雖モ醫務長ノ如
キニ至リテハ其勢力ノ多少劣レルヲ見ルヘシ夫レ然リ故ニ法律ハ之ニ對シ二
般ノ刑罰ヲ定メ重キ情狀ノ者ハ無期流刑トシ輕キ情狀ノ者ハ有期流刑ト爲セ
リ要スルニ法律カ茲ニ記載シタル情狀ノ輕重ニ由ル加減ハ酌量減輕ニ非スレ
テ法律ノ定メタル本刑ナルヲ以テ其當然ノ結果トシテ茲ニ所謂情狀トハ犯人
ノ身分ニ付スルモノニ非スシテ其執レル職務上ノ位地ノ情狀ノ輕重ヲ謂フノ
義ナリトス是レ宜シク諸君ノ注目スヘキ所タリ

(三) 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者(イ)兵器金穀ヲ資給シタ
ル者トヘ自ラ内亂軍ニ從事セスシテ唯之ニ兵器、軍費又ハ糧食等ヲ寄贈シタル者
例之四十七士ニ於ケル天野屋利兵衛ノ如キ或ハ維新ノ際ニ於ケル三井家ノ軍
費獻納ノ如キヲ謂フナリ彼ノ内亂軍ノ中ニ在リテ兵站ノ事務ヲ司リタル者ノ

如キヲ謂フニ非ス若ダ夫レ此種ノ者ナランカ其司令官ナルトキハ前號ニ入ル
ヘク其他ノ屬員ナルトキハ本號(ロ)ノ中威ハ第四號ノ雜役ヲ執リタル者ノ中ニ
包含スヘキナリ要之兵器、金穀資給者ハ彼ノ教唆者ト同シク内亂自體ヲ直接ニ
起シタル者ニ非スシテ之ヲ幫助シタル者ナルカ故ニ之ヲ内亂ヲ起シタル者ト
シテ本號ニ規定シタルハ當ラ失スルモノト謂ハサルヘカラス宜シク予カニニ
教唆者ニ付テ逃ヘタルカ如ク別條ニ規定スルヲ以テ程當ナリトス(ロ)又ハ諸般
ノ職務ヲ爲シタル者トハ下級ノ士官、軍醫、軍吏等ノ如キ者ヲ謂フ畢竟権要ノ位
地ニ在ル者ト附加隨行シタル者トノ中間ニ在ル者ヲ謂フ此等ノ者ニ付テモ其
位地ノ如何ニ由リテ多少ノ段階アルカ故ニ法律ハ又前號ノ如ク更ニ之ヲ二級
ニ分チ其重キハ重禁獄トシ其輕キハ輕禁獄トセリ其情狀ノ輕重ニ由ルハ酌量
減輕ニ非スシテ本刑ナルコトハ前已ニ之ヲ述ヘタリ

(四) 教唆ニ乘シテ附和隨行シテ又ハ指揮ヲ受ケテ難役ニ供シタル者(イ)教唆ニ
乘シテ附和隨行シタル者トハ其内亂軍タルコトハ之ヲ確知スト雖モ特ニ一定
ノ目的ノアルニ非ス唯他人ノ使嗾ニ煽動セラレテ附隨シタル者即チ兵卒ノ類ヲ

謂ヒ(ロ)指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者トハ雇員小使軍夫イ如キ者ヲ謂フ(イ)
(ロ)英ニ最下級ノ職務ニ從事シタル者ニシテ第百二十七條ノ犯罪ト大抵相勞聯
タルカ故ニ同條ト同シク二年以上五年以下ノ禁錮ニ處スルコトト爲シ此範圍
ニ於テ裁判官ヲシテ相輕重セシムルコトセリ

第二段 第百二十二條ノ罪ノ處分

第百二十二條ニ曰ク已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シト前已ニ之ヲ述ヘタル
如ク本條ニ規定スル所ノ罪ハ未タ内亂ノ豫備ニ遇キスト雖モ政府ノ軍備品ヲ
劫掠スルカ如キニ至リテハ事態ノ業ニ已ニ容易ナラサルモノアルカ故ニ已ニ
内亂ヲ起シタル者ニ比スルモ其間取カ輕重ノ差アルコトナケン是レ實ニ立法
者ノ第百二十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニ科スヘキ刑罰ヲ以テ本條ノ犯人ヲ處分
スヘント規定セル所以ナリ夫レ然リ法律ハ第百二十一條ノ罪ヲ遂ケタル者ト
同一ノ刑ヲ科スルカ故ニ第百二十一條ニ記載スル所ノ例ト内亂豫備ノ有様ニ
於ケル犯人ノ位地トヲ考覈シ其教唆者及ヒ首魁ハ死刑トシ群衆ノ指揮又ハ壇

要ノ職務ヲ執リタル者ハ其情ノ輕重ニ從ヒ或ハ有期或ハ無期ノ流刑ニ處スヘ
キモノトス以下總テ之ニ徵フヘシ

要之此處分ニ關シテハ別ニ説明スヘキモノナシ唯茲ニ一言セント欲スルモノ
ハ固ヨリ第百二十一條ノ場合ニ於テハ法律ノ豫期スルカ如ク犯人ノ位地ニ數
段ノ階級アルヤ更ニ疑ノ容ルベキモノナシト雖モ本條ニ規定スル所ノ所爲ハ
素ト是レ内亂ノ豫備ニ過キナルモノナルカ故ニ多クノ場合ニ於テ犯人相互ノ
間ニ第百二十一條ニ規定スルカ如ク整然タル階級ノ存スルヲ認ムルコト蓋シ
稀ナリトス隨テ本條ノ所爲ハ之ヲ明文ニ依リ第百二十一條ノ例ニ從ヒ處斷セ
ントセハ勢ヒ實際上多少ノ困難ヲ免レサルコト是ナリ我輩ノ見ル所ニ據レハ
若シ夫レ立法者ニシテ第百二十一條ノ例ニ依ランコトヲ希ハハ宜シク第百二
十一條ニ於ケル犯人ノ位地ヲ三級位ニ大別スルカ或ハ更ニ本條ハ之ヲ兇徒聚
衆罪ニ於ケルカ如ク第百二十一條ニ關セス別ニ二級或ハ三級位ノ犯人ノ位地
ヲ想像シテ之ニ相當ノ刑ヲ定ムルヲ以テ最モ立法ノ當ヲ得タルモノナト信ス
(第百二十五條ノ場合ニ付テモ亦同シ)

第三段 第百二十三條ノ罪ノ處分

第一百二十三條ニ曰ク「内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス」ト本條ニ付テハ唯左ノ二點ヲ説明スルニ止メン。

(一) 「内亂ト同ク論シ云云」——第百二十四條ヲ見ルニ「前三條ノ罪ハ云々」ト々本條ノ未遂犯ハ之ヲ第百二十一條及ヒ第百二十二條ノ罪ノ未遂犯ト同列ニ置キタルカ如シ是レ蓋シ本條ノ罪ハ已ニ之ヲ述ヘタルカ如ク真ノ所謂内亂罪ト其輕重毫モ相擇フ所ナキト云フニ在ラン惟フニ茲ニ「内亂ト同ク論シ云々」トシタルハ恐ク其既遂未遂ノ所謂内亂罪ノ既遂未遂ト同視セラルト共ニ其豫備及ヒ陰謀ヲモ尙ホ第百二十五條ニ依リテ嚴重ニ處斷セント欲スルモノノ如シ然リト雖モ前已ニ詳述シタルカ如ク本條ノ豫備ハ事實上之ヲ制スルコトヲ得ナルノ結果茲ニ「内亂ト同シク論セントシタルハ是レ軍ニ裁判所構成法第五十條ノ規定ニ依リ管轄ニ影響ヲ及ホスカ又ハ從犯減ハ減等處分ヲ爲スニ際リ國事犯ノ刑ヲ適用セサルヘカラナル結果ヲ生スルニ過キサラン。

(二) 其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス——或學者ハ説ヲ爲シテ曰ク「茲ニ下手者ヲ死刑ニ處ス」ト規定シタルハ謀殺ノ實行者ヲシテ單ニ附和隨行者ト同一ニ論セタムルノ不都合ヲ避ケント爲シタルニ外ナラス其他首魁及ヒ樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シテ處斷スヘキモノナリト此説ノ當否ヲ究メントセハ先ツ初ニ本條規定スル所ノモノノ何事タルヤフ論定セサルヘカラス(一)若シ本條ニシテ彼ノ一方ニ於テ暴動アルト同時ニ他ノ一方ニ於テ別ニ殺傷又ハ家屋燒燒等ノ所爲アルヲ想像シタル第百三十八條ノ如ク一方ニ於テ内亂ノ豫備又ハ陰謀アルト同時ニ他方ニ於テ別ニ數人謀殺行爲ヲ爲シタル場合ヲ豫想シタルモノナリトゼンカ學者ノ説ハ大體ニ於テ誤ナカルヘシ何トナレハ内亂ニ附和隨行シタルカ故ニ其特ニ謀殺ヲ爲セルコトヲ無視スルヲ得ナレハナリ然リト雖モ事態若シ之ニ反シ本條ニシテ内亂ト同一視スヘキ謀殺行爲換言セハ謀殺自體ヲ以テ内亂ト同視シタル場合ヲ規定シタルモノナリトゼンカ學者ノ説ハ誤認タルヲ免レサルヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ本條ニ所謂人ハ朝憲ニ相當シ謀殺ハ素亂ニ相當スルカ故ニ多人數相團結シテ以テ謀

殺行爲ヲ爲スハ尙ホ内亂ニ於テ其結體シタル多大數ノ各、其ニ朝鮮棄亂即チ内
亂罪ノ主體タルト何ノ擇フ所カ之アランヤ而シテ所謂眞ノ内亂罪ニ在リテハ
其主體中現ニ干戈ヲ執リテ以テ直接ニ朝鮮棄亂ノ舉動ヲ爲ス者アルニ拘ラス法
律ハ一般ニ内亂自體ニ對スル犯人ノ地位ヲ考ヘ以テ刑ヲ定ムルヨトト爲セリ
然ラハ即チ本條ニ於テセモ其多人數ハ各、共ニ謀殺即チ内亂行爲ヲ爲シタル者即
チ謀殺罪ノ主體タルカ故ニ其直接ニ謀殺行爲ヲ實行シタルト否トニ關セヌ一
般ニ謀殺自體ニ對スル犯人ノ地位如何ニ依リテ刑ヲ定ムヘク謀殺ノ實行者メ
ニニ對シテ死刑ヲ科スルハ寧ロ論理ノ貫徹セサルモノアビハナリ(二)然リ而シ
テ本條ハ果シテ前段ノ場合ヲ規定シタルモノナルヤ抑モ亦後段ノ場合ヲ規定
シタルモノナルヤ此點ニ付テハ前ニ已ニ詳論シタルカ如タ後段ノ場合ヲ規定
シタルモノタルコト疑テ容ビ(イ)若シ夫レ後段ノ場合ヲ規定シタルモノメナリ
トセシカ右ニ述ヘタルカ如タ第一百二十一條メ場合ニ於テハ内亂軍ノ全員ヲ以
テ各、内亂罪ヲ犯シタル主體ト爲シ之カ處分ニ付テハ各自ノ位地ニ依リテ之ヲ
定ムルニ拘ラス之キ準スル本條ニ在リテハ唯リ謀殺實行者ノミヲ死刑ニ處ス

ルカ如キ不論理ヲ爲スソ理之ナカルヘシ否縱令百歩ヲ讓リテ假ニ之ヲ以テ至
當ナリトスルカ故ニ法律ハ茲ニ之ヲ明記シタルトスルモ其教唆者ヲ明記シタ
ルニ至リテハ學者ハ恐クハ之ヲ解クノ辭ハカラシ蓋シ本條ノ謀殺ハ内亂ニ相
當スルモノニシテ内亂人教唆ハ業ニ已ニ第一百二十一條ノ例ニ依リテ死刑ニ處
セラルヘキモノナルカ故ニ若シ夫レ本條ノ處分ニシテ第一百二十一條ニ依ル
キモノナリトセハ本條ノ教唆者ハ當然死刑ニ處セラルヘク本條更ニ之ヲ言フ
ノ要ナケレハナリ(ロ)更ニ又數百步ヲ讓リ本條ヲ以テ前段ノ場合ヲ規定シタル
モノナリトスルモ學者ノ說ハ尙ホ之ヲ容ルノ餘地ナカラントス何トナレ
謀殺ノ下手者及ヒ其教唆者ヲ除クノ外ハ未タ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル
ニ遇キタル者ナルカ故ニ此等ノ者ニ對シテハ單ニ第一百二十五條ヲ適用スルニ
止メサルヘカラス然ルニ學者ノ說ニ從ヘ犯人ノ中二三ノ者カ謀殺行爲ヲ爲
シタルカ爲メ第百二十一條ニ依リテ處断セラレサルヘカラサルモノニシテ他
人ノ所爲ニ因リテ重キ刑罰ヲ科セラルルノ結果ヲ生スレハナリ

以上論述シタル所ニ依リテ我輩ハ徹頭徹尾學者ノ說ヲ容ルルコト能ハス我輩

ハ惟ラタ(イ)本條ノ罪ハ性質ヨリ内亂ニ準スヘキモノナリト雖モ其所爲自體ハ單純ナル謀殺行爲ニシテ其行爲タル普通一人又ハ數人ニテ之ヲ實行スヘク敢テ多人數相團結シ罪兵ノ行爲ニ因リテ之ヲ遂タルカ如キヘ絶ニテ之アルヘカラナルト(ニ)若シ本條ノ處分ニシテ第百二十一條ニ據ルモノニアリトセハ法文ハ其敢殺者及ヒ下手者ヲト言ハシテ敢殺者及ヒ下手者ハ云云ト言ヒ以テ他ノ一方ニ於ヲ首魁以下ノ第百二十一條ニ依リテ處斷セラルモノノアムコトヲ示スヘキニ似タリ然ルニ其茲ニ出テスシテ其敢殺者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處スト爲セルトニ據リテ之ヲ觀レハレ立法者ハ第百二十一條ニ依ルヘカラナルヲ覺悟セシカ故ニ該條ニ拘ラズ本條別ニ刑例ヲ定メタルモノニシテ普通ノ謀殺ニ於ケルカ如ク敢殺者トハ謀殺行爲ヲ使嗾シタル者下手者トハ之ニ因リテ謀殺行爲ニ從事シタル者ニシテ彼ノ學者ニ主張スルカ如ク本條以外更ニ第百二十一條ニ依ヌテ處斷セラルモノアルコトナシト

當大變革之歲成始(新舊合意)而開國之時也。此地獨創之開國之時也。

第四段 未遂豫備陰謀及ヒ自首ノ處分

第一 未遂犯ノ處分 第百二十四條ニ曰「前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス」前ニモ述ヘタルカ如ク本條ニシテ本刑ヲ科ストアルハ慕氏カ内亂罪ハ犯人ニ於テ其目的ヲ達シタルトキハ到底之ヲ罰スルコト能ハサルカ故ニ其未タ目的ヲ遂ケサルニ當リ之ヲ罰スルコトセナルヘカラヌトテ草案中現行法ノ第一百二十一條ニ相當スル法條ノ次ニ記載シタル法條即チ草案第一百三十八條ノ文字ヲ立法者ノ疏漏ヨリ其僅茲ニ移シタルモノニシテ前三條トアルハ第百二十一條ト云フノ誤認ナルカ故ニ本條ハ單ニ第百二十一條ノ未遂犯罪ニノミ適用セラルモノニシテ第百二十二條ノ未遂ハ其レ自身内亂ノ豫備ナルカ故ニ第百二十一條ノ豫備トシテ第百二十五條ニ依リ第百二十三條ノ未遂ハ總則未遂犯ノ例ニ依ルヲ相當トスルカ如キモニニ前三條ト明記シ在リ到底之ヲ無視スルコトヲ得ナルカ故ニ予ハ「前三條ニシテ本刑ヲ科ス」トハ「仍ホ本刑ヲ科ス」下解ヲ第百二十一條及ヒ第百二十二條ノ未遂ハ直ニ第百二十一條ノ既遂ニ科スヘキ刑即チ同條第二項ノ例ニ依リ第百二十三條ノ未遂ハ其既遂ニ科スヘキ刑ニ依リ處分スルモノト爲ス

第二豫備及ヒ陰謀ノ處分 第百二十五條第一項ニ曰ク内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス又第二項ニ曰ク内亂ノ陰謀ヲ爲シ未ク豫備ニ至ラナル者ハ各二等ヲ減スト(イ)第百二十一條ノ豫備及ヒ陰謀ハ法文ノ示ス所明カナレハ別ニ茲ニ説明セス諸君ハ自ラ總則ト第百二十一條ノ別トニ依リテ加減ヲ試ミラルヘシ(ロ)第百二十二條ノ豫備及ヒ陰謀ニ付テハ第百二十四條トノ關係上少シク説明ヲ加ヘサルヘカラス即チ第百二十四條ニシテ單ニ第百二十一條ニヨリ關スルモノナリトセンカ第百二十二條ハ自體内亂ノ豫備タル所爲ナルモ唯其事態少シク容易ナラナルモノナルカ既ニ刑一級ヲ進メテ既遂ニ準シタルモノニシテ例之第百四十六條ニ於テ因テ囚徒ノ逃走ヲ致タル時ハ一等ヲ加フト言ヘント同シク内亂豫備ノ所爲ノ加重ノ情タルニ過キナルモノナルカ故ニ其所爲ハ獨立シテ別ニ其未遂豫備又ハ陰謀ノアルコトナク未遂前ニ逃ヘタルカ如ク豫備ハ其レ自身第百二十一條ノ罪ノ豫備トシ陰謀ハ内亂ノ陰謀トシ(自首ハ其自首トシテ罰セツルヘカラス然レトモ若シ夫レ之ニ反シ第百二十四條ハ明文ノ示スカ如ク前三條ニ警ガモノトスレハ法律ニ第

百二十二條ノ所爲ヲ以テ内亂豫備ノ加重ノ情トセシム(其未遂犯アフルヲ想保スルカ故ニ一種ノ體様ニ於ケル内亂罪トシタルモノト看做スコトヲ得ヘキノ結果其豫備陰謀及ヒ自首ニ於テモ亦所謂内亂ノ豫備陰謀及ヒ自首ト同視シテ第百二十五條以下ヲ適用スベキナリ予ハ前ニモ述ヘタル如ク後段ノ見解ニ從ヒタルカ故ニ第百二十二條ノ豫備陰謀及ヒ自首ハ其レ自身獨立シタル一種ノ體様ニ於ケル内亂罪ノ豫備陰謀及ヒ自首トシテ第百二十五條以下ヲ適用處断スベキモノト爲ス(ハ)第百二十三條ノ罪ニ付テハ前ニモ述ヘタルカ如ク本條及ヒ第百二十六條ノ適用ナシ

第三 自首ノ處分 第百二十六條ニ曰ク内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ...
...官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス(下内亂罪ノ自首ニ付テ此特例即チ本刑ヲ免スルヲ設ケタル所以ノモノハ畢竟内亂ハ其一旦發生スルニ至ラヘ多數ノ人命ヲ喪失スヘク或ハ鉅萬ノ富ヲ害フカ故ニ之ニ因リテ自首ヲ勧誘シ以テ大事ニ至ラサシメントノ政策ニ出ツルモノトス其本刑ヲ免スルニ拘ラス之ヲ監視ニ付スルハ是レ犯人ノ意中尙ホ信ヲ置キ難キ

モノナルカ故ナリ終ニ臨ミ數箇ノ注意ヲ要スヘキモノアリ(イ本條自首ノ條件ヲ充タス者ハ其首魁タルト放駿者タルト其他ノ者タルトヲ聞ハス均シク此恩典並ニ處分ヲ受ク)茲ニ規定スル所ノ監視ハ總則ニ所謂特別監視ニシテ其日數ノ起算ハ第四十條第二項ニ依リ裁判確定ノ日ヨリスヘキモノトス(ハ内亂ノ豫備又ヘ陰謀ニ對スル刑罰ヲ免ルヘキ自首ナルカ故ニ本條自首ノ規定ハ内亂ノ豫備及ヒ陰謀ヲ罰スヘキモノノミニ適用セラル換言スレハ第百二十三條ノ罪ノ豫備及ヒ陰謀ハ其レ自身無罪ナルカ故ニ本條ノ適用ナシ尙ホ一言ス本條ニハ監視ニ付ストアリ監視ニ付スルハ犯人ノ意中信シ難キモノナルカ故ニシテ若シ其信ヲ置クニ足ルヘキ者アランカ全ク無用ノ規定タルヲ免レバ故ニ宜シク改メテ監視ニ付スルコトヲ得トシ以テ其監視ニ付スルト否トハ裁判官ノ自由ノ判定ニ一任スルニ若カス

第一款 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上

第一百二十七條ニ曰ク内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上

ル罪

五年以下ノ輕罪(ニ處ス)ト

(甲) 成立要素 本條規定ハル所レ罪ハ左ノ二箇ノ要素ヲ以テ成立ス

第一 心内ノ要素 内亂ノ情ヲ知テ集會所ヲ給與スルノ意思アルコト(丙)

第二 心外ノ要素 犯人ニ集會所ヲ給與シタルコト

第一 心内ノ要素 内亂ノ情ヲ知テ集會所ヲ給與スルノ意思アルコト(乙)丙
亂トハ内亂軍ハ勿論其豫備陰謀等總テ内亂ノ所爲ヲ謂ヒ情ヲ知ルトハ右ノ如キ内亂ノ用ニ供スルモノタルノ事情ヲ知ルヲ謂フ(丙)犯人ニ集會所給與ノ意思アルコト意思トハ或所爲ニ附著シテ併行シタル意識ノ體ニシテ人カ總チノ行為ニ付テ責任ヲ負フヘキ心内ノ要素タリ即チ茲ニハ集會所給與ソ所爲ト併行シタル意識ノ體アルヲ要ハ本罪ヲ成立スル爲メノ心内要素トシテ内亂ノ情ヲ知ルト集會所給與ノ意思アルヲ要スルカ故ニ総合集會所給與ノ意思アルセリ又ハ内亂ノ情ヲ知ルモ邸内ヲ覽セシムルノ意思ナルカ若クハ意外ノ強制ニ由リ意思ヲ自由ヲ失却タルカ如キ場合ハ孰レモ總則ノ適用ニ依リテ無

罪ヲリ然レトモ若シ夫レ此二要素ニシテ缺クル所ナカラシカ其内心ノ原因所
爲ノ違因ノ如レハ犯罪ノ成立ヲ妨ケナルカ故ニ其或ハ犯人ヲ利スル爲メナル
ト自己ヲ利スル爲メナルト問ハス本條ノ罪人タリ

第二 心外ノ要素 犯人ニ集會所ヲ給與シタルコト (一)犯人タルヲ要ス法文
ニハ犯人トソミ在リテ種類ニ付テハ敢テ區別ヲ設クル所ナシ故ニ首魁タルト
裁唆者タルト其他ノ者タルト問ハス總テ本罪成立ノ要素ヲ妨ケス犯人タル
ヲ要スルカ故ニ犯人ナクト信シタル犯人以外ノ者ニ給與シタルトキハ本罪ヲ構
成キス(二)集會タルヲ要スルノミナルカ故ニ家庭、船、田野、山林等場所ノ如何ヲ
開ハス苟ニ集會シ得ヘキ場所ハ本罪構成ノ要素ヲ形成スルコトヲ得三給與シ
タルコト給與ヲ廣キ意義ノ文字ナルカ故ニ賣買ニ因ルト贈與ニ因ルト貸借
ニ因ルト問ハス者之ヲ包含ス
以上ノ各要素ニ於テ缺クル所ナカラシカ直ナニ本罪ヲ構成スヘシト雖モ尙ホ
茲ニ就ニノ注意ヲ要スルモノナリ
(一) 本條ニ規定スル所ハ集會所給與ノ罪ナルカ故ニ若シ軍器、兵糧、其他直接間

接ニ内亂軍ノ用ニ供スヘキ物件ヲ廻置スル爲メニ家居倉庫其他ノ場所ヲ給與
シタル者アリタルトキハ如何ニテ之ヲ處分スヘキヤ總則ニ之ヲ照サハ固ヨリ從
犯ノ所爲タリト雖モ内亂罪ノ主體ハ各其地位ニ依リテ刑ヲ異ニセルカ故ニ其
孰レノ正犯ニ對スル刑罰ヲ自安トスヘキヤフ知ルヘカラナルニ依リテ之ヲ觀
レハ蓋シ法律ノ缺點トシテ第二條ニ依リ無罪ヲ言渡サアルヲ得テランカ
**(二) 本條ノ罪ハ内亂ノ犯罪中ニ係ル所爲ナルカ故ニ犯後犯人ヲ藏匿シ若クハ
其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタル所爲ハ第百五十一條第百五十二条ニ依リ
テ處分セサルヘカラス**

**(三) 前既ニ述ヘタルカ如ク我輩ハ第百十三條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ハ法律上之
ヲ罰スルヲ得ストノ見解ヲ有スルモノナルカ故ニ其豫備陰謀ノ幫助ノ爲メ本
條規定スル所爲ナルモ本條ノ罪トシテハ之ヲ罰スルヲ得ス蓋シ本條規定スル
所ノ所爲ハ素ト是レ從犯ノ所爲ニシテ從犯ハ正犯ノ所爲罪ヲ構成セサルニ哉
テハ存立スヘキモノニ非ナレハナリ**

(四) 内亂ヲ起ナントノ決意ヲ爲スカ如キ者ハ其所爲自體ノ性質上刑罰ノ如何

ニ拘ラス初ヨリ生呑ヲ賭スルハ覺悟アルヲ當トス左レハ此等ノ者ニ對シ自首ノ特例ヲ置クモ實益ヲ見ルコト蓋シ極メテ稀ナルヘシ之ニ反シテ本條ノ犯人ニ於クハ此ノ如キ罪固ナル決心アルコト大キ其内亂ノ事情ヲ知悉スルコト猶人ニ讓ラナル上ニカ故ニ之ヲ待フニ第百二十六條ノ特典ヲ以テセハ却テ立法ノ本旨ヲ全ウスルコト多カラシ然ルニ法律ハ却テ正犯ニノミ自首ノ特例ヲ設ケラ本條ノ犯人ニハ之ヲ設ケズ是レ蓋シ錯誤ナラン

(乙)處分 本條ノ罪ハ正犯ヲ幫助シテ内亂罪ヲ容易ナラシムモノ即チ從犯ニシテ從犯ノ處分ハ第百九條ニ規定スル所ナリ然ルニ其法律カ之ヲ總則ニ讓ラスシテ特ニ本條ノ規定ヲ置キ以テ二年以上五年以下ノ輕禁罰ヲ科ストシタル所以ハ是レ内亂罪ノ正犯ハ首魁教唆者等種種ノ者アリテ刑亦各相異ナルカ。故ニ其孰レノ正犯ヲ自安トシテ其刑ヲ定ムヘキヤヲ知ルヘカラナルニ因ルナリ

國公文書ノ上内亂罪ニ主體ハ各其處置ニ付リテ既ニ異ニナラム也其處分

第三款 内亂ニ乘シ内亂ノ目的以外ニ於テ人の身體

計ニ内亂罪ハ既ニ類ニ財產ニ對シテ犯シタル重罪輕罪及ヒ其處分

甲 「ガロー氏佛國刑法論第一卷第九十六號ニ曰ク或犯罪ハ之ヲ其所爲自體ヨリ換言スレハ客觀的ニ觀察スルトキハ一箇人若クハ一私人トシテノ権利ヲ傷害スル者アルモ若シ之ヲ其犯人ノ意思ヨリ群言スレハ主觀的ニ觀察スルトキハ其所爲ハ政事的ノ性質ヲ違因トシテ目的トシテ又ハ機會トシテ有スルモノアリ此等ノ犯罪ハ之ヲ學問上ノ語ニ於テ複雜又ハ牽連シタル犯罪ト名ケ若シ犯罪行爲カ例之政事上ノ目的ヲ以テ國首ヲ殺害シタルカ如ク一所爲カ同時ニ政事上ト非政事上ノ秩序ヲ害スルトキハ之ヲ複雜又ハ中性ノ犯罪ト名ク若シ内亂ト放火又ハ掠奪ト云フカ如ク政事犯罪ニ常事犯罪ヲ隨伴シテ生スルトキハ之ヲ牽連シタル犯罪ト名ク而シテ其此等ノ所爲カ政事的タルヤ將夕當事犯罪タルヤヲ區別スルニ付テ或學者ハ所爲自體ヨリ觀察セスシテ偏ニ犯人ノ意思如何ニノミ著眼シテ複雜ノモノ牽連ノモノ共ニ皆政事的犯罪ナリト謂ヒ又或學者ハ犯人ノ意思如何ニ著眼セス所爲自體カ政事的犯罪タルモノミヲ以テ政事的犯罪ナリトセリト雖ニ二者何レキ極端ニ失スルモノナリ此問題ハ下ニ掲タル二箇合ヲ區別セサレハ之ヲ決スル能ハス第一ハ内亂等ニ關係ヲ有

セナル常事犯罪カ政事上ノ理由ヲ燃因トシテ生シタル場合例之私怨又ハ他ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ等ニ非ス單ニ政府ヲ顛覆セントノ目的ニ由リ國首又ハ大臣等ヲ殺害スルカ如キ結合ナリ此結合ニ於テハ之ヲ政事犯罪トスヘキヤ否ヤ予ノ考フル所ニ據レハ一ノ所爲カ國事犯罪タルヤ否ヤハ其政事上ノ理由ノ存在スルト否トニ依リテ定マルモノニ非スシテ其行爲自體ノ性質ニ依リテ定マルモノナリ換言スレハ法律上ニ於テハ彼ノ復讐貪慾又ハ情慾ニ由ル殺害盜取又ハ放火等アルコトナキカ如ク政事的又ハ非政治的殺人放火又ハ盜取等ヲ區別セサルナリ固ヨリ裁判官ハ其之カ刑罰ヲ定ムルニ當リテハ犯罪ノ違因故ニ著目シテ或ハ輕減加重スルコトアルヘキモ其所爲自體ノ性質ハ依然トシテ變スルコトナシ(第二然レトモ若シ或犯罪カ例之内亂ノ如キ出来事ト或ハ複雜シ或ハ牽連シテ生シタル場合ニ於テハ之ヲ政事犯罪ト謂フヲ得サルヤ予ハ左ノ區別ヲ以テ之ヲ決セント欲ス)一源殺人又ハ放火ニシテ若シ規則正シキ國際法ニ背カサル戰爭ニ於テ生スルモ尙ホ正當ノ行爲ナリトセラル場合ニ於テハ其所爲ハ其之ヲ爲ナンカ爲メニハ必要又ハ避クヘカラナリ所ノ内亂

ノ行爲ニ吸收ヒラルヘン體チ其行爲ハ國事犯ト同一ノ取扱ヲ受クベシ(二)無レトモ若シ其人又ハ財產ニ對スル所爲カ國際公法上ノ戰争ニ於テ非認セラルモノタルトキハ非政事犯罪タリト
以上ノ民ノ説明セル所タリ我輩ハ後段ノ決定ニ付テハ間然スル所ナシ蓋シ畢竟明文ニ依ルト云フニ歸著スレハナリ然レトモ前段ニ關シテハ少シク異論ナキヲ得ス何トナレハ氏カ其所謂所爲自體ノ性質上ハ如何ナルコトヲ意味スルキ自然上ノ舉動ヲ謂フモノナルヤ將タ法律上ノ舉動ヲ指スヤ若シ自然上ノ所爲フ謂フモノナリトセハ少シク疑ナキヲ得ス凡ソ一箇ノ所爲ハ法律の眼孔日リ見レハ二箇ニ觀察スルコトヲ得ヘキモノアリ例之家宅侵入ノ所爲ハ自然上ノ舉動ニ於テハ家宅侵入ノ所爲タルモ更ニ他ノ方面ヨリ之ヲ觀レハ其所爲ハ常ニ必シモ家宅侵入ト謂フヲ得ス犯人ニ於テ物件ヲ竊取スルノ意思アルトキハ家宅侵入ノ所爲ニ非シテ竊盜未遂ノ所爲タリ又私ニ銃砲彈薬ヲ所持スルカ如キ所持ト謂フ自然上ノ所爲ハ常事犯タルモ若シ犯人ニ於テ國事犯罪ヲ犯スノ意思アルトキハ國事犯ノ豫備タリ然ラハ單ニ總ラ自然上ノ所爲ノミ

リ観察セントスルトキハ大ナル誤ヲ生スヘシ若シ又所爲自體ノ性質トハ法律上ノ所爲ヲ謂フモノナリトセハ法律上ノ所爲ハ畢竟明文ニ依リヲ決セラルヘキモノナルカ故ニ單ニ明文ニ依ルト云フノ簡且ツ明カナルニ若カス——然ラハ今或所爲カ國事犯タルヤ將タ非國事犯タルヤヲ知ランニハ常ニ之ヲ明文ノ上ヨリ觀察セサルヘカラス明文上國事犯タル所爲ニ包含セラルモノトハ(一)明文ノ正面ニ現ハレタル所爲ニ裏面ニ必然生スヘキ所爲(二)必然ノ手段是ナリ例之城壘ヲ破リ敵ノ軍糧ヲ掠奪シ又ハ敵ヲ殺害スルカ如キハ皆通常國事犯罪タル戰爭ノ行爲中ニ包含セラルモ彼ノ婦和ノ使者ヲ斬リ又ハ抗敵セサル老幼婦女等ヲ斬殺スルカ如キハ内亂ト謂フ所爲ノ中ニ包含セラルモノニ非ス唯其之ニ牽連シタル非國事犯ノ所爲タルノミ

(乙)一處分ニ付テハ非國事犯ノ所爲ト國事犯ノ所爲トヲ比較シテ重キニ從テ論ス格別説明スヘキコト大キモ唯茲ニ注意スヘキハ(一)本條ニハ内亂ニ乘シシト在ルカ故ニ其犯罪ハ内亂ノ際ニ起シ又内亂上牽連スルモノト不異ス故ニ内亂ノ前或ハ後ニ起シタル所爲九件然又ハ内亂ノ際ニ起シタルモノナリト難キ

第二節 外患ニ關スル罪

内亂ト全然關係ヲ有セサルモノイ例之數ノ賊博強姦墳墓發掘等ノ所爲ハ第百條ヲ適用處斷スヘキモノニシテ本條ヲ適用スヘキノ限ニ在ラサルナリ(二)本條ノ規定ハ第百條ヲ經返シタルモノニ非スシテ法律カ特ニ之ヲ一箇ノ罪トスルノ規定ナリ故ニ本條ニ依ラシテ第百條ニ依リ若クハ本條ヲ適用シナカラ尙ホ第百條ヲ適用スルカ如キコトアランカ明カニ誤判タルヲ免レサルヘシ

外患ニ關スル罪トハ國家ノ外部ノ安寧ニ關スル罪ヲ謂フ昔時ニ在リテハ之ヲ以テ國家ノ内部ノ安寧ニ關スル罪(内亂罪ト共ニ大逆罪ナル罪名ノ下ニ包含セシメシカ近世諸國ノ立法者ハ一ハ國民全體カ其外部ニ對スル關係ヲ傷害セントスルニ在ルト他ハ國家内部ノ憲法上ノ組織ヲ破壊又ハ變更セントスルニ在ルトノ點ニ著眼シ大抵之ヲ區別スルコトト爲セリ而ナラ其之ヲ國事犯トスルヤ非國事犯トスルヤニ付テ我立法者ハ近世一般ノ立法及ヒ學說ニ從ヒ二者何レモ國家ノ存立又ハ獨立ヲ害スルモノタリトノ理由ヨリシテ之ヲ政事犯罪

ナリトセリ學理上ニ於テハ多少ノ非難ヲ試ムルノ餘地ナキニ非アラン
本罪ハ第二編第二章第二節ノ規定スル所ニシテ法律ハ此罪名ノ下ニ二種ノ犯
罪即チ一ハ本國ニ背叛スル罪而シテ更ニ之ヲ區別セハ甲ハ本國ニ抗敵スル罪
(直接ニ背叛スルモノ乙ハ敵國ヲ幫助スル罪又ハ之ニ内應スル罪間接ニ背叛ス
ルモノ他ハ外患ノ誘引ヲ形成スル罪ヲ規定シ最後ニ本節共通ノ第百三十五條
ヲ置ケリ共通ノ規定ハ別ニ説明ノ要ヲ見ナルカ故ニ予ハ之ヲ省略セントス

第一款 背叛罪

外患ニ關スル第百二十九條乃至第百三十二條ニ規定スル所ノ罪ハ其直接ニ背
叛スルモノ第一二九條下闇接ニ背叛スルモノ(第一三〇條乃至第一三二條トフ
分タス何レモ帝國ノ臣民タルニ缺クヘカラツル忠君愛國ノ大義ヲ忘却シ以フ
帝國ニ背叛スルモノナルカ故ニ予ハ之ヲ總稱シテ背叛罪ト名ク

第一項 本國ニ抗敵スル罪

第百二十九條ニ曰ク「外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中同盟國ニ抗
敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處スト」本條ハ佛文草案
第一百四十八條第一項致ト合同シテ日本又ハ外國戰爭ニ於テ日本ト盟約シタル
同盟國ニ對シテ兵器ヲ執リタル總ノ日本臣民ハ大叛逆ノ罪人トシラムニシニ
處ス云々第二項任意ニ日本及ヒ其同盟國ニ對シテ交戦中ナル外國ノ軍隊ニ加
エリタル者若クハ或資格ヲ以テ敵軍ノ幫助トシテ之ニ附屬シタル者ハ日本又
ハ同盟國ニ對シテ兵器ヲ執リタル者ト同視スト」ト在リタルニ淵源スルモノニシ
テ本條中「外國ニ與シテ本國ニ抗敵シハ草案第一項致ト合同シ日本……ニ對シ
テ兵器ヲ執ルニ又外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シハ草案外國戰爭ニ於テ云々ニ
其他以下ハ草案第二項ニ相當スルモノニシテ概括シテ之ヲ言ヘハ前段ハ敵國
ニ附屬スル重ナル者後段ハ其他何等ノ名義ニ於ケルヲ問ハス總テ敵兵ニ附屬
スル者ヲ包括シテ規定セリ予ハ今便宜上第一段ニ於テ其成立要素第二段ニ於
テ其處分ヲ説明スヘシ

外國ニ與シタルコト第一段 成立要素

(甲) 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シタル場合
此場合ハ下ノ二要素ヲ以テ成立ス第一外國ニ與シタルコト(第二)本國ニ抗敵シタルコト是ナリ

第一ノ要素 外國ニ與シタルコト

(二) 外國トハ何ソヤ曰ク外國トハ日本ノ版圖以外ニ於テ別ニ一定ノ土地ト主權トヲ有セル人民ノ團體ヲ謂フ故ニ彼ノ我刑法第百三十八條ニ規定スルカ如キ場合詳言スレハ所屬政府ニ認許フ經シテ我國ニ敵シタル外國人若クハ何レニモ國籍ヲ有セナル外國人ヨリ成レル軍隊ニ投シタル日本人ハ繼令日本ニ抗敵スルコトアルモ其或ハ依テ殺人又ハ強盜ノ行爲アリタルトキハ殺人又ハ強盜等ノ罪人タルハ格別本條ノ罪人タルコトナシ是レ法文外國ニ與シタルトアノヨリ生スル所ノ結果ニシテ蓋シ法文ノ環境タラン宣シク佛國刑法第七十五条ノ筆法ニ倣ヒ日本國ニ抗敵シタル日本人云々ト改ムヘシ(二)與スルトハ草

案ニ所謂合同シノ義ニシテ其意義極メテ廣シ故ニ身ヲ外國ノ軍隊ニ投スルム勿論外國軍隊ト盟約ヲ結ヒ共同連合シタル者モ亦外國ニ與シタル者ト謂ズヘキナリ

第二ノ要素 本國ニ抗敵シタルコト

本國トハ佛文草案第四十八條日本人敵ト合同シテ日本國ニ對シタル中ノ日本國ニ當リ又其之ヲ譯シタル日本文草案同條日本人外國ニ與シテ本國ニ敵シタル者下アル中ノ本國ニ該當スルヲ觀レハ犯人即チ日本人口國籍ヲ有スル國即チ日本國ヲ指スモノタルヤ明カラリ隨テ本要素ハ更ニ左ノ如ク分フコトヲ得ヘシ曰ク(一)日本人タルヲ要ス(二)日本國ニ抗敵シタルコトヲ要ス(二)日本人タルヲ要ス日本人トハ日本國ニ國籍ヲ有スル者ト謂フノ義ナリ故ニ日本ニ生シタル者ト雖モ日本ニ國籍ヲ有セナル者又ハ嘗テ日本人タルシモ民法上其他法律上ノ理由ニ據リテ所爲ノ當時日本ニ國籍ヲ有セナル者ハ日本人ニ非ツクカ故ニ本條ノ罪人タルヲ得ス而シテ其果シテ如何ナル場合ニ於テ日本ニ國籍ヲ有スル者ト爲スヘキヤ否ヤノ問題ハ諸君請フ之ヲ國民分限ノ得

夷ニ關スル法律ニ於テ研究セヨチト否セ、調査ハ種種種々シテ國事ニ關スル解説、本罪ノ犯人ノ必ス自國人タルヲ要スルハ獨リ我國ノ如ク治外法權ノ行ハルル國ノミニ限ラス歐米諸國皆其授ヲニスル所ナリ蓋シ國家ハ臣民ノ生命身體財產等ノ利益ヲ保護スルカ故ニ其之カ保護ヲ受クル所ノ臣民ハ亦之ニ對シテ忠實ナラナルヘカラナルノ義務アリト雖モ之ニ反シテ外國人ハ其自國ノ爲メ日本ニ抗敵スルハ却テ其本國ニ對シテ忠ナル所以ナルノミナラス縱合本國以外ノ外國ニ與シテ日本ニ抗敵スル者ハ單ニ或場合ニ於テ本國法ヲ犯スノ罪人タルノミ日本ニ對シテハ毫モ忠實ナラナルヘカラナルノ義務ナキカ故ニ日本ハ之ヲ罰スルノ理由ヲ有セス次ニ説ク所ノ第二、第三ノ場合ニ於テモ亦犯人ノ日本人タルヲ要スルハ一ナリ是レ一ハ同種ノ所爲タルト他ハ茲ニ説明スル所ノ理由アルトニ據リテ之ヲ知ルヘシ

(二)抗敵スルコトヲ要ス 抗敵トハ佛文草案^{〔二〇〇〕}兵器^{〔一〇〇〕}執^{〔一〇〇〕}ニ相當スルモノニシテ即チ全然兵器ヲ執リテ日本軍ニ敵對スルヲ謂フ但シ其已ニ實戰ヲ爲シタルト否トハ敢テ問フ所ニ非ス干戈ヲ執リテ日本軍ト戰フヘキ姿勢ニ在ルトキ

(乙) 外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シタル場合

此場合ハ下ノ三要素ヲ以テ成立ス(第一)日本人タルコト(第二)外國ト交戰中ナルコト(第三)同盟國ニ抗敵シタルコト是ナリ

第一ノ要素 日本人タルコト

是レ前ニ説明セシ所ナリ請フ前段ヲ参照セヨ

第二ノ要素 外國ト交戰中ナルコト

(一)外國ノ何タルヤハ既ニ前段之ヲ説明セリ但シ茲ニハ外國ト交戰中トアルカ故ニ内亂ノ交戰中ハ此場合ニ包含セナルヲ注意スルニ止メント(二)交戰トハ

彼ノ「カルボー民」ノ説明セシカ如ク甲國ト乙國ト又ハ一國中ニ於テ異ナリタル政黨ニ屬スル甲人民ト乙人民トノ間ニ於ケル平和關係ニ代レル爭鬭關係ニシテ平和手段ノ以テ之ヲ得ヘカラサルモノヲ兵力ヲ藉リテ獲得スルコトヲ目的トスルモノヲ謂フ故ニ戰爭中トハ彼ノ復行(對手者ノ爲シタルコト同一ノ事ヲ)綠返スコト復實對手者ノ非ヲ責メンカ爲メ暴力ヲ以テ自ラ直ウスルコト)拘留(對手者ノ軍艦商船等ヲ差押フルコト)封鎖港灣又ハ陸地ノ通行ヲ差止ムルコト等ハ總テ國際法上未タ之ヲ戰爭ト謂ハサルカ故ニ此等ノ所爲アルモ決シテ之ヲ交戰中ト謂フヲ得ス左レハ茲ニ戰爭ト平和トノ時期ノ分界ヲ定ムルノ要アリ史ヲ按スルニ古昔希臘羅馬ノ時代ヨリシテ十八世紀ノ末葉ニ至ルマテハ學說上及ヒ實際上ニ於テモ兩國戰爭ヲ開始スルニ及ヒテハ先ツ其時期ヲ對手者ニ宣言シテ之ヲ自國人民ニ公布スルコトヲ要セリ此時代ニ在リテハ凡テ戰爭ハ此時期ヨリ開始スルモノナルカ故ニ此以後ニ非スンハ之ヲ交戰中ト謂フアリシト雖モ十九世紀ノ初葉ヨリシテ以降ニ於テハ獨リ學說ニ於テノミ戰爭ハ必ス昔時ノ如ク宣言ニ依リテ開始セラルヘキモノタルコトヲ主張スルノ

ミニシテ實際ニ於テハ開戰ノ宣言ヲ爲サヌシテ直チニ公然開始スルカ或ハ之ヲ宣言スルモ開戰後單ニ形式的ニ之ヲ爲スニ止マルノ慣例一般ニ起リ今日現ニ某國ノ如キハ始終開戰ヲ宣言スルコトナシ是ニ於テカ國際上戰爭ト平和ノ時期ニ變動ヲ生シ今日ノ國際法ニ於テハ開戰ノ宣言及ヒ布告ニ先ナ公然タル戰爭ノ行爲アリタルトキハ此時ヲ以テ開戰ノ時期トシ公然タル戰爭行爲ニ先チ戰爭ノ宣言アリタルトキハ此時ヨリ交戰ノ時期ト看做スコトト爲セリ我輩ハ惟ラク戰爭ノ有無ハ事實ノ問題ニシテ法律ノ問題ニ非ス故ニ公然宣戰ノ布告明治十五年八月第三十七號布告參看アリタルトキハ勿論繼令宣戰ノ布告ナキモ若シ夫レ已ニ公然戰爭ノ開始セラルニ於テハ檢事ハ當然之ヲ理由トシテ本罪ノ公訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ唯其彼ト此トノ場合ニ於テ相異ナルノ點ハ彼ニ在リテハ檢事ニ於テ宣戰ノ布告アリタルヲ證明スルニ於テハ被告人之ヲ知ラナルヲ理由トテ其實ヲ免ルコトヲ得サルモ此ニ在リテハ檢事ハ先ツ公然戰爭ノ開始セラレタルコト及ヒ被告人ノ之ヲ知得セルコトヲ證明スルニ非スンハ被告人ハ其實ヲ免ルコトヲ得ルノミ

第三ノ要素 同盟國ニ抗敵シタルコト

(一)抗敵ニ付テハ前ニ説明シタルカ故ニ更ニ之ヲ贅セス
（二）同盟國 茲ニ所謂同盟國トハ戰時同盟國ノ謂ニシテ非戰時同盟國ヲ謂フモ
ノニ非ス何トナレハ素ト本罪ヲ罰スル所以ノモノハ其所爲ノ本國ニ抗敵スル
ト同一ナルカ故ニシテ非戰時同盟國ニ抗敵スル所爲ハ或ハ局外中立ニ違反ス
ルノ所爲タルカ或ハ私ニ戰端ヲ開クノ罪ニ該當スヘキコトアルノミ本國ニ抗
敵スルト同一視スヘキ理由ノ存スルモノナケレハナリ

(丙) 其他本國ニ背叛シタル敵兵ニ附屬シタル場合

其他トハ前二者ト同一ノ性質ヲ有スル者ニシテ而モ其内ニ包含セラレサル總
チノ者ヲ包括的ニ規定シタル語ニシテ群言セハ前二者ノ場合ハ現ニ干戈ヲ執
リテ本國又ハ交戦中同盟國ニ抗敵シタル者ヲ此場合ハ之ト同性質ナル公然タ
ハ所爲ヲ以テ本國ニ背叛シタル總チノ者ヲ規定シタルモノナリ即チ此場合ハ
下ノ四要素ヲ以テ成立ス第一日本人タルコト（第二）交戦中タルコト（第三）日本國
ニ背叛シタルコト（第四）敵兵ニ附屬シタルコト是ナリ

第一 第二ノ要素ハ前ニ説明シタルカ故ニ之ヲ省略シ第三ノ要素ヨリ説明スハ
シ（一）軍事上四十人以上殺害又は暴行等の事犯ハ日本國ニ背叛シタルコト

第三ノ要素 日本国ニ背叛シタルコト

日本國ニ背叛ト規定シテ同盟國ニ背叛ト言ハサルハ背叛ナフ事ノ臣民タル大
義忠節ニ背クヲコトヲ意味スルヨリ當然生スルノ結果ナリ而シテ若シ其同
盟國ノ軍隊ニ屬シタル日本人カ之ニ背叛シタル敵兵ニ附屬シタルトキハ之ニ對
シテハ何等ノ制裁ナキヤ曰ク同盟國ニ抗敵スル罪ヲ罰スル所以ハ是レ本國ヲ
審シタルカ故ニシテ同盟國ニ背叛シタルハ即チナ是レ本國ニ背叛シタルニ外ナ
ラサルカ故ニ或ハ甲ノ場合ニ該當シ或ハ此場合ニ該當スルモノトス

第四ノ要素 敵兵ニ附屬シタルコト又は前各項を除キ外國ノ軍隊ヲ用ひて彼國陸海軍刑法中ニ使用セラレタル敵ナル文
（一）敵兵トハ我對手ノ軍隊ト謂フノ義ニシテ必スシモ其外患ニ於ケル者ト内亂
ニ於ケル者トヲ區別セナムノ語ナリ然レトモ茲ニハ「本國ニ背叛シタル敵兵ニ云
云」トアルカ故ニ茲ニ所謂敵兵トハ日本國ニ對スル敵即チ日本ト對戰中ニ在ル
外國ノ軍隊ヲ謂フモノトス隨才彼國陸海軍刑法中ニ使用セラレタル敵ナル文

字トハ自ラ其義ニ於ク廣狹ノ別ナルモノト知ルヘシ(陸軍刑法第五三條以下海軍刑法第五九條以下參照)又オム日本國ニ居テ或事件ニ日本ニ被關中ニ有
ニ附屬トハ佛文草集中ノ所謂「アフタセー」(astacise)ナル文字ニ該當スルモノニシテ
ヲ其義極メテ廣潤ナルミナラス法律ハ單ニ附屬ノ事實ヲ要スルノミニシテ
其執ル所ノ職務如何若クハ之カ有無ヲ條件トセナルカ故ニ連艦兵站醫務工業
其他職務ノ如何ヲ問ハス苟モ外國軍隊ニ屬シテ其利便ヲ扶ケタル者ハ勿論縱
合未タ何等ノ職ヲ執ラサルモ曾此場合ノ罪人タルヘシ然レトモ唯茲ニ一點注
意スヘキハ茲ニ所謂附屬ト言ヒ得ルカ為ミニハ必ス去我屬彼ナフ公然タル所
爲アルヲ要スルコト是ナリ茲シ背叛ト云ヘハ公然又ハ隱然敵ニ附屬スル所爲
タルノ結果附屬ヲテ文字ハ之ヲ右ノ如ク解スルニ非スンハ啻ニ無用ナルノミ
ナラス第二項ニ所謂内應罪トノ區別ヲ失ブヘケレバナゾ

總ニ臨ミ左ノ二點ニ付キ一言セント欲ス

(一)草案第一百四十八條二人類ハ互ニ相救援スルノ權利アルノミナラス敵ノ病院ニ在ル負傷者ニ對シテハ敵人之ヲ厚遇セザルヲ常トスルカ故ニ或ハ同胞

ヲ助ケントノ意ヲ以テ彼ニ屬スルノ醫師又ハ看護士等之ナキヲ保セスト
ノ理由ニ據リ敵ノ病院若クハ野戰病院ニノミ專屬セル醫師看護士……其他
ノ者ハ此限ニ在ラストノ明文アリタリキ之ニ付テ或學者ハ縱令敵ノ病院又
ハ野戰病院ニ專屬セル醫師看護士等ト雖モ皆同胞ヲ救援セント欲スルノ意
思ヲ有スル者ト謂フヘカラス或ハ敵ノ負傷者ヲ醫シ以テ其戰鬪力ヲ扶ケン
トノ意思ヲ有スル者亦之アルヘシ然ルニ草案ノ如ク總テ此等ノ者ヲ無罪
トスルハ是レ此等ノ輩ニ背叛罪ヲ特許スルモノナリトテ一モニモナク草案
ヲ疑議シ去レリ然レトモ是レ草案ヲ精讀セス體テ草案者カ其遂ニ確定法文
ニ於テ自己ノ意見ノ容レラレナリシニモ拘ラス尙ホ飽マテ其註解ニ於テ修
正ノ不當ヲ絶叫シテ止マサル所以ヲ知ラサルニ起因スルモノトス我輩ノ見
所ニ依レハ草案者ノ意ハ單ニ簡人の二人類ノ先天的博愛心ニ由リ敵ヲ醫
シタル者ハ縱令其身敵ノ軍中ニ在ルモ是レ敵ヲ利シ若クハ我ヲ害セント云
フカ如キ意思換言セハ本國ニ背叛シテ敵ニ附屬スルノ意思ナク偏ニ人類自
然ノ至情ヲ全ウセント欲シタル者ニ外ナラサルカ故ニ之ヲ制スルトスルハ

彼ノ恰モ赤十字社社員タル中立國ノ人民カ敵味方ノ區別ナク負傷者ヲ救護スルノ所爲ヲ非難スルト一般文明國ノ法律タルヲ得スト云フニ在リテ學者カ曰フカ如ク仁術ヲ利用シテ以テ本國ニ背叛シタル者マツモ之ヲ無罪トスヘシトノ意ニ非ナラン章案ノ文中所謂病院ニノミ專屬トノ文字以テ之ヲ證スルニ餘アレハナリ隨テ學者ノ如ク一概ニ之ヲ攻撃シ去ケハシシク聽ニ失スルモノアリ唯此ノ如キ明文ニ對シテハ畢竟冗文タリト曰ハシノミ蓋シ草案者ノ言フカ如キ場合ハ明文ヲ要セシテ無罪タルモノナレハナリ

(二)此場合ニ於テハ背叛若クノ敵兵等ノ文字アリテ交戦中ノ行爲タルヲ要スルハ明瞭ナルカ故ニ甲ノ場合ノ如ク戰爭中ノ者ト否トヲ問ハサル若クハ即カ區別アルナリ

第二段 處 分

處分ニ付テハ死刑ニ處ストアリテ別ニ説明ノ要ナシ唯一言スヘキハ本條ニ於

ヲ立法者カ單ニ死刑ニ處ストシテ第百二十一條ノ場合ニ於ケルカ如ク其犯罪人ノ位地身分ノ如何ヲ問ハナルハ是レ本國ニ抗敵シタル者ヘ非日本の動物ニシテ絶對的ニ吾人ト共存ノ條件ヲ具ヘサルカ故ナリ

第二項 敵國ヲ幫助スル罪若クハ敵國ニ内應スル罪)

前ニモ述ヘタルカ如ク第百二十九條ノ所爲モ第百三十條乃至第百三十二條ノ所爲モ共ニ本國ニ皆叛スルノ所爲タルハ是レ本國ニ抗敵シタル者ヘ非日本の動物ニ投スルカ如キ公然タル所爲アル者ニシテ後者ハ現ニ我臣民若クハ我國ノ在留者トンテ我法律ノ保護ヲ受クルト同時ニ我ノ之ヲ信スルニモ拘ラス陰ニ歎フ數ニ通スルノ所爲タルカ故ニ佛國ノ學者ハ前者ヲ「ボーリダルム」(Boil d'armes持兵器罪又ハ抗敵罪後者ヲ「トライソン」(Traison)背叛又ハ背信罪トセリ)予カ茲ニ第三十條乃至第百三十二條ノ罪ヲ括シテ之ヲ内應罪ト名ケ以テ第百二十九條ノ罪ト區別スル所以亦之ニ外ナラサルナリ

此區別ノ結果ヨリシテ第百二十九條ハ前ニモ述ヘタルカ如ク外國人ハ日本國

三忠實ナラサルヘカラナル義務ナシトノ理由ニ據リ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得サルモ本項ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ルヲ原則トス蓋シ外國人中立國ノ人民タルト敵國ニ属スル人民タルヲ問ハス)ト雖モ我治下ニ在外其生命財産ヲ保護セラルル限りハ是レ即チ順民タルヲ表章スルト同時ニ我政府ノ信用ヲ受タルモノナルカ故ニ其陰ニ欺ヲ敵ニ通スルハ背信ノ所爲タルヲ免レサレハナリ但シ我現行法ノ解釋上果シテ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ否ヤハ後ニ講説スル所ニ依リテ之ヲ知ルヘシ尤モ本論ハ在留外國人ニノミ開スルモノニシテ非在留外國人ハ第百二十九條ト第百三十條以下ノ所爲トノ區別ナク原則上總テ無罪ノ者ナリト丁知スヘシ

第一段 第百三十條ノ罪

法文ニ曰ク「交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈薬船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付スル罪是ナリ予ハ便宜ノ爲ニテ者ヲ合併シテ説明スヘタ而シテ尙ホ其處分法及ヒ成立條件中(一)日本人タルコト(二)交戦中ノ所爲タルコトハ法文ニ依リテ明カナルカ故ニ之ヲ略シ單ニ二罪

ノ特種ナル點ニ付キ講説ヲ試ムヘン
(一) 本條第一ノ罪ヲ構成スルニハ「敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタルコトヲ要ス」草案ニハ領土内トアリ故ニ單ニ陸地内ト解セナルヘカラナルカ如シト雖モ茲ニ管内トハ領域内ト謂フノ義ニシテ陸地ハ勿論領海ヲモ包含スルモノト信ス、本國管内ニ入ラシメタル場合ノミヲ規定シテ同盟國管内ニ入ラシメタル場合ヲ規定セナルハ是レ缺點ニシテ草案修正ノ際脱漏セシモノナラン
(二) 第二ノ罪ヲ構成スルニハ「本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈薬船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタルコトヲ要ス」都府城塞ニハ「敵國ニ交付スルコトヲ要スルカ故ニ此等ノ物ヲ破壊又ハ毀損シタル場

合ニハ総合敵國ヲ利スルノ意思タルモ犯罪ヲ構成セナルヤ勿論ナリ唯注意スベキハ此等ノ罪ハ通常軍人ニ非ナレハ之ヲ犯スコトヲ得ナルモノニシテ軍人之ヲ犯サヘ陸軍刑法第五十三條海軍刑法第五十九條ヲ適用スヘキモノトス

第二段 第百三十一條ノ罪

法文ニ曰ク「本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期死刑ニ處ス」敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ貯匿シタル罪はナリ本條ノ罪モ亦其處分及ヒ「一日本人タルコト」交戦中ノ所爲タガコトヲ要スルハ前條ト同一ニシテ亦説明ノ要ナキカ故ニ之ヲ省キ以テ前例ニ依ラント欲ス

(一) 第一ノ罪ヲ構成スルニ「本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シタル

コトヲ要ス 軍情機密トハ軍事上及ヒ政事上ノ秘密ヲ意味ス漏泄トハ次ノ場合ニ所謂通知ト同一ノ意義ナリ然ルニ其之ヲ通知ト言ハスシテ漏泄ト言ヘバ是レ第一ノ場合ハ其通知ノ事項ハ通常敵國ノ得テ知ルヘカラナルモノ即チ秘密ナルカ故ノミ他意アルニ非ナルナリ

(二) 第二ノ罪ヲ構成スルニ「兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタルコトヲ要ス 本國又ハ同盟國ノ兵隊屯集ノ要地トハ本國又ハ同盟國ノ兵隊屯集セル要地ト謂フノ義ニ非シテ攻守ノ爲メ兵隊ヲ屯集セシムヘキ要害ノ場所本國若クハ同盟國內ニ於ケルト謂フノ義ナリ誤ルヘカラス蓋シ前者ノ意味ナリトセハ是レ即チ軍情機密ノ一タルニ外ナラナルモノニシテ要スルニ兵隊屯集ノ要地トハ次ノ所謂道路ノ险夷ト相對シ以テ一ハ軍隊ノ在留スキ場所他ハ其進退ヘキ場所ヲ謂フノ意ニ外ナラナルナリ

(三) 第三ノ罪ヲ構成スルニ「敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ貯匿シタルコトヲ要ス」(一)茲ニモ亦本國管内トノミアリテ同盟國ノ管内ヲ文字ナキハ候點ナリ(二)間諜トハ公然爭闘者ノ一員トセスケテ敵情ヲ

探知スルメ任ニ該レル者ヲ謂フノ義ナリ然リト雖モ草案ニ於テハ茲ニ所謂間諜並ニ公然爲戰者ノ一人タル斥候兵ヲモ規定シアリテ強ヒテ之ヲ除外スヘキノ理由ナキカ故ニ予ハ茲ニ所謂間諜トハ此二者ヲ包含スルモノト信ス(三)藏匿トハ有形ト無形トヲ問ハス總テ發見ヲ妨クベキ一切ノ所爲ヲ謂フ隨テ自己ノ家屋又ハ他ノ場所ニ隱避セシムルハ勿論故ラニ服裝其他容貌ヲ變セシメ以テ發見ヲ妨クルノ行爲モ亦此中ニ包含ス(四)之ヲ誘導シテ管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル所爲ニ限ルカ故ニ敵兵ノ飢渴ヲ救ハシカ爲メ之ニ衣食ヲ給スルカ如キハ本條ノ罪人タルコトナシ尙ホ茲ニ一言スヘキ敵國ノ間諜トハ外國人ニシテ敵國ノ間諜タル者ヲ指スモノニシテ日本人ニシテ敵ノ間諜タル者ニハ適用スルコトヲ得ス蓋シ此ノ如キ場合ニハ其所謂日本人ハ第百二十九條ノ犯人タルカ故ニ其之ヲ誘導シ又ハ藏匿シタル者ハ或ハ第百二十九條ノ從犯ト爲リ或ハ罪人藏匿罪ト爲ルニ過キナレハナリト云フノ說アレトモ是レ曲解ナリ間諜ノ日本人タルトニ依リ一ハ本條ニ問ヒ他ハ第百二十九條ノ從犯者クハ罪人藏匿罪トシテ之ヲ論

第三段 第百三十二條ノ罪

シ以テ彼此刑罰ニ輕重ヲ爲スヘキ理由ナキノミナラス其罪人藏匿罪オリト法フニ至リテハ安モ亦極マレリト謂フヘシ蓋シ間諜トシテ敵ニ屬シツアル者ヲ藏匿スルハ犯後ノ所爲ニ非ナレハナリ(前項に於て改題)一、敵軍ニ於テ工作ヲ爲ス者交戰中ノ所爲タルコト(第二)交戰中ノ所爲タルコト(第三)犯罪ノ主體ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者交戰中ノ所爲タルコト(第四)敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコト(第五)軍備ノ缺乏ヲ致シタル結果アルコト是ナリ

第一ノ要素 日本人タルコト

此點ニ付テハ第百三十三條ト共ニ後ニ論スル所アルヘン其餘ニ及ハ工作大誤
第二ノ要素 交戰中ノ所爲タルコト

是レ前ニ屢々タル所ナレハ省略ス

第三ノ要素 犯罪ノ主體ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者タルコト

(二) 物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者タルヲ要スルカ故ニ其以外ノ者ニ在リテハ総合陸海軍ノ委任ヲ受クル者ト雖モ本條ノ制裁ヲ受クルコトナシ例之陸海軍ノ命ニ依リ物品ノ運搬若クハ人夫ヲ供給スル者ノ如キ是ナリ(二)委任ヲ受ケタル者タルヲ要スルカ故ニ受任者ノ命ニ依リ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者例之職工雇人ノ如キハ本條ノ所爲アルモ本條ヲ適用スルコトヲ得ス

第四ノ要素 敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコト
通謀トハ敵ト意ヲ通シテ軍備ノ缺乏ヲ致サント謀ルノ義ナリ然リ而シテ賂遺ヲ收受シタル者ハ必ス常ニ通謀ノ實ニ之ニ伴隨スヘク隨テ既ニ通謀ト云ヒ更ニ又賂遺ヲ收受シト云ヘルハ冗句タリト思フ者アルヘシト雖モ是レ一ヲ見ナリヲ見サルモノナリ何トナレハ賂遺ヲ贈ル者ノ中にハ自ラ未タ敵ニ附屬セシテ隱然敵ニ盡サントスルカ如キ者亦之アルヘケレハナリ是レ法律ノ路

遺ノ收受ハ多クハ通謀ヲ實アルニ拘ラズ故ラニ二者ヲ區別セム所以ナリ

第五ノ要素 軍備ノ缺乏ヲ致シタル結果アルコト

草案第百五十四條ニ曰ク「總テノ日本人政府若クハ海陸軍省ヨリ海陸軍ノ爲ス工作者若クハ供給ヲ爲スノ命令ヲ受ケ敵ト通謀シ若クハ内部又ハ外部ヨリ來タル賂遺ヲ受ケ契約ニ記載シタル期限若クハ方法ニ隨ヒ其約ヲ履行セナリシトキハ……」ト而シテ其註ニ曰ク「刑罰ハ前ニ記載シタル背叛罪ヨリ二級ヲ減セリ是レ其害ノ少クトモ想像上小ナルヘキカ故ナリ蓋シ或供給若クハ或工作ヲ缺クコトアルモ之ニ因リテ當然軍備ノ缺乏ヲ生スルコトナカルヘケレハナリ尤モ一時刑罰ノ輕重シテ結果ノ輕重ニ伴ハシメントセシカ裁判所ハ其遂ニ何レノ原因ニ因リテ其結果ヲ生セシヤフ知ルヘカラナルノ困難ヲ生スルカ故ニ遂ニ之ヲ廢セリト由是觀之草案ニ於テハ一時結果ノ發生ト否トニ由リ刑罰ニ輕重ヲ設ケント企圖シタリト雖モ其註ニ述フルカ如キ理由ニ據リ遂ニ之ヲ廢シ右ニ掲ケタル法文ニ於テハ單ニ命令違背ノミヲ以テ罪ヲ構成スヘシトシタルモ其確定法文タル本條又更ニ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハトノ文字ヲ加ヘタル

カ故ニ本條ノ罪ハ彼ノ恰モ殴打致死罪ニ於テ單ニ殴打シテ負傷セシメタルトキハ殴打創傷ノ各本條ニ依リ之ヲ罰スルニ依リテ殴打致死未遂犯ナルモノハ決シテ之アラサルト一般結果ノ發生ニ因リテ始メテ成立スルモノタルカ故ニ其之ナクシテ單ニ命合違背ニミ止マルトキヘ常ニ無罪タルノミニシテ其未遂犯ナルモノナカラシ是レ恐ラク法文ノ缺點タルヘシ

第一款 外患ノ誘引ナ成形スル罪

學者或ハ第百三十三條及ヒ第百三十四條ノ罪ニ冠スルニ國際法上ノ罪若クハ列國ノ和親ヲ害スル罪ヲ名稱ヲ以テセリ該二條規定スル所ノモノハ國際法ヲ破リ若クハ列國ノ和親ヲ害シ以テ善隣ノ交ヲ傷タルコト固ヨリナリト罪モ我立法者カ之カ本節即チ外患ニ關スル罪ヲ節目ノ下ニ規定シテ國事犯罪ノ一キシタルノ點ヨリ之ヲ按スレハ蓋シ我立法者ハ學者ノ言フカ如キ點ヨリ觀察シテ罪トシタルニ非シテ此等ノ所爲ハ往往外患ノ誘引ヲ成形スルモノタクト云フノ點ニ在リ是レ予カ外患ノ誘引ヲ成形スル罪ヲ付スル所以

第一項 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クノ罪

本款ハ二箇ノ犯罪ヲ規定ス曰ク外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開ク罪曰ク局外中立ノ法令ニ違背シタル罪是ナリ

第一百三十三條ニ曰ク「外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期死刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減スト本罪ハ下ノ三要素ヲ以テ成立ス(一)犯罪ノ主體ハ日本人タルコト(二)外國ニ對スルコト(三)私ニ戰端ヲ開キタルコト是ナリ」第一ノ要素 犯罪ノ主體ハ日本人タルコトヲ要ス
此點ハ前條ニ於ケル同一ノ要素ト共ニ後ニ説明スヘシ

第二ノ要素 外國ニ對スルコトヲ要ス

外國トハ前ニモ述ヘタルカ如ク一定ノ土地ノ上ニ或獨立ノ主權ヲ有セル人民ノ團體ニシテ即チ外國政府國家ノ義ナリ外國ノ國家全體ニ對スルノ行爲タルヲ要スルカ故ニ彼ノ一人又ハ數人ノ外國人民ニ對スルノ行爲ハ本罪構成ノ要

件ヲ爲アニシテ、一人又は二人以上開キタルニトヲ要ス。

(二) 私ニトハ日本政府ノ命令又ハ許可ニ因ラシシナトノ義ナリ(二)戰端ヲ開キタルコドトハ戰爭ヲ行爲ノ實行ニ著手シタルノ義ナルヤ將タ戰爭其物ノ一部ヲ行ヒタルノ義ナルヤ解者或ハ(イ)茲ニ戰端トアルトロ本條ニ相當スル佛文草案第二編第三章國際法ニ對スル重罪輕罪第一節中立ヲ害シタル罪ノ第一條第一項ニ「日本ノ宣戰セサル外國ニ對シ陸軍又ハ海軍遠征ヲ企テ張本人ニ付テ云フ若クハ指揮隊長ニ付テ云フシタル總チノ日本人ハ云云」佛文草案ニ於テハ現行法第一百二十一條ノ場合ニ於ケルカ如ク犯人ノ位地、身分ニ因リテ刑ヲ異ニセンカ爲メ企テタル者ハ云云指揮シタル者ハ云云、要務ヲ執リタル者ハ云云……等ノ文字アリキ第二項ニ其實行ノ體緒ニ著手シタルトキハ云云第三項ニ軍ニ豫備ヲ爲シタルニ過キサルトキハ云云トアルト(イ)茲ニ所謂戰端ナル文字ヲ第二ノ意義即チ戰爭其物ノ一部ト解スルトキハ本條ニハ其豫備ニ止ム者ハ一等又ハ二等ヲ減スルトアルカ故ニ例之兵隊ノ召集軍備品ノ買入船艦ノ購

製等戰爭豫備中ノ行爲セ軍隊ノ進行中障礙ニ因リテ遂クサリシ戰爭着手未遂ノ行爲キ(總則ニ依リ)同一ノ刑ニ科セラルノ不都合ヲ見ルトニ據リ之ヲ按スルトキハ茲ニ所謂戰端トハ戰爭實行ノ端緒ト謂フノ義ナリトテ右ハ點ノ不都合ヲ避ケンコトヲ試ムル者アレベシト碰セ是レ所謂前門狼ヲ拒キ後門虎ヲ進ムルノ論ノミ宣シク第二ノ意味ニ解スヘシ何トナレハ解者ノ謂フカ如クジハ戰爭ノ未遂ト豫備トノ刑ヲ付テハ法文上不都合ヲ感セサルニ至ルヘケレトモ戰端ヲ開キトハ戰爭ノ實行ニ著手スルノ義ニシテ其豫備ノ其ハ戰端ノ戰ナル文字ノミヲ受ケタルモノナリト謂フカ如キ奇怪ナル文法ヲ認メサルヘカラサルノ結果若ダ文法通リニ讀ミ下ストキハ戰端ヲ開キトハ戰爭ノ實行ノ著手ナルカ故ニ其豫備トハ戰爭實行ノ著手ノ豫備ト爲リテ殆ド意處ヲ爲サシテテシテハシ之ニ反シテ第二ノ意義ニ解スルトキハ戰爭ノ未遂ト豫備トノ刑ハ法文上之ヲ同一ニセサルヘカラサルノ不都合アリト雖モ解者ノ言フカ如ク法文全體ヲシテ文義不通メノモタラシムルヨシルカ如キ不結果ヲ見サレハナリ

過分ニ付テハ法文ノ示スカ如ク本罪ヲ犯シタル者ハ有期徒刑ニ處シ其罪ニ豫

備ニ止マル者ハ有期流刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減スルモノニシテ格別説明スベキモノナシ唯一言本條ノ處分法ニ付テ非難スルキ點ハ(一)右ニ述ヘタルカ如ク立法者一等又ハ二等ヲ減シテアルコト(二)本條ノ犯人モ亦通常第百二十一條ノ如ク刑罰トノ權衡ヲ失シシメタルコト是ノ如ク外國交戦ノ際ノ階級アルニモ拘ラス第百二十一條ノ如ク數段ノ刑多數相團結シテ其間數段ノ階級アルニモ拘ラス第百二十一條ノ如ク數段ノ刑ヲ設ケサルコト是ナリ

第二項 局外中立ノ布告ニ違背シタル罪

近世ノ開明諸國ニ於テハ若シ外國互ニ干戈ヲ交フルニ際リ自國ノ之ニ關シテ何等ノ關係ヲモ有セナルトキハ常ニ戰局ノ外ニ立チテ之ニ干與セス之ヲ名ケテ局外中立ト謂フ然リ而シテ此中立ヲ全ウセシカ爲メニハ獨リ政府ノミナラス尙ホ進ミテ一般臣民フシテ之ヲ嚴守セシメテ以テ爲戰者ノ一方アシテ我ニ屬アシムルコトナキヲ要ス此ニ於テカ各國皆犯メ或ヘ基本法ヲ以テ或ヘ臨時ノ特別法ヲ以テ局外中立違背ノ所爲ニ對スル制裁ヲ規定セテガヤナシ我刑

法第百三十四條ニ曰ク外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時萬布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下及輕禁錮ニ處シ十回以上百回以下ノ罰金ヲ附加スト今ヤ進ミテ本罪ノ成立要素及ヒ其處分ニ付テ説ク所アラントス(甲)成立要素局外中立違背ノ罪ハ三箇ノ要素ヲ以テ成立ス(一)犯罪ノ主體ハ日本人ナルコト(二)局外中立ノ布告アルコト(三)ニ違背シタル所爲アルコト是ナリ以下各要素ニ付テ詳説セシム

第一ノ要素 犯罪ノ主體ハ日本人タルコトヲ要ス

此要素ノ必要ナル所以ハ本國ナル文字ノ存スルカ故ニゾテ其詳細ハ已ニ述べタルヲ以テ更ニ贅セス(イ)本國ノ外國交戦ノ際本國ノ主體ハ日本國ノ主體也(ア)本條ノ冒頭ニ外國交戦ノ際ナル文字アレトモ是レ足ナリ何トナレハ局外中立ナルモノハ素ト自國以外ノ甲國ト乙國若クハ或外國中ノ甲黨ト乙黨トカ互ニ干戈ヲ交フルニ際其何レモ干與セナシコトヲ意味ス所モノニシテ外國交戦ノ際ニ非ナルヨリハ決シテ局外中立ヲコトノ存在スヘキコトナケレハナ

法律ハ局外中立ノ布告ニ違背セタムコトヲ要スルカ故ニ総合局外中立ノ實ア
レコトヲ知リカカラニニ違背スト雖モ未タ何等ノ布告ナキ以上ハ本罪構成ノ
限ニ在ラサルナリ蓋シ本國ニ於テ局外中立ヲ守ルキ否ヤハヨニ政府ノ意思如何ニ
依リテ定マムモノニシテ政府ノ意思ハ其之カ表示タル法律又ハ命令ニ依
ルニ非スンハ之ヲ確知スルコトヲ得サレハナリ但シ法律ノ不識ハ刑罰ヲ免ル
ルノ原因タラサルカ故ニ苟モ一旦之ニ對シヲ遵奉ノ義務アガ法律命令ノ發布
アランカ人民ハ之カ不知ヲ理由トシテ其責ヲ免ルルコトヲナシ

第三ノ要素 局外中立ノ布告ニ違背シタル所爲アルコトヲ要ス

凡ソ外國交戦ノ際發布セラルヘキ局外中立ノ布告ハ其規定ハ方法ニ付キニ備
ノ種別アリ(一)中立ハ布告ト共ニ其違背ト爲ルヘキ所爲ヲ列記若クハ例示スル
モノ(二)局外中立ヲ守ルヘキコトヲ布告スルノミニシテ其果ルヲ如何ナル所爲
カ中立違背ノ所爲タルヲ示サセモノ是ナリ前者ノ場合ニ於テ其列記若ク
ハ例示セラレタル所爲ニ非スンハ中立違背ノ所爲タルコトナリト雖モ後者

場合ニ於テハ法律ハ如何ナル所爲カ中立違背ナルヤノ準繩ヲ示サヌルカ故ニ
單ニ國際公法ノ慣例ニ本キ其違背ノ所爲タルキ否ヤラ定メアルヘカラズ然リ
而シテ今其二者何レ可トスヘキヤエ付テハ予ハ(一)凡ソ一國ノ臣民ハ皆悉ク
國際法ヲ知ルモノニ非ナルミナラス(二)如何ナル所爲カ中立違背ナムヤハ或
顯著ナル場合ヲ除キテハ國際公法學者ノ間ニ於テモ議論紛糾タル所ナルカ故
ニ立法者タル者ハ宜シク前者ノ方法ヲ擇ヒ以テ如何ナル所爲カ中立違背タル
ヤツ明カニスルヲ以テ至當ナシト信ス然リ如何ナル所爲カ局外中立ニ違背ス
ルモノナルヤ否ヤハ中立命令發布ノ曉ニ非テレハ之ヲ詳ニスルヲ得スト雖モ
今從來ノ國際慣例ニ依リテ其一班ヲ示サハ彼ノ交戦國ノ一方ニ兵器彈薬船艦
等ヲ給スルカ如キハ中立違背ノ所爲トシテ何人モ異論ナキ所ナレトモ糧食若
クハ石炭ヲ給與スルカ如キ所爲ニ付テハ今日尙ホ議論ノ一定セサル也ノトス
(乙) 處分 本罪ノ處分ニ付テモ亦別ニ説明スヘキコトナシ唯立法上茲ニ一言
スヘキハ立法者カ此所爲ヲ概括シテ國事ニ關スル罪トシ科スルニ國事犯ノ刑
ヲ以テシタルハ聊カ失當タルヲ免レス宜シク國事犯ニ科スヘキ刑ト常事犯ニ

科スヘキ刑トヲ置キ以テ裁判官ヲシテ自由ノ探察ヲ爲サシムヘキコト是ナリ

附款 本節ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトナリ

得ヘキヤ
本節ノ講述ヲ終ルニ臨ミ本節ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ルヤ否
セハ本節ニ關スル重大ナル問題ナルヲ以テ予ハ本節ノ附款トシテ聊カ是カ説
明ア試ミント欲ス
予ハ便宜ノ爲メ先フ本問題ヲ分チテ(第一)日本ニ在留セサル外國人ニ對スル撲
食第二)日本ニ在留スル外國人ニ對スル場合ヲ更ニ各之ヲ立法論及ヒ解釋論
ノニ細分シテ論究スヘシ
(甲)日本ニ在留セナル外國人ニ對スル場合ニ於テ之ヲ認可シ得ル事無
日本ニ在留セナル外國人ハ日本ニ對シ忠節ヲ盡スノ義務ナキハ勿論其信義ヲ
守ルノ義務タモ之ナキノミラス凡ソ一國ノ法律ハ特別ノ例外ナキ限ハ其主
權ノ行ハルル版圖内ニ於テノミ之カ强行力ヲ有スルノミニテ夫政令ノ行ハレ
サル外國ニ對シテハ何等ノ效力ヲモ有スルモノニ非サルカ故ニ立法上ニ於テ

解釋上ニ於テモ本節ノ規定ハ之ヲ日本ニ在留セサル外國人ニ適用スルコト
ヲ得ナルナリ
(乙)日本ニ在留セナル外國人ニ對スル場合ニ於テノミ之カ强行力ヲ有スルモノナル
ト総合外國人ト雖モ苟モ我國ニ在留シ我法律ノ下ニ其身體、生命、財產ノ保護ヲ
受クル以上ハ我國ノ信義ニ背クヘカラサルノ義務アルトニ由リ在留ノ外國人
ハ其對手國ノ人民タルト否トヲ問ハス總テ我法律ノ制裁ヲ甘セサルヘカラス
ト雖モ他ノ一方ニ於テ在留ノ外國人ハ素ト是レ難處ノ客ニシテ吾人臣民カ日本
本國ニ對スルカ如ク其在留國ニ對シテ忠節ヲ盡スノ義務換言スレハ誰國ノ義
務ナキカ故ニ本國以外ノ國ニ對シテハ去就ノ自由ヲ有スルト同時ニ彼等ハ何
レノ邦國ニ在留スルモ本國ニ對スル護國ノ義務ヲ免ルモノニ非サルトニ由
フ外國人ハ我國ニ抗敵スルノ所爲アルモ之ヲ罪トシ論スヘキモノニ非サルカ
故ニ第百二十九條即ち抗敵ノ所爲ヲ罰スルノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコ

ヲ得ナルモ其他ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコトヲ得ルモノトス
（二）解釋論者或ハ曰ク凡ソ一國ノ刑法ハ明白ニ例外ヲ規定スルニ非ス
其版圖内ニ於テハ完全ナル强行力ヲ以テ原則トメルモ本節ノ規定
中或法條ニハ特ニ本國ナル文字アリテ本國トハ犯人カ國籍ヲ有スル國トノ義
ナルカ故ニ本節中本國ナル文字アル法條ハ之ヲ外國人ニ適用スルヲ得ス然レ
トモ其之アラナル第百三十二條及ヒ第百三十三條ノ罪ハ原則ニ從ヒテ在留外
國人ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ヘント此說ハ或點ニ於テハ法理ト沿革トヲ
無視スルセノニ非スンハ論者ノ不注意ヨリ來レル謬説ニシテ他ノ點ニ於テハ
多少法律ヲ曲解シタルノ嫌ナキ能ハス（イ）論者ノ說ニ依レハ第百二十九條ノ如
キ抗敵罪ト雖セ尙ホ是ヲ外國人ニモ適用スルコトヲ得ルヲ以テ原則トスルカ
如シト雖セ此ノ如キハ學説ニ於テモ立法ニ於テモ未タ曾テ其例ヲ見ナルミ
夫ラス現ニ我草案第百五十五條及ヒ其第二編第三章國際公法ニ對スル重罪輕
罪第一節第二條第二項ニ於テ本節ニ關スル外國人ノ犯罪ハ第百三十條現行法
以上ヲモノニ限リ之ヲ罰スル規定シアリテ第百三十九條ハ外國人ニ適用セラ
以上ヲモノニ限リ之ヲ罰スル規定シアリテ第百三十九條ハ外國人ニ適用セラ

（一）モノタルヲ明カニシルニ由ソテ之ヲ觀シハ現行法ニ於テ獨リ此原則ヲ認メ
チルノ理アルヘカラス是レ予カ論者ノ說ハ此點ニ付テハ法理ト沿革ヲ無視シ
タルニ非スンハ不注意ヨリ來レル謬説ナリト云フ所以ナリ（ロ）第百三十條以下
ノ規定ニ付テ論者ハ第百三十二條及ヒ第百三十三條ノ規定ニ限り本國ナル文
字ナク隨テ法律ハ例外ヲ置カナルモノナルヲ以テ之ヲ外國人ニ適用スルコト
ヲ得ヘシト曰ク成程第百三十二條、第百三十三條ニハ本國ナル文字ナシ然レト
モ是ヲ以テ他ノ條項ハ之ヲ外國人ニ適用セサルニ拘ラス此二條ハ之ヲ外國人
ニ適用シ得ヘシトスルノ理由何處ニ在ルヤ論者ハ曰ハシ然リ他ノ條項ハ之ヲ
除外スルニモ拘ラス獨リ此二條ニ限り之ヲ原則ニ依ラシメサルヘカラサルノ
理由アルコトナシ隨テ是レ或ハ立法者ノ疎漏ナラン然レトモ立法者ノ疎漏ハ
解釋者之ヲ補フヲ得スト夫レ然リ豈夫レ然ランヤ予ノ見ル所ニ據レハ第一章
案ニハ其第百五十五條及ヒ國際公法ニ對スル重罪輕罪第一節第二條第二項ニ
本節ノ規定ハ現行法第百二十九條ノ場合ヲ除クノ外一等ヲ減シテ外國人ニモ
亦之ヲ適用スト規定シアリタルニモ拘ラス其遂ニ刪削セラレタルハ是レ論者

ガ言フカ如ク一國ノ刑法ハ凡テノ在住者ニ適用セラルヘキモノナリトノ原
則ノ完全ナル適用ヲ希圖セシニハ非シテ彼ノ草案第五條第六條第七條ノ
刪除セラレタルト同シク外國人ニハ適用セナルノ旨趣タルハ本節中第百三十
二條、第百三十三條以外ノ條項ニハ該二條ノ所爲ト同一ノ性質ヲ有スルニエ拘
ラス何レモ皆特ニ本國ナル文字アリテ明白ナルノミナラス第一其立法者カ此二條ニ限リ本國
トヲ明言スルニ據リテ明白ナルノミナラス第二其立法者カ此二條ニ限リ本國
ナル文字ヲ加ヘサリシハ是レ一ハ此二條ハ論者ノ言フカ如ク強テ之ニ本國又
ハ日本人ナル文字ヲ加ヘントスルトキハ恰モ直譯體ト爲ルカ若クハ文章冗長
ト爲ルノ據アルカ故ニ文章ノ結構上之ヲ入ルルノ餘地ナキト他ハ此等ノ文字
ナキモ本條ト同性質ヲ有スル他ノ條項トノ必然ノ關係上此二條ノ罪モ亦日本
人タラサルヘカラナルヲ知ルヲ得ヘキトニ由リ故ラニ之ヲ脫シタルモノニシ
テ論者ノ思惟スルカ如ク此二條ニ限リテハ之ヲ原則ニ依ラシムヘシトノ旨趣
ニ非ナルハ勿論立法者ノ疏漏ニ因リテ本國若クハ日本人等ノ文字ヲ脱シタル
ニハ非ナルナリ體ヲ論者ノ言フカ如ク偶ニ此二條ニ日本人タルヲ要スヘキ明白

ナル文字ナキヲ寄貲トシ外國人ニモ亦之ヲ適用シ得ヘシトスルハ到底偏見タ
ルヲ免レス是レ予カ此點ニ付テハ論者ハ法律ヲ曲解シタル據アリト云フ所以
ナリ
結論右ノ理由ニ據リ我輩ハ謂ラク解釋上ニ於テハ本節ノ規定ハ凡テ之ヲ外
国人ニ適用スルコトヲ得スト

第三章 静謐ナ害スル罪

本章ハ佛文草案第二編第四章 crimes et delicta contre la paix publique(即チ公ノ平和ヲ
害スル罪)ニ相當ス草案ノ註譯ニ曰ク「本章規定スル所ノ所爲ヲ名ケタ公ノ平和
ヲ害スル罪トスル所以ハ其何レモ皆公權ヲ蔑視スルノ結果國家カ保障セント
欲スル所ノ公ノ安全秩序及ヒ静謐ヲ害スルカ故ナリ」ト本章ノ表題ト草案ノ表
題トハ些カ相異ナルモノアルモ其規定スル所ノ事項ノ彼此大差ナキヲ見レハ
茲ニ我立法者カ本章規定スル所ノ所爲ヲ一括シテ静謐ヲ害スルノ罪トシタル
所以亦草案ノ趣旨ニ外ナラナラン然レトモ(一)本章中第六節即チ往來通信ヲ妨

害スル罪ノ如キハ放火、決水等ノ所爲ト同シク靜謐ヲ害スル所爲即テ民心ヲ擾亂シ以テ一般公衆ヲシテ其堵ニ安ンスル能ハサランムルノ所爲タルモ是ヲ以テ特ニ公權ヲ侵害スルノ結果ナリト謂フヲ得ナルト同時ニ彼ノ第二節乃至第四節即チ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪囚徒逃走ノ罪、附加刑ノ執行ヲ遁ルル罪、及ヒ第八節第九節即チ官ノ封印ヲ破棄スル罪、公務ヲ行フヲ拒ム罪ノ如キハ公權ヲ侵害スルノ所爲タリト雖モ是ヲ以テ特ニ靜謐ヲ害スルノ結果ヲ生スモノナリト謂フヲ得ナルミナラズ(二)第七節ニ規定スル所ノ人ノ住所ヲ侵ス罪ハ之ヲ公安ヲ害スル罪ト曰ハシヨリハ寧ロ一私人ノ自由ヲ害スルノ所爲ト謂フヘキモノナルカ故ニ予ハ本章ノ規定中第一節ノ兇徒聚衆罪、第五節ノ私ニ軍用ノ銃砲彈薬ヲ製造シ及ヒ所有スル罪及ヒ第六節ノ往來通信ヲ妨害スルノ罪ハ彼ノ浮浪罪、放火罪及ヒ決水ノ罪ト共ニ本章所謂靜謐ヲ害スル罪ヲ表題ノ下ニ規定シ第二節乃至第四節第八節第九節ノ罪ト第七節ノ罪トハ別ニ一ハ公權ヲ侵害スル罪一ハ人の自由ニ對スル罪ヲ表題ヲ設ケタ各、其下ニ規定スルヲ以テ至當ナリ。附信ス長編入ニ。參看本卷之公權ヲ害スル罪。

右ニ述ヘタル如ク本章ノ表題ハ些カ穩當ナラサルモノアルモ以下予ハ例ニ依リ法典ノ順序ニ從ヒテ本章規定スル所ノ九箇ノ罪ヲ説明スヘシ。

第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒聚衆ト言フモ彼ノ博徒又ハ強盜等ノ相集リテ不良ノ事ヲ企フルカ如キ所爲ヲ規定シタルニ非ス單ニ多衆喧聚シテ暴動ヲ爲スノ所爲ヲ規定シタルモノニシテ暴動ヲ企ツルノ前ニ於テハ未タ之ヲ兇徒ト謂フヲ得ナルカ故ニ本節ノ表題ハ宜シク之ヲ多衆喧聚罪又ハ暴動ノ罪ト改ムヘシ。

法律ハ本節ニ於テ(一)暴動ヲ爲シタル罪(二)暴動ヲ謀リタル罪(三)暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶、倉庫等ヲ燒燬シタル罪ヲ規定セリ仍ラ予ハ以下之ヲ三款ニ分説スヘシ。

第一款 暴動ヲ爲シタル罪

第一百三十七條 一曰「兇徒多衆ヲ喧聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市

ヲ騒擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其喧聚ニ應シ
煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シ
タル者ハ二間以上二十間以下ノ罰金ニ處スト本罪ハ下ノ二箇ノ要素ヲ以テ成
立ス(一)多衆喧聚シタルコト(二)暴動ヲ爲シタルコト是ナリ

第一ノ要素 多衆喧聚シタルコト

法文ニハ児徒多衆ヲ喧聚シトアレトモ児徒カ多衆ヲ喧聚シテ暴動ヲ爲シタル
ヲ規定スルニ非シテ児徒互ニ相集リテ暴動ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノ
ナルカ故ニ宜シク多衆喧聚シテ云云ト改ムヘシ是レ予カ茲ニ多衆喧聚トスル
所以ナリ多衆喧聚トハ讀テ字ノ如ク多人數相集ルコトヲ意味スルモノナリ其
果シテ幾人以上ヨリ之ヲ多衆ト謂フヘキヤ否ヤハ法律ノ規定ナキ所ナルカ故
ニ偏ニ事實裁判官ノ判定ニ委スルモノトス

第二ノ要素 煽動ヲ爲シタルコト

暴動ノ何タルハ法律之ヲ定義セスト雖モ茲ニ法律カ其重ナルモノヲ例示スル所
ニ據リテ之ヲ按スルニ暴動トハ多人數相集リ暴力又ハ威力ニ因リテ社會ヲ喧囂

騒擾スルノ謂ニシテ俗ニ所謂百姓一揆ノ如キモノヲ謂フモノトス官廳ニ喧闘シ
官吏ニ強逼スルトハ強ヲ威事ヲ請願センカ爲メ多人數相集リテ竹槍席旗ヲ押
立テ官廳ニ押寄セ又ハ官吏ニ迫ルノ類ヲ謂ヒ村市ヲ騒擾スルトハ凶年ニ際シ
賑廩ヲ促ナシカ爲メ多人數威力又ハ暴力ヲ以テ富豪ノ門ニ迫ルカ如キ類ヲ謂フ」
處分ニ付テハ第百二十一條ノ處分法ト大同小異ナルヲ以テ之ヲ説明セス諸君
ハ彼此相對照シテ其義ヲ明カニセラルヘシ
終ニ臨ミ本罪ニハ實行ノ端緒ト謂フヘキ場合アリヤトノ問題アレトモ之ナシト
スル消極論ニハ格別ノ理由アルヲ見ス予ハ勿論積極ニ決定スヘキモノト信ス
蓋シ多人數相集リ官廳ニ喧闘センカ爲メ今キ竹槍席旗ヲ押立テ官廳ニ向テ進
行シツツアルコトハ暴動ヲ爲シタルニモ非ス又其豫備ヲ爲スニモ非ス實行ノ
端緒ニ外ナラナレハナリ但シ之ヲ實行ノ端緒トシテ本罪ニ未遂犯アリヤ否ヤ
ノ問題ハ次ニ述フル所ノ第二款ノ場合ト大ニ相關係スルモノアルカ故ニ後ニ
之ヲ詳説スヘシ

第二款 暴動ヲ謀リタル罪

第一百三十六條ニ曰ク「見徒多衆ヲ噓聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁罰ニ處ス」ト本罪ハ下ノ三要素ヲ以テ成立ス(一)多衆噓聚シタルコト(二)暴動ヲ謀ワタルコト(三)官吏ノ説諭ヲ受クルモ仍ホ解散セサルコト是ナリ

第一ノ要素 多衆噓聚シタルコト

此點ハ已ニ説明セシカ故ニ之ヲ略ス

第二ノ要素 噓聚ヲ謀リタルコト
暴動ノ何タルハ更ニ之ヲ再説セス茲ニ謀リトハ如何ナルコトヲ意味スルヤ文字ノ正面ヨリ解釋スルトキハ第一百十一條ニ所謂罪ヲ犯サンコトヲ謀リト同シタ暴動ノ陰謀ヲ爲スノ義ニ解釋セサルヘカラナルカ如キモ(一)若シ此ノ如ク解センカ茲ニハ暴動ノ陰謀ヲ爲シタル場合ヲ第百三十七條ニハ暴動ヲ爲シタル

場合ヲ規定スルヨリ爲リテ豫備ヲ爲シタル場合ニ付テハ全ク其規定ヲ候如スルノ結果暴動リ陰謀ヲ爲ス之際官吏ノ説諭ヲ受クルモ解散セサルトキハ本體ニ依リテ有罪タルモ拘ラズ逃ミテ豫備ニ至リタルトキハ維合官吏ノ説諭ニ依リテ解散セナルモ罪ト爲ラナルカ如キ不都合ヲ見ルノミナラス(二)法律ガ本體ニ於テ官吏ノ説諭ヲ受ケタルトキハ之ヲ無罪トストノ規定ヲ設ケタルが是詞未タ必スシモ之ヲ謂セサルヘカラナル程ノ實害ヲ生セサルカ故ニ犯人ニ有利ナガ規定ヲ設ケ以テ之ヲシテ成ルヘク大事ニ至ララシメントノ政策ニ出テタルモノエシテ其所謂實害ヲ生セス體ヲ有利ナル規定ニ依リテ犯人ヲ誘引スルノ必要ハ必スシモ陰謀ニ限ラズ豫備ニ至リタル場合ト雖モ尙ホ之アホニ據リテ之ヲ觀レハ茲ニ「謀リトハ豫備ヲ包含スルモノト信セラバアシテ豫備ノ場合ヲも之ヲ意味タルセントシテ逃ミテ實行ヲ端始ハ之ヲ包含セサバヤ田タクシテ合セバアシテ謂リテ實害ヲ生セス體ヲ利キムハシク也

(二)若シ「謀リトハ豫備ノ場合ヲも意味スルモノナリトスル我豈ノ解釋ニシテ誤

ナカラシカ我立法者ハ已ニ謀リト云フ文字ノ正面ノ意味ヲ打破シテ據備ノ場合フモ尙ホ之ヲ包含スルノ語トシタルカ故ニ苟モ明カニ他ノ法條ニ衝突セサル限ハ尙ホ著手ノ場合ヲモ包含セシムルノ語トシタルト解説スルベ必スモ理由ナシ謂フヘカラサルト(二)著手ノ場合ト雖モ尙ホ置備ノ場合ニ於ケルカ如ク未タ一定ノ實害ナキノミラス凡ソ暴動ノ所爲ハ國事犯ト異ナリテ多クヤ犯人一時ノ情念ニ基因スルモノナルカ故ニ往往説識ニ依リテ解散シ以テ大事ニ至ラナルコト其例乏シカラス然ルニ若シ夫レ已ニ著手ニ至リタリトア必ス之ヲ罰スヘキモノトスバトキハ徒ニ罪人ヲ增加スルノミニシテ益ズル所ナキニ據リテ之ヲ觀レハ茲ニ謀リトハ著手ノ場合ヲモ尙ホ之ヲ包含スルモノト解スキモノト信ス然レトモ彼ノ威學者カ予輩ト共ニ本條ニ所謂謀リトハ著手ノ場合ヲモ意味スルモノトシナカラ第百三十七條ノ所爲ニハ實行ノ端緒ト謂ヒ得ヘキ場合アリテ實行ノ端緒ニ著手シタル際意外ノ障礙ニ因リテ逃ゲナルトキハ總則ノ適用ニ依リテ未遂犯ヲ以テ處斷セサルヘカラシルモ本條ニ官吏ノ職務ヲ受ケ仍本解散をナル解説ハ云云トアリテ著手ノ後ト雖モ官吏ノ職務

ニ依リテ解散シタルトキハ無罪トスルノ例外アルカ故ニ第百三十七條所謂暴動ノ實行ノ端緒ニ著手シタル際官吏ノ説識ト云フ意外ノ障礙ニ因リテ其事ヲ達グナリシトキ即チ解散シタルトキハ本條ニ依リテ無罪タルヘキモ其他ノ障礙ニ因リテ遂ケサリシトキハ未遂犯ヲ罰ストノ原則ニ違リ第百三十七條ノ未遂犯トシテ有罪タルヘント曰フカ如キハ佛語ノ所謂(Pramok)即チ似非論ト稱スル大ナル謬見ナリ諸君幸ニ誤ラルコト勿レ何トナレハ(第一)論者ハ彼ノ僅ニ刑法ノ初步ヲ會得シタルニ遇キナル者スラ尙ホ之ヲ誤ラサルノ區別即チ中止犯トハ外部ノ行爲ヲ爲シ得サルニ非サルモ犯人自己ノ意思ニ因リ中止シタルモノヲ謂ヒ未遂犯トハ自己ノ意思ニ於テハ尙ホ之ヲ遂ケント欲セサルニ非ナルモ意外ノ障礙舛錯ハ廣義ノ障礙ノ一部ナリニ因リテ外部ノ所爲ヲ爲スコト能ハサルニ因リ其事ヲ遂クナルモノヲ謂フトノ簡易ナル區別ヲ明カニセサルノ結果中止犯タルヘキ官吏ノ説識ニ依リテ解散シタル場合ヲ未遂犯ナリトセラ是レ實ニ許スヘカラナルノ謬認ナリ蓋シ論者ノ言フカ如ク官吏ノ説識ニ因ダア解散シタル場合ヲ以テ意外ノ障礙ニ因ル未遂犯ノ或場合ナリトセシカ若

シ夫レ犯人ニ於テ説論ニ依リテ解釈セラルモナトキハ官吏ノ説論ナシ又ノ意外ノ障礙ト謂フヲ得タルイ結果凡ソ威事物ヲ犯人意外ノ障礙ト爲ルキ否ヤカ偏ニ犯人ノ意思如何ニ因リテ決セラルモナタリト謂ハナガヘカラナレバオリ其之コリ出テタル結論ノ誤レル亦論ヲ要セス(第二今假ニ本條ニ所謂謬リ)ナル文字ノ範圍ヲ若手ノ場合ニノミ限リ且ツ一步ヲ論者ニ藉シテ之ヲ論セシニ官吏ノ説論ニ依リテ解散シタル場合ハ之ヲ意外ノ障礙ニ因リテ遂ケサルモノトスベモ犯人ニ於テ官吏ノ説論ニ服セサムトキハ明文ニ依リ有罪タルニ拘ラス這が意外ノ障礙ニ因リテ妨ケラレタルモノニ非サルカ故ニ其後暴動ヲ遂クルマノノ間ニ中止スレハ本條ニ依リテ罰セラルトキハモ若シ更ニ意外ノ障碍ニ因リテ妨ケラレタルトキハ始ヌト未遂犯ト爲ルノ結果本條ノ罰ト第百三十七條ノ罰トノ數罪併發ナリト謂ハサルヘカラナルミナラス今尙ホ説ク之ヲ採スルニ法文ニハ説論ヲ受ケ仍本解釈セサルトキハ之ヲ罰スト在リテ其結果ハ常ニ逮捕ニ因リテ暴動ノ著手ヲ妨ケラルル故ニ此時斯ニ未遂犯ヲ構成スルノ結果著手中本條ニ依リテ罰セラルの場合ハ當ニ數罪併發ヲ以テ罰セラレサルヘカラ

ナルノ結果本條ハモニ依リテ罰セラル場合ハ絶干ア之アベコトナキノ奇觀呈スヘシ否論者ノ説アシテ此ノ如キ結果ニ至ラサラシメント欲セハ本條ハ寧リ之ヲ二段ニ分テ(陰謀豫備ノ場合ハ解散セサルトキハ罰ストシ)ロ著手ノ構合明文ナキモ總則ニ依リ罰セラルヘキカ故ニハ解散シタルトキハ罰セス^シテ彼ハ不罰ノ原則トシ此ハ罰スルノ原則トスル規定ト改修セサルヘカラナルニ至ラン(第三尚ボ例ヲ舉ケア論者ノ誤フ明カニセシム若シ論者ノ説ニ從フトキハ例之犯人ハ縣知事ニ於テナニ利益ナル處分又ハ内議ヲ爲シタルニセ拘ラス已ニ不利ナム處分又ハ内議ヲ爲シタルト誤解シテ暴動ヲ爲シタルモノナルカ故ニ一旦官吏ノ説論ニ遇ヘハ無論解散スヘキモノナリト假定センニ若シ此犯人カ今ヤ官廳ニ押寄セントレスルノ際途中暴風雨ノ爲メニ遮ラレラ其行爲ヲ果ナカルトキハ総合官吏ニ於テア説論セントシテ殆ト之ニ及ハントシタルモキ其僅ニ未遂ノ原因タル暴風雨ニ後ルコト數分ナリシカハモ無罪耳モノニシテ畢セラレテ駆モ亦及ハサルコトト爲リ之ニ反シテ若シ此際官吏ノ説論カ暴風雨ニ先ツコト僅ニ數分ナリセバ犯人ハ幸ニモ無罪タルコト得ルモノニシテ畢

竟被此同一ノ所爲タルニモ拘ラズ官吏ノ説諭ト云フ犯人意外ノ事實ノ有無因リテ或ハ有罪ト爲リ或ハ無罪タルノ結果極端ニ論セス犯人フシナ有罪タラシムルト無罪タラシムルトハ偏ニ説諭官吏ノ意思如何ニ存スト謂ハサルヘオラサルニ至ラン豈奇怪ナラシヤ要之我前ノ接スル所ニ據レハ第百三十六條ト第百三十七條トノ關係ハ尙ホ恰モ第百十六條及ヒ第百十八條等ニ於テ危害ヲ加ヘタル場合ト危害ヲ加ヘントシタル場合トヲ二分シテ規定シタルト同シク暴動ト云フ所爲ヲ其犯罪進行ノ程度ニ從ヒテ之ヲ二分シ既遂ノ所爲ハ第百三十七條ニ既遂以前ノ所爲ハ官吏ノ説諭ヲ受ケ仍ホ解散セサルトキニ於テ始メテ之ヲ罰ストシテ第百三十六條ニ規定シタルモノナルカ故ニ此間亦更ニ總則未遂犯ノ法條ヲ適用スルノ餘地ナキハ結果第百三十七條ニハ總則ノ適用ニ依リテ罰セラルヘキ未遂犯ナキモノト信ス第三ノ要素官吏ノ説諭ヲ受ケ仍ホ解散セサルコトナリイ單ニ官吏ト在ルカ故ニ總般ノ官吏ヲ謂フモノノ如クナレントモ茲ニハ説諭ヲ受ク云云ト在ラク其之ニ服スルト否トニ因リテ或ハ罪ト爲リ或ハ罪ト爲ラサ

ル程ノ效果アル者ナルカ故ニ茲ニ所謂官吏トハ通常人民ヲシテ其説諭ニ服セシムル職權ヲ有スル官吏ヲ謂フセシテ暴動ノ如キ治安ニ關スル行爲ニ説諭ヲ加フルノ職權又ハ義務アル官吏ハ地方ノ巡撫官即チ府縣知事郡區長營業官等トス隨テ暴動ノ際各省ノ參事官又ハ裁判所ノ判事檢事等ノ説諭ニ服シテ解散セナルコトアルモ決シテ本條件ヲ充タシタルモノト謂フヘカラナルナヨロ(総合暴動ヲ謀ルモ官吏ノ諭告ヲ受ケテ解散セサルニ非斯シハ之ヲ罪トセナルハ是レ暴動ヲ謀ルノ所爲タル後ノ國事犯ヲ企タルカ如キ重大ナルモノニ非サルモ一旦既遂ニ至ルトキハ其因ヲ生スル所ノ害必スシモ大ナラスト謂フヘカラナルカ故ニ可成犯人ヲ誘導遷善シテ以ヒ大事ニ至ラサランシメントノ政策ニ外ナラス暴動ヲ謀ルモ同様ノ事也

第三款 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋、船舶、倉庫

等ヲ燒燬シタル罪

第一百三十八條ニ曰ク「暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放フ者ヲ死刑ニ處ス音船及ヒ救済者情ヲ知テ制セ

サル者亦同シト。テ、暴動ノ際タルコト是ナリ。

(甲) 直構成要素。本罪ヲ構成スルニハ下ノ二要素ヲ要ス。(一)暴動ノ際タルコト(二人)ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ焼燃シタルコト是ナリ。

第一ノ要素。暴動ノ際タルコト。殺人・暴行・傷害・強制・毀損・略奪・詐取・不法の侵入・窃盗・強盗・放火・暴行・強制・毀損・略奪・詐取・不法の侵入・窃盗・強盗・放火等の行為が暴動の際に起つた場合に該行為が暴動の構成要素である。即ち暴動隊員組織セル者ノ或者カ暴動ヲ爲スニ當リ暴動行爲ノ一部トシテ爲シタルコトヲ意味ス故ニ彼ノ暴動犯人以外ノ者カ暴動ヲ奇貨シ私仇ヲ打果シタルカ如夫又ハ暴動中暴動犯人カ互ニ相殺害シタル如キハ之ヲ包含セス尙ほ詳細ハ後ニ説明スヘシ。

第二ノ要素。人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ焼燃シタルコト。即ち殺死シ又ハ家屋船舶倉庫等ヲ焼燃スルノ所爲トアリテアリト以テ足レリト(又)法律ハ家屋船舶倉庫ト在リテ人ノ住居スルキ否ヤラ區別セサルノミナラス焼燃ノ目的物ヲ限定セサルカ故ニ家屋・船舶・倉庫ニ準メ大失建造物及ヒ汽車等

モ此中ニ入ルモノトス。テ、
茲ニ一問題アリト。暴動未際人ヲ傷ケ又ハ物ヲ破壊スルノ所爲ハ暴動中ニ吸收セラルル一罪タルキ將タ彼ト此トノ二罪俱發ナルヤ學者アリ說ヲ爲シテ曰。人ヲ傷ケ物ヲ破壊スルノ所爲ハ通常暴動ノ際ニ現出スル事實カルモ人ヲ殺シ火ヲ放ツノ所爲セテ亦通常暴動共ニ俱發スルノ所爲ナリ然ルニ法律カ後者ニ付テノミ本條ヲ設ケタルハ是レ犯スニ易ク防クニ因難ニシテ其害モ亦通常人殺人若クハ放火ヨリモ大カルヲ以テ之ヲ暴動罪上殺人又ハ放火罪トノ俱發シシテ百條ニ依リテ論スベハ些カ輕キニ失スベノ恐ブルカ故ナルト凡テ解釋論ニハ多少結果ノ如何モモ斟酌セサルヘカラサルトニ據リテ之ヲ觀レバ本問ハ暴動罪ト傷人罪又ハ毀棄器物罪ノ俱發フ以テ論セサルヘカラスド我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ是レ暴動ノ何物タクナリ知ラス體ヲ立法者カ第百三才八條ヲ規定シタル精神如何ヲ了解セサルヨリ來レル誤謬ナリ諸フ左其理由ヲ詳述セン。(一)沿革ニ付考之ガ按スルニ本節兎徒衆罪ノ規定ハ實ニ「民衆草衆及ヒ歐米諸國ノ法制」ノ淵源也タ然モスニ非ヌソシ其源ヲ新律綱領改定律令煙硝謀主

ノナリ新律綱領職業律見徒衆ノ條ニ曰「凡ノ児徒衆ノ聚メ村市町聚落燒亡シ財物ヲ搶奪シ若來ハ人民又殺死スル者過意ヘ斯從之流三等從ノ事ヲ下付人ヲ殺シ火ヲ放フ者ハ絶其止タ附加隨行シ燒ニ在リク勢ヲ助クタゞ者其論スルコト勿レ以下省略ト由是觀之本節ノ源泉タル同法ニ於テハ殺人又ハ放火ノ所爲ハ論者ノ言フカ如ク暴動以外之行爲也非スシテ暴動自體ノ最重量キ場合ナルコトハ毫モ疑ア容レス(二)普通ノ觀念ニ據リ之ヲ按セニ單ニ机上ノ空想ニ基キ暴動ノ何物タルヲ考フルトキハ或ハ論者ノ如ク暴動トハ多人數相集リヲ官廳ニ迫リ又ハ村市ヲ騒擾スルノ所爲ニ就テ性質上人ヲ傷害シ又ハ家屋ヲ破壊スルカ如キ所爲ヲ伴フモノニ非ナルカ如ク思惟セラルヘシト雖モ少シク事ノ實際ニ入りオ之ヲ披スルニ其所謂喧囂騒擾ノ事タルヤ暴行、狼藉ノ行爲獨リ能ク之ヲ生セシムルモノニシテ單ニ大聲疾呼シ又ハ姿勢ヲ兇惡ニスルカ如キ事人ミヲ以テ能ク之ヲ生セシムルモノニ非ナルト從來我國ニ於テ之暴動ノ所爲ハ其例多カラサル也非サルモ(攝タヘ彼ノ加波山又ガ秋父ノ暴動也如ク未タ曾ア暴行、狼藉ノ行爲ナキモノアルヲ見サルニ據リア之ヲ觀レハ茲ニ暴動ト

謂フハ自ラ其中ニ瓦石ヲ投シテ家屋ヲ毀壞シ又ハ竹槍席旗ヲ押立テ人ヲ傷タルカ如キ所爲アルヨトヲ豫見シタル文字ナルヨトニ疑ナカルヘシ然ルニ若シ夫レ論者ノ如タ曰「ハシカ凡ソ如何ナル暴動モ常ニ傷人又ハ毀棄器物罪トノ俱發ヲ以テ論セラルノ結果本條ノミノ適用ヲ爲スヘキ場合ハ既ニラ之アルコトナカラニ(三本條ト第百二十八條トノ關係ニ付テ之ヲ按セニシ若シ論者ノ言ノ如クセシカ第百二十八條モ亦内亂ニ乘シテ犯シタル行爲ナルカ故ニ論者ノ所謂犯スニ易ク防グニ困難ナル行爲ニ非スヤ既ニ之ヲ同一ノモノトセハ何故ニ第百二十八條ニ於テハ本條ノ如クイ暴動ノ際ト云ハシシテ内亂ニ乘シトシロ刑ヲ加等。スト言ハスシヲ重キニ從テ論ストシ(ハ音魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シトセスシテ之ヲ無責任トシタルヤ此等諸種ノ疑問ニ對シテハ恐クハ論者ハ法律ヲ解スルノ能力ナキ者ノ慣行手段タル彼ノ立法ノ不權衡ト云フコトヲ主張シテ以テ罪ヲ立法者ニ負ハシムルニ非スン「自己ノ誤認ヲ戒ムコト能ハテラン」我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ法律カ(イ)第百二十八條ニ於テハ云云。シトスルニモ拘ラス本條ニ於テ暴動ノ際ト輕々書シタガハ是レ其故ニ在

ヲアハ乘シテ犯多ナル他罪ナル者此ニ在リヲハ暴動ヲ所爲自體タルカ故ナリ
 (口)第百二十八條ニ於テ、比照從重論法ニ依ル。モ拘ラス本條ニ於テ云死刑
 ニ處ストシタルハ是レ其數罪俱發ヲ以テ論スヘキ他罪ニ非シア暴動行爲ノ
 最モ重キモノナルカ故ナリ(ハ第百二十八條ニ、首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セ
 ナル……ノ頂ナキニモ拘ラス其本條ニ於テ之ヲ置ク所以ノモノハ彼ニ在リア
 ハ明文ニ示スカ如ク乘シテ犯シタル内亂以外メ行爲ナルカ故ニ内亂ノ首領ヲ
 ル首魁及ヒ教唆者モ亦之ヲ爲シタリト推論スルヲ得サルモ此ニ在リヲハ其事
 ノ暴動行爲自體タルカ故ニ暴動行爲ノ首領タル首魁及ヒ教唆者モ亦此ノ如キ
 先惡ナル暴動行爲ヲ指揮シタリト看做ス、コトヲ得ヘケレバナリ

要之以上論述シタル所ニ據リ第百三十八條ノ所爲ハ論者カ思惟スルカ如ク犯
 スニ易ク防タニ困難ナル(第百二十八條ト同一ノ性質ヲ有スル)暴動以外ノ行爲
 ヲ規定シタルニ非ス暴動自體ノ行爲ヲシテ甚々過劇ニ涉ラサラシメシカ爲メ
 其行爲ノ最モ重キモノヲ嚴重ニ處罰スヘキコトヲ規定シタルモノアニシテ本問
 ノ如キ傷人又ハ毀棄器物等ノ所爲ハ通常暴動ト云ヘル行爲ノ中ニ包含セラル

ヘキモノナルカ故ニ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニ非ストス論者或ハ刑罰規
 衡論ヲ提出スト雖モ若シ夫レ此ノ如クシハ論者何故西人ヲ殺死シ又ハ家庭
 フ燒燬スルノ所爲ハ罪ノ最モ大ナルモノナリニモ拘ラス内亂ノ際之ニ附加陳
 行シタル者カ内亂行爲ノ一部トシテ之ヲ犯シタルトキハ法律ハ僅ニ二年以上
 五年以下ノ輕禁錮ヲ科スルニ過キナルノ怪マサビヤ。モ音譜解ノ樂譜ニ夫火
 (乙)處分 (一)現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放フ者ハ死刑ニ處スト。讀方字ノ如ク説明
 マ要セス(二)首魁及ヒ教唆者—教唆者トハ暴動全體ノ教唆者エシテ彼ノ手ヲ下
 シ及ヒ火ヲ放フ者ノ教唆者ニ非ス此等ノ者ヘ總則ノ適用ニ依リ現ニ手ヲ下シ
 及ヒ火ヲ放フ者ト共ニ正犯トシテ處斷セラルヘシ—首魁及ヒ教唆者カ火ヲ放
 ナ手ヲ下ス者ト同一ノ罪人トシテ罰セラルルカ爲メニハ(第一)情ヲ知リタルコ
 ト第二制セサルコトノ二條件ヲ要ス。法律ヘイ單ニ情ヲ知ルコトヲ要ストス
 ルカ故ニ放火又ハ殺人ヲ爲スノ事情ヲ悉知スルニ於テハ其之ニ同意スルト否
 トハ本罪ノ構成ニ影響ア有セスロ制セオルコトヲ要スルカ故ニ制スガコト能
 ヤナルカ若ク火ヲ調シタルモ犯人ノ之ニ從ハサル場合ハ亦本條ノ罪人タルコト

ナシト首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セナルトキハ之ヲ主犯ト同一ニ論スルハ是レ前ニ詳述シタルカ如ク人ヲ殺シ火ヲ放フノ所爲ハ第百二十八條ノ所爲ト異ナリテ暴動行爲ノ一部タルカ故ニ其之ヲ制セナル上暴動ノ首領タル被等ニ於テ之ヲ指揮シタリト看做スヲ得ルカ故ナリ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フテ妨害スル罪

法律ハ第百三十九條乃至第百四十一條ノ規定ニ冠スルニ本節所謂官吏ノ職務ヲ行フテ妨害スル罪ナフ名稱ヲ以テセリ無レドモ本節規定スル所ノ事項ハ(一)官吏ノ職務執行ヲ抗拒シ若クハ官吏ヲシテ其爲スヘカラサシ事件ヲ行ハシメタル罪ト(二)官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪トノニシテ名稱稍、狹隘ニ失スルノ觀アリ今之ラ外國ノ立法例ニ按スルニ右二箇ノ罪ハ大抵皆其節目ヲ異ニセルノミナラス官吏ノ職務執行ヲ抗拒スル罪ハ名稱自稱本節ノ題名ニ適合スト雖モ其職務ニ對スル侮辱罪ハ唯其結果ヨリジテ僅ニ官吏ノ職務執行ヲ妨害スルモノタリト謂フ得ルノミニシテ其本質ハ公權違規ノ罪タリ隨ク若シ夫レ

我法律ノ如ク猶テ此罪ヲ併合セシ重微セシ人民官吏ノ職務ニ對スル罪ト謂ク
カ如キ題名ノ骨スルノ以テ要體ナリニ信ス
仍テ些カ杜撰ノ嫌ナキニ非ナルモ子ハ本節ヲ(一)官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ト(二)官吏ノ職務ニ對スル侮辱罪トノ二款ニ分ナテ之ヲ説クシ諸君請フ之
貴重也斯大法也人を傷害する事本來不更也本來二種を合て大文題題本ノ如ク
遂ニ敵へる事無事子成蓋ニ命又死處置が無百三十次殺戮一見支拂難江裏人御

第一款 官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪

第百三十九條ニ曰ク官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行者追フ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重徒刑ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス暴行者追シ以テ其官吏ノ爲ス可カラシム事件ヲ行ハシメタル者亦同シ下ニ第百四十條ニ曰ク前條ノ罪ヲ犯シ國家官吏ノ職務ヲ妨害シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處断スドモ其罪は重減せ候事無事子成蓋ニ命又死處置が無百三十次殺戮一見支拂難江裏人御

第百三十九條第一項ハ官吏ノ職務ヲ行フテ妨害スル罪ヲ第二項ハ官吏ヲシテ

爲スヘカラナル事務ヲ行シシ職務ル罪ヲ規定者ノモ罪ニ付之立者右間坐少々區別ナキニ非スト羅モ畢竟表裏ノ所爲ヲ規定シタルニ過キナルモノニシテ要スルキ我佛文藝案及ミ佛國刑法ニ於ケレ規制セシ「Resection」公方ニ反抗スル罪上解スヘキカト罪スハサム犯犯罪アルか故ニ予ハ假ニ之ヲ併合シ命スドニ官吏オ職務執行ヲ妨害スル罪又ノ題名又以テセリ即テ以下例ニ依テ見テ其成立要素ト處分法トニ登ナテ説明シテ處セヨ旨良也此項マニ告ヘ西良忠士四年議員三十武道ヘ日本者東北難民ニ及シテ其者ニ於テ此地ニ留候ム又ノ言文皆被官體也

第一項 成立要素

右ニ述ヘタル如ク子カ茲ニ命スル表題ハ第一百三十九條第一項及ヒ第二項ノ構成要素包括スルモノナルカ故ニ本項ハ更ニ之ヲ二段ニ分チテ説明スヘシ
イ(1)官吏ヘ懲戒ニ及スル時異常事件ハ二種ニ依テ之ヲ起因ヘシ警告謂之恐嚇也或其威勢の恐懼謂之威嚇也此等の恐嚇ハ故意も亦可也
本構成要素ヲ構成スル處ハ外部人要素類メテ(1)暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタルノ所爲看ル(2)其抗拒ヘ付箇人タガ官吏ニ對シ及爲シタルコト(3)官吏ノ職務執

行中其職務ニ對シテ之ヲ爲シタルコトヲ要シ内部ノ要素トシテ四官吏ノ職務執行中タルコトヲ知リ之ヲ抗拒スルノ意思アルコトヲ要ス而シ實法モ禁憲法モ外部ノ要素トシテ(1)與執事公使等々外國領事人ニ後者ハ製管領事人ニ亦其前第一暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル所爲アルコトヲ要ス而後者ハ外國領事人(2)抗拒シタルコトヲ要ス—抗拒佛語ノ「オッボジション」(Opposition)又「Resistance」ナル語ニ相當ストハ互ニ相排セントスル二箇ノ力ノ争フ意味スルモノニシテ少クトモ一ノ力カ他ノ力ニ對シ積極的ニ相争フノ狀態アルヲ要ス故ニ彼ノ單ニ官吏ノ命ニ服セサランカ爲メニ遁逃スルカ如キハ決シテ之ヲ抗拒ト謂フヲ得ナルモトスロ抗拒ノ手段ハ暴行又ハ脅迫ニ依ルコトヲ要ス—暴行(佛語ノ「ビオランス」)Violenceニ相當ストハ物ニ對スルト人ニ對スルトヲ問ハス總テ不正ニ魄力ヲ用フルコトヲ意味スルノ語ナレトモ我刑法及ヒ其母法タル佛國刑法ノ用例ニ依レハ暴行脅迫ト相連テノ書シタルトキハ常ニ二人ニノミ對スル暴行ノ義ニシテ物ニ對スルモノヲ意味スルコトナシ隨テ本條ノ場合モ亦單ニ一人ニ對スル暴行ニ限ルモノトセサルヘカラス而シテ人ニ對スル暴行

ニモ亦種種アリ單ニ人ヲ殴打スルも暴行ナリ因テ疾病、創傷ニ至ラシムルも暴行ナリ謀殺故殺モ亦暴行ナリ本條所謂暴行トハ此等ノ總ナリ包含スルヤ是ニ付テモ亦我刑法並ニ佛國刑法ノ用例ヲ按スルニ普通暴行ナル語ハビオラン、レゼーヌ[Violence]輕キ暴行トノ義ニ用ヒ疾病、創傷等ノ結果ヲ生スルモノハ之ヲ除外セルノミナラス右等ノ所爲ニ付テハ次條更ニ特別ノ規定アルニ據リテ之ヲ觀レハ茲ニ暴行トハ人ニ對シテ不正ノ腕力ヲ用フルモノノ中其未タ疾病、創傷ニ至ラナル程度ニ於ケルモノヲ指スト解セナルヘカラス即チ暴行トハ人ニ對スル不正ノ腕力ナルカ故ニ彼ノ官吏ノ來ルヲ望見シテ門戸ヲ閉鎖シ又ハ僞計詐術ニ依リテ之ヲ欺クカ如キ腕力ヲ以テスルニ非ナルカ若クハ腕力ヲ用フルモ人ニ對セナルモノハ決シテ本罪構成ノ要素タルヲ得ス然レトモ其所謂人ニ對スルコトヲ要ストノ意味ハ必ス其直接ニ人ニ對スルモノナラナルヘカラスト謂フノ義ナリト誤解スヘカラス苟モ人ニ對スル暴行ナランカ其直接ノモノタル間接ノモノタルトバ措チ間ア所ニ非ヌ故ニ例之官吏カ職務執行ノ爲メニ開カントスル戸扉ヲ内部ヨリ押ヘテ入ラナラシムルカ如キハ即チ

物ヲ介シテ人ニ加フル暴行ニシテ畢竟間接ノモノタリト雖モ決シテ本罪ノ構成ヲ妨クルコトナシ—脅迫ニモ亦廣義ノモノト狹義ノモノトアリ廣キ意義ニ於テ脅迫トハ手段ノ如何ヲ問ハス總テ人ノ心理上ニ恐怖ノ念ヲ惹起セシムヘキ行爲ヲ謂フ故ニ此意義ニ依リトキハ苟モ人ヲシテ恐怖セシムルノ行爲ナランカ目ヲ瞼ラシ肩ヲ張ルカ如キ其單ニ言語又ハ姿勢ヲ兇惡ニシタルモノ單純脅迫又ハ輕脅迫タルト其或ハ銃口ヲ目前ニ差付クルカ如キ危害ノ切迫ナル狀態ヲ示シタルモノ(實體的脅迫又ハ重脅迫)タルトヲ分クス凡テ脅迫ノ所爲タリ狭キ意義ニ於テ脅迫トハ[Violence morale]無形ノ暴行トノ意味ニシテ人ノ心理上ニ急迫ナル危害ヲ受クルノ恐怖心ヲ懷カシムルノ行爲詳言スレハ汝ヲ殺スヘジトヲ白刃ヲ振り上クルカ如キヲ謂フ茲ニ所謂脅迫トハ果シテ二者孰レノ意義ヲ有スルヤ法文ハ之カ定義ヲ示サナルカ故ニ其義得テ窓フヘカラスト雖モ二凡ツ執行官吏ノ職務タル多クハ公權命令ニ服從セナル者ニ對シ實力ニ依リテ強制的ニ執行ヲ爲スモノナルカ故ニ職務ノ性質上決シテ目ヲ瞼ラシ肩ヲ張ルカ如キ單純ナル脅迫ニ依リテ威嚇セラルベキモノニ非サルト(二佛文草案ニ

光明カニ「ムナスグラー」(Meese Gras)即チ重脅迫ナル文字ヲ使用シタルト(二)外國法例之匈牙利刑法ノ如キハ本條と同一ノ場合ニ於テ特ニ重大ナル危害アルヘキ脅迫ナル文字ヲ使用セルトニ據テテ之ヲ觀レハ茲ニ所謂脅迫トハ狹キ意義ノ脅迫詳言スレハ無形ノ暴行即チ重脅迫又ハ實體的脅迫ノ義ト解釋スルヲ以テ最モ當ラ得タルモノト信ス
第二 抗拒ハ一箇人カ官吏ニ對シテ爲シタルコトヲ要ス
(イ)抗拒ハ一私人ノ爲シタルコトヲ要ス——是レ法文ノ明示セサル所ナリト雖セ事初當然ノ結果必然生セスンハアルヘカラサル要素タリ蓋シ職務執行ヲ抗拒スルノ所爲トハ公權ノ執行ニ對シ不正ノ腕力ヲ弄スルコトヲ意味スルモノナルカ故ニ其暴行ハ公權ノ執行權ヲ有セサル者ノ所爲ニ出ツルモノナラサルヘカラサルヤ炳然火ヲ睹ルカ如キモノアレハナリ夫レ然リ故ニ例之二人ノ執達吏同時ニ或債務者ニ對シ或判決ノ執行ヲ爲ナントシ職務上ノ競争ヨリ一人カ他ノ一人ニ對ノテ職務ノ執行ヲ妨害スルノ結果ヲ生スルコトアルモ之ヲ以テ職務ノ執行ヲ妨害スルノ所爲ト謂フコトヲ得サルナリ蓋シ是レ何レモ當ニ職務

ノ執行ヲ妨害スルノ意思ナキニミナラス却テ職務執行ニ勤精スルノ所爲ニ外ナフサレハナリ然レモ茲ニ注意不ヘキハ我輩カ所謂執行權ヲ有スル者トハ官吏ノ資格ヲ有スル者トノ義ニ非サルカ故ニ官吏ノ資格アル者ノ所爲ハ常ニ妨害罪ヲ成立セスト誤解セサランコト是ナリ即チ例之犯罪人ヲ逮捕セントスル甲巡查ノ手ヲ執ヘ又ハ之ヲ抱キ止メ以テ其逮捕ヲ妨害シタル丙巡查ノ所爲ハ縱令其身官吏タリト雖モ是レ決シテ職務ノ執行ニ非サルカ故ニ當然本罪ヲ犯シタル者トス(ロ)官吏ニ對シテ爲シタルコトヲ要ス——茲ニ所謂官吏トハ如何ナル官吏ヲ謂フヤ曰ク法文ニ依レハ法律規則ヲ執行シ又ハ……命令ヲ執行スハニ當リ……其官吏……ト在ルカ故ニ其所謂官吏トハ通常彼ノ命令ヲ發シテ之ヲ執行スル所ノ下級ノ官吏例之司法警察官巡査憲兵卒駆逐吏收稅吏稅關吏山林監守等ヲ指スモトス今之ヲ本罪創設ノ理由ニ鑑ミルモ亦其然ラサルヘカノサル所以アルヲ發見セシ何トナレハ法律カ執行官吏ノ職務執行ヲ保護スル所以ハ是レ此等ノ官吏ハ直接ニ人民ニ接スルノ結果或ハ人民ノ暴力ニ遭遇

スルコトアルカ故ナリトテシタルノ事例ハ、大抵は、官吏ノ職務執行中ニ非ナルモノ又ハ職務執行中ナリトテシタルノ事例也。斯ニハ、官吏ノ職務執行中ニ非ナルカ故ニ、官吏ハ、其私ノ行動ヲ、公權ヲ、代表スルモノト謂フ。然ニハ、公權ヲ、代表スルモノト、謂フ。

第一臨ミ一言ス(一)明治二十三年十月八日法律第百號ニ依リ、公吏ハ、官吏ニ準スヘキモノナルカ故ニ、法律命令ヲ執行スル公吏ニ對スル職務抗拒ノ所爲モ亦本條アリ以テ論セナルヘカラス(二)執行官吏ノ補助員トシテ備入レラタル一箇人ハ、執行官吏ノ機械タルニ遇キサルカ故ニ之ニ對スル職務妨害ノ所爲ハ亦本罪ア構成スルモノトスルノ判例アリ以テ参考ニ資ス。佛國千八百五十年三月二十五日大審院判決。

第三三 抗拒ハ、官吏ノ職務執行中其職務ニ對シテ之ヲ爲シタルコトヲ要ス。イ本條件ハ、本罪ノ成立ニ最モ必要ナルモノニシテ諸國ノ法制皆其援フ。ニスメ所タリ法文ハ、則ナミヲ執行スルニ當リ、下謂ヒ以テ其意ヲ明カニセリ。法律ヲ執行スル場合トハ例之刑事訴訟法ニ依リ、豫審裁判事カ家宅ヲ搜索シ、巡回カ現行犯人ヲ逮捕スルノ際命令ヲ執行スル場合トハ、司稅官吏カ其長官ノ命令ヲ以テ一殺人ノ根拠ヲ検査シ、執達レカ判決ニ依リ、強制執行ヲ爲スカ如キ際ヲ謂フ。ハロ)法律ハ、官吏ノ職務執行中其職務ニ對シテ抗拒シタルコトヲ要スルカ故ニ編

合官吏タリト雖モ、其職務執行中ニ非ナルモノ又ハ職務執行中ナリトテシタルノ用ヲ抗拒シタルモノ例之賤暇中私用ヲ便セントスルモノ若クハ、執行中便事ヲ爲スラ、妨クルカ如キハ、或ハ單ニ民事上ノ制裁若クハ殴打創傷等ノ他罪ヲ構成スルコトアルヘキモ、決シテ本罪ヲ構成スルコトナシ。然ラハ、法律ハ何故ニ職務執行中ノ行動ノミヲ保護シテ廣ク官吏タル資格ヲ有スル者ノ諸般ノ行動ヲ保護セサルヤ曰ク、是レ後ニモ述フルカ如ク、昔時ニ在リテハ官吏其人ヲ重セシカ故ニ、或ハ其凡テノ行動ヲ保護セシコトアルモ近世ニ到リテハ法律カ官吏ヲ保護スルハ、是レ官吏タルカ故ニ非シテ、公權ヲ代表スルモノトナリトノ新思想ヲ生シタルニ由ルモノニシテ、官吏タルモ其職務執行中ニ非ナルカ若クハ其私ノ行動ハ、公權ヲ代表スルモノト謂フ。得ナレハナリ。

次ニ内部ノ要素トシテハ

第四、官吏ノ職務執行中ナルコトヲ知リ且ツ之ニ抗拒スルノ意思アルコトヲ要ス。官吏タルコト及ヒ其職務執行中ナルコトヲ知ルヲ要スルカ故ニ、雜合職務執行

妨害スト罪モ其官吏タルコトヲ知ラサセカ或ハ又総合官廳タルコトヲ知ルモ其職務執行中ナルコトヲ知ラサランカ是レ即テ罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラサモノナルカ故ニ無罪タルヲ得ル更ニ又一步ヲ進メテ官吏タリ職務執行中タルコトヲ知ルト雖モ之ヲ妨害スルノ意思アルニ非ナレハ亦本罪ニ擬スルコトヲ得ス故ニ例之或官吏ニ私怨ヲ報ヒンカ爲メ其職務ニ執掌中ナルコトヲ知リ機乗スヘシト爲シ之ヲ戰傷シタルカ如キハ決シテ本罪ヲ構成セナルモノトス茲ニ古來有名ナル一問題アリ曰ク暴行脅迫ヲ受ケタル官吏ノ職務人執行ハ適法ナルコトヲ要スルヤ否ヤト即チ予ハ左ニ立法論ト解釋論トニ分ナフ之カ説明ヲ試ミント欲ス

(甲) 立法論 小沿革 此問題タル既ニ古ク羅馬法ノ下ニ於テモ提起セラレタル所ニシテ同法ニ於テ司税官吏ノ場合ニ付テ此問題ヲ決セリ曰ク司税官吏ノ職務執行ハ適法ナルコトヲ要スル降テ中世ノ法律モ亦之ヲ繼承シ官吏ノ職務ノ執行ハ適法ナルコトヲ要ス若シ不適法ナルニ於テハ縱令之ニ抗拒スルモ敢テ罪ヲ成サナルノモナラズ寧ロ却テ不法行為ニ對タル正當防衛ノ行爲ナルリ

(乙) 消極説 此説ヲ主張スル者ハ曰タ官吏ハ公權ノ代表者ナリ既ニ公權ヲ代

表スル以上ハ之ニ抗拒スルノ即チ不法ナリト謂ハサル(カラス)凡ソ人民ハ公權ニ對シテ絶對的服從ノ義務ヲ負ヘルモノニシテ敢テ其之ヲ違法ト不適法トニ容隣スルノ權アリコトナシ否縱令百歩ヲ讓リテ其之ニ容隣スルノ權アリタルモ官吏ハ一般ニ一私人ヨリモ權利義務ノ存在ヲ熟知スルモノナリト推測スルハ事物當然ノ理ナルムナラス一箇人ハ縱令其己ニ裡アリト雖セ以テ自ラ之ヲ直ウスルコト能カナルハ近世社會ノ一般ニ認ムル所ナラヌキ然ゲニ今若シ夫ニ官吏ノ行爲適法ナラナルトキハ一箇人ハ暴行脅迫ヲ加フムモ尠キ之ニ抗拒スルノ權アリトセヤ其之ヲ口實トシテ公權ノ執行ノ免レシト欲スル者ハ豈出斯ルノ結果公安ノ秩序ヲ害スルヤ蓋シ測ルヘガテナルモノアラシ況ナ近世開明諸國ニ於テハ一方ニ嚴正ナル規律ヲ以テ官吏ヲ驅逐スル事アリ他ノ一方ニ於テ行政司法ノ裁判所アリ若シ官吏ニシテ不法ヲ處分アランカ人民ハ則チ行政ノ司法ヲ以テ十分ナル救濟ヲ求ムルノ途裏ルニ於テヲ免レシ

苦ミテカ一私人ヲシテ官吏ノ執職ノ適否ヲ爭ベシムル必要アランヤト(此說ノ大半ハ「民ノ草案ニ於テ主張セル所ナリ」)。官吏ニ於テ不始々敷設スモ也。

(二) 積極說。此說ヲ主張スル者ハ曰ク違法行爲ニ對スル抗拒ハ之ヲ主觀的ニ論スルモ將タ客觀的ニ論スルモ決シテ本罪ヲ構成スヘキ理由アルコトナシ先フ客觀的ヨリ之ヲ論究セルニ抑モ本罪ヲ構成スル所以ハ法ヲ蔑視シテ公權ニ服従セナルニ在リ官吏ノ違法行爲ハ之ヲ公權ノ作用ト謂フヲ得ヘキヤ曰ク是レ其官吏ハ己レ先ツ既ニ公權ヲ濫用スルノ罪人タリ隨テ之ニ對スル抗拒ノ行為ハ啻ニ公權ヲ侵害スルノ所爲ニ非ナルノミナラス却テ正當防衛ノ權ヲ執行セルモノト謂ハナルヘカラス更ニ之ヲ主觀的ヨリ論スルモ亦同一ノ論決ニ歸着セント何トナレハ法律命令ノ執行ヲ妨害セントノ目的ヲ以テ暴行脅迫ヲ加ヘタルハ是レ本罪ノ心內的要素タリ然ルニ不法行爲ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘタルノ所爲ハ之ヲ以テ法律命令ノ執行ヲ妨害セントノ目的ニ出テタリト謂フヲ得ナレハナリ由是觀之官吏ノ行爲不法ナルニ於テハ之ニ對スル抗拒ノ所爲ハ決シテ罪ヲ構成スヘキモノ非サルヤ論ヲ候タナルナリト。

以上ノ二說ヲ較スバニ單ニ純理ノ上ヨリ之ヲ論下セハ後說ノ前說ニ優ルコト固ヨリ多辯ヲ要セスト雖モ事實ハ必シモ常ニ純理ト一致セス國情ノ如何ニ由ヲハ前說却テ後說ニ勝ルコトナキヲ保セス畢竟二說ノ良否ハ其國其時代ノ事情ニ訴ヘテ取捨スヘキ問題ニシテ決シテ一片ノ理論ノミニ據り判定スヘキモノニ非ス隨テ予ハ惟ラク外觀ノ美ノミヲ誤ヘル代議政體ハ却テ善良ナル君主專政ヲ追慕セシメ精巧微細ナル刑法ハ却テ精練ナル判官ニ如カラムト一般若シ夫レ其國政府ニシテ信用ヲ置クニ足ラスンハ其後說ニ從フヘキコト固ヨリ論ヲ候タスト雖モ事情若シ此ノ如ク爲ラナルニ於テハ前說ヲ採用シ以テ外觀ノ美ヲ誇ランヨリハ寧ロ實際ノ良果ヲ收ムルノ優レルニ如カラム確信ス。

(二) 解釋論。佛文第一草案ニ於テハ「違法ニ若クハ正則ニ尋ノ文字アリタルニモ拘ラス確定法文ノ之ヲ缺如セルニ據リテ之ヲ觀レハ或ハ官吏ノ行爲ノ違法チルト否」ニ論ナク本罪ヲ構成スルモノニ非スヤトノ疑ヲ起ス者アルヘシト跋五(一)我母法タル佛國法ニ於テモ其千七百九十年ノ舊法ニハ確的ニ書クハ「違法ニ尋ノ文字アリク其之ヲ修正シタル千八百十年ノ現行法ニハ此等ノ文字

ナキカ故ニ其關係全ク佛文第一草案ト確定法文トノ關係ト毫モ相異ナルコトナキニ拘ラス佛國一般ノ學者や現行法于テ職務執行ノ爲メトノハ畢竟適法若クハ正當ナル職務ノ執行タルコトヲ要スルモノニシテ舊法ト毫モ相異ナルコトナシト主張シ一人ノ之ニ異議ヲ唱フル者ナキト(二)確定法文ニ官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ云々トハ其レ自身正當ノ行爲タルヲ要スル不意ヲ表彰シテ餘アルノ文字ニシテ尙ホ之ニ加スルニ第一佛文草案ノ如ク正當又ハ適法若クハ正則ニ等ノ文字ヲ以テスルハ事ロ却テ蛇足ニ過キサルノ體アルトニ據リテ之ヲ觀レハ解釋上ニ於ナハ官吏ノ職務執行ハ適法ニ非スンハ犯罪ヲ構成セサルハ蓋シ疑カルヘシ

然レトモ其果シテ如何ナル行爲ヲ以テ正當トシ如何ナル行爲ヲ以テ不正當トスヘキヤノ問題ハ事實ノ如何ニ從ヒ異ナラナル得サル至難ノ問題ニシテ容易ニ決定スルヲ得サルモノナリト雖モ今法文ニ示ス所ト一般ノ總理トニ據リテ之ヲ按スルニ(一)微細ナル法律手續ニ至リテハ官吏ト雖モ往往誤認ナキヲ保セサルモノナルカ故ニ若シ夫レ之ヲ理由トシテ一私人ハ暴行脅迫ニ依ルモ尙

ホ之ヲ抗拒スルノ權アリトセハ公權ノ執行ハ殆ト得ア望ムヘカラナガト(二)法律ハ官吏其職務ヲ以テ法律規則又ハ命令ヲ執行スルニ當リテ官吏ノ職務執行ハ(官吏タルコトヲ要シ)ロ職權アルコトヲ要シハ法律規則又ハ命令ノ執行タルコトヲ要スルニミニシテ其他何等ノ要件ヲ具備スルコトヲ要セサルトニ據リテ之ヲ觀レハ法律規則又ハ命令ヲ執行スル資格ヲ有スル官吏タルコト及ヒ法律規則若クハ命令ノ執行タルコトノ二要件ヲ具備スルニ於テハ經合其手續上ニ於テハ幾分ノ不法アリト雖モ一私人ハ之ニ抗拒スルノ權ナシト謂ハサルヲ得サルヘシ蓋シ其之ヲ執行スル官吏ノ行爲ニシテ此ニ要件ヲ具備センカ經合微細ナル手續上ニ於テハ幾分ノ不法アルヨ一私人ハ之ニ因リテ暴行脅迫ヲ以テモ尙ホ之ニ抗拒スルニ非スンハ他日救濟ヲ求ムルヲ得サル程ノ權利ヲ侵害セラルルカ如キコト之アルヘカラナレハナリ但シ終ニ臨ミ一言スヘキハ以上ノ如ク論述スト雖モ之ニ依リテ法律ヲ解釋スルノ權ハ官吏ニノミ属シテ一私人ハ之ヲ有セサルモノト誤信スヘカラス法律解釋ノ權ハ一私人民亦官吏ト同シク之ヲ有スルモノナルカ故ニ例之法律ヲ執行スル巡査又ハ

憲兵卒ニシテ刑事訴訟法ニ所謂現行犯ト非現行犯トハ其間何等ノ區別ナキモ
ノト誤解シ合狀ヲ持タスシテ非現行犯ヲ逮捕セントシタルカ如キ場合ニ於テ
其執行ヲ受クヘキ一私人ハ法律ハ合狀ヲ以テスルニ非サレハ非現行犯ヲ逮捕
コトヲ許サストノ理由ヲ主張シ以テ其執行ヲ拒否スルコトヲ得ヘキコト
勿論ナリトス然レトモ若シ夫レ其執行ニシテ軍ニ事實ノ錯誤ニ基因スルノミ
エシテ法律ニ於テ何等ノ誤謬ナキトキ例之豫審判事カ有罪ナリト信シ無辜ノ
人ヲ逮捕セシメントシタルカ如キ場合ニ於テハ其之カ執行ヲ受クヘキ一私人
ハ軍ニ無辜ノ者ナリト事實ヲ主張シ以テ之カ執行ヲ抗拒スルコトヲ得ス蓋シ
事實ノ認定ハ判事其人ノ職權内ニ有スルモノニシテ經合事實ノ上ニ誤謬ノ點
アルモ這ハ單ニ判定カ拙劣ナリト云フニ止マリ常ニ正當ナル職務ノ執行タル
ヲ失ハサレハナリ

第二段 第百三十九條第二項ノ場合

第一百三十九條第二項ニ曰ク暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラナル事件ヲ行

ハシメタル者亦同シト本場合ノ罪ヲ構成スルニハ下ノ要素ヲ具備スルコトヲ要
ス曰ク心外ノ要素トレバ(一)暴行脅迫ヲ以テシタルコト(二)官吏ノ爲スヘカラナル
事件タルコト(三)之ヲ行ハシメントシタルコト曰ク心内ノ要素トシテ四官吏ノ職
務上行フコトヲ得ナル事件タルヲ知リ之ヲ行ハシムルノ意思アルコト是ナリ
第一及ヒ第四ノ要素ハ前段ノ説明ニ依リテ之ヲ明カニスルコトヲ得ヘキカ故
ニ之ヲ省略シ第二及ヒ第三ノ要素ノミニ付テ之ヲ説明スヘシ又該相類似事件
第二 官吏ノ爲スヘカラナル事件タルコトヲ要ス

(一) 官吏トハ如何ナル官吏ヲ云フヤ法文ハ前項ヲ承ケ直チニ其官吏ト云フカ
欲ニ茲ニ所謂官吏トハ前項ト同シク法律規則又ハ命令ヲ執行スル官吏トス法
律ハ單ニ官吏タルヲ要スルノミニシテ前項ノ如ク職務ノ執行中タルコトヲ要
セナルカ故ニ職務ノ執行中ト否トハ本罪構成ノ要件ニ何等ノ關係ナキモノト
ス然レトモ一言注意スヘキハ茲ニハ官吏ノ爲スヘカラナル云云トアルカ故ニ
其一私人カ之ヲシテ爲ナシメントシタル所ノ行爲ハ官、吏、員、格、ヲ、以、テ、其、爲、
ヘカラサルノ行爲ヲ行ハシムル場合タルコトヲ忘ルヘカラス(二)爲スヘカラナル

事件トハ如何ナル事ヲ云フヤ編纂ノ沿革ヲ按スルニ最初佛文第一草案ニ於テハ前項ノ場合ハ官吏ノ適法ナル行爲ヲ抗拒シタルトキニ非サレハ罪ト爲ラナルノ規定ナリシニモ拘ラス本項ノ場合ハ「暴行脅迫ノ目的上ニ示シタル官吏ヲア強テ其爲スコトヲ欲セザル行爲ヲ行ハシメントスルニ在ルトキ亦同シトアラ職務上爲スヘカラナル行爲タルト否トニ論ナク苟モ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲スヲ好マナル事ヲ強テ行ハシメタル者ハ皆之ヲ罰スヘキモノトシタルノ結果彼此權衡ヲ失スルノ觀アリキ是ニ於テ「ボ民ハ前ニモ述ヘタル如ク雖ナ第一章案第一項(確定法文第一項ト同シ)ノ規定ニ反對ノ意見ヲ有セル人ナリシカ故ニ本項ノ場合ニ於テモ尙ホ其持論ヲ貫カント欲ヲ右人缺點ヲ利用シ却テ第一項ヲ修正シ官吏ノ行爲不法タリト雖モ一私人也之ニ抗拒スルコトヲ得ストシ以テ前後ノ調和ヲ全ウスヘシト主張セシ者日本本文草案ノ編纂委員ヘ「ボ氏」ノ調和説ノミヲ採用シ「ボ氏」も反對ノ主義ニ依リ本項ノ場合ヲ強テ官吏ノ權内ニ在テナル事件ヲ行ハシムタル者亦同シ修正シ更ニ之ニ文章的添削ヲ加ヘテ本項ノ確定法文ヲ成シテタル者亦據リテ之ヲ觀シハ茲ニ官吏ノ爲スヘカラナル事

件トハ執行官吏トシテ爲スコトヲ得ナル背法ノ行爲ヲ指スモノトス蓋シ「私人事糾合適法ニマレ官吏ヲ命令スルヲ耀す事無故ニ適法ナリトテ之ヲ本間ニ括シテ勧カ其當ヲ得ナシカ如キ觀アリト雖モ是レ畢竟前項ニ於テ採リタル精極主義ノ論理ヲ敷衍シテ糾合官吏ノ欲セタル事件ヲ行ハシムタルモ若シ其事ニシテ適法ノ行爲タランカ之ヲ行ハサル官吏コト却テ自己ノ職責ヲ怠レル不法ノ行爲ヲ爲ス者ナレ其之ヲ強制シタル一私ノ行爲ニ事ヲ適法ノモノニシテ毫モ公權ヲ蔑視スルモノニ非ス未云フニ在ラン、然ニ其事ニ關シテ之ヲ文書ニ記入ス

追ヲ加フルモ官吏ニ於テ其未タ之ヲ爲サナルノ間ハ決シテ罪ヲ構成セリル
故ニ彼此大ニ權衡ヲ失スルノ結果ヲ生スルノミナラス(ニ)前ニモ述ヘタルカ如
ク日本文草案ノ法文ハ「民ノ修正說中權衡ヲ失ストノ一面ノミヲ採用シ以テ
傷ニ前項トノ一致ヲ保タンカ爲メニ成立シタルモノニシテ日本文草案編纂ノ
際其委員ニ於テ更ニ本項明文所謂……行ハシタルトキト云フカ如キ修正ヲ爲
サント欲シタルノ痕跡毫モ之アラナルヲ以テ之ヲ觀レハ本項ノ法文ハ畢竟是
レ主トシテ佛文第一草案ノ缺點ヲ正シタル日本文草案ノ字句ヲシテ更ニ流暢
ナラシメント欲シタルヨリ文章的附隨ノ修正ノ爲メ遂ニ此ノ如キ文字ヲ成ス
ニ至リタルモノニシテ立法者ノ精神ハ官吏ヲシテ其爲スヘカラナル事ヲ行ハ
シメントシタルトキニ於テ却トスルノ點ニ於テノミ佛文第一草案ト正反對ナ
ルノヨニシテ其他ノ點ニ於テハ毫モ佛文第一草案ト異ナル所ナカルヘシ是レ
子カ行文ノ文句如何ニ拘ラズ本罪ハ必スシニ其之ヲ行ハシメタルコトヲ要セ
ス單ニ之ヲ行ハシメントシタルノミヲ以テ構成スルモノナリトスル所以ナリ
蓋イハ尋常官吏イハセシムニモ皆悉く實績を積ム者ハノミトスル也

第二項 懲 分

第一百三十九條第一項ノ末文ニ曰ク「……四月以上四年以下ノ重禁額ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スト同條第二項ニ曰ク「……亦同シト次ニ第百四十條ニ曰ク「前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ殴打剣傷ノ各本條ニ照シ等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷スト處分ニ付テハ別ニ説明スヘキモノナシ第百三十九條第二項ノ場合ニ於テハ四月以上四年以下ノ重禁額ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ第百四十條ノ場合ニ於テハ殴打剣傷ノ各本刑ニ一等ヲ加ヘタルモノト對比シ重キ刑ヲ有スルモノノ以テ其罪トス(此點ニ關スル詳細ノ説明ハ第百三十八條ノ末段ノ説明ヲ參観スヘシ刑罰ノ比較法ハ總則ノ範圍ニ屬シ既ニ諸君ノ了知セラル所亦之ヲ説明スルノ要ナキヲ信ス

但シ第百四十條ノ場合ニ於テハ一箇ノ問題アリ曰ク若シ第百三十九條第一項第二項ノ罪ヲ犯ナントシテ官吏ヲ謀故殺シタルトキハ如何ニ處分スヘキキアリ付ヲハルソ三箇ノ學説アリ第一説ニ曰ク第百三十九條ト第三條謀故殺ノ各

本條トヲ以テ論スヘシト第二說ニ曰ク第二百九十六條ノ罪にシテ論スヘシト第三說ニ曰ク第三編謀故殺ノ條ヲ以テ論スヘシト予ハ嘗て第三說ヲ主張シタルコトアリシカ今ハ第一說ヲ以テ正論ヲ得タルモノト信ス蓋ヤ殺人ノ章思ヲ以テスルモ其手段ハ暴行ニシテ第一百四十條所謂殴打ノ意思ヲ以テ抗拒スルモノト毫モ異ナル所ナクレハナリ

第一款 官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪

近世所謂官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪ハ羅馬法ノ末流ヲ汲ムモノニシテ沿革上三段ノ變遷ヲ經タルモノトス即チ羅馬法並ニ其之ヲ直承シタル中世ノ法律ニ於テハ單ニ官吏タル身分ヲ有スル者ニ對シ侮辱ノ行爲アルトキハ其レノミヲ以テ官吏侮辱罪ヲ構成スルモノトシ尙ホ其身分地位ノ如何ニ依リ刑罰ヲ輕重シ彼ノ裁判官ノ如キハ君主ノ判定權ヲ代表スルモノナリトノ理由ニ因リ特ニ重刑ヲ科セラレ時ニ或ハ死刑ヲ以フ待ツコトアリキ然ルニ十九世紀ノ初二到リ官吏侮辱トハ官吏其人ニ對スルモノニ非スシテ其之ニ依リテ代表キ

ラレタル職務ニ對スルモノナリトノ新思想ヲ生シ官吏ヲ身分ヲミニ對シアノ官吏侮辱罪ヲ構成セタルモノトセカ(佛國刑法ハ此主義ニ依レリ)最近開明ノ諸國ニ於テハ更ニ一步ヲ進メ苟モ官吏ノ職務ニ對スルモノハ總ク同等ノ官吏侮辱罪ヲ構成スルモノニシテ其位地品等ノ如キハ以テ刑罰ヲ輕重スルノ標準ト爲ラナルモノトスルニ至リ我現行刑法ノ如キ即チ此主義ニ依ルモノタリ羅馬法ニ於テモ十九世紀ノ初ト向シク官吏侮辱罪ハ官吏其人ニ對スルモノニ非スシテ其之ニ依リテ代表セラレタル職務ニ對スルモノナリ隨テ單ニ二段ノ變遷ヲ爲スニ遇キスト云フノ說モアリ参考ノ爲メ一言ス官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪ハ刑法第一百四十一條ニ規定スル所ナリ曰ク「官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ非スト雖其刊行人文書圖畫又ハ公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ」ト本罪ヲ構成スルニハ甲心外ノ要素トシテ(一)官吏ノ職務ニ對スルコト(二)法律ノ定メタル方法ニ依リ侮辱シタルコト(三)心内ノ要素トシテ(三)官吏タルコトヲ知リ之カ職務ヲ侮辱スルノ意思ア

バコトヲ要ス即チ以下之ヲ詳説スヘシ

(甲) 心外ノ要素

第一 官吏ノ職務ニ對スルコトヲ要ス
是ニ付テハ職務執行中ナルトキト然ラルトキヲ區別シテ論セザルヘカラズ
二官吏ノ職務執行中ナルトキ官吏ノ職務執行中ニ於テハ侮辱ノ材料タル事項カ
職務ニ牽聯スルト否ト又其執行セル場所若クハ服装ノ如何ニ關セス常ニ侮辱
罪ヲ構成スルモノトス蓋シ(イ)職務ノ執行中ニ於ケル官吏ノ身體ハ有形上國家
ノ一機關タルカ故ニ之ニ對スル侮辱ノ行爲ハ縱合其人ノ一身上ニ關スルモノ
タルモ是レ寧ロ官吏其人ニ對スルモノニ非シテ國家ノ機關ニ對スルモノ為
ルノミナラズ(ロ)官吏ナルヤ又ハ職務ノ執行中ナルヤトノ問題ハ其資格及ヒ其事
項目體ニ付テ定マルヘキモノニシテ場所若クハ服装ノ如何ニ因リテ定マルヘ
キモノニ非サレヘナリ(二)官吏ノ職務執行中ナルサルトキ此場合ニ於テハ前
場合ト異ナリ官吏侮辱罪ヲ構成スル爲ミニハ侮辱ノ材料タル事項カ必ス官吏
ノ職務ニ牽聯スルコトヲ要ス隨テ單ニ其一身上ニ關スル材料ノミニ因ル侮辱

ハ決シテ本罪ヲ構成セサルモノトス蓋シ近世法律カ官吏侮辱罪ヲ規定シテ決
辱ノ所爲ヲ處罰スル所以ハ畢竟官吏其人ノ身分ヲ特ニ保護セントニ非ス公
權ノ威儀ヲ保チ傍ラ職務ノ執行ヲ確實ナラシメントスルニ在ルモノニシテ本
場合ニ於テハ縱合官吏ヲ侮辱スルモ單ニ其人ノ一身上ニノミ關スルモノハ決
シテ之ニ依リテ公權ノ威儀ヲ失墜シ併セテ職務ノ執行ヲ不確實ナラシムルコ
トナケレハナリ(言語文字書面等ノ方法ノ外モ)を要するに於ケル然ニ書面等
前ニモ層、説明シタルカ如ク明治二十三年法律第百號ニ依リ公吏ハ刑法所謂官
吏ニ準スヘキ也ノナルカ故ニ公吏ニ對スル侮辱モ亦官吏侮辱ノ罪ヲ以テ論ス
ヘキモノトス
第二 法律ノ規定シタル方法ヲ以テ侮辱シタルコトヲ要ス
二法律ハ官吏ノ目前ニ於クスル場合ト否トヲ區別セリ故ニ予ヘ先フ茲ニ法律
カ所謂目前ノ意義如何ヲ説明セん目前トハ現在之ニ對スルノ義ニシテ視力若
クハ聽力ノ達ヌヘキ場所ヲ謂フ換言スレハ目モテ見ルコトヲ得ルカ若クハ耳
モア聽クコトヲ得ベキ距離ニ於クスルモノヲ謂フ唯視力ノミノ達スヘキ場所

本謂フノ義ニ非ヌ故ニ別之官吏ヲ背後ニ於テ又ハ壁ヲ隔テテ爲無如キ場合ヘ勿論電話ヲ以テスル場合モ亦目前タルヲ失ハシルモノト休ムニ及書々ハ其「有目前ニ於テスル場合」以前ノ場合ニ於テ之法律ハ形容又ハ言語ヲ以テスルコトヲ要件トセリ形容トハ佛語ヲ「ゼスト」(Gest)即チ身振リ又ハ身體・指置ト謂フノ義ニシテ詞之舌又吐キ異様ノ面體ヲ爲シ足ヲ踏ミ鳴ラシテ騒擾シ若クハ官吏ノ顎項ヲ撫スルカ如キア謂フ一言語トハ總テ口頭ヨリ發スル音聲ト謂フノ義ニシテ其語ヲ成スル否不ル之ヲ問ハス即チ例之馬鹿ト曰ヒ間接ケト曰フカ如是ハ勿論口笛ヲ吹キテ輕侮ノ意ヲ示スル亦言語ニ依ル侮辱タリ此場合セ於テハ法律ハ言語又ハ形容ノニニ依ルコトヲ要スト雖モ其公然ト否ト又第三者ノ畫場ニ在ルト否ホハ之ヲ條件モセキホカ故ニ苟半官吏ニ對之形容又ハ言語ヲ以テ其目前ニ於テ侮辱スルトキニ常ニ本罪ヲ構成スルキトス矣令自前ニ於テセサル場合ニ於テスル場合ハ法律ハ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演説ヲ以テ斯ル事トノ言半官吏ニ於テ公然圖畫刊行シ木石銅鈎萬葉氏版又ハ寫真等凡ナ少數ノ原稿ヲ複寫シテ許多之文書圖畫ヲ公衆に配布スル

ア謂ヒ文書圖畫等ノ書音影像ヘモ文字ノ集合形ノ或思想ヲ言ヒ未然未だメア謂吉圖畫トハ發音生ヘ半度オハ實聲・動又ハ聲ノ混合モ依リ威勢ノ形狀ヲ畫得出セタルモノア謂フ公然ノ演説公然トハ祝賀ニ對スル語氣シテ威儀ニ非ナル固ア總稱スルノ種也又テ縱合公會ノ席タリトモ苟モ秘密ナラサルモノハ茲ニ所謂公然タリ演説トハ同時ニ多數ノ者ニ聽聞セシムル目的ヲ以テ談語スルコトヲ謂フ故ニ聯合公會ノ場所ニ於テスルモ個人的ニ談論アル如キハ演説ニ非ス達人モオイ語ハ或歌詩文ヘ題詩ヤイ云々本歌ヲ詠撰又ハ題詩要之本場合ニ於テハ前引場合ト異ナリ法律ハ聽テ其事ノ公然タル事要セリ蓋シ單ニ一私ノ間ノミニ於ケル私語ハ決シテ之ニ依リテ官權ヲ辱シムルカ如キ結果ヲ生スルコトナケレハナリ

二侮辱シタルコトヲ委ヌ侮辱トハ官吏ヲ品格又ハ尊嚴ヲ毀損スヘキ不敬ノ所爲ア謂フ而ジテ其如何ナル行爲カ侮辱ノ行爲タルヤハ法律之ヲ列舉セナルカ故ニ其判定ハ傷害裁判官ノ斷案ニ委スルモノトス然レトモ被ノ訴訟トハ其間自ラ區別ナルモスナル事ニ混同セサルラ要ス蓋シ訴訟ハ例之某ハ他人ノ

妻ト姦通セリト云フカ如ク暗ニ社會公衆ヲハ、善惡ハ、評論、フ、爲オ、ダベ、ハ、カ、爲メ、他、人、ハ、惡、事、醜、行、ア、叙、述、シ、テ、之、フ、社、會、ニ、紹、介、ス、ハ、所、爲、ニシテ、侮辱トハ例之某ハ痴漢ナリト云フカ如ク他人ニ拘ラス、自家自ラ、善、惡、ノ、評論、ア、試、ハ、ル、ノ、所、爲タリ、隨テ説明ハ其必ニ公然タルコトヲ要スルモ侮辱ハ之ヲ要ニナリモ、タレハナリ。

乙 心内ノ要素
 第三 官吏タルコトヲ知リ之カ職務ヲ侮辱スノモ意思アルコトヲ要ス
 故ニ例之一私人ナリト信シテ痴漢又ハ間拔ケト云フカ如キ言語ヲ用ヒテ侮辱スルカ如キ場合又ハ官職ヲ辱シムルノ意ナク單ニ粗暴野鄙ノ言語又ハ形容ヲ爲シタルニ過キナル場合ヘ本罪ヲ構成セナルモノトス
 (處分) 懲分ニ付テハ昔時ノ法律又ハ近世ニ於テ或國ノ法律ニ於テハ官吏ノ位地品等ノ如何ニ依リ其刑ヲ異ニスル時モ我刑法ニ於テハ場合ノ如何ヲ問エ
 罰金ヲ一月以上一年以下ノ宣判額並處シ五圓以上五十圓以下ヲ罰金ヲ附加ス
 パモノ後是レ尙主説明シタレハ如ク官吏侮辱罪ハ官吏其人ヲ保護スルノ規定

二非ス公權ノ威嚴ヲ保チ以テ傍ラ其執行ヲ安全ナラジメントスルニ在リテ苟モ官吏タル以上ハ皆均シク公權ヲ代表スルモノニシテ其間取ヲ刑ヲ輕重スヘ
 理由ナケレハナリ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

本節ハ第百四十二條乃至第百五十三條ノ十二條ヨリ成リ三種ノ犯罪ヲ包含ス即ナ第一囚徒ノ逃走スル罪第二囚徒ヲ逃走セシムル罪第三、罪人ヲ庇陰スル罪是ナリ蓋シ其之ヲ本節ノ中に併合シタル所以ハ是レ其道シテ司法權ノ執行ヲ妨害スルノ特性ヲ有スルカ故ナラン

法律ハ第一囚徒逃走ノ罪ハ之ヲ單純ノモノト複雜ノモノトニ分テ各三人以上通謀シテ犯シタル場合ニ於テハ特ニ加重ノ情狀アリトシ之ニ一審ヲ加フヘキモノトセリ(第二)囚徒ヲ逃走セシメタル罪ハ囚徒ヲ監督スルノ職責アル者ノ所爲ニ係ル場合ト然ラナル場合トヲ區別シ其監督ノ職責アル者ノ所爲ニ係ルトキハ過失ニ因リテ囚徒ヲ逃走セシメタル場合ニ於テモ仍ホ之ヲ處罰セリ(第三)

罪人ヲ庇陰スル罪ニ付テハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタる者ヲ隠匿又ハ隠避シタル場合ト罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタル場合換言スレハ人ニ對スル場合ト物ニ對スル場合トヲ區別セリ以下項ヲ分ナオ之ヲ説明スヘシ
此等之類は公害ニ關する事例又ハ特記歌謡又ハ諺諺不外乎此也
愚民歌云
越後守義一曰
第一款 囚徒ノ逃走スル罪 諸々チヘイニ怪ヤ若シ三人以上
其ノ後身ノ御名シハ
其ノ後身ノ御名シハ

囚徒ニ既決ノ者ト未決ノ者トアリ此二者ハ其監禁セラレル原因ニ於テ大体
區別アルカ故ニ其逃走ニ因リテ國家ニ害禍ヲ及ホスノ程度モ亦同日ノ論也非
ス隨テ或國ノ刑法ノ如キハ其間刑罰ノ上ニ輕重ノ差異ヲ立フルモノアリト雖
モ我刑法ハ此等ノ區別ヲ認メス單ニ逃走ノ方法如何ノミニ依リ單純逃走ノ構
合ト複雜逃走ノ構合トヲ區別ス

第一項 成立要素

第一段 單純逃走ノ場合

單純逃走ノ場合ハ第百四十二条第一項及ヒ第百四十四条第一項に規定セリ第百四十二條第一項ニ曰ク「已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス第百四十四條ニ曰ク「未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第百四十二条ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處断ス」本罪ヲ構成スルニハ(一)囚徒タルコト(ニ)逃走ノ所爲アルコトヲ要ス而シテ其意思ノ必要ナルコトハ總則ニ依リ明カルヲ以フ煩フ避ケンカ爲メ茲ニ之ヲ省略ス
第一ノ要素 囚徒タルコト
第二ノ要素 囚徒トハ刑事判決執行ノ爲メ又ハ法律ノ規定ニ從ヒ犯罪ノ嫌疑ニ因リ獄舎ニ拘禁セラルル者ヲ謂フ之ヲ簡易ニ言フトキハ囚徒トハ其名稱ノ如何ニ關セス法律ノ規定ニ依リ獄舎ニ繫カルル者ヲ謂フ今之ヲ分析スルトキハ主刑執行ノ爲メ懲治ノ爲メ附加刑執行ノ爲メ拘禁セラルル者及ヒ犯罪ノ嫌疑ニ因リ罪證ノ遷滅ヲ防カシカ爲メニ拘禁セラルル者ノ二トス前者ヲ已決ノ囚徒ト曰ヒ後者ヲ未決ノ囚徒ト曰ヒ
第三ノ要素 囚徒ト稱スルニハ獄舎ニ繫カルル身分ヲ有スル者タルコトヲ主要トス故ニ道

法ノ方法ニ依リ獄舎ヲ出テタル者ハ縱合有罪判決執行ノ爲メ一時獄舎ニ抑留セラレタルコトアルモ既ニ一旦出獄セル以上ハ囚徒ト謂フコトヲ得ス即チ已決ノ囚徒ニ在リテハ假出獄中者未決ノ囚徒ニ在リテハ保釋賣付中ニ在ル者ノ如シ然ルニ此點ニ付キ或說ニ曰ク「囚徒名ケラル者ハ有罪ノ確定判決執行ノ爲メ獄舎ニ置カル者及ヒ犯罪ノ嫌疑ニ因リ留置セラル者ノミヲ指示スルノ稱ニシテ懲治ノ爲メ監獄ニ留置セラル者及ヒ主刑滿限ノ後引取人ナキカ爲メニ獄内ニ於テ監視ノ執行ヲ受タル者ノ如キハ茲ニ所謂囚徒ニ非スト草案ノ法文ニモ論者ノ説明スルカ如ク「囚徒トハ有罪ノ確定判決執行ノ爲メ又ハ犯罪ノ嫌疑ニ因リ獄舎ニ拘禁セラル者云々トアルノミナラス懲治人ヲ監獄ニ置キ又ハ監視ヲ監視ヲ執行スルハ畢竟是レ監獄ヲ利用シタ之ヲ留置スルニ過キナルモノタルニ由リテ之ヲ觀レハ此説恐クハ正解タルヘシト雖モ若シ論者ノ説ニ從フトキハ〔我刑法ハ囚徒ナル語ヲ二様ノ意義ニ使用セドモノト解セサルヲ得ス何トナレハ試ニ第二百七十九條以下ヲ閲スルニ囚人ナル文字ヲ使用セリ而シテ此囚人ナル文字ト囚徒ナル文字トナ異名同義ナルコト何人ナ

獄ノ疑フ挾マナル所ナリ然ルニ第二百七十九條以下ニ於ケル所謂囚人ハ論者ノ言フカ如キ狹義ノ場合ヲ想像セルモノニ非スシテ苟モ監獄ニ拘禁セラレタル者ハ其何等ノ名義ニ基クヲ問ハス總テ之ヲ指稱スルノ語タルハ論者ト雖モ異議ナカルベキ所カレーナリ〔假ニ一步ヲ退キ第二百七十九條以下ニ規定セリ〕囚人ト茲ニ所謂囚徒トハ其性質ヲ別異ニスルモノニシテ其間廣狹ノ差異アリトスルモ若レ夫レ法律ニシテ犯罪嫌疑ノ爲メ拘禁セラル者ヲ以テ囚徒トセスンハ止マズ然レトモ其既ニ之ヲ名クテ囚徒ト爲シテ憚ラナル點ヨリ觀察スレハ此等犯罪嫌疑ノ爲メ拘禁セラルル被告人ト彼ノ懲治若クハ監視執行ノ爲メ拘禁セラル者ト其間幾許ノ差異アリテ存スルヤ是レ予カ取テ一般ノ學說ニ背キテ此説ヲ爲ス所以ナリ但シ聊カ予ノ所信ヲ述フルニ止マリ必シモ正解ナリト信スルニ非ナレハ諸フ諸君幸ニ研鑽ノ勞ヲ辭スルコト勿レ若シ説可信スベキモノアレハ予ハ所説ヲ改ムルニ客ナラサルヘシ又或他ノ説ニ曰ク「已決ノ囚徒トハ有罪ノ確定判決執行中ノ者ヲ謂フ故ニ縱合獄舎ニ置カレナル者謂之財產刑執行中ニ在ル者ト雖モ尙ホ已決ノ囚徒タルヘシ」ト此説ニ對シテ

前説ト異ナリ子小断シテ認見サリ止言ヲ憚タタルナリ蓋シ論者カ此説ヲ爲ス所以ハ第百四十四條ニ求決メ囚徒入監中ナル規定アルヲ見テ直ナニ囚徒中ニハ入監中ノ者ニ非ナレハ逃走罪ヲ構成セタルモ已決囚ニ在リテハ第百四十二條ニ於テ單ニ已決メ囚徒トノミナリテ何等ノ制限ナキカ故ニ苟モ逃走ノ所爲アルトキハ其入監中ナルト否トヲ問ハス廣ク逃走罪ヲ以テ罰スヘシト妄信シタルニ基因スルモノニシテ畢竟法律カ此入監中ナル文字ヲ書き加ヘタルハ彼ノ一度刑事上ノ被告人トシテ拘禁セラレタル者カ保釋若クハ責付ヲ受ケタル場合ニ於テモ尙ホ囚徒ニ非ヌヤトノ思想ヲ起ス者ナキヤラ恐レ單ニ老婆心ヲ以テ無用メ規定ヲ爲シタルニ遇キサルモノタルヲ知ラタルモノトス(一)尙トナレバ若シ囚徒ナル名稱ニシテ拘禁セタル者ヲモ指スノ語ナリトセハ何カ故ニ未決ニシテ入監セタル者即チ單純ナル被告人シテハ逃走罪ヲ構成スルヲ得ナルヤナハ其理由ヲ知ラナルナリ(二)少偶ニ一步ヲ逃キ財產刑執行中ニ在ル者ニ對シテモ専ホ囚徒逃走罪ヲ成立スガモノトセハ其逃走トハ如何ナル場合

(一)謂フヤ又其監督區域ハ何クニ在リヤ要スドニ此説ハ毫モ其根據アルヲ見えス
 第二ノ要素ハ逃走ノ所爲アルコト
 逃走トハ不法ニ拘禁監督ノ區域ヲ脱スル行爲ヲ謂フ拘禁監督ニハ有形ノモノアリ無形ノモノアリ有形ノ拘禁監督トハ有形ノ障害物ニ因リ監督セラルルソ謂ヒ無形ノ拘禁監督トハ監督官吏ノ腕力ニ因リ監督セラルムノヲ謂フ
 有形ノ拘禁監督ノ區域ヲ脱スルノ所爲ハ通常獄舎ト他ノ部分トヲ分タレタル體界線外ニ脱出スル所爲ニ依リテ行ハルモノニシテ彼ノ門戸牆壁ヲ越越スル場合ノ如キ最モ普通ノ場合トシテ看ハキモノナリ而シテ此等ノ體界線ヲ脱出スルト否トハ實ニ逃走罪ノ未遂ト既遂ト區別スヘキトノ準繩トス
 無形ノ拘禁監督ノ區域ヲ脱出スルノ所爲ハ監督官吏ノ腕力ヲ無効ナラシムルノ所爲ニシテ通常外役中逃走スル場合ノ如キ其適例ナリ此場合ニ於ケル既遂ト未遂ハ官吏ノ腕力ヲ無効トシタルト否トニ因リテ分界セラル即チ監督官吏ノ腕力ヲ拘禁スルコトヲ得サル位置ニ脱出シタル場合ニ於テハ本罪ノ既遂ナリ反之其監督官吏ノ腕力ヲ以テ拘禁シ得ヘキ區域内ニ在ル限ハ未タ以テ既遂ト

謂フコトヲ得サルモノトス
單純逃走ノ手段ハ千態萬狀ニシテ茲ニ一一之ヲ説明スルコトヲ得サルモノ要ス
ルニ複雜トシテ規定セラレタル以外ノ場合ニ於テハ總テ單純逃走ヲ構成ス今
其最モ普通ナル二三ノ例ヲ舉クレハ官吏ノ懈怠ヲ利用シ門戸牆壁ヲ踰越シ鎮
鑑又ハ月扉ヲ開キ若クハ監督官吏ヲ欺キテ逃走スルカ如キ是ナリ

我刑法ハ其第百四十二條以下ニ於テ單純ノ逃走ヲ罰スルコトヲ明カニセルカ
故ニ解釋上ニ於テハ議論ヲ爲スノ餘地ナシト雖モ立法上ニ於テハ古來單純ノ
逃走罪ハ之ヲ罰スヘキヤ否ヤニ付キ學說紛糾タリ今参考ノ爲メニ左ニ其要領
ヲ掲ケ併セテ舉見ヲ示サント欲ス

〔第一〕消極論ヲ主張スル者ノ説ニ曰ク「官吏ハ公權ノ執行ヲ全カラシムヘキ職
責ヲ有スルモ一般人民ハ公權ノ執行ヲ妨ケストノ消極的義務ヲ有スルニ止マ
リ進ミテ之ヲ全カラシメタルヘカラサルノ義務ナシ」〔二〕凡ソ自由ヲ拘束セラル
者カ之ヲ脱セントスルハ人類自然ノ稟性ナリ故ニ暴力ヲ以テセサル限ハ權
令逃走ノ所爲アルモ之ヲ罰スルコトヲ得ス之ヲ罰スルハ人情ニ背戾スルモノノ

〔第二〕刑罰ハ國家カ判決ニ基キテ之ヲ強行スルモノタリ然ルニ若シ夫レ刑罰
ヲ避ケル者ハ之ヲ罰スヘシトセンカはレ判決ハ囚徒ニ對シテ刑ヲ受クルノ義
務アルコトヲ宣告スルモノナリトスルモノニシテ判決ノ本質即チ判決ハ國家
ニ對シ其最大ノ權力ニ依リ刑罰ヲ強行スルコトヲ命スルモノタルヲ無視スル
モノナリ

〔第三〕積極論ヲ主張スル者ノ説ニ曰ク「一消極論者カ主張スル所ノ第一點ハ論者
自ラ一般ノ人民ハ公權ノ執行ヲ妨ケサルノ消極的義務ヲ有スルモ公權ノ執行
ヲ全カラシメタルヘカラサル積極的ノ義務ヲ有セストノ格言ヲ了解セサルモ
ノニシテ其論決ハ毫モ探ルニ足ラス何トナレハ右ノ格言ハ一私人ハ受命者ト
シテ刑罰ヲ科スルハ正ニ右ノ格言ニ適合スルモノタレハナリ〔二〕成程消極論
者ノ主張スルカ如ク束縛ヲ脱セントスルハ人類自然ノ稟性タリト雖モ此等天

眞ノ自由ヲ全ウセント欲セハ宜シク自ラ之ヲ制限セサルコトヲ要ス既ニ自ラ之ヲ制限シナカラ尙ホ且ツ完全ナル自由ヲ得ンコトヲ望ムハ自家擅著タルヲ免レス今囚徒ニ付テ之ヲ觀ルニ彼カ自由ヲ失ヒタルハ是レ自己ノ所爲ニ因リテ自ラ之ヲ制限シタルニ因ルナリ豈亦完全ナル自由ヲ保有スヘキ理アランヤ若シ論者ノ說ヲシテ真ナラシメハ死刑ノ執行ヲ受タル者カ自己ノ生命ヲ救ハシカ爲メニ執行者ヲ殺害シタルトキハ縱令之ヲ以テ正當防禦ノ所爲ト謂フヲ得ナルモ少クトモ自然ノ人情ノ發動ナリトシテ無罪ナリトセサルヲ得サラン天下豈此ノ如キ理アランヤ（三）消極論者ハ判決ハ社會ヲシテ被告人ニ刑ヲ強行セシムルノ權ヲ與フルモノニシテ被告人ニ受刑ノ義務アリト宣告スルモノニ非ナルカ故ニ縱令被告人ニ於テ行刑ヲ拒ムコトアルモ之ヲ罰スルノ理ナシト此點モ亦第一點ト同一論法ニ依ル謬見タリ蓋シ判決ハ被告人ニ對シ進ミテ刑ヲ受クルノ義務アリト云フモノニ非スト雖モ國家ノ行刑ニ對シテハ明カニ服從ノ義務アルコトヲ宣言スルモノニシテ刑罰ヲ以テモ尙ホ行刑ヲ爲スハ寧ロ判決ノ要求ヲ完ツスルモノナレハナリ（四）否假ニ數歩ヲ退キ論者ノ說ヲ以テ正

當ナリトセンカ論者カ通常逃走罪トシテ罰スヘシトスル所ノ彼ノ暴行脅迫二因ル逃走ト難モ亦之ヲ逃走罪トシテ罰スルコトヲ得サラン蓋シ逃走ノ點ヲ無罪トセハ殘ル所ハ單ニ暴行脅迫ノ一事アルノミナレハナリ要之論者ノ說ハ毫モ採ルニ足ルモノナシ苟モ判決ノ執行ニ缺クヘカラスンハ如何ナル手段ヲ以テ之ヲ罰ストスルモ背理ノ點アルコトナシト

以上二說ヲ較スルニ消極論者カ囚徒逃走罪ヲ罰スヘカラスト云フハ固ヨリ正確ナル理アルコトナシト雖モ逃走ノ刑罰タルヤ從タル刑罰ニシテ主タル刑罰ノ執行ヲ擔保スル爲モノノタルニ外ナラサルカ故ニ他ノ犯罪ト共ニ之ヲ同列ニ配置スルハ主從其籍ヲ混スルノ嫌アリ隨テ予考フル所ニ據レハ斯ル特性ヲ有スル逃走ノ所爲ハ本刑ノ刑期滿限内ニ於テ監獄ノ或懲戒處分トシテ懲戒刑ヲ科スルモノトスルヲ以テ妥當ナリト信ス

第二段 複雜逃走ノ場合

複雜逃走ノ場合ハ第百四十二條第二項及ヒ第百四十四條ノ規定スル所ニシテ

亦已決未決ノ囚徒ニ共通スルモノトス
第一百四十四條ニ曰ク「未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第百四十二條ノ例ニ同シ云云」第百四十二條第二項ニ曰ク「若シ獄舎獄具ヲ毀壊シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ云々ト前段ノ場合ハ本段ノ基本タル場合ナルヲ以テ其構成ハ單純逃走ノ各要件ヲ具備セサルヘカラサルコト論ヲ俟タス依テ予ハ重複ヲ避クル爲メ本段ノ場合ノ構成ニ付テハ單ニ其之ヲ構成スルニ特殊ナル點ノミヲ説明スルニ止ムヘシ」
本段ノ場合ヲ構成スル特殊ナル條件ハ「一、獄舎獄具ヲ毀壊シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタル所爲アルコト」二、獄舎獄具ノ毀壊又ハ暴行脅迫ハ之ヲ逃走ノ手段トシタルコト是ナリ

第一ノ要素 獄舎獄具ヲ毀壊シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタル所爲アルコト
(イ) 獄舎獄具ヲ毀壊シタルコト 獄舎トハ一時タルト永久タルトニ論ナク囚徒ヲ留置スル爲メ法律カ設立シタル建造物ニシテ監獄則第一條ニ所謂六種ノ監獄即チ集治監、假留監、地方監獄、拘置監、留置場懲治場ヲ總稱ス法律ハ單ニ獄舎ト

アルカ故ニ苟モ獄舎ノ一部ヲ構成スルモノナラシカ内部監房ノ戸扉鎖鑰天井床板タルト外廊ノ牆壁門扉タルトニ論ナク之ヲ毀壊スルニ於テハ本罪ヲ構成スルモノト獄具トハ監獄ニ特有ナル懲戒又ハ拘束ノ用ニ供スル物品例之縛縄、連鎖、施鉄ヲ謂フモノニシテ獄衣、食器、作業ノ用ニ供スル器具又ハ燈火等ハ之ヲ包含セサルモノトス毀壊トハ有形的ニ物ノ本體ヲ毀損スル行為ヲ謂フ故ニ門戸牆壁ヲ踰越シ手錠ヲ取去ルカ如キハ亦之ヲ含マサルモノトス
(ロ) 暴行脅迫ヲ爲シタルコト 暴行脅迫トハ人ニ對スルモノヲ指スモノニシテ物ニ對スルモノハ茲ニ包含セス其詳細ノ如キニ至リテハ官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ニ關スル説明ニ就テ知ルヘシ

第二ノ要素 獄舎獄具ヲ毀壊又ハ暴行脅迫ハ之ヲ逃走ノ手段トシタルコト
法律ハ「……ヲ爲シテ逃走……シタルアルカ故ニ獄舎獄具ヲ毀壊又ハ暴行脅迫ハ逃走ノ手段タルコト即チ獄舎獄具ノ毀壊又ハ暴行脅迫ト逃走トハ原因結果ノ關係アルコトヲ要ス逃走ノ際故ラニ他ノ囚徒ニ施シタル戒具ヲ解キ又ハ獄衣燈火等ヲ破壊シテ去ルカ如キハ器物毀棄罪ト逃走罪トノ數罪俱發タルハ格別

本場合ヲ構成セス

第二項 處 分

囚徒逃走罪ノ處分ニ付テハ予ハ之ヲ主タルモノト從タルモノトニ分テナ説明スヘシ

第一、主タル處分法 主タル處分ニ付テハ明文ノ示スカ如ク單純逃走ノ場合ニ在リテハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ(第一四二條第一項、第一四四條複雜逃走ノ場合ニ在リテハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス(第一四二條第二項第四四條)而シテ各三人以上通謀シテ犯シタル場合ニ在リテハ一等ヲ加フ(第一四五條別ニ説明ヲ要セス)

第二、從タル處分法 従タル處分法ニ付テハ已決囚徒タルト未決囚徒タルトニ(イ)已決ノ囚徒逃走シタル場合 此場合ニ於テ逃走罪ハ前ニ犯シタル罪ニ對ス
又再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ヲ生ス是ニ於テ法律ハ第百四十

由リテ差異アリ

三條ニ於テ「已決之囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス詳言スレハ此場合ニ於テ逃走罪ハ直ナニ主タル犯罪ニ對スル再犯ヲ以テ論セス主タル犯罪ノ刑期限内二回以上重ナテ逃走ノ罪ヲ犯シタルトキ始メテ後ノ逃走罪ヲ前ノ逃走罪ニ對スル再犯トスト答解セリ是レ蓋シ逃走ノ罪タル畢竟其已ニ犯シタル罪ニ因リ自由ヲ拘束セラルヨリ始メテ生スルモノニシテ其主タル犯罪ニ對シテ再度ノ犯罪タルハ逃走罪固有ノ性質ナルカ故ニ已ニ之ヲ一人犯罪ナリトシテ處罰シナカラ更ニ其得成條件ノ一ヲ分離シ再犯ナリトシテ之ヲ加重スルトキハ一箇ノ所爲ヲ二重ニ處罰スルノ結果ヲ生ス之ニ反シテ主タル犯罪ノ刑期限内ニ犯シタル數倍ノ逃走罪相互ノ關係ニ於テハ互ニ相獨立シテ純然タル再犯ノ性質ヲ有スレハナカズニ本問ニ牽連シ生スベキノ問題アリ曰ク逃走罪ト他ノ獨立ナル犯罪トノ間若タハ或犯罪ノ下ニ生シタル逃走罪ト他ノ犯罪ノ下ニ生シタル逃走罪トノ間ニ於テ再犯例適用ノ有無如何此問題ハ何レモ消極的ニ答解ヒラルヌ以テ正當トス何トナレバ逃走罪ト他ノ獨立ナル犯罪トノ間、凡ツ再犯加重ノ法

則ハ互ニ相獨立セル犯罪ノ間ニ於テノミ適用セラルモノトス而シテ逃走罪
フ主タル犯罪ニ於ケルヤ其關係も寄生植物ノ其母體タル植物ニ於ケルカ如
ク逃走罪ハ主タル犯罪ニ附隨シテ發生シタル果實ニ外ナラナルカ故ニ之ト獨
立ノ植物タル他ノ犯罪トヲ對比シテ再犯ノ規定フ適用スルヲ得ナルヤ論ヲ埃
タス(一)或犯罪ノ下ニ生シタル逃走罪ト他ノ犯罪ノ下ニ生シタル逃走罪トノ間
此場合ニ於テハ何レモ或主タル犯罪ノ果實ナリト云フ點ニ於テ同性質ヲ有
シ互ニ相獨立セルカ故ニ其間特種ナル再犯例ヲ認ムルコトヲ得ナルニ非ナル
モ我刑法ニ於テハ同一犯罪ノ結果ナル逃走罪換言スレハ同種ノ果實ノ間ニ非
スゾハ特別ス再犯例ヲ認メラレハナリ

(ロ)未決ノ囚徒逃走シタル場合(此場合ニ於ケル從タル處分ハ第百四十四條末
段ニ規定スル所ナリ曰ク「但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シ
テ處斷スト」一般ノ學者ハ本項ノ規定ヲ以テ主タル犯罪ナルトキハ同時ニ數罪
俱發ノ例ニ依リテ判決スベシ若シ無罪ナルトキハ單ニ逃走罪ノヨク論スヘビ
シノ義矣タテ其之ア規定シタル立法ノ趣旨ハ一方ニ於テ本場合ノ前場合ト異

ナリア再犯問題ア生スヘキモニ非サルコトト他ノ一方ニ於テ裁判官ニ對シ
數罪俱發ナルカ故ニ同時ニ判決スベキモノタルコトヲ示レタルニ外ナラスト
平坦ニ說了セリ本規定ニ相當スル佛文草案ノ明文ニ主タル犯罪カ若シ無罪ナ
ルトキハ逃走ノ罪ノミヲ論シ若シ有罪ナルトキハ數罪俱發ノ例ヲ用フヘント
アリテ其意右ノ解釋ト相一致スルヲ見レハ立法ノ眞意ハ恐ラク學者ノ説明ス
ル如クナルヘシト雖モ(一)本場合ニ於テ再犯問題ノ生セサルコトハ火ア賭ルヨ
リモ明カナルモノアリタ之カ爲ミニ特別ノ注意ヲ要セサルト(二)本文ノ草案ト
同シカラナルト(三)學者ノ如ク解スルトキハ本規定ハ無用否有害ノ文字關席判決
ヲ受ケタル者カ逮捕中逃走シテ闇席判決カ確定シタルトキハ未決中ノ逃走
ナルニモ拘ラス本規定ヲ適用スルコトヲ得サルノ結果ヲ生スト爲ルトニ據リ
テ之ヲ觀レハ本立法者カ原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ云々下規定シタルハ
是レ若シ原犯ノ罪ニシテ無罪ナランカ逃走ノ原因タル拘束ハ實質上ニ於テ理
由ナキ處分タリ換言スレハ國家錯誤ニ本ク拘束ニシテ若シ夫レ國家ニ於テ初
ヨリ此ノ如キ錯誤微セハ逃走ノ所爲モ亦生スルコトナカリシナリ然ラハ單ニ

犯人ニ於テ公權ヲ蔑視シタルノ所爲アリト云フヲ理由トシ自己ノ過失ハ之ヲ高閣ニ束シテ之ヲ罰スルハ甚タ穩當ナラサルモノアリトノ考ヨリシテ特ニ本文ヲ設ケ原犯ノ罪カ有罪ナルトキハ逃走ノ罪モ亦數罪俱發ノ例ニ依リテ處罰スヘキモ若シ夫レ反之原犯ノ罪無罪ナルトキハ逃走ノ所爲モ亦之ヲ罪トシテ論セストノ意ニシテ一般ノ學者カ言フカ如ク再犯問題ヲ生セツルコト若クハ原犯ト同時ニ判決スヘキコトヲ示スノ意ニ非スト解スルノ餘地ナキカ終ニ臨ミ囚徒逃走ノ處分ニ關スル沿革ニ付テ一言セシニ古代ハ何レノ國ニテモ此種ノ犯罪ハ之ヲ處罰スルコト甚タ嚴重ニシテ時ニ或ハ死刑ヲ以テ之ヲ待フコト在リシカ近世ニ到リテ復タ斯ル嚴重ナル處分ヲ爲スコトナシ是レハ一般ニ刑罰カ寛和ニ赴キタルノ結果ニ外ナラスト雖モ亦一ハ昔時ノ如ク過辺ニ公權ヲ尊重スルコトナキノ致ス所トス

第二款 囚徒ヲ逃走セシメタル罪ハ囚徒逃走ナル罪ノ從タル犯罪ニ非スゾノ一種獨立

ノ犯罪ナリ法律へ犯罪ノ主體カ有スル資格ノ如何ニ因リ監督ノ職責ナキ者ノ犯シタル場合ト監督ノ職責アル者ノ犯シタル場合トヲ區別シ前者ニ付テノ逃走セシメタル積極的ノ行爲アルニ非ナレハ罪トセサルモ後者ニ付テハ單ニ其過失ニ由フル場合ヲモ尙ホ之ヲ罰スルコトセリ以下項ヲ分ナテ之ヲ説明セシム

第一項 監督ノ職責ナキ者ノ犯シタル場合

第一百四十六條第百四十七條及ヒ第百四十九條ニ規定スル所ニシテ法律ハ二箇ノ場合ヲ想像セリ即チハ暴力ヲ用ヒタル場合ニシテ他ハ之ヲ用ヒタル場合はナリ

(甲) 暴力ヲ用ヒサル場合

第一百四十六條ニ規定セル所ニシテ曰ク囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兌器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ云云ト即チ本場合ノ罪ヲ構成スル爲メニハ(一)囚徒タルコト(二)兌器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示

ジタルコト(三)囚徒タルコト知リ逃走セシムル意思アルコトヲ要ス而シヲ第
一及ヒ第三ノ要素ハ別ニ説明ヲ俟タスシナガナルア以テ茲ニハ唯第二ノ要
素ニ付テノミ説明ヲ下サント欲ス

第二ノ要素「児器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタルコト」

(イ)児器其他ノ器具ヲ給與シタルコト児器トハ性質上人ヲ駆傷スルノ用ニ供
セラルル物件例之銃刀棍棒ノ如キ物ヲ總稱ス器具トハ魏ヲ逃走ノ用ニ充フル
コトヲ得ヘキ児器以外ノ器具例之鋸釘板梯子等ヲ謂フ
(ロ)逃走ノ方法ヲ指示シタルコト逃走ノ方法ヲ指示スルトキハ戸扉ヲ開キ又
ハ獄舎ヲ破壊シ若クハ監督官吏ノ間隙ヲ利用シテ逃走シ得ルノ方法ヲ指導ス
ルカ如キヲ謂フ法律ハ必スシモ表見ノモノナルコトヲ要セサルカ故ニ暗ニ逃
走セシムルノ意思ヲ以テ戸扉ヲ開放シ置タカ如キモ亦本罪ヲ以テ問フコトヲ
得ヘシ
本罪ノ處分ニ付テハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二箇以上二十箇以下ノ
罰金ヲ附加ス囚ヲ囚徒ヲ逃走セシタル場合ハ「等ア加ス」次條暴力ヲ用ヒ

テ囚徒ヲ逃走セシタル場合ニ付テハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ逃走セシ
タル場合ト否トニ因リ刑ニ輕重ノ區別ヲ設ケルニモ拘ラス本條ニ於テハ此
等ノ區別ナカニ是レ本條ハ次條ト異ナリテ其所爲輕微ナルカ故ニ偏ニ裁判官ノ
良心ニ委シ以テ煩ヲ避ケタルモノナリト謂フノ外適當ナル解釋アルヲ知ラス
(三)本罪ハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ児器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ
指示シタル場合ニ成立スルモノニシテ囚徒ノ之ヲ利用シタルト否トハ既遂未
遂ニ付キ何等ノ關係アガコトナシ音音良々思テ因縁ノ致法を想メタルニシテ
草案ノ註釋ヲ見ルニ本罪ノ囚徒自ラ逃走シタル場合ヨリモ重キ所以ヲ説明シ
テ曰ク(一)囚徒自ラ獄舎ヲ逃走シ自由ヲ得ントスルハ自然ノ人情ナリ然ルニ自
ラ拘禁ノ位地ニ在ラヌマテ他人ヲ逃走セシムルカ如キハ其情狀ノ惡ムヘキモ
ノアリ(二)囚徒ハ自ラ逃走セントスルハ頗ル至難ノ業ナリト雖モ外部ヨリ逃走
ノ方法ヲ授タルカ如キハ御ニ易易タルモノニシテ其效ヲ奏スルヨト亦隨テ多
ク社會ニ害惡ヲ及ホス決シテ妙シトセスト惟フニ確定法文ノ趣旨亦此理由ニ
依レルモノナルヘシ

(二) 暴力ヲ用ヒタル場合

第一百四十七條ニ規定スル所ニシテ曰ク「囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ヘ云々トアリ本罪ヲ構成スルニハ(一)囚徒タルコト(二)囚徒タルコトヲ知リ逃走セシムガ意思アルコト(三)囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタルコト」三條件ヲ要スルモノトス而シテ第一、第二ノ要素ニ付テハ別ニ説明ヲ要セサルカ故ニ單ニ第三ノ要素ニ付テノミ説明ヲ試ムヘシ
 第三ノ要素 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタルコト
 完劫奪 劫奪ニ付テハ法律上何等ノ定義ヲ下シタルモノナシト雖モ之ヲ文字ノ上ヨリ推究スルニ劫奪ハオピヤカシ若ク「カスマル」ノ義奪トハ他人ニ属ス財物件ヲ剥キ取ルノ義ナリ故ニ劫奪トハ暴行ト脅迫トヲ問ハス他人ニ暴力ヲ加ヘテ囚徒ヲ奪取シタルコトヲ意味スルモノニシテ單ニ獄舎ヲ破壊シ又ハ竊室囚徒ヲ誘出スルカ如キハ本罪ヲ構成スルモノニ非ナルナフ
 合謀行脅迫 暴行脅迫ノ何タルヤニ付テハ已ニ第三章第二節ニ於テ詳論セシ

所ナルカ故ニ之ヲ省略スベシ
 (一)囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者 今之ヲ文字ノ如ク解センカ囚徒ノ逃走スルト否トヲ論セス苟モ逃走ヲ助ケルノ意ヲ以テ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ直チニ本罪ヲ構成スルモノノ如シ然レトモ若シ夫レ此ノ如ク解釋スルトキハ前段ノ規定ト大ニ權衡ヲ失スルノ恐アルヲ以テハ此文字ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル者ト謂フノ義ニ解シ本罪ノ既遂ハ囚徒ノ逃走シタル場合ニ於テ始メテ成立スルモノト解ゼン
 本罪ノ處分ハ一年以上五年以下ノ重禁錐ニ處シ五個以上五十個以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ一等ヲ加フ此ノ如ク重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ特ニ重ク罰スル所以ノモノハ囚リテ社會ニ及ホス害惡ノ他ノ場合ニ比シテ更ニ大ナルモノアルニ由ル

第二項 監督ノ職責アル者ノ犯シタル場合

監督ノ職責アル者ハ職務上囚徒ヲ監護シテ之ヲ逃走ヲ防遏スルノ職責ヲ有ス

ルカ故ニ前段ノ場合ト異ナリ其制裁稍厳格ニシテ懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル者ノ如キモ尙ホ刑罰ヲ免レス即チ法律ハ第百四十九條ヲ以テ故意ニ囚徒ヲ逃走セシメタル場合第百五十條ヲ以テ懈怠ニ因リ囚徒ヲ逃走セシメタル場合ヲ規定セリ以下之ヲ分説セン

(甲) 故意ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル場合

第一百四十八條ニ曰ク囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シト本罪ヲ構成スルニベ(一)囚徒タルコト(二)囚徒ヲ逃走セシムルノ意思アルコトヲ要スルハ明白ニシテ別ニ説明ヲ要セサルヲ以テ茲ニハ唯本罪ノ成立ニ特別ノ要素タル(第一)囚徒ヲ看守又ハ護送セル者タルコト(第二)其看守又ハ護送セル囚徒ヲ逃走セシメタルコトノ二要件ヲ説明スルニ止ム
第一 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者タルコトヲ要ス
囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者トハ例之司獄官警察官憲兵卒ノ如キ囚徒ヲ監護スルノ職責アル者ヲ謂フ
第二 其看守シ又ハ護送スル囚徒ヲ逃走セシメタルコトヲ要ス

司獄官其他ノ官吏カ看守又ハ護送セサル囚徒ヲ逃走セシムルモ監護ノ職責ナキヲ以テ一箇人トシテ所罰セラルルハ格別本罪ヲ構成スルコトナシ
法律ハ逃走セシメタル時ト規定スルカ故ニ官吏カ囚徒ヲシテ自己ノ監護ヲ脱セシメタル場合ニ於テ始メテ本罪ヲ成立ス故ニ逃走セシメントシタルモ囚徒ニシテ未タ獄舎ヲ脱出シ丁ラサルトキハ未遂犯タルニ止マムヘシ
本罪ノ處分ハ前ニ述ヘタル所ヲ暴行ヲ用ヒテ囚徒ヲ逃走セシメタル者ニ科スヘキ刑罰ニ同シ職責アルカ故ニ重シト云フノ外ニ理由アルコトナシ

(乙) 懈怠ニ因リ囚徒ヲ逃走セシメタル場合

第一百五十條ニ曰ク看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺カサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタム囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スト本罪ヲ構成スルニベ(一)懈怠ニ因ルコト(二)逃走セシメタルコトヲ要ス左ニ之ヲ分説セン

第一 懈怠ニ因ルコトヲ要ス
イ茲ニ懈怠ナル文字ヲ使用シ過失ナル文字ヲ使用セサルハ蓋シ此等ノ看守者

護送者ハ常ニ十分ナル注意ヲ以テ囚徒ヲ監督スルコトヲ要スルモノニシテ之ヲ逃走セシメタルノ行爲ハ如何ナル場合ト雖モ疎虞ニ出ツルコトナケレハナ

(口)右ノ如ク囚徒ヲ看守若クハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル場合ニ於テハ常ニ懈怠アルモノト推測セラルカ故ニ檢事ハ其之ヲ起訴スルニ方リ證據ヲ提出スルヲ要セス却テ被告人ニ於テ刑ヲ免レント欲セハ懈怠ニ非ナルコトヲ立證スルヲ要スルモノトス

第二項 逃走セシメタルコトヲ要ス
本罪ハ未遂犯ヲ罰セス故ニ縱令懈怠ニ因リ囚徒ヲシテ逃走セシメントシタルモ其未タ逃走シ丁ラサルニ當リ看守者護送者之ヲ逮捕シタルトキハ本罪ヲ構成セス

本罪ノ處分ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス此點ニ付テハ別リ説明ヲ要セス

第三款 犯罪ヲ庇陰スル罪

犯罪ヲ庇陰スルニ二箇ノ方法アリ即チ一ハ無形ノ手段ニ依ルモノハ有形ノ手段ニ依ルモノ是ナリ前者ハ裁判所ニ於テ偽證ノ申立ヲ爲スカ如キ場合ニシテ後者ハ現實ニ罪人又ハ罪證ヲ隠匿スルカ如キ場合ナリトス本款ニ説明セントスル所ノモノハ即チ後者ノ犯罪ニシテ普通所謂事後從犯ト稱セラルモノナリ我刑法ハ諸國ノ立法ニ倣ヒ之ヲ特別ノ犯罪トシ第百五十一條乃至第百五十三條ニ於テアリ規定セリ以下項ヲ逐テ之ヲ説明スヘシ

第一項 罪人ヲ藏匿シ若クハ隠避スル罪

第一百五十一條ニ曰ク犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ隠匿シ若クハ隠避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フド本罪ヲ構成スルニハ(甲)心外ノ要素トビテ(一)隠匿若ク

五 隠避セシムル所爲アルコト(一)隠匿又ハ隠避セシタル者ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ要シ(二)心内ノ要素トシテ(三)犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知リ之ヲ隠匿若クハ隠避セシムルノ意思アルコトヲ要ス以下之ヲ分析シテ説明スヘシ

(甲) 心外ノ要素

第一ノ要素 隠匿者クハ隠避セシムルノ所爲アルコト
 隠匿、隠避トハ如何、清律知情隠匿罪人ノ條ニ凡知人犯罪事發官司差人追喚而匿、在家不行捕告及指別道路資給衣糧送令隱匿者云云トアルト本條ニ該當スル草案第百八十五條ニ罪人ニ隠匿ノ場所ヲ與ヘ又ハ其隠匿ヲ帮助シタル者云云トアルトニ據リ之ヲ觀レハ隠匿トハ犯人ニ對シテ隠匿ノ場所ヲ給與スルニト即チ俗ニ所謂かくまふノ義ニシテ例之犯人ヲ自己ノ家宅内ニ潜伏セシメ又ハ衣服容貌等ヲ變シメ以テ其發見ヲ妨クルカ如キ所爲ヲ謂ヒ隠匿トハ犯人ヲ潜伏セントスル行爲ヲ援助スルノ義ニシテ例之旅費ヲ與ヘテ逃走セシメ若クハ隠匿スルニ適當ナル場所又ハ方法ヲ示教スルカ如キ所爲ヲ開フ但シ匿ニ

熱々タ神カ如ダ一私人カ進ミテ公權ノ執行ヲ帮助スルノ義務ナキノミナラス茲ニ所謂藏匿及ヒ隠避トハ何レモ積極的ノ行爲ヲ意味スルモノナルカ故ニ犯罪人ノ自家ニ潜伏スルヲ知リナカラ官ニ之ヲ告發セス若クハ官吏ノ間に對シテ其所所在ヲ知ラスト答フルカ如キハ本罪ヲ構成セス

第二ノ要素 藏匿又ハ隠避セシタル者ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタル者ナルコト

(イ)犯罪人 犯罪人ト謂フトキハ罪ヲ犯シタル者ニシテ現ニ有罪ノ者タルヲスルカ如シト雖モ本條規定ノ趣旨ハ司法權ノ實行ヲ妨害スル者ヲ罰スルニ在ルト草案逮捕ヲ要スヘキ刑事被告人トアルトニ據リテ之ヲ觀レハ茲ニ所謂犯罪人トハ罪ヲ犯シタル嫌疑アル者ト謂フノ義ニシテ必シモ有罪ノ者ト謂フノ意味ニ非ナルハ勿論犯罪ノ嫌疑アル者ノ中ニテモ法律上特に逮捕ヲ要スヘキ者ノミヲ指スノ語ニシテ重ニ體刑ヲ受クヘキ罪ヲ犯シタル嫌疑アル者ノミヲ謂フモノト信セラル

合 逃走ノ囚徒 逃走ノ囚徒トハ不法ニ有形又ハ無形ノ拘禁縛ヲ脱出シタル者

フ謂フ法律ハ其未決ナルト已決ナルトヲ區別セサルカ故ニ何レノ場合ニ於テモ本罪構成ノ要件タルヲ妨ケサルモノトス

(ハ監視ニ付セラレタル者トハ草案所謂監視ヲ逃レタル者詳言スレハ刑法附則ニ規定シタル監視ノ規則ニ違背シテ逃亡セル者ヲ謂フ茲ニモ亦法律ハ單ニ監視トノミアリヲ其普通監視タルト特別監視タルトヲ區別セサルカ故ニ何レノ場合ニ於テモ本罪ヲ構成スルモノトス

(乙) 心内ノ要素

第三ノ要素 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知リ之ヲ隠匿若クハ隠避セシムル意思アルコト
之ヲ知リナカラ隠匿若クハ隠避セシムダノ意思即チ達因アルコトヲ要スルカ故ニ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒若クハ監視ニ付セラレタル者タルコトヲ知ラツルトキハ勿論縦合之ヲ知ルモ隠匿又ハ隠避セシムルノ意思ナキ場合例之其飢渴又ハ疲勞ヲ憐ミ之ニ飲食ヲ爲ナシメ又ハ一時休息セシメタルカ如キハ決シテ本罪ヲ構成スルコトナシ

本罪ノ處分ニ付テハ法文ノ明示スル所ニシテ別ニ説明ヲ要セス

第一項 罪證ヲ隠蔽スル罪

第百五十二條ニ曰ク「他人ノ罪ヲ免カレシメントヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隠蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シニ圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト本罪ヲ構成スルニハ(甲)心外ノ要素トシテ(一)隠蔽シタル所爲アルコト(二)他人ノ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルコトヲ要シ(二)心内ノ要素トゾテ(三)他人ノ罪ヲ免レシムル意思アルコトヲ要ス以下各要素ニ付テ説明セシム
ノテ外務省訓製ハ意在を大に有する者を隠匿する事無く其の職務を盡す
ト將タ全タ之ヲ亡失セシムルトヲ問ハス總て之ヲ包含ス
第二ノ要素「他人ノ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽シタルコト」

(甲) 心外ノ要素「他人ノ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽する事無く其の職務を盡す
ト將タ全タ之ヲ亡失セシムルトヲ問ハス總て之ヲ包含ス

(イ) 他人ナルコトヲ要ス蓋し自己ノ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽スルハ自然ノ人情ナルカ故モ之ヲ罰スルハ人情ニ非スト雖モ事他人ニ關スルトキハ縱合其事義俟ニ出フルモ一私人間ノ德義ヲフモトハ公權ヲ侵害シオマテモ正當存

在スヘキモノニ非サレハナリ

(ロ) 罪證ト爲ルヘキ物件ナルコトヲ要ス故ニ證人トシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スカ如キハ勿論犯罪ノ痕跡ヲ失ハシムル所爲例之物件ノ上ニ印セル足跡又ハ血痕ヲ拭ヒ去ルカ如キハ本罪ヲ構成セス蓋シ立法ノ缺點ナリ若シ他人ノ罪跡ヲ隠蔽シタル者ト規定セハ或ハ之ヲ補フニ足ランカ

(乙) 心内ノ要素
本罪大體犯人ハ心内に故意を有する者也(一)故意ハ心内に故意を有する者也
第三ノ要素
他人ノ罪ヲ免レシムル意思即チ違因アルコトア要スルカ故ニ自己ノ罪ヲ免レル爲メナルトキハ勿論妨害物ヲ除去シ又ハ汚穢物ヲ拾フルカ爲メ若クハ自己ノ不名譽ヲ隠サンカ爲メナルトキハ縱合事實ノ上ニ於テハ罪證ト爲ルヘキ物
体ヲ隠蔽スル事トアガヌ本罪ヲ構成セラモ足可也

第四節 附加刑ノ執行ナ通ルル罪

第一百五十四條ニ曰ク「公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二箇月以上二十箇月以下ノ罰金ヲ附加ス」
第一百五十五條ニ曰ク「監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス」ト此二條ハ簡単ニシテ別ニ難問ノ生スヘキセノナキヲ以テ予ハ特ニ注意ヲ要スヘキ點ノミヲ説明スルニ止ムントス
(イ) 私ニ其權ヲ行ヒタル時
私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ草案所謂「惡意ヲ以テ其權ヲ行フモノ換言セハ自ラ進ミテ附加刑ヲ執行ヲ免ル」コトヲ意味スルモ
「トス故ニ他人ノ錯誤ニ乘シテ公權ヲ行ヒタルカ如キハ本罪ヲ構成スルノ限

(口)監視ニ付セラレタル者ハ茲ニ所謂監視トハ普通監視ノミア謂フヤ將タ特別監視ヲモ含ムヤ或ヘ曰ク「我刑法ノ用例上特別監視ニ付テハ常ニ特別テフ文字ヲ冠スルト本節ノ表題ニハ附加刑云云トアリテ特別監視ハ附加刑ニ非サルトニ據リテ之ヲ觀レハ茲ニ所謂監視ナル語ノ内ニハ特別監視ヲ包含セス」ト然レトモ我刑法ノ表題ハ論者ノ言フカ如ク常ニ必スシモ其規定ニ適合セルモノニ非サルト若シ此監視ナル語ノ中ニ特別監視ヲ包含セストスルトキハ刑法附則第四十三條及ヒ第四十四條ノ規定ハ全ク無制裁ト爲リ丁ルトニ據リテ予ハ當然特別監視ヲ包含スルモノト確信ス

右第百五十四條及ヒ第百五十五條ニ共通スル第百五十六條ノ規定ハ囚徒逃走罪ニ關スル第百四十三條ノ規定ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ルカ故ニ茲ニ再説セス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲、彈薬ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

本節ハ暴動又ハ内亂等ノ豫備ト爲ルヘキ行爲ニ對スルノ豫備策トシテ規定セラレタルモノナリ本罪ヲ構成スルニハ(一)官命又ハ官許ヲ得サルコト(二)陸海軍ノ用ニ供スル銃砲、彈薬其他破裂質ノ物品タルコト(三)製造、輸入販賣若クハ所有スルコトヲ要ス以下逐次之ヲ説明スヘシ

第一ノ要素 官命又ハ官許ヲ得サルコト

官命又ハ官許ヲ得ストハ官ノ認許ナクシテ私ニ此等ノ物件ヲ製造シ若クハ輸入、販賣スルヲ謂フ此點ニ付テハ明治五年一月第二十八號布告銃砲取締規則及ヒ同十七年十二月第三十一號布告火薬取締規則ヲ參照スルコトヲ要ス
第二ノ要素 陸海軍ノ用ニ供スル銃砲、彈薬其他破裂質ノ物品タルコト
如何ナル物件カ果シテ陸海軍ノ用ニ供スルモノナルヤラ知ルハ特別ノ智識ヲ要ス我輩ノ説明スヘキ限ニ在ラスト雖モ彼ノ施條ノ設アル銃砲ハ比較的遠距離ニ達スヘキモノナルカ故ニ多クハ軍用ノモノトラン

軍用ノ物ニ對スル犯罪ニ付テハ本節ノ制裁ヲ受クヘキモ其然ラサルモノニ付テハ明治五年一月第二十八號布告同年九月第二百八十二號布告銃砲取締規則

違犯者處断方及ヒ明治十七年十二月第三十一號布告ニ依リ或ハ單ニ特別法ノミニ依リ若クハ特別法ト刑法トノ適用ニ依リ罰セラルコトアリ詳細ハ宜シク此等ノ法令ヲ參照セラルヘシ

第三ノ要素 製造販賣輸入若クハ所有シタルコト

(イ)販賣 販賣トム通常商品ヲ賣買スル場合ニ使用スルノ語辭ナリ然レトモ我刑法ノ用例ヲ按スルニ或場合ニ於テハ之ヲ商品ノ賣買ニ使用シ他ノ場合ニ於テハ單純ナル賣買ニ使用シ殆ト一定スル所ナシ例之第二百五十九條ト第三百九十三條トニ使用セラル「販賣」ノ如ニ然ラハ茲ニ所謂販賣トハ如何ナル意義ヲ有スルナト曰フニ予ノ信スル所ニ依レハ本節ノ犯罪ハ單ニ所有スルニ止マル場合スラ猶ホ且ツ之ヲ成立スルモノタルヨリ之ヲ觀レハ茲ニ販賣トハ必シモ尚品トシテ賣買スルノ義ニ非シテ廣ク賣買スルノ所爲ヲ意味スルモノトス(ロ)所有トハ必シシモ民法上ノ所有ナル意義ヲ有スルモノニ非シテ所持ヲモ包含ス然レトモ茲ニ注意スヘキハ強姦盜ノ結果此等ノ物件ヲ所有スルカ如キハ特ニ本節ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非サルコト是ナリ

此分 本罪ノ處分ニ付テハ法文ノ示ス所ニシテ別ニ説明ヲ要セス唯茲ニ第百六十一条ノ如キ沒收ニ關スル特例ヲ設ケタルベ是レ軍用ノ銃砲彈藥其他破壊賣ノ物品ヲ製造スル器械ハ偽造貨幣ト同シテ法律ノ禁制物ト看做シタル結果ニシテ畢竟公益保護ノ爲メニ外ナラズ但シ謙條ニハ單ニ其用ニ供スヘキ者ト規定セルカ故ニ此等ノ物品ノ製造ニ直接且フ固有ナル性質ヲ有スルモノタルコトヲ忘ルヘカラズ

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

本節ノ規定ハ條文ヲ一讀シテ直チニ了解スルコトヲ得ヘキカ故ニ茲ニ其説明ヲ省略シ直チニ第七節家宅侵入罪ニ付キ講述スル所アラントス諸子請フ幸ニ之ヲ諒セヨ

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

家宅侵入罪ハ現今何レノ開明諸國ニ於テモ之ヲ認メリ然レトモ其之カ性質制

義及ヒ範圍ニ付テハ時ト所ニ由リ多少ノ差異アルヲ以テ以下聊カ之カ説明ヲ試ムヘシ

(一) 性質ニ付テハ古昔希臘羅馬ノ時代ニ在リテハ人ノ家屋ヲ以テ竈鬼神ノ祠宇ト看做シ妄ニ人ノ家宅ニ侵入スルノ所爲ヲ以テ此神ニ對スル不敬罪トセリ。隨テ當時ニ在リテハ家宅侵入ノ所爲ハ神事若クハ宗教的犯罪ニシテ社會的犯罪ニ非ス其宗教的趣味ヲ脱シテ社會的犯罪ト爲リタルハ羅馬末葉ノ頃ナリトス然レトモ尙ホ當時ニ在リテモ未タ今日ノ如ク獨立ノ家宅侵入罪ナルモノヲ認メス之ニ暴行脅迫ノ所爲ノ隨伴スル場合ニ限り一種ノ暴行脅迫罪トシテ之ヲ罰セリ然ルニ近世ニ至リテハ更ニ私家ノ安全ハ不可侵ナリトノ新思想ヲ生シ家宅侵入ノ所爲ヲ罰スルハ獨リ安全ヲ保維スルカ爲メニ規定セラルベニ至リ我刑法ニ所謂家宅侵入罪ハ果シテ此新思想ニ由リテ制定セラレタルモノナルキ(起稿者ガ氏ノ説明ニ人ノ家宅ニ侵入スルノ所爲タル其目的多クハ人ノ身體又ハ財産ニ對シテ害ヲ加ヘントスルニ在ルヲ以テ法律ヘ特ニ一概人ノ身體財産ヲ保護スル必要ヨリシテ此規定ヲ設ケタゞモノナリト曰ヘル

(ロ) 我憲法ニ於テハ「私人ノ家宅ハ安ニ侵ササルコトナシ」ノ原則ヲ掲クルカ故ニ此原則ヨリ推究スルトキハ我刑法ノ規定ハ全ク較近歐洲ニ於ケル家宅侵入罪ノ思想ヲ採用セルモノタリト謂フヲ得ヘキカ如キモ帝國憲法ノ制定ハ刑法制定以後ニ在ルヲ以テ憲法ノ趣旨ヲ以テ直ニ我刑法ノ規定ヲ解釋スルヲ得ナルトハ現ニ第百七十一條第三項ニ於テモ身體財産ニ對スル危害ヲ豫見スルコトヲ得ヘキ場合ハ特ニ之ヲ加重ノ情トセルトニ據リテ之ヲ觀レハ我刑法ノ思想ハ蓋シ歐洲中世頃ノ思想ト較近ノ新思想トノ中間ニ位セルモノナラン

(二) 制裁ニ付テハ前ニ説明シタルカ如ク素ト之ヲ暴行脅迫罪ノ一種トシテ罰シタルニ過キナリシカ後專フ官吏等カ職權ヲ濫用シテ妄ニ一私人ノ家宅ニ侵入スルコトヲ防カシカ爲メニ茲ニ始メテ家宅侵入罪ナル特別ノ犯罪ヲ認メタ然ルニ社會ノ進歩スルニ從ヒ單ニ官吏ノ家宅侵入ノミナラス一私人ノ侵入ヲモ仍ホ之ヲ防ぐノ必要ヲ生シ官吏ト一私人トヲ問ハス苟モ侵入ノ所爲アル石ハ總テ之ヲ罰スルコトト爲スニ至レラ

(三) 範圍ニ付テハ私人ノ家宅ハ之ヲ保護スルノ必要アルモ何レノ場合ニ於テ

モ絕對的ニ侵入スルコトヲ得ストスルトキハ私人ノ家宅ハ犯人隠匿ノ場所ト爲リ遂ニ公權ノ執行ヲ妨害セラルモノ恐ナキヲ保セス於是乎歐洲大陸諸國ニ於テハ官吏カ法律命令ヲ執行スル場合ノ如キ法律ノ特ニ許シタル場合ニ於テハ人ノ家宅ニ侵入スルコトヲ許シ以テ家宅侵入罪ノ範圍ヲ制限セリ然レトモ英米諸國ニ於テハ現ニ家宅侵入罪ナル特別ノ犯罪アルコトナク今尙ホ昔時ノ如ク暴行脅迫ノ之ニ伴フ場合ニ限り暴行脅迫罪ノ一種トシテ家宅侵入罪ヲ罰スルノミトス然レトモ官吏ニ對シテノ一私人ノ家宅ハ城廓ナリト云フノ諱アリテ非常ナル例外ノ場合ヲ除クノ外決シテ一私人ノ家宅ニ侵入スルコトヲ許ナス是レ大陸諸國ト大ニ其趣ヲ異ニスル所トス

家宅侵入罪ハ刑法第百七十一條乃至第百七十三條ノ規定スル所ナリ法律ニ依リテ定義ヲ下ストキハ「家宅侵入トハ事故ナク他人ノ家宅ニ侵入スル所爲ヲ謂フ」トスルコトヲ得ヘシ而シテ本罪ヲ成立スルニハ下ノ三要件ヲ具備スルヲ要ス曰ク「一侵入ノ所爲アルコト(二)法律ノ規定シタル場所ニ侵入スルコト(三)正當ノ事故ナキコト」是ナリ以下之ヲ詳述セシム

第一ノ要素 侵入ノ所爲アルコト

侵入スルコトヲ要スルカ故ニ一旦正當ノ理由又ハ家宅ヲ管理スル者ノ承諾ヲ得テ之ニ入りタル以上ハ經営管理者ノ意思ニ反シタ家宅内ニ止マグモ本罪ヲ構成スルモノニ非ス蓋シ正當ノ理由ナクシテ入ルコト管理者ノ意思ニ反シテ止マグコトトハ其事情ニ於テ彼此擇フ所ナキヲ以テ草案于於テハ特ニ此場合ヲモ規定セリト雖モ確定法文ハ之ヲ削除シタルカ故ニ進ミテ入ルノ所爲ナシソハ本罪ヲ構成スルコトナシ也又假設の事案ニ基於此要件を割離せしむる事無く

第二ノ要素 法律ノ規定シタル場所ナルコト也又即ち承諾の有無を要ス

法律ノ規定シタル場所トハ邸宅建造物、是居禁廻遊宮行在所及ヒ皇陵ヲ謂フ以下之ヲ分説スベシ

(一)邸宅 法律ハ邸宅ニ付テハ人ノ住居シタルモノタルコトヲ要セリ住居トハ一時ト永久トヲ問ハス邸宅内ニ寢食スルノ義タリ故ニ大工等カ修繕ノ爲メ空屋ニ在ル等ノ事實ハ之ヲ以テ人ノ住居シタル邸宅ト謂フコトヲ得ス此等ノ場所ニ侵入シタル所爲ハ單ニ達警罪トシテ處罰セラルルニ過キス然レトモ單ニ

「人ノ住居シタル云々トアルカ故ニ犯人ノ侵入シタル邸宅ハ必シモ被害者ノ所有ニ係ルコトヲ要セス又廣ク邸宅トアルカ故ニ必シモ家屋タルコトヲ要セス牆壁ヲ以テ廻ラシタル部分即チ庭園ノ如キモ總テ此中ニ包含スルモノトスニ建造物 建造物トハ人ノ住居スヘキ邸宅以外ノ建家即チ學校、博物館、演劇場官衙等ヲ指示ス船舶ハ此中ニ包含セナルヲ以テ他人ノ船舶中ニ侵入スルモノ本罪ヲ構成セナルモノトス建造物ニ付ナハ人ノ看守シタルコトヲ要シ本邸宅ノ場合ニ於テ人ノ住居シタルコトヲ要シ本場合ニ於テ人ノ看守シタルコトヲ要スルハ是レ我刑法ハ先ニモ述ヘタルカ如ク單ニ私家ノ平安ヲ保證セントニ非シテ身體財産ノ安全ヲ保護ヒントスルニ在ルカ故ナリ

三皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵別ニ説明ヲ要セス唯皇陵中ニハ皇族御墓ヲ包含スルキ否ヤニ付キ些カ議論アルヘキモ我輩ハ畢竟ニ皇陵トハ天皇ノ御墓ノミヲ指稱スト定義シタルカ故ニ本場合ニ於テモ亦皇族ノ御墳墓ハ之ヲ包含セタルモノト解釋セント欲ス

第三ノ要素 正當ノ事故ナキコト

法律カ茲ニ故ナクト規定セルハ正當ノ理由ナクト謂フノ意ニシテ法律命令ノ特ニ許シタルニ非ヌル場合若クハ判事ノ認メテ正當トスヘカラズル場合等ヲ謂フ別ニ説明ヲ要セス
本罪ニ付テハ法律ハ三箇ノ場合ヲ區別シテ其處分法ヲ規定セリ

(一)侵入シタル場所ニ因リテ刑罰ヲ異ニス 即チ私人ノ邸宅又ハ建造物ニ入りタル場合ニ在リテハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處スルモ皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル場合ニ於テハ一等ヲ加重セラル
(二)晝間ナルト夜間ナルトニ因リテ刑罰ヲ異ニス 晝間他人ノ邸宅其他法律ノ規定シタル場所ニ入りタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處セラルモノ
夜間に在リテハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處セラルモノトス而シテ其果シテ晝間ナルヤ將タ夜間ナルトニハ事實裁判官ノ判定ニ依リヲ決セナルヘカラス
(三)侵入ノ行ハレタル事情ノ如何ニ因リテ刑罰ヲ異ニス 即チ左ニ列記スル場合ニ於テハ一等ヲ加フルモノトス

(イ)門戸、牆壁ヲ踰越損壊シ又ハ鎖錠ヲ開キテ入リタルトモ、踰越トハ踰ニル場

合フ意味スル文字ニシテ潛ルコトヲ包含セナル文字ナレトモ文字ノ沿革上常ニ此二者ニ共通スルモノトセラル鎖鎗モ亦然リ即チ鎖鎗トハ銃前ト謂フノ義ナレトモ文字ノ沿革ニ於テハ總テ之ヲ戸締ナル意義ニ使用セラル要之跡越ト謂ヒ鎖鎗ト謂フモ文字自體ハ狹キ意義ナルモ沿革上廣義ニ解釋スヘキモノナリ(ロ)兎器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帶シテ入リタルトキ兎器トハ刀槍銃砲ノ如キ性質上ノ殺傷シ得ヘキ物品ヲ謂フ犯罪ノ用ニ供スヘキ物品トハ第三編以下ニ規定セル身體又ハ財產ニ對スル罪ヲ犯スノ用ニ供スヘキ物品ヲ謂フ蓋シ前ニモ述ヘタルカ如ク家宅侵入罪ハ人身體又ハ財產ヲ保護スルノ目的ニ出テ規定セラレタルモナレハナリ(ハ)暴行ヲ爲シテ入リタルトキ暴行ノ何タルコトハ前既ニ述ヘタル所ナリ故ニ茲ニ之ヲ贅ナス(三)前ノ暴行ノ事例公起暴行事件本史
(二)一人以上ニテ入リタルトキ二人ハ共ニ身體若クハ財產ニ對シテ害ヲ加フルコトヲ得ヘキ能力アル者タルコトヲ要ス隨テ嬰兒ヲ抱テ人ノ家宅ニ侵入スル天茲ニ所謂二人ニテ入リタルモノトシテ刑罰ヲ加重スルコトヲ得ス

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

往古羅馬ノ時代ニ在リテハ物件ニ對シテ封印ヲ爲スノ思想ナカリシヲ以テ封印破棄罪ヲ認ムルコトナシ其始メテ之ヲ認タルハ佛國共和時代(革命ノ時)ニシテ今日清國ニ於テ此規定アルハ皆佛國ニ模倣シタルモノトス本罪規定ノ目的ハ官ノ封印ヲ破棄スルノ所爲ヲ以テ公權ヲ侵害スルモノト看做シ以テ簡易ナル物品ノ保管ヲ全ウスルニ在リトス
封印破棄罪ハ第百七十四條乃至第百七十六條ニ規定セル所ナリ本罪ヲ構成スルニハ心外ノ要素トシテ(一)家屋、倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄スル所爲アルコト(二)其封印ハ官署ノ處分ニ因リ特別ニ施ナレタルモノナルコトヲ要ス以下之カ説明ヲ試ムヘシ

第一ノ要素 家屋、倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄スル所爲アルコト
破棄トハ草案ニ破壊シ若クハ除去シタル者トアリシヲ節約シタルノ語ナリ故ニ單ニ封印ヲ破壊スルノミナラス之ヲ取去ル場合ヲモ包含ス

本罪ヲ構成スルニハ破棄ナル事實アルヲ以フ足ルカ故ニ封印ヲ施シタル物件ヲ破壊又ハ盜取スルニ至ラサルモ破棄ノ所爲アレハ直チニ本罪ヲ構成ス其推論ノ結果トシテ縦令封印ヲ施サレタル物件ヲ破壊若クハ盜取スルモ封印破棄ノ所爲ナクシムハ本罪ヲ構成セス

第二ノ要素 其封印ハ官署ノ處分ニ因リ特別ニ施サレタルモノナルコト
官署ノ處分ニ因リ特ニ施ナレタル封印トハ特別ノ處分トシテ封印ヲ施サレタル場合ヲ謂フモノニシテ即チ或財團若クハ證據物件ノ散逸廻滅ヲ防キ若クハ秘密ヲ保護センカ爲メニ法律ノ規定ニ依リ特ニ施ス所ノ封印ヲ謂フ

本罪ノ處分ニ付テハ法律ハ封印看守ノ職責アル者ト之ナキ者トヲ區別セリ
一看守ノ職責ナキ者 看守ノ職責ナキ者ニ付テハ特ニ封印ヲ毀棄スル意思アル場合ノミニ限リ之ヲ罰スヘキモニシテ其單純ナル場合ハ第百七十四條第一項ニ依リ二月以上二年以下ノ重禁猶ニ處シ之エ伴ヒテ盜罪及ヒ物品毀損罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ盜罪及ヒ物品毀損罪ニ照シ重キニ從テ處斷スルモノトス

二 看守ノ職責アル者 看守ノ職責アル者ニ付テハ故意過失トヲ問ハス之ヲ罰ス故意ニ犯シタル場合ニ於テハ單純並ニ複雜ノ場合共ニ一等ヲ加ヘテ罰セラ
ル又故意ナタシテ犯シタル場合ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス第
一七六條尤モ第百七十六條ニ所謂看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取、毀棄スル犯人アルコトヲ覺ラサル時云々ノ規定ハ之ヲ二様ニ解釋スルコトヲ得即チ一ハ看守者ニ於テ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取、毀棄スル犯人アルコトヲ懈怠ニ因リテ覺ラナルトキト謂フノ義ト他ハ看守者懈怠ニ因リ封印ヲ施シタル物件ヲ盜取又ハ毀棄スル犯人アルコトヲ覺ラサルカ若クハ自己過失ニ因リ封印ヲ破棄シタルトキト謂フノ義是カリ佛國刑法第二百四十九條ニ行政官廳又ハ何等ノ事項ニ關スルヲ問ハス司法官廳ノ命令ニ依リテ施シタル封印ヲ破棄セラレタルトキハ之カ看守者ハ其單純ナム懈怠ニ對シテ六日以上六月以下ノ禁錮ニ處ストノ規定アリテ一般ノ判例並ニ學說ニ依レバ該條ノ規定ハ看守者ニ於テ自己ノ過失ニ因リテ之ヲ破棄シテ既ト異ハ他人ノ之ヲ破棄スルヲ覺ラサルトニ關セス苟モ懈怠アリト認メ得ハシ場合ニ總テ之ア

處斷スルノ精神ナリト解釋セルト本條ニ該當スル草案第二百七條ニ「前款條ニ
掲ケタル刑罰ハ若シ書記其他裁判所所属ノ官吏タル看守者之ヲ犯ストキハ
等ヲ加フ單純ナル懈怠ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト云
テ其規定全ク佛國刑法ト同一ナルトニ據リテ之ヲ觀レハ後者ノ解釋或ハ立
法ノ趣旨ニ適合スヘシト雖モ行文ノ態勢上ヨリ之ヲ按スルトキヤ到底前者ノ
解釋ヲ以テ至當ナリトセサヘカラナルヲ以テ予ハ前者ノ解釋ヲ採リ若シ看
守者自己ノ過失ニ因リ封印ヲ破棄シタルトキハ服務上ノ制裁ヲ受タルハ格別
決シテ本條ノ制裁ヲ受タヘキモノニ非スト信ス
終ニ臨ミ一言ス封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞スルノ所爲ハ通常ノ
盜罪又ハ毀壞罪ニ比スレハ其情更ニ重キモノトス是ニ於テヤ佛國刑法第二五
三條以下及ヒ草案第二〇四條以下ニ於テハ通常ノ刑ヨリモ更ニ重キ刑罰ヲ科
スルコトトセルニモ拘ラス現行法ニ於テハ單ニ盜罪及ヒ毀壞罪ノ各本條ニ照
シ重キニ從テ處斷スルニ處キス第一七五條是レ罪刑ノ權衡ヲ重ムル我刑法ノ
主義トシテハ決シテ贊同スベコト能ハナル所トス

第九節 公務ヲ行フナ拒ム罪

公務ヲ行フナ拒ム罪ト謂フトキハ官吏又ハ公吏等カ法律又ハ命令ニ依リテ職
務上爲スヘキ行為ヲ拒ム罪ト謂フカ如キ題名ニ改ムルヲ可トス蓋シ本節は佛國
刑法及ヒ草案所謂Refus d'un service (即チ法律上務ムヘキ役務ヲ拒否
スル罪ヲ) フ節ニ該當スルモノニシテ彼ノ陸海軍ノ兵役ニ服シ又ハ裁判上ノ證
人タルコトヲ肯セサルカ如キ總テ公益ノ爲メ法律ニ於テ要求セラレタル役務
ヲ拒ムノ所爲ヲ規定シタルモノナレハナリ
凡ソ國家公共ノ爲メニ從事スルモノニシテ彼ノ官吏トシテスルモハ一私人
トシテスルモ其ニ是レ公共ノ役務ニ從事スルモノニシテ其間區別スヘキモノノ
ナキカ如キモ仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ一ハ國家ノ一機關トシテ之ニ從事シ
他ハ單ニ之カ運動ヲ補助スルモニカルカ故ニ其間主從ノ區別アル
ゾミナラス法律ハ已ニ官吏ニ對シテハ一方ニ服務規律ヲ設ケ他ノ一方ニ於テ

ハ官吏公益ヲ害スル罪ヲ設ケ官吏其管掌手係ル法律規則ヲ公布施行キス又ハ
他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル所爲、兵隊ヲ要求ミ及ヒ之ヲ使用スル權アル
官吏地方ノ騒擾其他兵權ヲ以テ鎮撫シヘキ時ニ當リ其處分ヲ爲セサル所爲、官
吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル所爲ノ如キヲ規定セルカ故ニ其之ト牽末ノ
異同ナキ本節第百七十七條ノ如キハ官吏公益ヲ害スル罪ノ規定キ入ルヘキモ
ノニシテ法律カ其之ヲ茲ニ規定シタルハ徒ニ佛國法ヲ撰寫シタルノ嫌ヲ免レ
ス

本節ハ第百七十七條乃至第百八十一條ヲ以テ構成シ出兵ノ要求ニ應セサル罪
微兵ヲ忌避スル罪、艦定ヲ肯セサル罪、證人タガラ肯セサル罪、傳染病ヲ検査シ又
ハ其消滅方法ノ陳述ヲ肯セサル罪ヲ規定セリ即チ左ニ欵ヲ逐テ之ヲ説明セン

第一欵 出兵ノ要求ニ應セサル罪

第一百七十七條ニ曰ク「陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要
求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セナル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スト本罪ヲ構成スルニハ「陸海軍ノ將校出兵ヲ
要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケタルコト」故ナク其要求ヲ肯セサルコ
トヲ要ス

第一ノ要素 陸海軍ノ將校出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケタビ
コト
陸海軍ノ將校トハ何ソヤ出兵ヲ要求スル權アル官署トハ何ソヤ明治二十六年
十月勅令第百六十二號地方官官制第九條ニ知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミテハ
師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得ルノ規定アルト明治十四年
第八十二號達第二條ニ裁判官檢察官ハ職務執行ノ爲メ事緊急必要ニ涉ルトキ
ハ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得ルノ規定アルトニ據リテ
之ヲ觀レハ茲ニ陸海軍ノ將校トハ師團長又ハ旅團長等ノ如ク一地方ノ守備ア
司ノ軍隊ノ長官又ハ或一方ノ守備ニ從事セル艦隊ノ長官ヲ謂ヒ出兵ヲ要求ス
ル權アル官署トハ行政又ハ司法官廳等ヲ謂フモノニシテ陸海軍將校等ノ從屬
セル軍事官廳ヲ謂フモノニ非ス蓋シ要求トハ從屬ノ關係ナキ同等官廳間ニ於

テ用フルノ語ニシテ從屬ノ關係アル官廳ヨリスルモノハ一箇ノ命令ナルノミ
ナラス軍人其長官ノ軍令ニ違フトキハ別ニ規定ノ存スルモノアレハナリ
第二ノ要素 故ナク其要求ヲ肯セサルコト
本要素ハ別ニ説明スヘキコトナシ故ナクトハ正當ノ理由ナクト謂フノ義ナリ
其果シテ如何ナル場合ニ於テ正當ノ理由ナキモノトスヘキヤハ決シテ事實ノ
問題ニ非スシテ法律問題ナリト雖モ時ト事情ニ由リテ異同ヲ生スヘキモノナ
ルカ故ニ法律ハ偏ニ之ヲ裁判官ノ判定ニ委スルモノトス
處分ニ付テハ法律ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ストセリ輕禁錮ニ處ストシテ常事犯ノ形ヲ科セサルハレ蓋シ出
兵ヲ要スル場合ハ多クハ内亂又ハ暴動等ノ事變ニ際スルモノニシテ其行為ハ
畢竟因テ此等ノ暴動ヲ助長セシムルノ結果其性質内亂又ハ暴動等ト異ナラ
ルモノアルニ由ルナラン

第二款 徵兵ヲ忌避スル罪

第一百七十八條ニ曰ク陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ
作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ヘ一月以上一年以下ノ重禁錮
ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ニ囁託シ其氏名ヲ詐稱シ
代ヲ徵募ニ應セシタル者亦同シ其囁託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三
十一條ノ例ニ照シテ處断スト本條記載スル所ノ犯罪具明治二十二年一月法律
第一號徵兵令第三十一條ニモ規定シアリ同條ニ曰ク兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡
シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲ヲ用ヒタル
者下即テ之ヲ本條第一項ニ比照スルニ一本條ニハ陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル
可キ者子ル語アリテ彼ニハ之ヲ缺クモ是レ畢竟自明ノ條件ニシテ彼亦之ヲ要
カルナ明カナリ(二)彼ニハ逃亡又ハ潛匿ノ所爲ヲ規定スルモノ本條ニハ之ヲ缺ケ
(三)本條ニハ身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シトアリテ彼ニハ身體ヲ毀傷シ疾病
ヲ作爲シトアルモ畢竟本條ニ於テハ疾病ナル語ヲ廣ク創傷ヲモ含ムノ意義ニ
用ヒ後ニハ創傷ヲ含マチアルノ意義ニ用ヒタルニ過ナルモノタリ然ラハ徵兵令
ム本條第一項ニ規定スル事項ノ外逃亡又ハ潛匿ノ場合ヲ加ヘテ規定シタルモ

メニシテ特別法殊ニ後法ハ前法ア廢ストノ原則ニ依リ本條第一項ハ該條ニ伏テ廢止セラレタルモノナムカ故ニ子ヤ假ニ徵兵令第三十一條ノ規定ト本條第二項ノ規定ト合シテ本罪ノ規定トシ之カ構成要件ヲ説明スヘシ
 甲) 徵兵令ノ規定 同第三十一條ニ曰ク「兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若タヤ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處セ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス」下本罪ヲ構成スル爲メニハ(一)犯罪ノ主體ハ陸海軍ノ徵兵ニ編入セラルヘキ者タルコト(二)兵役ヲ免レントスル所爲スルコト(三)兵役ヲ免レントスル目的アルコトヲ要ス
 第一ノ要素 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラルヘキ者タルコト
 本罪ハ徵兵忌避ノ所爲ヲ罰スルモノタダカ故ニ其之ヲ爲スノ主體ハ徵兵ニ編入セラルヘキ者換言スレバ當然初ヨリ徵兵ニ編入セラルヘカラナル者又ハ已ニ徵募ニ依リテ兵籍ニ入リタル者タルカムカラナル者自明ノ事已ニ兵籍ニ入リタル者其役務ヲ免レントスル等ノ所爲ニ付テハ陸海軍刑法又ハ明治二十二年勅令第百四十四號陸軍豫備後備下士卒服役條件等ノ特別法アヨニシテ説

明ツ要セスト雖モ其果シテ如何ナル者ヲ以テ徵兵ニ編入セラルヘキ者換言スルハ本罪ノ主體ト爲ルコトヲ得ヘキ者ト謂フヘキヤニ付テハ少シ説明ヲ裏スルモノアリ曰ク本罪ノ主體ト爲リ得ヘキ爲メニハ單ニ女子又ハ四十歳以上ノ男子又ハ特別ノ身分若クハ事情ニ因リ徵兵ノ検査ヲ要セシシテ當然免役セラルヘキ者ニ非ナルノミヲ以テ足レリトスヘキヤ將タ尙ホ徵兵ノ年齢ニ達シタルコトヲ要スルケ將タ尙ホ進ミテ検査ノ結果免役徵兵検査規則第二條參看ト爲ラサル者タルコトヲ要スルヤ單ニ皮想ノ見解ヲ以テ之ヲ按スルトキハ右第一ノ條件否多クトモ第一ト第二トノ條件ヲ具備スルノミヲ以テ足レリトスヘキカ如キモ本罪ハ徵兵ヲ忌避スル罪ニシテ第一ノ條件ヲ具備シタルノミニハ或ハ徵兵年齡ニ達セナル以前ニ死亡シ若クハ其後特別ノ出来事ニ因リ當然徵兵ノ資格ヲ失シ到底徵兵ニ編入セラルヘキ者ニ非ナル者ト爲ルコトアルノミナラス縱令第二ノ條件ヲ具備シタリトスルモ検査ノ上初ヨリ免除ト爲ラナルヘカラナル者タラシカ亦到底徵兵ニ編入セラルヘキ者ニ非ナルノ結果此等ノ者ハ徵兵ヲ忌避セントスルモ得ナル者ニシテ其行爲ハ畢竟不能犯タル

ニ據リテ之ヲ觀レバ本罪ノ主體トシテ罰スルコトヲ得ルカ爲ミニハ常ニ右ノ三要件ヲ具備シタルコトヲ證明シタル後タルコトヲ要スルモノトス
第二ノ要素 兵役ヲ免レントスル所爲アルコト
法律ハ兵役ヲ免レントスル所爲ヲ列舉シテ曰ク「逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ト逃亡トヘ私ニ所在地ヲ去リテ踪跡ヲ隱シ暗マスノ義潛匿トハ所在地ニ在ルト否トヲ問ハス身體ノ所在ヲ隠スノ義ニシテ何レモ官ノ發覺ヲ防ケルニ所爲タリ身體ヲ毀傷スルトハ眼ヲ抉リ耳ヲ削リ手足又ハ指等ヲ折傷シ若クハ不健康物ヲ服シテ胃腸ヲ害スル等凡テ表見又ハ不表見のノ損害ヲ身體ニ與フルノ義ニシテ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ」トハ僞ヲ白痴瘋狂癲癆夜盲聾啞等ノ狀態ヲ裝フカ如キ凡テ人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムルノ所爲ヲ用フルノ義ナリ何レモ兵役ヲ免ルノ所爲タルヲ要スルカ故ニ「二組合身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用フルモ因テ以テ兵役ヲ免ル」コトヲ得ヘキ性質ノモノニ非ナルニ於テヘ意思ノミアリテ所爲ナキカ故ニ無罪タリ(二)又其適用トシテ縱令甲種ノ合格ヲ妨ケテ乙種ノ

合格タラシメタルモ苟モ因テ甲種合格ト同種ノ兵役ニ服スルコトヲ妨ケサリシモノタルニ於テハ亦本罪ヲ構成セス(二)然レトモ現役タルヘキヲ轉シテ國民兵役タラシムルノ結果ヲ生シ又ハ生スヘキモノタルニ於テハ是レ或種ノ兵役ヲ免レシメ又ハ免レントシタルモノナルカ故ニ縱令全然兵役ヲ免ルニ至ラサルモ本罪ノ構成ヲ妨ケス
第三ノ要素 兵役ヲ免レントスル目的アルコト是ニ就キニ就キテ此目的即チ達因アルコトヲ要スルカ故ニ右第二ノ要素ニ記載スルカ如キ所爲アルモ過失又ハ他ノ目的例之負債ノ辨済ヲ辨シ豪俠ヲ示シ眞情ヲ表ハシ又ハ救恤ヲ乞ハシカ爲メ等ノ目的ニ出ワルトキハ本罪ヲ構成セナルモノトス
處分ニ付テハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノトス別ニ説明ヲ要セス

(乙) 刑法ノ規定 同第百七十八條第二項ニ曰ク「若シ他人ニ嘱託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其嘱託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷スト」本項ハ代リテ徵募ニ應セシメタル所爲ト

代リテ徵募ニ應シタル所爲トヲ規定セリ故ニ予ハ之ヲ二箇ニ分サテ説明スヘ
メ
第一 代リテ徵募ニ應セシメタル所爲此所爲ヲ構成スル爲ズニバ(一)犯罪ノ
主體ハ徵募ニ應スヘキ者タルコト(二)他人ニ囁託シ氏名ヲ詐稱シ代リテ徵募ニ
應セシメタル所爲アルコト(三)兵役ヲ免ルノ目的アルコトヲ要ス

(二)犯罪ノ主體ハ徵募ニ應スヘキ者タルコトヲ要ス
本罪ハ犯人ニ於テ自己ニ代リ他人ヲシテ應募セシムルノ行爲ニシテ自ラ此資
格ナキ者ハ他人ヲシテ代ラシムヘキモノナキカ故ニ本要素ノ必要ナルヤ言フ
埃及タス然レトモ其所謂徵募ニ應スヘキ者トハ徵兵ノ検査ニ應スルノ資格換言
スレハ制規ノ年齢ニ達シタル男子ニシテ且ツ當然検査ヲ要セス不合格タラナ
ル者ト謂フノ義ナルヤ將タ已ニ検査ニ合格シ進ミテ抽籤ニ依リテ兵役ニ編入
セラルヘキ位地ニ在ル者ヲ謂フノ義ナルヤ明治二十二年二月二十五日勅令第
十三號徵兵事務條例ニ徵募トハ已ニ検査ニ合格シタル者ニ對シ抽籤ヲ行慶實
際徵兵ニ編入スルノ義ニシテ検査ハ單ニ其準備ニ過キナルニ據リテ之ヲ觀レ

小徵募トハ實際徵兵ニ編入スルノ義ニシテ他人ヲシテ自己ニ抽籤應募セシム
ル爲メニハ自己モ亦此資格ナカルヘカラサルカ故ニ本罪ノ主體タル者ハ已ニ
徵兵ノ検査ニ合格シ將ニ新兵ニ編入セラントスルノ狀況ニ在ル者タルヲ要ス
ルモノニシテ要本項ハ已ニ検査ニ合格シタル者カ代王ヲ以テ兵役ニ服セシメ
タルノ所爲ヲ規定シタルモノトス
(二)他人ニ囁託シ氏名ヲ詐稱シ代リテ徵募ニ應セシメタル所爲アルコトヲ要
ス
本罪ハ他人ヲシテ自己ニ代リ徵募ニ應セシメタル所爲換言スレハ犯人ニ於テ
他人ニ囁託シ他人ノ之ヲ實行シタルコトアルヲ要スルカ故ニ單ニ之ヲ他人ニ
囁託シタルノミ若クハ他人カ之ヲ實行セントシタルモ未タ遂ケナルトキハ本
罪ヲ構成セナルモノトス然レトモ其所謂代リテ徵募ニ應スルノ所爲トハ必ス
シモ事實兵役ニ服スルコトヲ要セス當該官廳ニ出頭シテ氏名ヲ通スルモ亦徵
募ニ應スルノ所爲タルカ故ニ一旦受託者ニ於テ應募ノ爲メ當該官廳ニ出頭シ
民名ヲ詐稱スルニ於テ已ニ本罪ヲ構成スルモノトス

(三) 兵役ヲ免ルノ目的アルコトヲ要ス

本條件ノ必要ナルハ所爲ヨリ當然知得スルコトヲ得ルモノニシテ更ニ説明ヲ要セス

第二 嘴託ヲ受ケ代リテ徵募ニ應シタル所爲 此所爲ハ(一)徵募ニ應スヘキ者ヨリ嘴託ヲ受ケタルコト(二)代リテ徵募ニ應シタル所爲アルコト(三)代リテ徵募ニ應スルノ意思アルコトヲ要ス第三ノ要素ハ極メテ明白ノコトナルヲ以テ予ハ茲ニ第一ニ第二ノ要素ノミニ付テ説明セん

(一) 徵募ニ應スヘキ者ヨリ嘴託ヲ受ケタルコトヲ要ス

徵募ニ應スヘキ者ヨリ嘴託ヲ受ケタルコトヲ要スルカ故ニ嘴託ヲ受ケスシテ他人ニ代リ應募シタルカ嘴託ヲ受ケタルモ徵募ニ應スヘキ者ヨリ之ヲ受ケサルニ於テハ或ハ單ニ第二百三十一條ノ罪ヲ構成スルコトアルヘキモ本罪ヲ構成スルコトナシ

(二) 代リテ徵募ニ應シタル所爲アルコトヲ要ス

嘴託ヲ受ケタルコト及ヒ其嘴託ハ徵募ニ應スヘキ者ヨリ之ヲ受ケタルノ事實

アルモ犯人ニ於テ徵募ニ應シタルノ事實即チ少タトモ徵募ノ爲メ當該官署ニ詐稱シタルノ事實ガクシハ罪ヲ構成セス
處分ニ付テハ法律ハ前段ノ者ニ對シテハ普通ノ徵兵忌避者ト同シタ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加シ後段ノ者ニ對シアハ第二百三十一條ノ例ニ照シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ科ス——前段ノ者ニ對シ前項ト同一ノ刑ヲ科スルハ是レ國民ノ義務ヲ忘却ゼルノ點ニ於テ擇フ所ナキカ故ニシテ後段ノ者ニ對シ之ヲ共犯トセスシテ更ニ輕キ刑罰ヲ科スルハ是レ本項ノ場合ニ於テハ兵員ニ缺乏ヲ生スルコトナキカ故ニ實際ノ害惡ナキノミナラス縱合其違因ニ於テハ營利ノ爲メニスル者ナキニ非ナルモ苟モ免レントスル沒徳漢ト同視スルヲ得ナルニ因ラン

終ニ臨ミ一言ス本規定スル所ノ所爲ハ前項所謂其他詐僞ノ所爲ヲ以テ云々ノ中ニ包含セラルモノニシテ更ニ明文ヲ要セナルモノタリ隨テ其法律カ茲ニ本項ヲ設ケタル所以ハ一一代リテ徵募ニ應シタル者ノ處分ヲ異ニセンカ爲メニ出テタルモノナリト謂ハナルヲ得ナラン

第三款 解剖分析鑑定又ハ證言ヲ肯セサル罪

解剖分析鑑定ヲ肯セサル罪ハ第一百七十九條ニ證言ヲ肯セサル罪ハ第一百八十條ニ規定ス先ツ第百七十九條ニ曰ク醫師化學其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス第百八十條ニ曰ク裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シト講スルニ先チ一言ス(イ)此規定ハ元ト廣ク適用セラルヘキモナタリシノモ行政及ヒ民事ノ裁判ニ關スル場合ニ付テハ行政裁判法第三八條第四三條及ヒ民事訴訟法第三〇二條ニ特別ノ規定アルカ故ニ行政又ハ民事ノ裁判ニ付テハ右二條ノ適用ナキモノトス(ロ)又茲ニハ鑑定人證人醫師化學家ニ關スルコトニ限リ一言ノ通事ニ及フナシ故ニ通事ニ關シテハ本二條ノ適用ナキモノトス刑事訴訟法第一〇一條民事訴訟法第一二五條行政裁判法第四三條裁判所構成法第一二五條以下陸軍治罪法第五九條第六三條第六四條第六五條海軍治罪法第六四條第六八條以下本罪

ヲ構成スルニハ二首署ヨリ解剖分析鑑定又ハ證言ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタルコト(二)解剖分析鑑定又ハ證言ヲ爲スノ義務ヲ有スル者タルコト(三)故ナクシテ解剖分析鑑定又ハ證言ヲ爲スコトヲ肯セサル所爲アルコトヲ要ス第一ノ要素 官署ヨリ解剖分析鑑定又ハ證言ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタルコト

解剖分析鑑定ニ付テハ廣ク官署トアルカ故ニ其命令ハ行政官廳ヨリスルモノタルト司法官廳ヨリスルモノノタルト將タ軍衛ヨリスルモノタルトヲ問ハス本部ヲ構成ス行政官廳ヨリスルモノハ間接國稅犯則處分法施行細則第七條土地收用協議會規則第二條司法官廳ヨリスルモノハ刑事訴訟法第一三五條以下軍衛ヨリスルノハ陸軍治罪法第六二條以下海軍治罪法第六七條以下ト雖モ證言ニ付テハ裁判所ヨリトアリテ行政官廳又ハ軍衛ヲ除外スル(行政官廳ニ於テ證人ヲ命スル場合ハ我輩之ヲ知ラス軍衛ニ付テハ陸軍治罪法第五九條第六八條海軍治罪法第六四條乃至第七〇條)ミナラス行政裁判所民事裁判所モ亦之ヲ除外スルカ故ニ結局茲ニ所謂裁判所トハ刑事裁判所ニ限ルコト爲ルヘン

第二ノ要素 解剖分析鑑定又ハ證言ヲ爲ス義務ヲ有スルコトニシテ、例之刑事ノ訴訟ニ於テイ刑事訴訟法第百二十三條第百二十四條ニ記載シタル者ノ如キ絕對的ニ證言鑑定ヲ爲スヲ得ナル者及ヒロ同第百二十九條第百三十條ニ記載スル場合ノ如キ或場所ニ於テスルニ非ナレハ證言ヲ爲サシムルコトヲ得ナル場合ニ於テハ鑑定又ハ證言ヲ爲サシムルハ全然背法ノ行爲ニシテ被告人ハ毫モ之ニ應スルノ義務ナキカ故ニ総合初ヨリ駁シテ答へス若クハ已ニ宣誓シテ證言又ハ鑑定ヲ肯セナルモ右二條ノ罪人タルコトナシ陸軍治罪法第五十九條、第六〇條、海軍治罪法第六四條、第六五條参考)

第三ノ要素 故ナクシテ解剖分析鑑定又ハ證言ヲ爲スコトヲ肯セナル所爲アルコト

故ナクトハ正當ノ理由ナクト謂フノ義ナリ正當ノ理由ナキコトヲ要スルカ故ニ例之刑事訴訟法第百二十五條ニ記載シタル場合ノ如ク職務又ハ職業上駁訛スヘキモノニ關スルコトヲ開示シテ證言又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ得ナルコトヲ説明スルガ(刑事訴訟法第一三六條、陸軍治罪法第六五條、海軍治罪法第七〇條參照)

照若クハ證言又ハ鑑定ヲ爲スドキバ自己又ハ親族ノ犯罪ヲ暴露セサルヘカラニ至ルカ或ハ自己若クハ親族ノ榮譽ヲ毀損スルノ結果ヲ來スヘキコトヲ疏明シタル場合等法律上又ハ事實上正當ノ理由アリト認ムヘキモノアルニ於テハ本罪ヲ構成セサルモノストラウス (Strauss, A. "Legal Theory of Criminal Offenses")

第四款 傳染病ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述ス

ルコトヲ肯セサル罪

第一百八十一條ニ曰ク「傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セナル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス」獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一條ヲ減スト本條ハ醫師又ハ獸醫カ其業務上從事スヘキ公役ヲ拒否シタル罪ヲ規定シタルモノニシテ別ニ説明スヘキモノナシ唯明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法及ヒ明治二十九年三月法律第六十號獸疫豫防法ヲ參照スルト同時ニ茲ニハ傳染病又ハ「獸類傳染病」トアリテ其種類ヲ列舉セナルカ故ニ其適用ハ決シテ右ノ法律ニ依リテ職東セラレナルコ

トア知ルヲ以テ多シトス(傳染病豫防法第一條ニ曰ク「此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺赤痢腹脛扶私痘瘡發疹室扶私猩紅熱實布猩利亞格魯布ヲ含ム)及ベストラ謂「前項ニ掲タル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定スト獸疫豫防法第一條ニ曰ク「此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛馬羊豕犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ一牛疫二炭疽三氣脛疽四鼻疽及皮疽五傳染性胸膜肺炎六流行性鷦口瘡七羊痘八家虎列刺九家羅斯痘十狂犬病ト」)

第四章 信用ヲ害スル罪

總論

茲ニ信用ヲ害スル罪トハ佛文草案 Chapitre V (Liver II) Des crimes et délits contre la confiance publique (即チ第五章公ノ信用ニ對スル重罪輕罪)トアルニ該當ス佛國刑法第三卷第一編第一節 Du faux (即チ詐偽罪ヨリ來リタルモノニシテ詐偽ハ社會ノ信用ヲ害スルノ結果ヲ生スルモノタクカ故ニ此點ヨリ觀察シテ本表題ヲ

置キタルモノトス

右ノ如ク信用ヲ害スル罪トヘ畢竟詐偽ノ罪ニ外ナラサムモノナルヲ以テ本章規定ノ所爲ヲ研究スルニ當リテハ常ニ此觀念ヲ忘却セサルコトヲ必要トス。凡ソ詐偽ノ事タル之ヲ一般汎博ナル意義ヲ以テ了解スルトキハ或者カ他ノ者ヲ欺タ爲メニ用フル所ノ方略又ハ舉動タリト雖モ約言スレハ之ヲ裝フニ計策ヲ用ヒ若クハ用ヒシテ真實ニ反スル事實ヲ真實ナリトシ以テ他人ヲ欺クト即チ虛偽ヲ意味スルモノタリ。

純理ヨリ之ヲ觀察スルトキハ虛偽自體ハ法律ヲ以テ之ヲ制スヘキモノニ非ヌ蓋シ人ハ各自ラ之ニ對スル防衛ノ策ヲ講究スヘキモノニシテ法律ハ制裁ヲ以テ其實ヲ保護スルモノニ非ナレハナリ然レトモ此點ニ關シ刑法ハ沿革上二様ノ變遷ヲ爲セリ(一)虛偽ノ事ヲ以テ人心ニ錯誤ヲ起サシムルハ道義上決シテ有害ノ事ニ非スト謂フヲ得スニ於テ古人ハ久時ノ間之ヲ以テ刑罰制裁ヲ加フヘキモノトシ彼ノ言語又ハ出版物ニ依リテ異端邪說ヲ唱フルノ徒ヲ責罰セシカ近世文化漸々進ミ一般ニ人ハ言論ノ自由ヲ有スルモノナルコトヲ認ム

ニ及ヒテヤ右ノ舊思想ハ茲ニ一變シ宗教ニ政治ニ哲學ニ如何ナル意見ヲ發表スルモ其事ニシテ苟ニ公ノ秩序又ハ風俗ヲ害セサム限ハ全ク刑法ノ關スル所ニ非ストシ遂ニ之ヲ刑法以外ニ措クニ至レタ(二)之ニ反シ其依リテ名譽財產其他國法ノ以フ保護スヘキ各種ノ權利ヲ害スルモノニ付テハ舊時ニ於テハ却ア刑事上ノ詐欺ト民事上ノ詐欺トヲ區別スルノ結果多クハ被害者ヲシテ民事上ノ賠償ヲ受ケシムルニ過キツリシモ近世ニ於テハ學說ニ立法ニ悉ク之ヲ罰シテ遺漏ナカラシコトヲ期スルモノ漸ク一般ノ與論ト爲ルニ至レリ
凡ソ從來各國ノ法律カ罰スヘキモノトスル所ノ虛偽ハ之ヲ其手段ノ如何ニ依リテ區別スルトキハ(一)言語ヲ以テスルモノ(二)動作ヲ以テスルモノ(三)文書ヲ以テスルモノトノ三ニ大別スルヲ得第一種ノ虛偽中ニハ偽證罪、氏名詐稱罪ノ威モノ等之ニ屬シ第二種ノ虛偽中ニハ貨幣偽造罪、官私印偽造罪、詐欺取財ノ威モノ之ニ屬シ第三種ノ虛偽中ニハ文書偽造罪之ニ專屬ス

遺ク羅馬法ニ週リテ本罪ノ沿革ヲ按スルニ古代ノ羅馬ニ於テモ已ニ *Eugenio* 即チ爲造罪ノ名ヲ以テ本罪ニ關スル規定アリタリキ然レトモ當時羅馬人カ此規

定ヲ設ケタルハ畢竟太々遺言ヲ尊重スルノ結果偏ニ其偽造ヲ防遏スルノ意云出テタルモノニシテ其所謂 *Eugenio* ナルモノハ極メテ狹隘ナル規定オルヨリ後ニ到リテ漸次學說又ハ判例ニ依リ之カ解釋ヲ擴張シ帝政ノ頃ニ到リテハ遂ニ彼ノチゼスト及ビデニヨシチニヤン法典ノ *De Falsis* 偽造罪ノ如キ廣キ規定ヲ設ケ偽證貨幣偽造度量衡偽造文書偽造等ヲモ尙ホ之ヲ包含セシムルニ至レリ後佛國ノ古法ニ至ルマテ虛偽罪ノ範圍尙ホ多少汎博ナルモノアリシカ佛國那翁法典ニ至リ漸ク其範圍一定セリ之ヲ繼承シタル我法典ニ於テハ更ニ近世ノ外國法及ヒ學說ヲ採用シ廣キ虛偽ノ中ヨリ公益上其事ノ眞實ナラナルヘカラアルモノ隨テ公ノ信用アルモノノミニ對スル詐欺ノミヲ類集シ之ヲ名ケテ公ノ信用ヲ害スル罪トセリ以上牙勞氏刑法論第三卷第五三號乃至第五五號)法律カ本章信用ヲ害スル罪ヲ^ア名稱ノ下ニ規定スル所ノ罪ハ貨幣ヲ偽造スル罪、官印ヲ偽造スル罪、官文書ヲ偽造スル罪、私印私書ヲ偽造スル罪、免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪、偽造ノ罪、度量衡ヲ偽造スル罪、身分ヲ詐稱スル罪、公證ノ投票ヲ偽造スル罪ノ九種トス即チ予ハ以下節ヲ分チ之ヲ説明スヘシ

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

本節ハ「貨幣ヲ偽造スル罪」ト題スルモ其規定スル所ハ單ニ貨幣ヲ偽造スル罪ニ止マラス偽造貨幣ヲ輸入シ取受シ又ハ行使シタル罪等フモ之ヲ規定スルカ故ニ或學者ノ主張スルカ如ク本節ハ宜シク之ヲ改メテ貨幣ノ偽造製造ニ關スル罪ト題スルヲ可トス

史ヲ按スルニハ古ハ何レノ國ニ於テモ貨幣ヲ偽造スル罪ハ特種ノ名稱ノ下ニ於テ極メテ誠酷ナル刑罰ヲ科セリ羅馬ニ於テ之ヲ山野ニ投棄シ猛獸ヲシテ其肉ヲ喰ハシメタルカ如キ一例トス是レ蓋シ一ハ古代ニ在リフハ貨幣鑄造ノ權ハ君主ノ大權ノ一部ナリト看做テレタルカ故ニ其之ヲ偽造スルノ所爲ハ君主ノ大權ヲ侵害スルモノニシテ畢竟大造罪ノ一種ナリト認メラレタル他ハ當時科學ノ進歩尙未タ幼稚ナガラ其偽造法甚タ粗笨ナリシヲ以テ容易ニ之ヲ偽造スルコトヲ得タルトニ因ラン然レトモ近世理財學ノ發達スルニ及ヒナヤ貨幣ヲ偽造スル權ハ君主ノ大權ニ屬セス單ニ開國ノ公益ヲ維持セゾカ爲メ政府

ノ之ヲ保有スルモノニ過キスシフ恰モ被敵ノ威圖ニ於テ煙草及ハ火薬等ノ製造又ハ販賣ノ權ヲ特ニ政府ニ保留スルトニ般ナリトソ新思想ヲ生シ其刑罰漸々寬和ニ赴ケリ牙勞氏刑法論第三卷第六四號取締規則也
然ラハ貨幣ヲ偽造シ又ハ變造スルノ罪ハ法理上如何ナル性質ヲ有スルモノガルナト云フニ我輩ノ見ル所ニ據レハ貨幣ヲ偽造變造スルノ所爲ハ之ヲ其犯人ニ於テ財物詐取ノ目的アルト同時ニ縱合其物件ハ幾人ノ手ニ轉スルモ常ニ發見シタル者ノミヲ害スル所爲タルノ點ヨリ觀察スルトキハ純乎タル詐欺取テ流通セラルヘキ貨幣ノ上ニ行ハレタルモノニシテ畢竟其取受者カ貨幣ハ上ニ置キタル公ノ信用ヲ誤ラシメタル結果遂ニ一般社會公衆ヲシテ貨幣ハ上ヲ疑ハシムルハ結果ヲ生スルモノタルノ點ヨリ觀察スルトキハ公ノ信用ヲ害スルノ所爲タリト謂ハナルヘカラス我刑法カ之ヲ公ノ信用ヲ害スル罪ノ一ニ規定シタルハ蓋シ偏ニ後段ノ觀察ニ依ル逐ノトス隨テ其結果トシラ彼ノ威學

者カ自ラ近世ノ法理ヲ逐フノ徒ナリト主張スルニモ拘ラズ総合眞貨ド同一ノ
價額アル材料ヲ有スル偽造貨幣ヲ製作スルモノ尙ホ政府ノ特權ヲ侵スモノナリ
若クハ政府カ其鑄造ニ因リテ得ヘキ利益ヲ竊取スルモノナルカ故ニ貨幣ノ權
トシテ一私人に委セタルハ利益ヲ得シカ爲メニ非スシテ貨幣ノ鑄造ニ伴フム
キ詐欺ヲ防退セントニ在ルモノタルト他ヲ一方ニ於テ財物ヲ詐取スルト信用
ヲ害スルトハ其間因果ノ關係アリテ離ルムカラナルモタルヲ忘却シタルニ
職由スルモノニシテ予ハ此ノ如キ所爲ハ財物ヲ詐取スルモノニ非ス随テ公ノ
信用ヲ害スルノ結果ヲ生スルモノニ非サルカ故ニ公ノ信用ヲ害スル罪ノ一ト
シテ規定セラレタル我現行法ノ規定ノ下ニ於テハ(略段)ノ明文ナキ限ハ浜シテ
之ヲ罰スルコトヲ得サルモノノト確信スル事項也然シテ其後本節規定ノ下ニ
以上ヲ以テ貨幣偽造罪ノ性質ニ關スル一般ノ説明ヲ丁レリ予ハ是ヨリ以下進
ムテ本節ノ規定ニ入り各條規定スル所ノ事項ヲ講説セン

本節規定スル所ハ第一百八十二條乃至第一百九十三條ヲ包含ス即チ便宜ノ爲メ之
ヲ概括シテ一圓十文シ腰袋ニ名ケテ貨幣偽造罪即シテ二款ニ分チ先ツ始ニ其威
力及スル時日より前ニ於テ假想ノ如キ貨幣ヲ作成シテ之ヲ販賣又ハ輸出シテ
第一款 成立要素
右ニ述ヘタルカ如ク本節規定スル所ノ犯罪ハ數多ナリト雖モ概括シテ其成立
要素ヲ舉クレハ凡ツ下ノ三節トス(一)内國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣
ニ係ルコト(二)偽造、變造、輸入受取又ハ行使ノ所爲アルコト(三)犯罪ノ意思アルコ
ト是ナリ三節ニシテ所謂之を裏紙、裏印ニ附シテ又ハ官署モ押捺スル内
第一ノ要素イ内國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣ニ係ルコト(三)は
二貨幣ニ係ルコトヲ要ス。貨幣トハ價格交換ノ用ニ供スルカ爲メ法律ノ特ニ
制定シタル物件タリ即チ(イ)先ツ第一ニ價格交換ノ用ニ供スルモノタルヲ要ス
故ニ彼ノ金銀塊寶石ノ如キ物ハ何程貴重ノ物件タリト雖モ貨幣ニ非ス(ロ)法律
ノ特ニ制定シタル物件タルヲ要ス故ニ例之信用手形ノ如キ総合實際價格交換
ノ用ニ供セラルコトアルモノト雖モ素ト法律カ廣ク價格交換ノ用ニ供スル
爲メニ制定シタルモノニ非ナルヲ以テ亦貨幣ニ非ス

今日開明ノ諸國ニ於テ所謂貨幣ト稱スル物ハ凡シニ種アリ一ハ金屬ヲ以テ製造シタルモノ他ハ紙片ヲ以テ製造シタルモノ是ナリ何レモ通常一定ノ大小形狀、徵章、及ヒ其交換價格ヲ表示スルノ文字等ヲ現出彫刻又ハ印刷等ニ依リシアリテ一ハ貨幣ト他物ト、區別スルハ用ニ他ハ貨幣相互ノ差異ヲ識別スルハ用ニ供ス之カ發行ハ何レモ政府ニ屬スルヲ通常トスト雖モ時ニ或ハ政府ニ於テ國立又ハ私立ノ銀行ニ特許ヲ與ヘ之ヲシテ發行セシムルコトアリ現今我國ニ於テ實際貨幣トシテ公ノ通用力ヲ有スルモノフ種別スレハ金屬貨幣ニ在リテハ金銀銅ノ三種ニシテ紙幣ニ在リテハ政府ノ發行ニ係ルモノト官許ヲ得タル内國銀行ノ發行ニ係ルモノトノ二種アリ而シテ本節ニ於テハ當ニ此等ノ貨幣ノミナラス尙ホ外國政府ノ發行ニ係ル金銀貨及ヒ官許ヲ得テ發行スル外國銀行ノ紙幣外國ノ銅貨ヲ除キタルハ被害輕微ナルカ故ニ處罰ノ必要ナシト云フニ在ラン其政府發行ノ紙幣ヲ除キタルハ銀行ト異ナリ保證金ヲ徵收スルコト能ハアルノ結果信用ヲ置クニ由ナキカ故ニ初ヨリ紙幣トシテ之カ流通ヲ認メテガニ由ラシモ亦本罪ノ目的ト爲ルモノトス

白。銅貨ハ銅ト他ノ金屬トノ合成功物ナルカ故ニ之ヲ銅貨トスヘキナ將夕銀貨ト爲スヘキヤニ付テハ疑ヲ生スルモノアリト雖モ此問題ハ嘗テ佛國ニ於テモ亦問題ト爲リシモノニシテ現今一般ノ學說ニ於テハ斯ル合成功物ハ明文アルトキハ格別明文ナキトキハ合成功物ノ多寡ニ依リテ主從ヲ定メ分量同シキトキハ其價額ノ大小ニ依リテ主從ヲ定メ分量價額共ニ相同意トキハ就レニモ屬セナル中間ノモノトスルコトニ一定セリ(一千八百十二年十一月二十八日佛國大審院判決)我輩ハ此說ヲ以テ至當ト認ム仍テ之ヲ按スルニ白銅貨ハ多量ノ銅ト少量ノ他金屬ヨリ成ルモノニシテ銅ヲ混合物ノ主トスルカ故ニ予ハ之ヲ銅貨ナリト断言ス蓋シ其名稱ヨリスルモ亦然ラサルヘカラザルモノアルカ如シ(三)強制ト任意トヲ問ハス内國通用ノモノタルコトヲ要ス 從來我輩ハ或一派ノ學者ト共ニ第百八十三條第一項内國ニ於テ通用スルヲ文字ヲ解シテ強制的通用ヲ意味スルモノナリトシタルノ結果本節ノ罪ノ目的タル貨幣ハ必ス内國の通用ヲ強制的通用力アル物ニ限ルト信セシカ今ハ大ニ其不可ニシテ第百八十三於テ強制的通用力アル物ニ限ルト

三條以外ニ於テ所謂通用ノトハ強制的通用ヲ第百八十三條ニ於テ所謂通用スルトハ強制的タルト任意的タルヲ問ハズ凡テ事實上流通スルトノ義ナルヲ知レリ是レ我輩カ茲ニ之ヲ訂正スル所以ナリ蓋シ嘗テ我輩ト共ニ第百八十三條「通用スルヲ文字ヲ以テ強制的ノ通用フ意味スルモノナリト解シタル學者ハ其理由トシテ」一章案ト現行法トヲ比照スルニ現行法第百八十二條ト第百八十三条トハ内外國ヲ問ハズ凡テ強制的ノ流通力ヲ有スル金銀貨ニ對スル規定タリシ草案第二百十四條ヲ内外國ノ區別ニ從ヒテ分離シタルモノナルカ故ニ第百八十三條ハ強制的流通力アル物ニ限ラナルヲ得スト曰フト雖モ草案第二百十五條ニハ更ニ任意ニ流通セル外國トスル金銀貨ニ對スル規定アリ此規定ノ削除セラレタルコトヲ明カニ論定スルニ非サレハ學者ノ說ヘ成立セス成程草案第二百二十四條ハ現行法第百八十二條ト第百八十三條トニ分離セラレタルハ事實ナルモ其分割セラレテ第百八十三條ト爲リタルモノハ草案第二百十五條即チ任意ニ流通スル外國トスル金銀貨ニ對スル規定ノ規定ト結合シテ第百八十三條ヲ組成シタルモノナリトノ說ヲ排斥スルノ力有セス(二)爰ニ於テカ草案第三百十

五條ヲ割據セラレタル事ソタルコトヲ論斷センカ爲メ學者ハ任意ノ通用アル貨幣ヲフ文字ケル佛文草案第二百十五條ヲ翻譯シタル日本文草案ニハ普ク通用セサル外國ノ貨幣ヲフ文字アリテ明カニ一私人物任意ニ通用セシムルモノタルニ過キサルコトヲ明示スルノ語アリシモ現行法第百八十三條ニハ此文字ナク却テ法律上ノ通用力アルコトヲ意味セル第百八十二條ノ通用ナル文字ヲ用ヒタルニ據リテ之ヲ觀レハ草案第二百十五條ハ全ク削除セラレタルモノナト曰フト雖モ佛文草案第二百十四條ニモ亦第二百十五條ニ於ケルカ如ク法上ノ通用又之ヲ反譯シタル日本文草案ニ「合法ノ通用ナル文字アリテ現行法第百八十二條ノ如ク單ニ通用トノミハ言ハサリキ然ラハ若シ夫レ學者ノ論法ヲ以テ至當ナリトセハ第百八十二條ニ對シテモ亦同一ノ筆法ニ依リ同條所謂通用ハ合法ノ通用タルヲ要セスト謂ハサルヘカラサルニ至ラン草案ト確定法文トノ間ニ存スル文字ノ有無ヨリ立論スルニ於テハ學者ハ第百八十二條ノ「通用カ強制的通用ナリトノ事ハ何ニ因リテ之ヲ知リ得タルヤ恐ラク學者ハ第百八十二條ノ原文タル草案第二百十四條ノ規定カ強制的通用ノ場合タリシカ

故ニ文案ノ趣旨ヲ逐フ。此言ヲ爲スモノナラン已ニ。第百八十二條ヲ解スルニ當リ。此言ヲ爲スオラハ學者ハ何故ニ。第百八十三條ノ解釋ニ於テモ亦草案ノ趣旨ヲ逐ヒ同條ハ草案第二百十四條ノ一部ト。第二百十五條ノ併合セラレタルモノタリト言ハシテ却テ痕跡モナキニ漫然草案第二百十五條ハ抹殺セラレタルモノナリトテ。遂ニ。第百八十三條ハ單ニ草案第二百十四條ノ一部ヲ規定シタルモノナリト云。フヤ。要之學者ノ說ハ自己ノ前提ニ合スル點ニ於テハ草案ヲ採リ合セサル點ニ於テハ漫然之ヲ排斥シタルモノニシテ毫モ信ヲ置クニ由ナシ之ニ反シ草案ニ於テハ内國ノ貨幣ニ付クハ明カニ。法律上ノ通用即チ強制的通用ノ場合ヲ外國ノ貨幣ニ付クハ強制ト任意トノ場合ヲ規定スルノミナラス。文法上第百八十二條所謂内國通用ノ貨幣ノ二字ハ通用ト貨幣トヲ連接シテ貨幣カ流通的貨幣ナリト謂フ。ノ名詞タルヲ示シ。第百八十三條所謂内國ニ於テ通用スル。フ。スルハ或動ヲ示ス。ノ文字ニシテ通用ト謂フ。事實アル。貨幣ト謂フノ義タルヲ見レハ。我輩ノ修正論ハ殆モ疑フ容レサルモノアリ是レ予カ故ラニ前説ヲ哉ムル所以ナ

リ尚ホ終モ一言ス人或ハ内國ノ貨幣ニ付スハ強制力アルコトヲ要シ。外國ノ貨幣ニ付テ。然ラナル所以ヲ疑フ者アル可シト雖モ是レ畢竟内國發行ノ貨幣名ノ以上ハ當然強制力ヲ有スルモノニシテ任意ノ流通ヲフコトアバ。キ儀ナキモ。廢貨ハ貨幣ニ非ス。外國ノ貨幣ハ任意ノ流通ヲ以テ原則。トシ時ニ或ハ佛伊。有ノ如キ貨幣同盟ノ行アル。結果強制的貨幣人生シ出ツルコトアルカ故ナリ。以上論述シタル所ニ據リ。内國發行ノ貨幣ハ指テ論セス。外國ノ貨幣ト雖モ已ニ内國ニ流通スルハ事實アルニ。於テハ常ニ本節ノ罪ヲ構成スヘキモノタリ。隨テ其適用トシテ彼ノ星西哥銀貨。消國ノ庫平銀貨等ハ通常開港場ニ通用セラルモノ事實アルカ。故ニ之ニ關スル本節ノ所爲ハ常ニ本節ノ罪ヲ構成スルモノトス。尚ホ終ニ臨ミテ一言セシ法律ニ依リテ已ニ通用ヲ廢止セラレタル貨幣又ハ通用期限ヲ經過シタル貨幣ハ本節ノ罪ノ目的ト爲ルコトヲ得ルヤ學者或ハ交換期限ノ経過スルマテハ原價ヲ以テ引換ヘラルノミナラス。公私ノ間仍ホ貨幣ノ名稱ト借用トヲ有スル事實アルカ。故ニ貨幣ナリ。隨テ本節ノ罪ノ目的ト爲リ。

得ヘシト說タ者アルモ是レ探ルニ足ラサル認論ナリ蓋シ通用ノ廢止ト謂フコトト通用ト謂フコトノ如何ニ相背馳スルヤア知ラハ思ヒ半ニ過クルモノアレハナリ

第二ノ要素 偽造、變造、輸入、收受又へ行使シタルコト
甲 偽造、變造 茲ニ說明セントスル所ノ偽造ト變造トニ付テハ從來學說區區最モ繁錯フ極ムルモノナルカ故ニ之カ意義ヲ詳論スルニ當リ予ハ先ツ用語ノ錯雜ヲ避ケンカ爲メ貨幣及ヒ紙幣ヲ總稱シテ實貨ト名ケ貨幣ハ金屬ヲ以フ造ラタル物ニ限ルノ稱トシ紙幣ハ舊ニ依ラント欲ス

偽造トハ何ソヤ變造トハ何ソヤ之ニ關シテハ右ニ述ヘタルカ如ク從來學說區區タリト雖モ近來法曹社會ニ於テ最モ勢力アルカ如ク思惟セラルモノハ左ノ二說ニシテ後說最モ有力ト認メラルモノノ如シ然レトモ是レ大ニ謬レムモノタリ予ハ其誤謬ヲ明カニシ以テ此說ヲ信スル者ノ蒙ラ皆カント欲ス

第一說ニ曰ク實貨ノ變造トハ眞貨ノ實價ヲ減少セシムル所爲ヲ謂フ故ニ實幣ニ付テハ則チ變造ノアリ存スルモノアリト雖モ紙幣ニハ變造アルコトナシ

何トナレハ紙幣ハ素ト是レ一片ノ紙ノミ實價ヲ有スルモノニ非ナレハナリト」

第二說ニ曰ク貨幣ノ變造ニ關シテハ第一說ノ如シ而シテ紙幣ニ付テハ實價減少ノ手段ヲ施スコトヲ得テルモ素トはレ一ノ文書ニ外ナラサルカ故ニ文書變造ノ法理ヲ適用シ其文字ヲ増減變換シ又ハ著色ヲ變シ以テ他ノ眞貨ニ擬スルタ如意キハ是レ變造ト謂ハサルヘカラスト
 右二說ハ其間大ニ異同アルヘキカ如キモ是レ單ニ外觀上ノ差ノミ真ニ其相異ナレルニ非サルナリ蓋シ二者共ニ實貨ノ變造ハ必ス實價減少ノ手段ニ依ラサルヘカラスト爲スモノニシテ議論ノ根據ニ至リテハ彼此其揆フニスルモノタレハナリ然リ而シテ若シ夫レ予ラシテ二說ノ優劣ヲ評セシメハ予ハ専ロ前說ヲ以テ後說ニ優レリト言ハント欲ス何トナレハ前說ノ如ク紙幣ニ變造ナシトシタル由リ當然生スヘキ論決ニシテ法家ノ説明トシテ寧ロ已ムヘカラナル

モノタリ之ニ反シテ後説カ前説ト同シタ已ニ貨幣ノ變造ハ必ス實價減少ノ手段ニ依ラサルヘカラストテ貨幣ハ其レ自身文字、紋章ヲ有スルニセ拘ラス其變更ハ變造タルヲ得スト主張シナカラ文字、紋章ノミヲ有スル紙幣ニ付テハ之カ變更ハ文書變造ノ法則ニ依リテ變造タルヘシトハ徒ニ懦弱焉偏ニ法文ニノミ是レ遠ハサランコトヲ欲シテ論理ヲ顧ミサルノ痕跡歷歷トシテ見ルヘク法家ノ説明ニ非ナレハナリ

是ヨリ予ハ進ミテ二説ノ共ニ基本トスル所ノモノ即チ貨幣ノ變造ハ必ス實價減少ノ手段ニ依ラサルヘカラタルヤ否ヤノ點ヲ論究シテ以テ其誤謬ヲ指摘セシニ過る事無く、是れ偏ニ左ノ二點又誤謬ヨリ出テタルモノト云曰之(一)法文ノ誤讀(二)變造法理ノ不識是ナリ

(一)法文ヲ誤讀セルコト既法文ニハ内國通用ノ金銀貨ヲ。若クハ銅貨ヲ變造セム文ル者云トアリ於是乎學者ハ惟タク云々と金銀貨ヲ若タク銅貨ヲ變造ストム文

法上金銀貨又ハ銅貨其物ヲ變更シタル者ハ云々ト爾フヨリキシナシトハ觀更不施ナル所ノ原料ニ繫シヌタル演説ナリ又トハ原料ニ繫シメタル語トシテ、其因リテ製出セラレタル物ノ銅貨タルト銀貨タルト金銀タルトニ付クハ何等ノ區別ナキカ法律ハ明カニ之ヲ示サスト雖此區別ナシトセンカ苟モ原料ニシテ銅貨タルユ於テハ之ヲ以テ銀貨ヲ造ルモ將タ金銀ヲ造ルモ均シク之ヲ銅貨變造ト謂ハサルヘカラス若シ夫レ總テ之ヲ銅貨ノ變造ト曰イシカ之ヲ彼ノ銀貨ヲ以テ銀貨ヲ造リ金貨ヲ以テ金貨ヲ造リタル者ニ比センニ前者ハ製出物ニ付クモ亦一定ノ制限ヲ置クモノト謂ハサルヘカラス若シ夫レ一定ノ制限ヲ置クモノトゼンカ其理由ハ彼ノ銅貨ヲ以テ銅貨ヲ造リ銀貨ヲ以テ銀貨ヲ造リ金貨ヲ以テ金貨ヲ造ル者トニ對スル權衡ヲ全ウセントオルニ在ルモノナルカ故ニ理論上其制限ハ製出セラルヘキ物ニ對シテモ原料ニ於ケルト同

一ノ制限ヲ置クモノトセアルヘカラヌロ又他ノ一方ヨリ觀察セシニ貨幣ニれ
文字、紋章及ヒ色合等アルカ故ニ之ヲ變更シテ他ノ貨幣ノ外觀ヲ裝ハシムルカ
如キハ以テ之ヲ變造ト謂ハサルヘカラサルカ如キモ此等ノ變更例之半錢又ハ
貳錢銅貨ニ銀色ヲ帶ハシメ以テ二拾錢又ハ五拾錢貨タルシメントシ又ハ其
半錢タリ貳錢タル文字ヲノミ變シテ二拾錢又ハ五拾錢トスルモ一ハ舊貨幣ノ
命價ヲ存シ他ハ舊貨幣ノ舊色舊紋章ヲ呈シ毎ニ其舊何錢ノ貨幣タルコトヲ表
白セルヲ以テ詐欺取財ノ罪ト爲ルハ格別到底眞貨ニ質セタル變造品トシテ世
人ヲ欺クコトヲ得ナルカ故ニ之ヲ以テ變造ナリト謂フヲ得ナルナリ由是觀之
法律ハ一方ニ於テ銅貨ヲ又ハ金銀貨ヲト言ヘテ原料ヲ制限スルト同時ニ他ノ一
方ニ於テ製出物ニハ制限ナキカ如キモ若シ夫レ然ラシカ或ハ明カニ法文ノ主
旨ニ背馳シテ輕重ヲ失フカ或ハ縱合變更スルモ變造ト謂フヲ得ナル物ヲ製造
スルニ過キサルニ至ルカ故ニ法律カ「……ヲ變造シト」ハ其原料ニ制限アルコト
ア明カニスルト同時ニ其製出物ニ付テモ亦同一ノ制限アルコトヲ示セルモシ
ナリト謂ハサルヘカラス夫レ此ノ如ク同一貨幣内ニ於ケル變更ニ非スンハ以

ア變造ト謂フヲ得サランカ其方法ハ勢に單ニ實價減少ノ外之アルコトナシト
謂ハサルヘカラナルナリト甚く自古實價減少ノ事例多々有り未だ記載大いに
成程「……ヲ變造シトアルカ故ニ單ニ文法ニ依リテ之ヲ按ストキベ一見其變造
セフルヘキ原料ニ繫ラシメタル語ノ如シト雖モ是レ全ク法文ヲ誤讀セルモノ
ナリ」^ア「……ヲ變造シト」ハ變更シテ製出セラレタル物ニ繫ラシメタルノ語ニシテ原
料ニ繫ラシメタルノ語ニ非ス請フ左ニ其理由ヲ述ヘシ（日本文草案第二百十
四條第二項ニ曰ク其貨幣ノ實價ヲ減シ若クハ其命價ハ記額ヲ增加シ若クハ他
ハ金屬ヲ燒付ケ以テ之ヲ變造シテ行使シタル者ハト而シテ其註釋ニ曰ク「變造
方法ニ三アリ第一、貨幣量目ノ價格即チ實價ヲ減スルコト第二、貨幣ノ命價ヲ示
ス數字ヲ變造スルコト第三、異貨ト異ナル金屬ヲ以テ之ニ燒付クルコト」アリ
所謂三種ノ變更方法中第二第三ニ掲タル單獨ナル行為ハソレノミヲ以テハ固
コリ之ヲ變造ト謂フヲ得ス詐欺取財ノ方法タルニ過キサルノミト雖ニ草案規
定セントオル所ノ事項ハ金銀貨ノ變造ヲ規定セントニ在ルカ故ニ其所謂若ク
ハ他ノ金屬ヲ燒付ケ以テ之ヲ變造シ云云トハ金銀貨ヲ變造シタルノ義ニシテ

ヲトハ原料ニ繫ラシメタルノ語ニ非スシテ製出物ニ繫ラシメタルヤマニ明カナリ
草案已ニ此ノ如キニ於テハ其之ヲ修正シタル現行法所謂ヲナル文字ノ義亦按
スベキモノアルニ非ス(ニ)更ニ又方向ヲ轉シテ法理上ヨリシテ之ヲ觀ルモ此
ヲナル文字ハ原料ニ繫ラシメタルモノニ非スシテ製出物ニ繫ラシメタルモノ
タラスンハアルヘカラス何トナレハ凡ソ賣貨ノ偽造又ハ變造ヲ制スル所以ノ
モノハ是レ其實貨ノ信用ヲ害スルカ爲ニシテ信用ヲ害スルハ原料ノ如何エ
在ラスシテ製出物ノ如何ニ在リ而シテ製造ノ刑罰ヲ定ムルニ當リ法律カ原料
ニ制限アル變造ト其制限ナキ偽造トヲ分ナタル所以ハ是レ草案ニモ説明セル
カ如ク一ハ其原料ノ常ニ貨幣ヲ謂フ範圍内ニ制限セラルルカ故ニ一時ニ多數
ヲ製出スルコトヲ得ナルノ結果其害自ラ小ナルト他ハ原料ニ制限ナキカ故ニ
器械等ヲ使用シテ一時ニ多數ヲ製造シ得ルノ結果其害自ラ大ナルトニ在ルモ
ノニシテ(法文ニ偽造ノ器械ヲ想像スルニモ拘ラス變造ノ器械ヲ想像セナル所以
亦茲ニ存ス)已ニ變造ト曰ヘ其自身貨幣ヨリ製造セラルルコトヲ意味スルト
同時ニ其原料バ業ニ已ニ貨幣ト謂フ一定ノ範圍内ニ制限セラルルカ故ニ尙ホ

之ヲ制限シテ製出物ト原料トノ同一ナルコトヲ要セサルヘカラタルノ理由アラナレハナリ論シテ茲ニ至ラハ沿革上ヨリスルモ理論上ヨリスルモア變
造トハ原料ニ繫ラシタルノ語ニ非スシテ製出物ニ繫ラシタルモノナルコト毫モ疑フ容ルノ餘地アルヲ見ス左シハ學者カ其之ヲ以テ原料ニ繫ラシメ
タルノ語ナリト思惟シタルハ大ナル誤ニシテ其之ヨリ出タル論決ハ亦到底
誤タラナルヲ得ナルナリ

(二)變造ノ何タルヲ知ラナルコト 我所謂實貨變造ノ何タルヲ知ランニハ先づ
抽象的ニ彼ノ所謂偽造及ヒ變造ヲコトノ如何ナルコトナルヤタ知ラナルヘ
カラス我輩ノ見ル所ニ據レハ信用罪ニ付フ抽象的ニ偽造又ハ變造ヲコトヲ
定義セハ僞造トハ全夕新規ナル材料ヲ以テ眞物ニ類似シタル物ヲ製作スルノ
義ニシテ變造トハ真正ナル物ノ上ニ信用ヲ害スヘキ工作ヲ施スノ義ナリ約言
スレハ二者孰レモ物ノ上ニ技術ヲ施シ以テ或信用ヲ有スル物ノ眞實ヲ偽ルノ
所爲ナレトモ二者其相異ナル所ハ單ニ其因リテ信用ヲ害セラルヘキ物自體ヲ基
礎トシテ之ヲ利用シタルト否トニ存ス然リ而シテ凡ソ此變造ナルモノハ毎ニ

二様ノ方法ヲ以テ行ハル一ハ物自體ヲ物質的ニ増減變更スルモノ即チ物質的又ハ有形的變更他ハ物ノ保有セル性質ヲ無形的ニ變更スルモノ即チ性質的又ハ無形的變更是ナリ尙ほ之ヲ詳説センニ物質的又ハ有形的變更トハ貨幣ニ付テ之ヲ言ヘハ例之鍼其他ノ器具ヲ以テ貨幣ノ邊縫ヲ削リ以テ其分量ヲ減殺シ又ハ電氣ヲ應用シテ其成分ヲ他ニ吸取シ去ルカ如キ紙幣又ハ文書ニ付テハ穴ヲ穿ナ又ハ之ヲ切斷スルノ所爲ナレトモ通常此等ノ所爲ハ信用ヲ害スル方法タルヲ得ナルカ故ニ紙幣又ハ文書等ニ信用罪上所謂物質的變更ナルモノアルコトナシ信用ヲ害スルノ目的偏ニ其物自體ノ形狀ヲ變更スルニ在ルモノニシテ性質的又ハ無形的變更トハ貨幣ニ付テ言ヘハ例之半錢銅貨ヲ五圓又ハ二十錢ノ金銀貨タラシメンカ爲ノ其記額ヲ改竄シ又ハ其縁邊ニ鍼目ヲ附シテ之ニ金若クハ銀ヲ鍼スルカ如キ(鍼目ヲ附スルハ物質的又ハ有形的變更ト謂フヘキカ如キモ此場合ニ在リテバ其所爲傷ニ物量ヲ減殺スルニ在ラスシテ其物ノ性質ヲ變更セントスルニ存スルモノナムカ故ニ性質的又ハ無形的變更タリ)謂ヒ紙幣又ハ文書ニ付テ之ヲ言ヘハ二十錢紙幣ニヲ五トシテ其色合ヲ五十錢ノモノニ恰。

當セシメ五十圓ノ借用證書ヲ六十圓ト變更シ又ハ無利息ノ證書ニ利息ヲ書キ加フルカ如キ(文書documentノ性質的又ハ無形的變更ハ通常文字又ハ筆蹟WritingSchrift)ノ物質的又ハ有形的變更ナルカ故ニ文書ノ性質的又ハ無形的變更ハ亦之ヲ文字又ハ筆蹟ノ物質的又ハ有形的變更トス物自體ノ形狀ヲ變更スルヲ目的トスルニ非シテ物ノ保有セル性質ヲ變更スルコトヲ目的トスルモノヲ謂フ
(附言) (一)佛國ニ於テハ Counterfeacon; Falsification; Alteration 等ノ文字アリテ contrefaconハ偽造Falsification; Alterationハ變造ニ該當ス而シテ Falsification; Alterationハ共ニ何レモ夫ノ Faute ナル文字カ通常過失ヲフ意義ニ用ヒラルルニモ拘ラス時トシテハ過失ト犯行トニ論ナク總ノ行為者ノ責任ニ歸スヘキ失行ヲフ意義ニモ用ヒラルルコトアルト同シテハ物質的變更ニモ性質的變更ニモ混用セラルレトモ特ニ區別シテ用ヒラルルトキハ Falsificationハ性質的變更ヲ Alterationハ物質的變更ヲ意味スルカ如シ(イ)予ハ茲ニ變造ノ種類ニ付キ一ヲ物質的變更他ヲ性質的變更ト名ケタ以下モ或ハ又之ヲ

内容的變更若クハ外觀的變更ト名クルモ可ナラン要領ニ此種別アルヲ開カニスルニ在ルノミ

我刑法ニ所謂貨幣發明ノ偽造トハ眞ノ所謂偽造即チ新規ナル材料ヲ以テ具物ニ類似シタル物ヲ作製スルコトノミヲ指シ偽造トハ物質的ト性質的ノ變更ト併セ稱スルモノナルヤ抑モ又或學者カ主張スルカ如ク偽造トハ眞ノ所謂偽造ト性質的變更トヲ意味シ偽造トハ單ニ物質的變更ノミヲ指スモノナルヤ第一前ニモ述ヘタルカ如ク草案ニ於テ紙幣ノ偽造ト共ニ夫ノ貨幣ノ記額竝ニ其色合ヲ變更シタルモノ詳言スレハ其性質的ノ變更ヲモ尙ホ之ヲ偽造ト名ケタルニ據リテ之ヲ觀レハ其之ヲ繼承シテ同一ノ文字ヲ使用シタル現行法ノ變造ヲ文字カ之ヲ含ム能ハナルノ理由ナキト(此點ニ付テハ或ハ成程草案ニ於テハ明カニ予カ右ニ示シタルカ如キ場合ヲモ尙ホ貨幣ノ偽造セリト雖モ此等ノ變更ハ法律上之ヲ以テ眞ノ偽造ト謂フヲ得ス單ニ詐欺取財ノ手段タルニ止マルハ學說並ニ判例ノ一般ニ認ムル所ニシテ現行法ハ草案ト異ナリ此等ノ變更ハ之ヲ變造トセス體テ草案ニアリトテ宜チニ草案ニ對スル筆法ヲ以

テ現行法ヲ解釋シ現行法ノ貨幣變造ハ貨幣ノ性質的變更ヲモ包含スルモノナリト曰フハ些カ杜撰ナラズキト論駁スル者アルヘシト雖モ是レ認見ナリ何トナレハ現行法上學說ニ於テ判例ニ於テ一般ニ草案ニ例示シタルカ如キ場合ハ之ヲ變造ト謂フヘカラストシタルハ是レ其變更ノ僅ニ特定シタル或一二ノ人ヲ欺キ得ルニ止マルノミニシテ未タ以テ一般ニ社會公衆ヲ欺キ得ルノ程度ニ達セサルカ故ノミ決シテ之ヲ以テ現行法ノ下ニ於テハ草案ト異ナリテ貨幣ノ性質上ノ變更ヲ變造トセスト論決スルコトヲ得ス蓋シ若シ夫レ論者ノ如ク曰フトキハ物質上ノ變更ト雖モ例之貨幣ヲ削リ取リテ之ヲ三角又ハ四角トシタランニハ變造ト謂フヲ得スト謂フヲ理由トシテ遂ニ貨幣ノ物質上ノ變更ヲモ法律ハ尙ホ之ヲ變造トセスト論決セサルヲ得ツルモノニシテ要スルニ子カ茲ニ言ハント欲スル所ノモノハ縱令草案ニ掲ケタル性質上ノ變更ハ決シテ現行法上之ヲ以テ變造ト曰フヲ得サルモ現行法ハ右ノ如キ種類ニ屬スル變更換言スレハ性質上ノ變更ノ或程度ニ於ケル變更スラ尙ホ之ヲ變造トシタル草案ヲ繼承シテ彼ト同一ナル變造ヲ文字ヲ用ヒタルカ故ニ若シ夫レ此種ノ變

更ニシテ能ク社會一般ノ公衆ヲ購著シ得ルノ程度ニ達シナハ無論變造トスルモノタリト解セサルヘカラスト曰フニ在レハナリ第二法文ニ於テ明カニ貨幣ニ付テモ紙幣ニ付テモ其ニ均シク變造ナル文字ヲ使用セル以上ハ少クトモ其變更ノ方法ノ或モノハ彼此共通セルモノアルヘク貨幣ト紙幣トノ間彼ニ在リテハ物質的ノモノニ限リ此ニ在リテハ性質的ノモノニ限ルト云フカ如ク同一ノ文字ヲ二様ニ使用スルノ理由ナキト第三紙幣ニモ貨幣ニモ皆共ニ記額、紋章色合及ヒ形狀アリ而シテ凡ソ法文謂フ所ノ紙幣ノ變造ハ性質的變更即チ記額紋章又ハ色合等ノ變更ヲ指スモノタルハ何人モ疑フ容レナル所ナリ尤モ或一二ノ學者ハ記額又ハ紋章ノミノ變更ハ變造ナレトモ尙ホ之ニ加ヘテ著色ノ變更フモ爲シタルキハ變造ニ非スシテ偽造ナリト云フト雖モ記額ノミ又ハ著色ノミノ變更ハ夫ノ草案ニ掲ケタル所ノ貨幣ノ記額又ハ著色等ヲ變更シタル場合ト同シク依然カニ舊紙幣タルノ徵表ヲ存スルカ故ニ到底之ヲ以テ變造ト云フヲ得ナルノミナラス縱令之ヲ以テ變造トスルモ記額又ハ著色等ノ一種ノ變造ハ變造タルモニ二種以上ノ變更ハ偽造タリトハ毫モ證據ナキ決定ナリト

謂ハサルベカラス但シ若シ夫レ此決定ニシテ二種以上ノ變更ハ已ニ全ク舊紙幣ノ原體ヲ失ハシメ以テ新ニ工ヲ加ヘタリト看ルコトヲ得ルカ故ニテ偽造トセナルヘカラストニ在ラハ其ハ後ニモ述フル如ク事實ノ判定上ニ於ケル各自ノ斷定ニ過キナルカ故ニ法律上ノ問題トハ全ク別箇ノモノトス隨テ若シ夫レ之ヲ以テ前ニ掲ケタル所ノ或學者ノ如ク是レ皆偽造ナリ紙幣ニハ變造ナシト曰フ立法論タルノ點ハ姑ク之ヲ恕スルトシテトキハ格別苟モ法文ニ準據シ之ヲ以テ變造ナリトセハ貨幣ニ對ヘル同一ノ所爲モ亦之ヲ變造ト謂ハスシハアルヘカラス換言セハ彼此同一ノ所爲ナルニ彼ニ在リテハ之ヲ變造トスルモノミヲ指スモノナルカ故ニ單ニ性質上ノ變更ノミヲ施シ得ヘキ紙幣ニハ偽造アルモ變造アルコトナシ或ハ貨幣ノ變造トハ單ニ性質上ノ變更ヲモ亦之ヲ包含スルモノタルヤ炳然火ヲ賭ルカ如シ然ラハ其彼等學者カ或ハ凡ソ實貨ノ變造トハ性質上ノモノノミヲ指スモノナルカ

ノ如キ認説ヲ主張スルニ至リタル所以ノモノハ是レ偏ニ(或)ハ獨國一派ノ學說ヲ取繼キテ我法條ヲ説明セント試ミタルカ(或)ハ佛國法ノ規定及ヒ其學說並ニ判例ニ附惑シ之ヲ以テ直ナニ我規定ヲ解釋セント欲シタムニ因ラスンバアラス。

(附言) (一)獨國一派ノ學說ニ從ヒ實貨ノ性質的變更ハ偽造ナリトノ説ハ前ニモ述ヘタルカ如ク我規定ノ解釋論トシテハ鎰半文ノ價ヲモ有セス唯單ニ立法論トシテノミ些カ論評ノ價アルノミ而シテ立法論トシテ其價值如何ト曰フニ此説ハ實貨ノ性質的變更ハ畢竟是レ一部ノ偽造ニ過キスト曰フニ在ルモノニシテ固ヨリ誤ニハ非スト雖モ若シ此論法ヲ逐ブトキハ物質的ノ變更モ亦一種ノ偽造ナルカ故ニ畢竟實貨ノ偽造ナルモノアルコトナシト曰ハスモノハ論理ヲ一貫セナルヘシ是レ此説ノ缺點トス(二)佛國法ノ規定及ヒ其學說並ニ判例ニ依リ紙幣ニハ性質的變更ニ由ル偽造アリト雖モ貨幣ニハ之アルコトナシ貨幣ノ性質的變更ハ皆偽造ナリトスル説ハ成程佛國一般ノ學說並ニ判例ニ於テハ論者曰スカ如ク貨幣の偽造トハ單ニ物質的變更ニ限ルノ

精トシ其性質的變更ハ皆之ヲ偽造ナリトセリト雖モ是レ畢竟佛國法ニ於テハ貨幣ノ偽造ニハ Alédition ナル文字ヲ紙幣ノ偽造ニハ Falsification ナル文字ヲ使用シアリア堵ニ貨幣ハ物質的變更ニ紙幣ハ性質的變更ニ限ルコトヲ表示セルカ故ナルカ若クハ佛國法ニ於テハ偽造偽造共ニ其刑ヲ同シワズルカ故ニ何レニ屬スルモノトシテ判決セラルモ被告人ニ於テハ格別利害ノ關係ヲ有セサルカ故ニ之ニ付テ實際議論ヲ生シタルコトナキノ結果深ク其區別ヲ研究セス漫然此一致ヲ見ルニ至リタルモノ(此點ハ夫ノガロー氏カ其佛國刑法論第三卷第八十九頁下半部ニ於テ偽造偽造ノ區別ハ一ハ器械等ニ山アルカ故ニ一時ニ多數ヲ製造スルヲ得ルモ他ハ箇箇ニ工作ヲ施サナルヘカラナルカ故ニ右ノ如クナルコト能ハス云云……佛國ノ立法ニテハ別段之カ固別ヲ掲ケスト雖モ云トテ其欄外ノ註ニ獨國刑法第一四六條第一四七條及ヒ第一五〇條ヲ紹介シ以テ其區別ノ一例ヲ示シタルヲ見ルモ明カナリニシテ要佛國ノ學說及ヒ判例ハ或ハ疑ナキ明文ニ依ルカ或ハ其區別ヲ意レルモノニシテ佛國ニ於テモ若シ我國ノ如ク偽造偽造其刑ヲ異ニスルノ規定ア

ランニハ或ヘ論議ナキヲ保セス此點ニ付テハ現ニ佛國ニ於ア夫ノ「ボ民」ノ我
草案ニ掲ケタルト同一ノ所爲理ヲ貨幣ノ名價又ハ色合ノミヲ變更スルノ所
爲ハ變造 Alteration ナルヤ否ヤニ付キ久シタ學說及ヒ判例ニ於テ議論ノ岐レ
タル末途ニ變造ニ非ス詐欺取財ノ一種ナリトヲ第百三十四條ノ規定ヲ見ル
ニ至タルヲ見ルモ思ヒ半ハニ過キソラ體ヲ此ノ如キ薄弱ナル學說又ハ判例
ニ據リテ法律ノ解釋ヲ試ミントスルハ全タ立脚ノ地ヲ缺如セルモノト謂フ
ヘシ

要之以上論述シタル所ニ據リ予輩ハ以爲ラク

(一) 解釋論トシテハ實貨ノ偽造及ヒ變造ノ區別ハ偏ニ其原料ヲ眞正ナル實質
ニ酌ミタルト否トニ存スルモノニシテ其最セ接著セル所ヲ舉示セハ單ニ程度
ノ區別ニ過キス向ホ之ヲ詳言スレハ偽造ハ實貨以外ノ物件若クハ一旦實貨ノ
原體換言スレハ實貨カ他物ヨリ區別セラル要點例へハ方圓等ノ形狀ハ勿論
其記額及ヒ紋章等總ア一見實貨ト認ムアコトヲ得ヘキ部分ヲ失ヒタル物件ヲ
材料トシテ新ニ實貨ニ附着シタルモノヲ製造スルヲ謂ヒ變造トハ實幣ノ外觀
ヲ離テ實貨以外ノ物件ヲ材料トシタル偽造ト貨幣ノ實價ヲ減殺シタル變造及
ヒ劣等ノ實貨ニ高價ナル實貨ノ外觀ヲ裝ハシメタル變造中ノ或モノトハ事實
上其間ニ判然タル區別ヲ爲スコトヲ得ヘキモ實貨ヲ實貨タリシ物件ヲ材料トシ
タル偽造ト劣等ノ實貨ニ其レヨリモ高價ナル實貨ノ外觀ヲ裝ハシメタル變造
ノ或物トノ間ニ於テハ其果シテ實貨ノ原體ヲ失ヒタル物ヲ材料トシタル法律
上ノ決定力故ニ偽造トスヘキヤ將タ一ノ實貨ヲ利用シテ他ノ實貨ヲ造リ出シ
タルニ過キタル(法律上ノ決定力故ニ變造トスヘキヤノ程度ノ上ニ付テ事實上
ノ疑フ生スヘシ故ニ若シ夫レ從來大審院等ノ下シタル判定ニシテ偏ニ此事實
上ノ認定如何ニ依リ或ハ之ヲ偽造シ或ハ之ヲ變造トシタルモノセバ我輩
ハ之ニ對シテ毫モ間然スル所アルヲ見スト雖モ若シ夫レ之ニ反シテ我刑法
所謂實幣ノ變造トハ實價ヲ減殺シ由ル變造即チ物質的變造ニ限ルモノナリ

ドノ見解ニ據リシモノトスレハ些カ一考フ頃ハササルヘカラアルモノアラ
ン

(二) 次ニ立法論トシテハ現行刑法ノ規定ハ到底議論ノ淵義タルヲ免レサルカ
故ニ我輩ハ前ニ述ヘタル所ノ種別ニ依リ獨國其他ノ國ノ刑法ノ如ク二種ノ勢
造ヲ區別シ以テ一方ニ於テ偽造及ヒ性質上ノ變造ト物質上ノ變造トハ明カニ
之ヲ區別(事實上スルコトヲ得ルカ故ニ各別ノ規定トシテ各相當ノ刑ヲ科シ他
ノ一方ニ於テ偽造ト性質上ノ變造トハ法律上ハ格別事實上之カ區別ニ付テ因
難ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ寧ロ合シテ一箇ノ規定トシ何レモ同一ノ刑ヲ
科スルコトトスルカ若クハ前ニ述ヘタル或學者ノ說ヲ採用シ之ヲ論理的ニ擴
張シテ總テ變造ハ一部ノ偽造ナリトスルカ若クハ偽造ト變造トヲ區別セス之
ヲ概括シテ廣造トスルカノ一規定スルヲ可トス而シテ我輩ハ此中第三ノ方
法ヲ採リ尙ホ一層之ヲ擴メテ廣造ナル文字ノ中ニハ彼ノ今日詐欺取財トセル
所ノ變造ニ類スル所爲ハ勿論玩弄紙幣ノ製作ヲ含ムノ語トシテ下ノ如キ廣
闊ナル規定ヲ置カシコトヲ希望ス曰ク。内外國ニ通用スル寶貨ノ信用ヲ害ス。

キ工作ヲ實又ハ其他ノ物件ニ施シタル者ハ其巧拙ヲ問ベス寶貨貿造ノ罪人
トシ。何年以上何年以下ニ處スト(我輩カ所謂偽造及ヒ變造ト模造トヲ區別
セサル所以ハ此區別モ亦偽造ト變造トノ區別ノ如ク單ニ法理上ハ區別ノミニ
シテ事實上ニ於テハ往往區別スルコト能ハツバコトアルカ故ナリ)

以上偽造變造ノ何物タルヤハ之ヲ詳論シ丁レリ仍ラ些カ冗長ニ渉ルノ恐アル
モ以下尙ホ本論ニ關スル二三ノ外國法ヲ示シ以テ諸君ノ参考ニ資セント欲ス』
本論ニ關スル外國法

(二) 佛蘭西刑法第三章第一編第三章第一節虛偽罪第一貨幣偽造ノ罪

第一百三十二條 佛蘭西ニ於テ法律上ハ流通力アル金銀貨幣ヲ偽造又ハ變造
物質上ノ變更シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一百三十四條 佛蘭西ニ於テ法律上ハ流通力アル貨幣又ハ外國ノ貨幣ニ形
色ヲ施シ以テ其金質ヲ欺ク者ハ六年以上三年以下ノ禁錮ニ處ス
(注意) 本條ハ我佛文草案第二百十四條ニ記載セル所ノ第三ノ方法ニ依ル變
更ニ相當スルモノニシテ其實偽造又ハ變造ト謂フヘキモノニ非ス單ニ詐欺

(二) 獨逸刑法第二編第八章貨幣ニ關スル重罪輕罪、獨逸第三、本法ノ類似規定
第一百四十六條 内外國ノ貨幣又ハ紙幣ヲ偽造シテ真正ノ貨幣又ハ紙幣トシ
テ使用シ又ハ通用セシメントシタル者又ハ使用若クハ通用セシムルノ目的
ヲ以テ真正ナル實貨ヲ變更シテ其正價ヨリモ高價ナル外觀ヲ與ヘ又ハ通用
セサル實貨ニ通用實貨ノ外觀ヲ與ヘタル者ハ二年以上ノ徒刑ニ處シ云云因
ニ云フ此末文ニ記載セル所爲ハ事ノ狀態ヨリ觀察スルトキバ變造セサル
ヘカラナルモノナルモ我法律ニ於テハ之カ規定ヲ缺如スルノ結果解釋ニ於
テハ之ヲ以テ偽造トセサルノ止ムヘカラナルモノアリ刑法改正ノ期ニ臨マ
ハ一考ヲ要ヌヘキ點トス。

第一百五十條 全價額ヲ有スルモノトシテ通用セシムルノ目的ヲ以テ通用貨
幣ヲ磨キ又ハ之ヲ削リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其餘額ヲ減少シテ通用セシメ
タル者ハ禁獄ニ處ス云云

(三) 伊太利刑法第二編第四章公ノ信用ヲ害スル罪第一節貨幣及ビ公ノ信用

■スル設害ノ偽造

第三百五十六條犯左ニ記載シタル者ハ三年以上十二年以下ノ懲役ニ處ス
罪一官國內又ハ國外ニ於テ法律又ハ商業上ノ流通力ヲ有セル内國又ハ外國
ヲ貿易ヲ偽造シタル者

二 何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス真貨幣ニ具有スル價額ヨリモ高價ノ
外觀ヲ與ヘ以テ之ヲ變造シタル者

三 貨幣ヲ偽造又ハ變造シタル者又ハ之ニ加工シタル者ト其謀シタル者
又ハ變造シタル貨幣ヲ國內ニ輸入使用又ハ其他ノ方法ヲ以テ流通ニ置カ
シムル爲テ他人ニ交付シタル者ニ其罰金ヨリモ大キヤ罰金ヲ科スルムニ
若シ偽造又ハ變造カ法律又ハ商業上ニ於テ重大ナル價額ヲ有スル貨幣ニ
係ルトキハ五年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

イ若シ偽造貨幣ノ實價カ真貨ノ實價ト同一ナルカ又ハ其レヨリモ大ナルト
目キハ十年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

四 勃牙利刑法第二編第一節

第二百三條 真正ナル貨幣又ハ全價額ヲ有スル實貨トシテ通用セシムルノ目的ヲ以テ左ニ記載シタル所爲シタル者ハ實貨履造ノ罪ヲ犯シタル者トス。一、匈牙利又ハ外國ニ於テ通用セル貨幣又ハ紙幣ヲ偽造シ又ハ偽造セシタル者。二、真正ナル貨幣又ハ紙幣ノ上ニ其價額ヨリモ大ナル價額ヲ有セシムヘキ性質ノ變更ヲ加へ又ハ加ヘシタル者。三、何等ノ方法ヲテスルヲ間ハス真正ナル匈牙利又ハ外國ノ金銀貨ノ實價ヲ減少シ又ハ減少セシタル者。

前ニ記載シタル同一ノ目的ヲ以テ廢却シタル實貨ノ上ニ之ヲシテ通用實貨ノ外觀ヲ變ハシムヘキ變更ヲ行ヒ若クハ行ハシタル者。

第二百四條 前條第一號第二號ニ記載シタル場合及ヒ廢却シタル實貨ヲ變更シタル場合ニ於テハ五年以上十年以下ノ徒刑ニ處ス第三號ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役ニ處ス。

- (省略)劣等ノ貨幣若クハ之ニ代ルヘキ紙幣ニ前條ノ行爲ヲ爲シタル者ハ輕罪トシ六月以上三年以下ノ禁錮ニ處ス。(省略)
- (五) 和蘭刑法第二編第一〇章貨幣ニ關スル罪
第二百八條 真實ニシテ販造セナル貨幣又ハ紙幣ナリシテ行使シ又ハ行使セシメンカ爲メニ貨幣又ハ紙幣ヲ偽造變造シタル者ハ實貨履造ノ犯人トシテ九年以下ノ禁錮ニ處ス。
- 第二百十條 行使シ又ハ行使セシムルノ目的ヲ以テ貨幣ノ價額ノ減少シタル者ハ貨幣變造ノ犯人トシテ八年以下ノ禁錮ニ處ス。
- (六) 支那律
(イ) 唐律 諸私鑄錢者貨幣ノ爲造流三千里作具已備未鑄者徒二年作具未備者杖一百○若磨錯成錢合算小取銅以求利者貨幣ノ物質上ノ變更徒一年
- (ロ) 明律 凡僞造寶鈔(紙幣ノ僞造)不分首從及窩主若知情行使者皆斬
- 若將寶鈔拋棄補綴改以真作僞者紙幣ノ性質上ノ變更杖一百流三千里
- ……凡私鑄銅錢者貨幣ノ僞造緩匠入罪同……○若將時用銅錢通用ノ貨幣剪

錯薄小取銅以求利者貨幣ノ物質上ノ變更杖一百〇若爲造金銀者杖一百徒三年
(乙) 清律 凡私鑄銅錢者貨幣ノ爲造綏匠人罪同……〇若將時用銅錢通用ノ
貨幣剪薄小取銅以求利者貨幣ノ物質上變更杖一百〇若爲造金銀者杖一百徒
三年
(乙) 輸入有輸入トハ結局或物件ヲ我國土内ニ置クノ目的ヲ以テ外國ヨリ其物
件ヲ我國土内ニ運ヒ入ルコトヲ謂フ(一)結局其物件ヲ我國土内ニ置クノ目的
アルヲ要スルカ故ニ他國ニ輸送スルノ目的ヲ以テ一時我國ニ陸上ケスルカ如
キハ之ヲ輸入ト謂フ得ス(二)外國ヨリ運ヒ入ルルコトヲ要スルカ故ニ我國土
内ノ甲地ヨリ乙地ニ運ヒ入ルルカ如キハ亦輸入ニ非ス(三)我國土内ニ運ヒ入ル
ルコトヲ要ス凡ソ外國ヨリ内國ニ輸送セラルヘキ物件ハ普通税關ヲ經由スヘ
キモノニシテ外國ヨリ輸送セラルル物件ニ對スル所謂一國國境ハ税關設置線
ナリトス故ニ縱令既ニ我領海内ニ運ヒ入ルルモ未タ税關設置線内ニ運ヒ入レ
タル間ハ未タ以テ輸入既遂ノ所爲アリト謂フフ得ス然レトモ其茲ニ注意スヘ

キハ之ヲ以テ俄ノ刑事上ノ所謂一國主權ノ版圖ニ關スル問題を混同セナルコ
トヲ要スルコト是ナリ刑事上一國ノ主權ハ其領海ニモ及ブモノ天ルカ故ニ縱
合右ノ如キ場合ニ於テモ輸入未遂ノ所爲トヤテ之ヲ逮捕スルコトヲ妨クナル
モノトス
(丙) 取受reception 從來我輩ハ多クノ學者ト共ニ茲ニ收受トハ其字句ニ於テ俄ノ俗語
ノ所謂受取ナル文字ヲ轉置シタルニ遇キサルト第百九十三條所謂收受ノ文字
アル法文ノ原文トモ謂フヘキ佛文草案第一草案第二百二十六條ニ Celui qui ayi
ant reçu de bonne foi トアリテ佛語ノ Recevoir (即チ受取ナル文字ノ使用シアリタ
ルトニ因リ佛語ノ釋語ニシテ其之ヲ取受トセシハ單ニ音讀ノ便ニ依リシモノ
ナリト思料シタルノ結果受取トハ授タル物ヲ受ケテ取ルノ義ナルカ故ニ授ケ
テ之ヲ受ケシムル者ナキ場合例へハ強姦姦持得遺失物等ノ場合ニハ取受ノ所
爲アリト謂フヲ得ナルモノト思惟セシカ(一)此取受ナル文字ハ我刑法中僅ニ此
所ニシテ使用シアリテ他ニ佛語 Recevoir ナル文字ヲ取受ト譯シタルノ例ナキ
ト(二)新律網側受取律ノ以財請求ノ條ニ凡ソ諸人事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ

法ヲ枉タルコトヲ得ント欲スル者ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ坐駁ニ依テ治ス若シ
難ヲ避ケ易ニ就キ枉タル所ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス若シ官吏刀譙留難(イ
ロイロ難題ラシカケズ)シテ歸結(落着)ノコトヲ與ヘス及ヒ強無理ナコトヲシ
テ用ヒテ別ニ事ヲ生シ逼抑財ヲ渡セト逼ルコトシテ財ヲ收受スル者ハ錢ヲ
出ス人ハ坐セス若シ以下ハ縱令錢ヲ出スモ強請ニ遇ヒ已ムヲ得シテ出シ
タル者ハ無罪ナリトノ但書ナリ又其家人求索ノ條ニ「凡ソ監臨官吏ノ家人奴僕
所部内ニ於テ財物ヲ收受シ及ヒ求索スル者云々」官吏ノ家人又ハ僕婢等カ主
人ノ威ヲ藉リテ專横ナルコトヲ爲スヲ制スルノ條而シテ其母法タル清律明律
ニセアリ同一ノ條ノ註解ヲ見ルニ「取是因事而取也受是因贈而受也」トアリテ取
受トハ受取ノ義ニ非シシテ取り又ハ受タル義ナルニ依リテ觀レハ新律綱領ニ
於テハ取り又ハ受タルノ義ナルコト明カルト(二)現行刑法ハ其始メ幕氏ノ草
案ニ成リタルモノナルモ其之カ修正ハ多ク新律綱領等支那法系ニ屬スル刑法
ヲ研究シタル人ノ手ニ成リタルモノナルトニ依リテ之ヲ觀レハ茲ニ所謂取受
ナル文字ハ佛語ノ譯語ニ非ス草案修正ノ際委員ニ於テ新律綱領ノ文字ヲ使用

シタルモノニシテ取受トハ取り又ハ受タルノ義ナルカ故ニ單ニ受取りタル場合
ノミナラス強盜盜拾得遺失物等進シテ取ル場合ヲモ亦之ヲ包含スルノ語ナ
ルコト疑フ容レス

丁 行使 行使トハ佛文草案所謂 *use on circulation* 流通ニ置クノ義ナリ單ニ
流通ニ置クト云フトキハ苟モ僞造貨幣ヲ他人ニ交付スルニ於テハ縱令其者ニ
於テ其僞造品タルコト知ル場合ニ於テモ仍ホ之ヲ行使ナリト謂フヲ得ヘキ
カ如キモ貨幣僞造罪ハ信用ヲ害スル罪ナルト後ニモ述フル如ク縱令貨幣ヲ僞
造スルモ行使ノ意思アルニ非サレハ僞造罪即チ害信用罪ヲ構成セサルトニ依
リテ之ヲ觀レハ流通ニ置クトハ他人ヲ欺キ真正ノ貨幣トシテ之ヲ交付フ受ケ
シムルコトヲ意味スルモノニシテ僞造罪ノ共犯ノ一人又ハ僞造貨幣タルノ情
ヲ知ル者ニ交付スルカ如キハ茲ニ所謂行使ニ非サルモノトス

第三ノ要素 犯罪ノ意思アルコトヲ要ス

諸般ノ罪過失又ハ違警罪ニ非サル限りハ皆意思ヲ要ス此事已ニ總則ノ講義ニ於
テ諸君ノ了知セラル所更ニ説明ヲ要セスト雖モ法律カ犯罪トセルモノニハ

種種ノ所爲アリテ其之ニ要スル意思ノ狀態亦同シカラス隨ナ先ツ明文ニ據リテ各犯罪ノ性質ヲ詳ニシタル後更ニ體ナ之ヲ總則ノ規定ト照合シタル後ニ非スンハ真ニ總則所謂犯罪ニハ意思ヲ要ストノ意義ヲ詳ニスルヲ得ナルノ結果單ニ總則所謂犯罪ニハ意思ヲ要ストノ觀念ノミニ依リテ各罪ノ意思ヲ定メントスルトキハ往往ニシテ誤ラ生スルコトアリ本罪ノ如キ特ニ然リトス是レ予カ茲ニ此要素ヲ掲タル所以ナリ法文ヲ案スルニ(一)第百八十二條乃至第百八十五條ニハ偽造又ハ變造シテ行使シタル者(二)第百八十六條以下ノ條ニハ偽造變造已ニ成ラ未タ行使セサル者又ハ偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ未タ行使セサル者又ハ偽造變造ノ貨幣ヲ輸入シタル者云云トアリ是ニ於テヤ皮相ノ見解ヲ以テスルトキハ第一ノ如ク……行使シタル者トアル所爲ハ行使ノ意思アルニ非サレハ罪ヲ構成セスド雖モ第二ノ如ク行使ニ至ラサル者ヲ罰スルモノハ行使ノ意思ナキモ直ニ罪ヲ構成スルカ如キモイ(一方ニ於テ(一)偽造變造已ニ成リテ未タ行使セサルトハ自ラ偽造變造ハ行使ノ意思アリコトヲ表白セルト同時ニ本問偽造變造未タ成ラサル者云云以下ノ所爲ハ其ノ字ヲ以テ之ニ

連接セラルカ故ニ其前者ト同一ノ意思ヲ要スルコト明カナルト(二)第百八十九條、第百九十條ニ於テモ偽造變造ノ刑ニ同シ又ハ……ノ刑ニ照シテ何等ヲ誠ストアリテ彼此同性質ノモノカルカ故ニ彼ト同一ノ意思ヲ要スルコトヲ明カニセルノミナラス現ニ第百九十條第二項及ヒ第百九十二條ニハ未タ行使セサル者云云ノ文字アリテ前ニ述ヘタルト同シク初ヨリ行使ノ意思アルコトヲ要スルコトヲ明カニセルト(ロ)他ノ一方ニ於テ本罪ハ害信用罪ニシテ害信用ケフ結果ハ行使ニ依リテノミ始メテ生スヘキモノタルトニ依リテ之ヲ觀レハ本章規定スル處ノ罪ヲ構成スル爲ミニハ何レモ初ヨリ之ニ依リテ公ノ信用ヲ害スヘキ結果ヲ生セシムルノ意思換言スレハ其當然ノ結果トシテ信用ヲ害スル行爲タル行使又ハ流通ニ置クノ所爲ヲ自己又ハ他人ヲシテ爲サシムルノ意思アルヲ要スルモノニシテ彼ノ美術研究ノ爲メ貨幣ヲ摸擬變更シ又ハ官署ニ居出テ若クハ學術研究ノ爲メ之ヲ輸入取受スルカ如キ單ニ偽造變造輸入取受ノ意思ノミアリテ行使ノ意思ナキモノハ決シテ本罪ヲ構成セサルモノトス(イ)本罪トシテ處罰スル偽造變造ノ所爲及ヒ之ニ類スル詐欺取財ノ所

爲ト無罪タルヘキ撲造ノ所爲トノ區別ハ技術ノ巧拙ニ在ラス偏ニ贋造品ヲ行使スル意思ノ存否ニ在リ(本罪ト其之ニ類スル欺詐取財トノ區別ハ其贋貨力社會公衆ヲシテ一見精細ナル調査ヲ爲スニ非スンハ眞實ナリト誤信セシムルノ程度ニ達シタルヤ一例ヘハ貨幣ノ形狀ヲモ熟知セナル者ニ對シ又ハ眞實ヲ辨識スルコトヲ得ナル夜陰等ニ乘スルニ非スンハ以テ容易ニ其貨幣ニ非ナルコトヲ認識スルコトヲ得ナルモノノ如ク——僅ニ常識ナキ者又ハ常識ヲ用フルコトヲ得サル狀況ニ在ル者ノミヲ斯タニ足リ決シテ普通一般ノ人ヲ誤ラシムルコトヲ得キ程度ニ達セサルヤニ存スルモノニシテ簡單ニ之ヲ言ヘハ常識ヲ以テ真偽ヲ辨スルコトヲ得ルヤ否ニ存ス(何ヲ以テ常識トスルヤハ裁判官ノ判斷如何ニ在リ)ルカ故ニ畢竟其區別ハ撲造ニ付テノ技術ノ巧拙如何ニ存スルモノトス

右ニ説明シタル如ク本罪ヲ構成スル爲メニハ其偽造、變造タルト輸入、取受タルトニ論ナク凡テ其行使ト同時ニ之ニ伴フ(即ち)信用ヲ害スル結果ヲ生セシムルノ意圖アリヲ要スルカ故ニ彼ノ例ヘハ初ノ美術研究ノ爲メ偽造、變造シタル物若

ハク官署ニ届出テ又ハ學術研究ノ爲メ輸入又ハ取受シタル後偶然惡意ヲ生シテヲ行使シ又ハ行使セシメタルカ如キハ之ヲ偽造變造又ハ輸入取受シテ行使シタルモノト謂フ(即ち)得ス單ニ爲造變造ノ貨幣ヲ行使シタル所爲後ニ説明スル所ヲ參考スヘシ)アリト謂フ(即ち)法律ニ明文アルモノノ除クノ外ハ無罪タルナルヲ得スト確信ス是ニ於オカ更ニ次ノ問題ヲ生ス(イ)自ラ行使シ又ハ他人ヲシテ行使セシムルノ目的ヲ以テ偽造、變造又ハ輸入、取受シタルモノ其所爲ノ時效又ハ確定判決ヲ經過シタル後ニ之ヲ行使シタル者及ヒロ(他人)カ美術研究ノ爲メニ偽造、變造シタル貨幣ヲ得テ之ヲ行使シタル者ノ處分如何是ナリ

第一回ニ付テ告子ハ嘗テ行使ノ意思ヲ以テシタル偽造、變造、輸入、取受ハ已ニ時效又ハ確定判決ヲ經タリト雖モ其所謂時效又ハ確定判決ナルモノハ偽造變造輸入取受フ更ニ若者ハ再ヒ獨立ノ一罪トシラ制スルコトヲ得ナルハ效力又有スルノミニシタク後ニ行使セラレタル贋造貨幣カ被告ノ嘗テ惡意ヲ以テ偽造、變造、輸入取受シタル物ナリトノ事實マテヲモ消滅セシムル人力ヲ有ス

ルモニエ非ヌ此事實ニシテ依然消滅スルコトナクシハ後ノ行使ハ之ト相合シテ完全ニ罪ヲ構成スルモノナリト決定セシカ今ハ其偏見ナリシテ自覺セラ蓋シ法ハ自己ノ作製、輸入、取受シタル物自體ヲ行使スル行爲ナ罰スルニ非シテ作製輸入、取受シタル行使スルヲフ關聯シタル一所爲ヲ罰スルモノニシテ縱令時效又ム確定判決ハ被告ノ行使シタル物ハ被告ノ作製輸入、取受シタル物ナリト云フノ事實ヲ消滅セシムルノ力ナキモ法ハ之ニ據リテ被告カ先ニ作製、輸入取受シタル行使セシムコトトセルカ故ニ本問被告ノ所爲ハ實作製、輸入取受シタル物ヲ行使セリト云フニ止マリ「……シテ行使セリト云フ關聯シタル行為ト謂フヲ得ナルカ故ニ爲造變造輸入、取受シタル行使シタル罪ニ該當セナルハ勿論情ヲ知ラスシテ收受シタルノ事實モ亦之アラナルカ故ニ第百九十三條ノ罪ニミ該當セス結局無罪タラナルヲ得サレハナリ

第二問ニ付ク 第二問ハ第一問ト大ニ其趣ヲ異ニスルモノニシテ有罪ト決セニアルヲ得ス蓋シ被告ノ行使シタル物件ハ惡意ナクシテ他人ノ模倣シタル也ノタクト難モ作製ニ付ラノ惡意フ有無ハ單ニ作製者ノ責任ニ變動ラ生スガ

ノミ作製者ヲ離レ物ノミヲ觀察スルトキハ惡意ナクシテ作製セラレタル物モ惡意アリテ作製セラレタル物モ其物自體ハ常ニ爲造變造ノ實體ヲ具備スルモノニシテ作製者ノ惡意如何ハ之ヲ離レテ行使スル者ノ責任ニハ何等ノ影響ヲ有スヘキ理由ナキカ故ニ爲造又ハ變造貨幣ノ行使者トシテ有罪タルヘキヤ疑フ容ルノ餘地ナク前者ノ如ク作製者ヲ行使シタル者トシテ何等ノ瑕疵アルヨトナケレハナリ

終ニ臨ミ尙ホ一言ス凡ソ貨幣ヲ爲造變造スルノ行爲タルヤ普通信用ヲ害スルノ目的ヲ有スル行爲ナルカ故ニ非常ノ情況ハ之ヲ證セサルヘカラス普通ノ情況ハ之ヲ證スルコトヲ要セストノ證據法ノ原則ニ依リ原告官タル檢事ハ進ミテ被告ニ於テ信用ヲ害スルノ意思アルコトヲ證明スルノ要ナシ其意思ナシトスル被告ニ於テ却テ之ヲ證明セサルヘカラス隨テ判文ニ於テモ亦普通ノ狀況ニ異ナル決定ヲ採ル場合ニ於テノミ行使ノ意思ナキコトヲ明言スルノ要アリト雖モ之ニ反シオ單ニ爲造貨幣ヲ輸入、取受若クハ行使スルノ行爲タルヤ之カ情ヲ知ルハ非常ノ事ニ屬スルカ故ニ被告ハ其情ヲ知ラナルコトヲ證明スルノ

要ナシ却テ情ヲ知レント主張スル檢事ニ於テ之ヲ證明セサルヘカラス隨テ之カ判文ノ體裁モ亦前者ト正ニ反対ニ出アナルヘカラサルモノトス(牙勞氏佛國刑法論第三卷第六〇號)

第一款 處 分

近世開明諸國ノ法典ニ於テハ貨幣爲造罪ノ處分ヲ定ムルニ當リ概子貲一貨幣ノ性質(二貨幣ノ流通力三所爲ノ性質四所爲ノ程度ノ四點ヲ參酌シテ之カ處分ヲ加減セリ)我草案編纂者諸氏モ亦之ニ倣ヒテ本罪ノ處分ヲ定メタリシカ修正ノ際第二ノ點ノミハ斥ケラレバ發行ノ内國タルト外國タルトノ區別之ニ代レリ(佛文第二章案註釋第四六五號)

第一 貨幣ノ性質ニ付フ 法典ヲ按スルニ同一ノ所爲ニ付フ金銀貨及ヒ紙幣ニ關スルモノハ其處分皆同一ニシテ唯リ銅貨ニ關シテノミ著シク其處分ヲ輕減セリ(一)金銀貨ニ關スルモノノ同列ニ置キタルハ共ニ高等貨幣ニシテ實價ニ大差ナキカ故ニ其偽造變造行使等ノ行爲ニ因ル社會ニ流布スル害惡亦大差ナ

シト云フニ在ラン(二)紙幣ヲ金銀貨ニ準シタルハ其必ス金銀貨ノ命價ニ準シテ製作セラレ決シテ銅貨ニ準セラルルコトナキカ故ナラン(佛文第一章案註釋第四三七號参照)(三)銅貨ニ關スル所爲ノ金銀貨又ハ紙幣ニ關スルモノヨリモ著シク輕減セラルル所以ハ銅貨ハ金銀貨又ハ紙幣ニ比セハ其價格甚少倣小ナルニモ拘ラス其製作ノ費用及ヒ勞力ニ於テハ少クトモ徑庭ナキカ故ニ其依リヲ犯人ノ得ヘキ利益彼ノ如ク大ナラナルト同時ニ社會ノ被ル所ノ害モ亦彼ニ比セハ輕減啻ナラナルニ在ラン——一方ニ於テ罪ト刑トノ權衡ヲ重シ他ノ一方ニ於テ裁判官ノ自由ヲ制限スルノ主義ヲ採用シタル我刑法ノノ規定トシテハ區別較ヤ微細ニ過クト云フノ外格別非難スヘキ點ナカラシ因ニ云フ我輩ト共ニ伊國及ヒ米國等ニ行ハルル新學派ノ學說ヲ主張スル者ハ皆此ノ如キ拘子定木のノ規定ヲ設タルコトヲ非難スト雖モ現今歐米諸國ノ刑法ハ尙ホ我刑法ト同一ノ主義ニ依リ同一ノ規定ヲ爲スモノ多數ニシテ此ニ掲タルカ如キ區別ヲ斥ケタモノ甚タ稀ナリ)

第二 所爲ノ性質ニ付フ 法典ハ同一ノ貨幣ニ對スルモ其所爲ノ偽造タルト

製造タルトニ因リテ處分ヲ異ニシ製造ハ偽造ヨリモ幾分少輕減ヲ爲セリ草案ノ註釋ニ曰ク「偽造ハ全ク新ナル原料ヲ以テ作製スルモノニシヲ通常模型其他ノ器械ニ依ルモノナルカ故ニ一旦之ヲ準備スルトモハ同時多數ノ偽貨ヲ得ヘシ隨テ其危險甚大ナリ之ニ反シテ製造ハ真正ナル貨幣ヲ原料トセタルヘカラサルモノニシテ通常箇箇ニ對シテ緻密ナル工作ヲ施ササルヘカラス即チ若シ夫レ真實ヲ穿テテ其實價ヲ奪ヒ填スルニ他ノ金屬ヲ以テセシカ工巧ナラント欲セハ勢多クシテ利少クシテ利多カラント欲セハ工巧ナラサルノ結果容易ニ發見セラルノ虞アリ單ニ實價ヲ減少シシカ僅少ナラサレハ發覺ノ虞アリ著色又ハ命價ヲ變更ゼンカ異價ノ貨幣ハ大小各同シカラサルカ故ニ容易ニ一般ノ者ヲ欺クトヲ得サルノ結果其危險偽造ノ如ク大ナラス」下法典ノ理由モ亦之ニ外ナラナラン—此理由ハ一般ノ觀察トシテハ特殊ノ場合ヲ舉クレハ必スシモ草案説明スルカ如クナラサルモ必シモ非難スヘキモニニ非ス隨テ罪刑ノ權衡ア重スル我刑法ノ規定トシテハ亦已ムヘカラサルノ區別タルヘシト雖モ予カ量ニ説明シタルカ如ク微細ノ點ニ入ルトキハ偽造ト製造

トノ區別ハ畢竟程度ノ區別ニ過キナルト結果適用ニ臨ミ甚タ困難ナム問題ア生矣ルヨトアヘキカ故ニ專ロ之ヲ開放ジテ判事ノ自由キ委ヌルニ若カ矣第三貿易發行ノ内外國ニ借テ「第百八十二條ニハ單ニ内國通用ノ金銀貨」トノモアリテ其内國發行ノモノタルト外國發行ノモノタルトヲ區別セサルカ如キ觀アリト雖モ同シク金銀貨ノ偽造製造ヲ規定シタル第百八十三條ニ於ア特ニ内國ニ通スル外國ノモノノミア規定セルト第百八十四條更ニ「内國」の區別エ從。ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷斯下ノ明文アルトニ依リテ之ヲ觀レハ第一八十二條所謂内國通用ハトハ内國通用ノ内國ノ貨幣ニ限ルモノニシテ其同文ヲ用ヒタル第百八十五條ノ銅貨ニ關スル規定モ亦内國ノ貨幣ニ限ルモノトス以上ノ決定ニシテ誤ナカラシカ我輩カ先ニ述ヘタル如ク我立法者ハ發行ノ内外ヲ問ハス總ク其流通力ノ如何ニ依リテ處分ヲ異ニセントシタル草案編纂者ノ主義ヲ斥ク之ニ代フルニ内外國ノ區別ヲ以テシタルモノトスト貨幣發行ノ内外ニ因リテ處分ヲ異ニシタルハ畢竟之ニ因リテ一箇人ノ被ル所ノ害ハ彼此異同ナキモ外國貨幣盜用ヲ失墮スルノ害ハ内國ノ貨幣ニ關スルカ如ク大ナ

ブスト云フニ在ラン蓋シ進歩シタル今日ノ思想ニ適セサル區別ナリ。ス大文
第四ニ所爲ノ程度ニ付テ、法律ハ貨幣ノ偽造變造ニ關スル諸般ノ所爲ヲ列挙
スルト同時ニ罪ト刑トノ權衡ヲ重スルノ主義ニ從ヒ各所爲皆行使ヲ以テ最高
度ト、漸次數段ノ階級ニ依リ處分ヲ異ニセリ。異ニセリ者、本ノ主犯者、幕僚者
(甲) 偽造變造ノ所爲ニ付テ此所爲ハ便宜ノ爲メ主タルモノト從タルモノト
ニ分ナテ説明スベシ。蓋し實體ノ關係外に財物之發送者、貿易者、通商者等、
(イ) 偽造又ハ變造シテ行使シタル場合。①内國ニ合法ノ通用力ヲ有スル内
國ノ金銀貨及ヒ紙幣ニ關スルト。②内國ニ通用スル外國ノ金銀貨若クハ官許
ヲ得テ發行スル外國銀行ノ紙幣ニ關スルト。③内國ニ合法ノ通用力ヲ有スル
銀貨ニ關スルトニ依リテ處分フ異ニス。第一ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ無期
徒刑變造行使ハ輕懲役。第二ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ有期徒刑、變造行使ハ
二年以上五年以下ノ重懲役。第三ノ場合ニ於テハ偽造行使ハ輕懲役變造行使ハ
二年以上五年以下ノ重懲役。

ハ一年以上三年以下ノ重懲罰ニ處ス。第一八二條乃至第一八五條說明ヲ須ヒ
ス。第一八二條ノ規定、本ノ主犯者、幕僚者、通商者等、財物之發送者、貿易者等、
(一) 偽造變造已ニ成リ未タ行使セナル場合。各本刑ニ照シ一等ヲ減ス。第一
八六條各本刑トハ百八十二條乃至百八十五條ニ規定シタル偽造又ハ變
造行使ノ刑ヲ謂フ。一等ノ輕減ハ總則ノ適用ニ依ル説明ノ限ニ在ラス法文ニ
ハ未タ行使セナル者トアリテ未タ行使セサルトハ未タ全ク行使ニ著手セサ
ルカ若クハ已ニ行使ニ著手シタルモ行使セシシテ中止シタル場合ノミヲ指
シ行使ニ著手シタルモ意外ノ障礙舛錯ニ因リ之ヲ遂タルコト能ヘマリシ場合
合ヲ含マナルカ如キ語氣アルヨリシテ論者或ヘ罪刑其權衡ヲ失スルノ嫌ア
ルモ嚴格ナル解釋ヲ重スル刑法ノ解釋トシアハ後段ノ場合ハ總則第百十二
條第百十三條ノ規則ニ依ラナルヘカラスト主張スル者アリト雖モ是レ畢竟
法文ノ用語ヲ答スルモノニシテ正當ノ解釋ニ非ス蓋シ。論者モ已ニ之ヲ認
ムルカ如タ論者ノ說ハ我刑法ノ主義ニ反シテ罪刑其權衡ヲ失スルト。下文
其末タ成ラヌル者オフ文辭ハ結果ニ付テ言ヒタル語ナルカ故ニ意外ノ障礙

外錯ニ因リテ遂ケナリシ場合ヲモ亦明カニ之ヲ包含スルノ語ニシテ彼ト此トハ規定ヲ異ニセナルヘカラナルノ理由ナキトニ依リテ之ヲ觀レハ法文ノ意ハ決シシテ論者ノ解スルカ如クナラナルヤ明カナルノミナラス其未タ行使セサル云々ノ文辭自體モ亦必スシモ未遂犯ノ場合ヲ包含セスト斯言スルコトヲ得ル程ニ正確ナル語辭ニ非ナレハナリ

(ハ) 偽造變造未タ成ラナル場合 各本刑ニ照シ二等ヲ減ス 各本刑ト減等ノ事ニ付テハ説述セス其偽造變造未タ成ラナルトハ偽造變造ノ豫備乃至偽造變造ニ著手シタルモ意外ノ障礙外錯ニ因リテ之ヲ遂ケサル者ヲ包含スルカ如キ語氣アルモ次項直ニシテ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ著手セサル者ハ各三等ヲ減ストノ規定アリテ偽造ノ豫備ノ最ヨ大ナル器械ノ豫備ヨリモ輕微ナル其他ノ豫備又ハ變造ノ豫備ヲ重ク觀ヘキノ理由アルヘカラナルニ依リテ之ヲ觀レバ茲ニ其未タ成ラサル者ト(中止ニ因ルト意外ノ障碍外錯ニ因ルトヲ間ハス)總テ偽造又ハ變造ニ著手シタルモ其事ノ未タ成ラサル者ヲ宣味スルモノニシテ豫備ノ場合ヲ含マテルモノトス是れ一八正義要聞ニ見

(二) 偽造ノ器械ヲ豫備シタルニ止マム場合 各三等ヲ減ス 各三等トアルハ各本刑ニ照シ三等ヲ減ストノ略文ナリ 法文ニハ偽造ノ器械ヲ豫備シタル者トアリテ偽造ノ豫備中器械ヲ豫備シタル者ニ限ルカ故ニ偽造ノ豫備ハ勿論變造ノ豫備ト雖モ器械ノ豫備以外ノモノ例へハ金塊ヲ買入レ資本ヲ蒐メ工場ヲ造ルカ如キハ此規定以外トス尙ホ注意スヘキハ偽造ノ器械下アルカ故ニ例ヘハ模型印刷器ノ如キ貨幣ノ偽造ニ固有ノモノタルヲ要ス廣タ他ノ所爲ニモ用ヒラルヘキ有合ノ器具ハ此中ニ入ラス

(二) 従タルモノ 貨幣ノ偽造變造ノ從タル所爲ニ付テ法律カ特ニ處分ヲ定ム
ノモノ左ノ如シ

(イ) 偽造變造ノ情ヲ知リテ雇フ受クタル職工及ヒ其補助ヲ爲シテ難役ニ供シタル者 第百八十七條ニ曰ク「貨幣ヲ偽造スルノ情ヲ知テ雇フ受クタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス若シ職工ノ補助ヲ爲シテ難役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス」下即

チ法律ハ第百八十二條乃至第百八十六條ニ照シ主タル犯人ノ受ク「キ刑ニ照シ職工ニ對シテハ一等ヲ減シ其補助ヲ爲シタル者ニ對シテハ二等ヲ減シテ處斷スト規定セリ故ニ例ハ第百八十二條ノ貨幣ニ關スル場合ニ主タル犯人ニ於テ偽造行使ノ所爲アルトキハ職工ハ無期徒刑第一八二條ヨリ一等ヲ減シテ有期徒刑ニ其補助ヲ爲シタル者ハ有期徒刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ重懲役又ハ輕懲役ニ處シ偽造已ニ成リテ未タ行使セナルトキハ職工ハ無期徒刑第一八二條ヨリ一等ヲ減シタル有期徒刑第一八六條ヨリ一等ヲ減シテ重懲役ニ其補助ヲ爲シタル者ハ重懲役ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ輕懲役又ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ偽造未タ成ラナルトキハ職工ハ無期徒刑第一八二條ヨリ二等ヲ減シタル重懲役第一八六條ヨリ一等ヲ減シテ輕懲役ニ其補助ヲ爲シタル者ハ輕懲役ヨリ一等又ハ二等ヲ減シテ二年以上五年以下又ハ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ偽造未タ成ラナルカ故ニ貨幣偽造變造シタルモノニシテ畢竟貨幣偽造變造ハ所爲ハ正犯ナルカ故ニ貨幣偽造變造ノ刑ニ處スヘキモノナルモ本ト他人ヨリ些少ノ勞銀ヲ受ケテ之ニ從事シタル者ナルカ故ニ情ニ於テ原諒スヘキモノアルヲ以フ法律ハ之ニ一等ノ輕減ア與フルコトシタルナリ故ニ職工ノ處分ハ雇主ノ行爲ニ拘ラズ獨立シテ常ニ自ラ其正犯トシテ從事シタル行爲ニ對スル刑即チ貨幣ヲ偽造變造シテ未タ行使セナル者ノ刑ヨリ一等ヲ減スヘキモノニシテ之ヲ雇入レテ偽造變造セシメタル雇主ノ刑ヲ標準トシテ減等スヘキモノニ非ス蓋シ若シ夫レ然テシカ他人ノ所爲ニ因リテ其刑罰ヲ輕重セラルノ結果ヲ生スレハナリト主張スルカ如キハ(一)第百八十七條ニ所謂前款條トハ明カニ第百八十二條乃至第百八十六條ヲ指スモノタルノ法文ニ反スルノミナラス(二)貨幣偽造ノ所爲カ間セラルノハ信用ヲ害スル行使ハ意思アルカ故ニ職工ノ所爲カ罪ト

爲ルハ素ト行使ノ意思アル者ヲ幫助シタルカ故ニシテ雇主ノ所爲ト職工人所爲トハ原因結果ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ純理上職工人ノ處分ハ雇主ノ處分ト相伴ハサルヘカラナルノ理由アルヲ忘却シタルモノニシテ採ルキ足ラナル誤見タリ

法文ニハ「雇ヲ受ケタル職工」アルカ故ニ職工シテ雇主ノ家ニ雇入レラビタル者ニ限ルカ如キ觀アリト雖モ法文ノ意ハ廣ク偽造、變造ニ關スル工事ニ從事スル者トノ義ナルカ故ニ縱合其家ニ雇入レラレスシテ獨立ノ營業ヲ爲セル印版又ハ模型彫刻師若クハ印刷師ト雖モ其職業ニ從事シタル者ハ亦茲ニ所謂雇ヲ受ケタル職工タルヘシ(二)又一方ニ於テハ「職工」他ノ一方ニ於テハ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者トアルカ故ニ「職工」トハ偽造變造ノ工作ニ從事セル技手ヲ其補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者トハ技手ニ使用セラル日雇又ハ丁稚等直接雇主ニ屬セス單ニ技手ノ使役ノミニ供シタル者ヲノミ指スカ如キ觀アルモ法文ノ意ハ畢竟直接ニ偽造變造ノ工事ヲ爲シタル者ト然ラサル者トヲ區別セントニ在ルモノナルカ故ニ縱合直接雇主ニ隸屬

スル者ト雖モ偽造變造ニ直接ナル工作ヲ爲ス者ヲ補助シテ其下効ヲ爲シタル者ハ皆此中ニ入ルヘキモノトス坐スハキヤ一説ニ謂之也謂即チシテ終ニ若シ職工カ其偽造變造シタル貨幣ヲ自ラ行使シタルトキハ如何余ハ嘗テ第一百八十七條ト取受行使ノ罪トノ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノトノ說ヲ主張セシカ今ハ反對論ヲ採用シ第百八十二條乃至第百八十五條ヲ以テ處罰スヘキモノト論定セント欲ス蓋シ、已ト、一體ヲ爲セル主犯ヲシテ行使セシムナルノ意思ハ亦廣キ意味ニ於テ自ラ行使シテ他人ヲ害スルノ意思ナルカ故ニ此意思ヲ以テ作製シタル物ヲ行使セハ所謂偽造又ハ變造シテ行使シタル者トシテ何等ノ瑕疵ナケレハナリ第百二十九條、第百三十條、第百三十一條、第百三十二條、第百三十三條、第百三十四條、第百三十五條、第百三十六條ニモ前款條ニ記載シタル貨幣ノ云云各本刑トアリテ文字相類スルカ因ニ人或ハ房屋ノ給與者ハ職工ノ場合ニ異ナリ主タル犯人ノ受クヘキ刑罰



如何ニ拘ラス常ニ第百八十二條乃至第百八十六條ノ刑ヨリ二等ヲ減シテ處断スルモノニ非ヌヤトノ疑ヲ起ス者アルヘント雖モ立法ノ意ハ第百八十七條ノ場合ト同シタ第百八十二條乃至第百八十六條即チ主タル犯人ノ受タキ刑ニ照ジテ輕減スルニ在ルモノニシテ其第百八十七條ト同一ノ筆法依ラテリシハ第百八十七條ノ在ルアリヲ前數條ト謂フヲ得カリルカ故エリ蓋シ(一)第百二十一條第四號ト第百二十七條(第百二十一條第四號附和單行シテ難役ニ候シタル者ト第百二十七條情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ト共ニ其刑二年以上五年以下ノ輕禁錮ニシテ法律ハ情ニ於テ之ヲ同視セントノ關係ヲ見ケモ其刑ノ職工又ハ其補助ヲ爲シタル者ト伯仲セツルヘカラクルノ理由アルヌミナラス(主タル犯人ノ受タキ刑ヨリ二等ヲ減スルトキハ常ニ職工又ハ其補助ヲ爲シタル者ノ刑ト伯仲ス)(二)前段ノ如ク解スルトキハ房屋給與ノ所爲ハ其實從犯ノ所爲タルニ拘ラス時ニ或ハ主タル犯人ヨリモ重キ刑罰ヲ受タルヲ不結果ヲ生スレハナリ茲ニ附隨トシテ簡單ナル一問題アリ曰ク貨幣ヲ爲造變造スルノ情ヲ知テ廉ヲ受クタル職工ニ偽造變造

講習科規則摘要

一 乙種講習科ハ講義錄ニ依リテ獨習ヲ爲スモノ
トス

一 講習期ハ二月ニ始リ十一月ニ終ル

一 講義錄ハ各講師擔任ノ部分ヲ一括シテ配布ス

一 講習料ハ金拾貳圓トス但三十四年度ニ限り左

ノ一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得

第一部(民事訴訟法) 金六圓

第二部(商法、經濟學) 金四圓

第三部(刑法、刑事訴訟法) 金五圓

右講習料ハ何レモ一个月分以上ヲ分納スルコト
ヲ得(在学ノ際ニハ先づ支納スヘシ)

一 講習生ハ講義錄ニ掲載セル事項ニ付キ曾問ヲ
爲スコトヲ得但一問毎別紙ニ認メ且一問毎
ニ一音信料ヲ添フルコトヲ要ス
一 講習料ハ和佛法律學校會計課宛ニテ送付スヘ
シ但郵券代用ハ一割増ノ事

明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年十一月八日印刷
明治三十四年十一月十一日發行

東京市芝區西ノ久保明舟町三十九番地

發行者

松田久次郎

印刷所

金子鐵五郎

印刷所

金子活版所

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

東京市芝區富士見町六丁目十六番地
東京市芝區富士見町六丁目十六番地
東京市芝區富士見町六丁目十六番地

和佛法律學校
(電話番号百七十四番)

發行所指定期